

昭島市 市民意識調査
報告書

令和6年1月

昭島市

目 次

I 調査の概要	
1. 調査目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査設計	1
4. 回収結果	1
5. 地区別回収結果	2
6. 報告書の見方	3
II 調査回答者の属性	5
III 調査票と単純集計結果	9
IV 調査結果	
1 定住意向	
(1) 居住年数	29
(2) 定住意向	32
(3) 住み続けたい理由	36
(4) 住み続けたいと思わない理由	40
2 昭島市への愛着度	
(1) ふるさととしての愛着度	41
(2) 親しみや愛着を持っていない理由	43
(3) 暮らしの満足度	44
(4) 満足していない理由	46
3 災害対策	
(1) 災害に対する対策	47
(2) 災害に対する備え	50
(3) 市が災害対策としてすべきこと	53
4 日常生活	
(1) 効果的だと思う若者の消費者トラブルの啓発活動	56
(2) 職業	58
(3) 仕事の満足度	59

5 地域活動・自治会	
(1) 行っている地域活動	65
(2) 地域活動に参加できない理由	69
(3) 地域活動を推進するために市が力を入れるべきこと	71
(4) 自治会への加入状況	73
(5) 自治会に加入していない理由	76
(6) 参加したいと思う自治会の活動	78
6 生涯学習	
(1) スポーツやレクリエーションの頻度	80
(2) 音楽・演劇・美術などの鑑賞	82
(3) 図書館の利用頻度	84
(4) 図書館を利用していない理由	86
7 学校教育	
(1) 学校教育の充実すべき取り組み	88
8 環境	
(1) 地球温暖化問題への関心	90
(2) 気候変動への適応策	92
(3) ごみ減量化への取り組み	94
(4) 水と緑に関する市民活動	96
9 昭島の水道水	
(1) 水道水の飲用状況	98
10 都市景観	
(1) 昭島のまちなみや景観に対する意識	101
11 少子高齢化	
(1) 子育てをしやすい環境づくりに必要なこと	103
(2) 老後について最も不安に感じる事	105
(3) 高齢者のための重要な施策	107
12 広報	
(1) 市に関わる情報の入手方法	109

13	デジタル化	
	(1) 利用したい昭島市のインターネットサービス	112
	(2) W i - F i を利用する場所	115
	(3) デジタル施策の優先度	118
14	男女共同参画	
	(1) 男女の立場または待遇	120
15	市政	
	(1) 昭島の魅力	129
	(2) 魅力あるまちづくりへの施策	132
	(3) 行政サービスの水準と負担	136
	(4) 市政への市民の声の反映	138
	(5) 市政への参画・協働	140
16	市役所	
	(1) 市役所の窓口サービスについての評価	142
	(2) 窓口サービスが悪いと感じた理由	144

I 調査の概要

1. 調査目的

市政に関する市民の意識・意見・要望等を把握し、今後の行政施策の参考資料とするものである。

2. 調査項目

昭島市 市民意識調査は、次のテーマについて調査した。

- | | |
|------------------------|----------------------|
| (1) 定住意向 (Q5～Q8) | (9) 昭島の水道水 (Q34) |
| (2) 昭島市への愛着度 (Q9～Q12) | (10) 都市景観 (Q35) |
| (3) 災害対策 (Q13～Q15) | (11) 少子高齢化 (Q36～Q38) |
| (4) 日常生活 (Q16～Q18) | (12) 広報 (Q39) |
| (5) 地域活動・自治会 (Q19～Q24) | (13) デジタル化 (Q40～Q42) |
| (6) 生涯学習 (Q25～Q28) | (14) 男女共同参画 (Q43) |
| (7) 学校教育 (Q29) | (15) 市政 (Q44～Q48) |
| (8) 環境 (Q30～Q33) | (16) 市役所 (Q49～Q50) |

3. 調査設計

- | | |
|----------|-------------------------|
| (1) 調査地域 | 昭島市全域 |
| (2) 調査対象 | 昭島市在住の満16歳以上の個人 |
| (3) 標本数 | 2,000人(男女各1,000人) |
| (4) 抽出方法 | 昭島市住民基本台帳に基づく層化二段無作為抽出法 |
| (5) 調査方法 | 郵送配布、郵送回収又はインターネット回答 |
| (6) 調査期間 | 令和5年9月11日(月)～10月2日(月) |

※層化二段無作為抽出法とは、地域をいくつかのブロックに分類し(層化)、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査地域及び住民基本台帳を利用して(二段)、各地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。

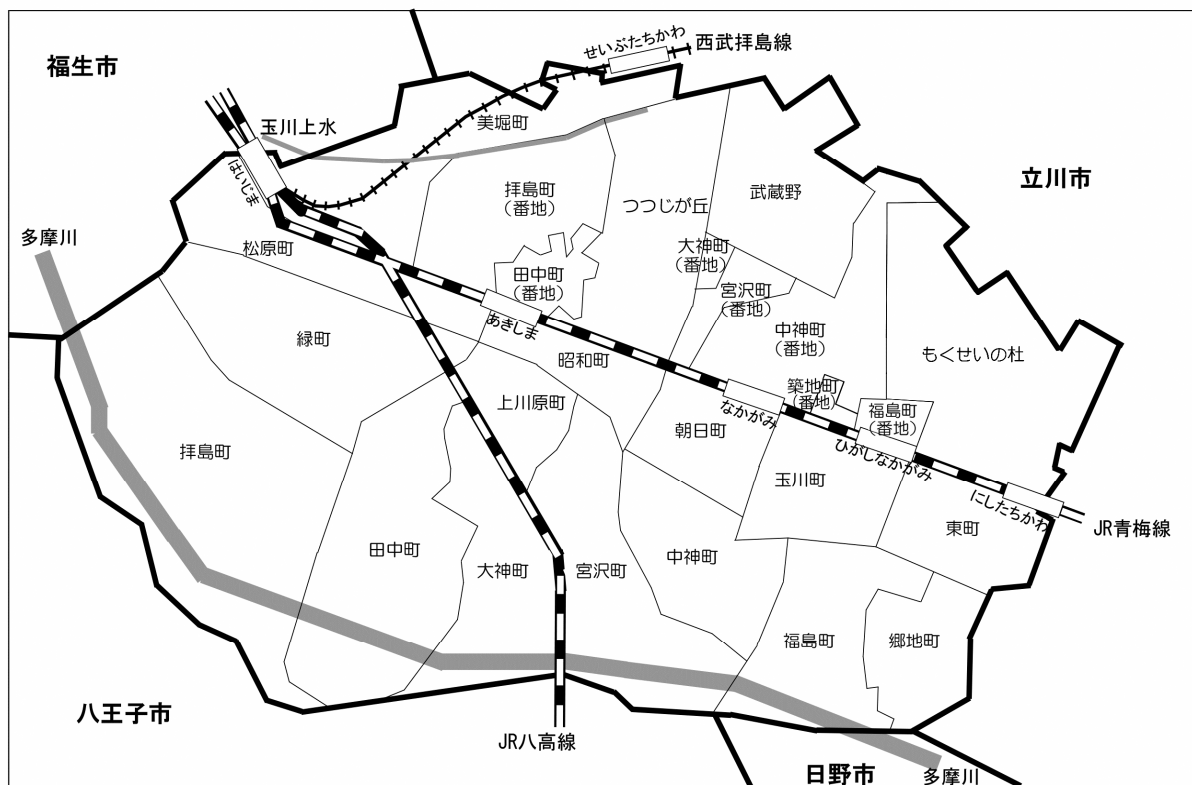
4. 回収結果

- | | |
|-----------|--------|
| (1) 標本数 | 2,000人 |
| (2) 有効回収数 | 1,096人 |
| (3) 有効回収率 | 54.8% |

5. 地区別回収結果

地区名	標本数	回収結果	回収率	地区名	標本数	回収結果	回収率
東町	72	44	61.1%	松原町	158	80	50.6%
郷地町	66	37	56.1%	田中町	116	61	52.6%
武蔵野	78	44	56.4%	緑町	198	110	55.6%
玉川町	134	63	47.0%	拝島町・ 拝島町(番地)	118	57	48.3%
福島町・ 福島町(番地)	96	55	57.3%	中神町・ 中神町(番地)	230	119	51.7%
朝日町	102	56	54.9%	宮沢町・ 宮沢町(番地)	154	86	55.8%
つつじが丘	92	55	59.8%	上川原町	56	31	55.4%
美堀町	138	77	55.8%	もくせいの杜	20	11	55.0%
昭和町	84	49	58.3%	築地町(番地)	6	4	66.7%
大神町	82	54	65.9%	無回答	-	3	
				合計	2,000	1,096	54.8%

図5-1 地域区分図



6. 報告書の見方

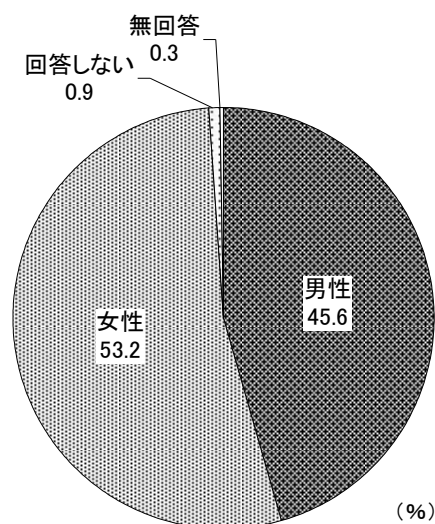
- (1) 集計は小数第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答の比率を合計しても100%にならない場合がある。
- (2) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数nとして算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- (3) 本文やグラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (4) n (Number of Cases の略) は比率算出の基数であり、100%が何人の回答者数に相当するかを示している。
- (5) クロス結果の帯グラフや表について、表側となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、表側のカテゴリーの件数の合計が全体の件数と一致しないことがある。
- (6) クロス集計による分析では、分析軸の項目のうち、件数が30未満の項目については、全体結果と比率に大きな差がある選択肢があっても、本文中にふれていないことがある。
- (7) 割合の表記については、以下のとおりとする。

表記	約4割(4割)	4割以上	4割半ば	5割近く	約5割(5割)
範囲	39.0~41.0% (40.0%)	41.1~43.9%	44.0~46.0%	46.1~48.9%	49.0~51.0% (50.0%)

Ⅱ 調査回答者の属性

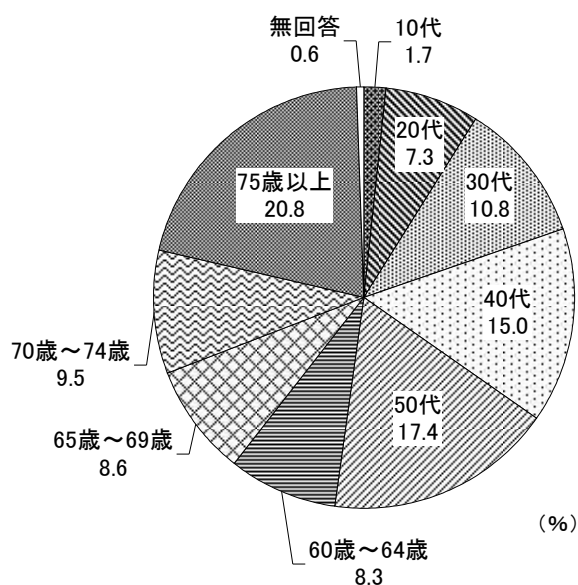
[性別 (Q1)]

	基数	構成比(%)
男性	500	45.6
女性	583	53.2
回答しない	10	0.9
無回答	3	0.3
合計	1,096	100.0



[年齢 (Q2)]

	基数	構成比(%)
10代	19	1.7
20代	80	7.3
30代	118	10.8
40代	164	15.0
50代	191	17.4
60歳~64歳	91	8.3
65歳~69歳	94	8.6
70歳~74歳	104	9.5
75歳以上	228	20.8
無回答	7	0.6
合計	1,096	100.0

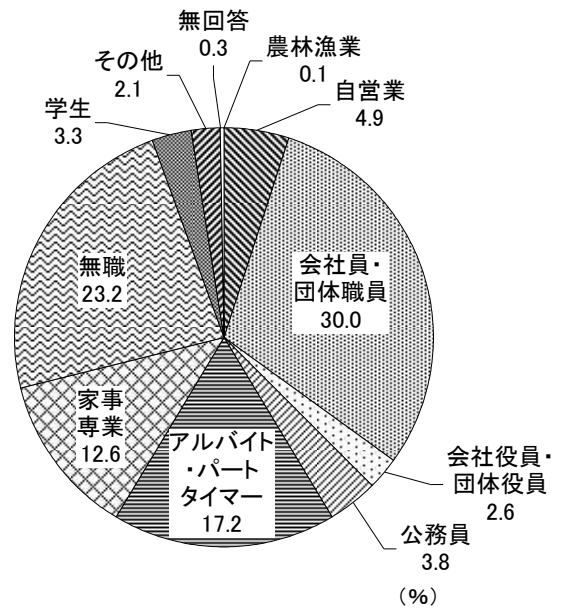


[性・年代別]

	全体		男性		女性		回答しない		性別 無回答	
	基数	構成比(%)	基数	構成比(%)	基数	構成比(%)	基数	構成比(%)	基数	構成比(%)
10代	19	1.7	9	1.8	9	1.5	1	10.0	0	0.0
20代	80	7.3	33	6.6	47	8.1	0	0.0	0	0.0
30代	118	10.8	50	10.0	68	11.7	0	0.0	0	0.0
40代	164	15.0	63	12.6	99	17.0	2	20.0	0	0.0
50代	191	17.4	89	17.8	99	17.0	3	30.0	0	0.0
60代	185	16.9	85	17.0	99	17.0	1	10.0	0	0.0
70歳以上	332	30.3	170	34.0	160	27.4	2	20.0	0	0.0
無回答	7	0.6	1	0.2	2	0.3	1	10.0	3	100.0
合計	1,096	100.0	500	100.0	583	100.0	10	100.0	3	100.0

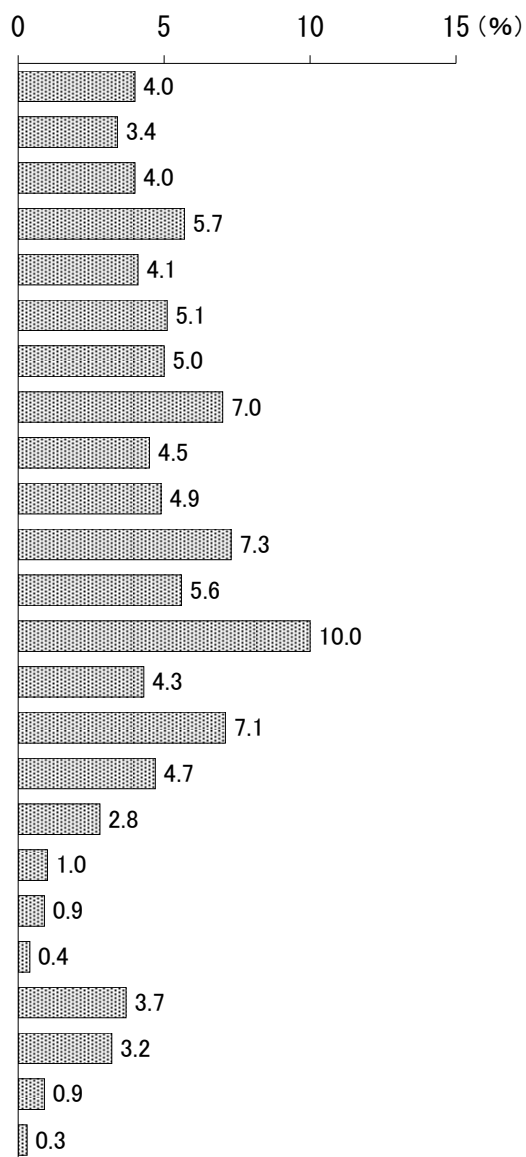
[職業 (Q17)]

	基数	構成比(%)
農林漁業	1	0.1
自営業	54	4.9
会社員・団体職員	329	30.0
会社役員・団体役員	28	2.6
公務員	42	3.8
アルバイト・パートタイマー	188	17.2
家事専業	138	12.6
無職	254	23.2
学生	36	3.3
その他	23	2.1
無回答	3	0.3
合計	1,096	100.0



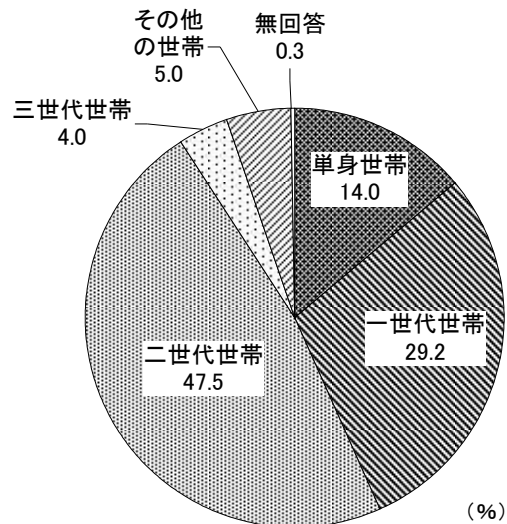
[居住地 (Q3)]

	基数	構成比(%)
東町	44	4.0
郷地町	37	3.4
武蔵野	44	4.0
玉川町	63	5.7
福島町	45	4.1
朝日町	56	5.1
つつじが丘	55	5.0
美堀町	77	7.0
昭和町	49	4.5
大神町	54	4.9
松原町	80	7.3
田中町	61	5.6
緑町	110	10.0
拝島町	47	4.3
中神町	78	7.1
宮沢町	51	4.7
上川原町	31	2.8
もくせいのだ	11	1.0
福島町(番地)	10	0.9
築地町(番地)	4	0.4
中神町(番地)	41	3.7
宮沢町(番地)	35	3.2
拝島町(番地)	10	0.9
無回答	3	0.3
合計	1,096	100.0



[家族構成 (Q4)]

	基数	構成比(%)
単身世帯	153	14.0
一世代世帯	320	29.2
二世帯世帯	521	47.5
三世帯世帯	44	4.0
その他の世帯	55	5.0
無回答	3	0.3
合計	1,096	100.0



Ⅲ 調査票と単純集計結果

昭島市 市民意識調査

ご協力をお願い

日頃より、市政にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

このたび市では、市民の皆様から市政に関するご意見を伺い、今後の行政施策の参考とさせていただくため、市民意識調査を実施することといたしました。

調査にあたっては、市内にお住まいの満 16 歳以上の方、2,000 人を無作為に選ばせていただきました。調査は無記名で行い、調査結果は全て統計的に処理いたしますので、個人のお名前などが出ることは一切ありません。どうぞ、率直なご意見、お考えをお聞かせください。

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和5年 9月
昭 島 市

お問合せ先

昭島市企画部広報課
〒196-8511 昭島市田中町一丁目 17 番 1 号
(電話) 042-544-5122 (直通)

【ご回答の際のご注意】

宛名のご本人がご回答ください。

調査票・インターネットそれぞれの回答方法における注意点をよくお読みください。

○調査票で回答する場合

- ① 宛名のご本人がご回答ください（ご本人が記入困難な場合は、ご本人の意見をお聞きした上で、ご家族の方などが記入されても結構です）。
- ② 設問ごとに、回答欄のあてはまる番号を選び、その番号を○で囲んでください。なお、特に指定のある項目については、それにしたがってご回答ください。
- ③ 各設問において「その他」を選ばれた場合は、（ ）内にその内容を具体的に記入してください。なお、書ききれない場合は、余白をお使いください。

調査票の記入が済みましたら・・・

同封の返信用封筒に入れて令和5年10月2日(月)までにご返送ください。

○インターネットで回答する場合

- ① 以下に記載しておりますURLをブラウザのURL欄に直接入力するか、二次元コードを読み込み、回答フォームへアクセスしてください。
- ② 最初に以下の**IDを入力し**、それぞれの設問にご回答ください。
回答内容により設問の表示が自動的に切り替わりますので、お手数ですが**設問順**にお答えください。
※IDは二重回答を防ぐために用いており、個人を特定するものではありません。
- ③ 「その他」にあてはまる場合は、お手数ですが（ ）内にできるだけ具体的にその内容をご記入ください。

全て入力が完了したら・・・

『回答する』をクリックして回答完了となります。令和5年10月2日(月)までにご回答ください。

URL : <https://logoform.jp/form/Zue8/332627>



ID : ●●●●●●●●

インターネットで回答する場合、最初にこのIDを入力してください。

基本項目（あなたご自身のこと）

Q 1 あなたの性別は n=1,096 (%)

1 男性	45.6	2 女性	53.2	3 回答しない	0.9	無回答	0.3
------	------	------	------	---------	-----	-----	-----

Q 2 あなたの年齢は n=1,096 (%)

1 10代	1.7	4 40代	15.0	7 65歳～69歳	8.6	
2 20代	7.3	5 50代	17.4	8 70歳～74歳	9.5	
3 30代	10.8	6 60歳～64歳	8.3	9 75歳以上	20.8	
					無回答	0.6

Q 3 あなたのお住まいはどちらですか。次の中から1つだけ選んでください。

（番地）とは、住居表示をしていない地区です。

n=1,096 (%)

1 東町	4.0	9 昭和町	4.5	17 上川原町	2.8
2 郷地町	3.4	10 大神町	4.9	18 もくせいの杜	1.0
3 武蔵野	4.0	11 松原町	7.3	19 福島町（番地）	0.9
4 玉川町	5.7	12 田中町	5.6	20 築地町（番地）	0.4
5 福島町	4.1	13 緑町	10.0	21 中神町（番地）	3.7
6 朝日町	5.1	14 拝島町	4.3	22 宮沢町（番地）	3.2
7 つつじが丘	5.0	15 中神町	7.1	23 拝島町（番地）	0.9
8 美堀町	7.0	16 宮沢町	4.7	無回答	0.3

Q 4 あなたの家族構成は次のどれですか。1つだけ選んでください。

n=1,096 (%)

1 単身世帯（1人で住んでいる世帯）	14.0
2 一世代世帯（夫婦だけで住んでいる世帯）	29.2
3 二世代世帯（親と子どもとで住んでいる世帯）	47.5
4 三世代世帯（親と子ども夫婦と孫とで住んでいる世帯）	4.0
5 その他の世帯（1～4のいずれにもあてはまらない世帯）	5.0
無回答	0.3

定住意向

Q 5 あなたは、昭島市に何年住んでいますか。次の中から1つだけ選んでください。n=1,096 (%)

1 3年未満	7.1	3 5年～10年未満	9.2	5 20年以上	63.9
2 3年～5年未満	3.2	4 10年～20年未満	16.3	無回答	0.3

Ⅲ 調査票と単純集計結果

Q6 あなたは、これからも昭島市に住み続けたいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。 n=1,096 (%)

1	今後とも住み続けたい	} Q7へ	54.8
2	どちらかというに住み続けたい		30.7
3	どちらかというに住み続けたいとは思わない	} Q8へ	3.0
4	住み続けたいとは思わない		1.7
5	どちらともいえない		8.4
	無回答		1.4

(Q6で「1 今後とも住み続けたい」「2 どちらかというに住み続けたい」とお答えの方に)

Q7 昭島市に住み続けたいと思う理由は何ですか。次の中から1つだけ選んでください。

n=937 (%)

1	長く住んでいるから	37.1	5	歴史や伝統があるから	0.1
2	便利で暮らしやすいから	33.0	6	治安が良いから	1.8
3	緑が多く自然環境が良いから	9.9	7	水がおいしいから	12.8
4	親切であたたかみがあるから	0.7	8	その他(具体的に)	3.7
				無回答	0.7

(Q6で「3 どちらかというに住み続けたいとは思わない」「4 住み続けたいとは思わない」とお答えの方に)

Q8 昭島市に住み続けたいと思わない理由は何ですか。次の中から1つだけ選んでください。

n=52 (%)

1	買い物や交通が不便だから	32.7	5	自然環境が悪いから	1.9
2	車や電車の騒音がうるさいから	1.9	6	文化的・都会的でないから	3.8
3	航空機騒音がうるさいから	17.3	7	治安が悪いから	1.9
4	航空機の訓練中の事故などが不安だから	-	8	その他(具体的に)	40.4

昭島市への愛着度

Q9 あなたは、昭島市に対して、ふるさととしての親しみや愛着を持っていますか。次の中から1つだけ選んでください。 n=1,096 (%)

1	持っている	33.9	3	あまり持っていない	} 010へ	12.2
2	やや持っている	38.3	4	持っていない		6.2
			5	どちらともいえない		8.4
				無回答		1.0

(Q9で「3 あまり持っていない」「4 持っていない」とお答えの方に)

Q10 親しみや愛着を持っていない理由は何ですか。次の中から1つだけ選んでください。

n=202 (%)

1	住み始めて日が浅いから	29.7
2	仕事などで昭島市にいる時間が短いから	12.4
3	昭島市のことをよく知らないから	17.8
4	暮らしにくいと感じるから	14.9
5	その他(具体的に)	22.8
	無回答	2.5

Q 1 1 あなたは、現在の暮らしに満足していますか。次の中から1つだけ選んでください。

n=1,096 (%)

1 満足している	30.8
2 やや満足している	48.1
3 あまり満足していない	11.3
4 満足していない	3.0
5 どちらともいえない	5.2
無回答	1.6

} Q12へ

(Q 1 1で「3 あまり満足していない」「4 満足していない」とお答えの方に)

Q 1 2 満足していないのはどのような理由からですか。次の中から1つだけ選んでください。

n=157 (%)

1 暮らし向きのこと	26.1	5 住まいのこと	9.6
2 仕事のこと	15.3	6 生活環境のこと	22.3
3 健康のこと	7.0	7 人づきあいのこと	2.5
4 家族のこと	7.0	8 その他(具体的に)	10.2

災害対策

Q 1 3 あなたが、地震など災害に対して日頃から対策を講じていることは何ですか。次の中からあてはまるものをいくつでも選んでください。

n=1,096 (%)

1 (一部でも)家具の転倒落下移動防止の実施	41.2	7 避難場所の確認	52.6
2 住宅用火災警報器の設置	44.0	8 ハザードマップの確認	36.5
3 感震ブレーカーの設置	6.2	9 その他(具体的に)	1.6
4 防災訓練(初期消火訓練など)に参加	11.3	10 何もしていない	11.2
5 食料や日用品などの備え	54.6	無回答	0.8
6 ブロック塀を補強・改修または設置しない	3.7		

Q 1 4 あなたが、地震など災害に対して日頃から備えているものは何ですか。次の中からあてはまるものをいくつでも選んでください。

n=1,096 (%)

1 懐中電灯や携帯ラジオ	71.5	6 避難用のハシゴやロープ	4.8
2 飲料水や食料	64.0	7 カセットコンロ・固形燃料	37.8
3 救急医薬品	29.5	8 発電機・バッテリー充電器	16.4
4 消火器	22.4	9 その他(具体的に)	3.0
5 衣類・タオル・毛布など	26.3	10 何も備えていない	12.1
		無回答	1.0

Ⅲ 調査票と単純集計結果

Q15 あなたは、大規模地震や集中豪雨などの自然災害に備えるため、昭島市はどのような対策を講じる必要があると思いますか。次の中から3つまで選んでください。 n=1,096 (%)

1	食料・飲料水などの備蓄	61.5
2	避難場所・避難道路などの整備	40.6
3	正確・迅速な情報伝達	53.9
4	緊急時の負傷者・病人などの救急救命	20.2
5	医療機関との更なる連携	16.1
6	高齢者・障害者など、災害に弱い人への対策	29.3
7	建物の不燃化・耐震化	9.1
8	消防車や給水車の充実	4.8
9	防災ボランティアの育成や、受け入れ体制の整備	8.1
10	上下水道や電気などの耐震強化	30.7
11	防災訓練の実施	2.5
12	自主防災組織の整備充実	2.3
13	その他（具体的に)	2.2
	無回答	0.6

日常生活

Q16 あなたは、成年年齢引下げにより、消費者トラブルに巻き込まれることが懸念される若者に対する普及、啓発活動としてどのようなものが効果的だと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。 n=1,096 (%)

1	学校における消費者教育	62.9
2	インターネットや SNS での啓発	22.5
3	チラシ・ポスターの配布や掲示	4.1
4	ショッピングセンターなどでの啓発イベント	2.0
5	啓発グッズ等の作成、配布	1.7
6	公共施設等での講演会や出前講座	1.6
7	自治体のホームページでの広報	1.0
8	その他（具体的に)	0.9
9	啓発の必要はない	1.7
	無回答	1.6

Q17 あなたのご職業は何ですか。次の中から主なものを1つだけ選んでください。n=1,096 (%)

1	農林漁業	0.1	7	家事専業	12.6
2	自営業	4.9	8	無職	23.2
3	会社員・団体職員	30.0	9	学生	3.3
4	会社役員・団体役員	2.6	10	その他（具体的に)	2.1
5	公務員	3.8		無回答	0.3
6	アルバイト・パートタイマー	17.2			

} Q18へ

(Q17で「1 農林漁業」「2 自営業」「3 会社員・団体職員」「4 会社役員・団体役員」「5 公務員」「6 アルバイト・パートタイマー」とお答えの方に)

Q18 あなたは、次の項目について、満足していますか。ア～オのそれぞれの項目ごとに1つずつ選んでください。 n=642 (%)

項目 \ 満足度	満足している	やや満足している	あまり満足していない	満足していない	どちらともいえない	無回答
ア 収入	14.6	34.6	26.9	18.8	3.4	1.6
イ 仕事の内容	21.7	44.4	21.5	7.2	3.6	1.7
ウ 通勤時間	44.4	26.0	13.6	11.5	2.5	2.0
エ 経営の安定性	24.3	39.7	18.4	9.7	5.6	2.3
オ 能力発揮の機会	17.8	40.2	20.9	9.8	8.9	2.5

地域活動・自治会

Q19 あなたは、現在、地域でどのような活動をしていますか。次の中からあてはまるものをいくつでも選んでください。 n=1,096 (%)

1 自治会などの地域貢献活動（自治会、子ども会、老人クラブ、防犯、防災などの活動）	16.9
2 PTAなどの保護者会活動	3.1
3 NPO法人での活動	1.0
4 ボランティアなどの社会貢献活動	5.0
5 音楽、美術、趣味などの文化芸術活動	5.5
6 スポーツ・レクリエーション活動	9.4
7 その他の活動（具体的に)	1.6
8 していないが、機会があればしたい	28.3
9 していないし、今後もするつもりはない	37.0
無回答	2.7

} Q20へ

Ⅲ 調査票と単純集計結果

(Q19で「8 していないが、機会があればしたい」「9 していないし、今後もするつもりはない」とお答えの方に)

Q20 現在、活動に参加できない理由は何ですか。次の中からあてはまるものをいくつでも選んでください。 n=715 (%)

1	活動する時間がない	42.2
2	参加するきっかけがない	30.5
3	団体や活動内容に関する情報がない	16.2
4	参加したいと思う活動や共感する団体がない	15.2
5	体力的に自信がない	28.3
6	まったく興味がない	15.8
7	その他(具体的に)	7.0
	無回答	0.6

Q21 あなたは、地域活動を推進するために、今後、昭島市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。次の中から2つまで選んでください。 n=1,096 (%)

1	情報の提供	62.9
2	必要な研修会や講習会の開催	23.4
3	場所の提供	25.3
4	必要な機材や資金的援助	29.0
5	事故に対する保険制度	10.9
6	その他(具体的に)	2.6
	無回答	5.0

Q22 あなたは、現在、自治会に加入していますか。次の中から選んでください。 n=1,096 (%)

1	加入している	40.4
2	加入していない → Q23へ	58.5
	無回答	1.1

(Q22で「2 加入していない」とお答えの方に)

Q23 自治会に加入していない理由は何ですか。次の中からあてはまるものをいくつでも選んでください。 n=641 (%)

1	加入する必要性を感じない	44.8
2	活動内容に関心がない	19.2
3	近所づきあいが煩わしい	20.9
4	加入方法がわからない	10.0
5	勧誘されていない	20.4
6	体力的に自信がない	17.2
7	役員になりたくない	26.5
8	短期の居住である	1.7
9	会費が負担である	15.1
10	時間的な余裕がない	38.1
11	その他(具体的に)	10.3
	無回答	0.8

Q 2 4 現在、自治会への加入率が低下してきています。今後、あなたは、どのような自治会活動に参加したいと思いますか。次の中からあてはまるものをいくつでも選んでください。

n=1,096 (%)

1	回覧板の各戸配布や掲示板の管理	8.9
2	防災への取り組み	24.5
3	防犯への取り組み	19.6
4	清掃活動や花壇の設置など	11.9
5	高齢者や障害者への福祉活動	11.2
6	趣味の教室や地域交流拠点の利用	13.2
7	ウォーキング・ラジオ体操・運動会など	9.8
8	お祭りやイベント	22.9
9	会員への慶弔事業など	1.6
10	募金活動	2.1
11	その他（具体的に)	2.6
12	特になし	39.5
	無回答	4.4

生涯学習

Q 2 5 あなたは、日頃からウォーキングなどのスポーツやレクリエーションにどの程度親しんでいますか。次の中から1つだけ選んでください。

n=1,096 (%)

1	ほぼ毎日している	16.2
2	週に1回はしている	28.8
3	月に1回はしている	8.6
4	ほとんどまたはまったくしていない	42.9
5	その他（具体的に)	2.0
	無回答	1.5

Q 2 6 あなたは、この1年間に音楽、演劇、美術などを外出して鑑賞したことがありますか。次の中から1つだけ選んでください。

n=1,096 (%)

1	鑑賞したことがある	41.9
2	興味はあるが、機会がない	20.3
3	近くで鑑賞する機会があれば、鑑賞したい	19.6
4	興味がない	14.1
5	その他（具体的に)	2.5
	無回答	1.7

Ⅲ 調査票と単純集計結果

Q27 あなたは、昭島市の図書館をどのくらい利用していますか。次の中から1つだけ選んでください。 n=1,096 (%)

1	ほぼ毎日利用している	0.5
2	週に1回は利用している	3.6
3	月に1回は利用している	14.9
4	ほとんどまたはまったく利用していない → Q28へ	77.5
5	その他（具体的に)	2.7
	無回答	0.9

(Q27で「4 ほとんどまたはまったく利用していない」とお答えの方に)

Q28 利用していない理由は何ですか。次の中からあてはまるものをいくつでも選んでください。 n=849 (%)

1	読みたい本は自分で購入するから	41.5	7	図書館まで遠い	24.9
2	開館時間、開館日に利用できない	11.3	8	利用手続きや規則が面倒である	5.9
3	図書館がどこにあるかわからない	7.5	9	インターネットで用が足りている	23.9
4	本を読まない	18.1	10	外出が困難	6.8
5	昭島市外の図書館を利用している	2.1	11	その他（具体的に)	6.5
6	利用したい資料がない	4.1		無回答	0.9

学校教育

Q29 昭島市は、未来を担う子どもたちの育成に向けて、教育振興基本計画に基づき、学校教育の充実に取り組んでいます。あなたが、今後、更に充実すべきと思う取り組みは何ですか。次の中から2つまで選んでください。 n=1,096 (%)

1	基礎学力の定着を目指す教育	25.5
2	社会生活のルールを身につけ、命の大切さなどがわかる、心の教育の充実	58.8
3	適正な学校・学級規模による良好な教育環境の確保	11.5
4	体力の維持・向上を通じた健康な体の育成	11.1
5	家庭（保護者）や地域住民の積極的な参画、学校支援ボランティアの活用	3.5
6	デジタル教材を用いた、時代に即した教育内容の充実	16.1
7	国際理解教育の充実	9.9
8	環境教育や福祉教育、キャリア教育を通じた、地域との交流	5.0
9	支援を要する児童・生徒への対応	9.9
10	不登校、いじめなど心の問題への対応	27.6
11	学校内や通学路における、子どもの安全対策の強化	7.3
	無回答	2.2

環境

Q30 地球温暖化防止のためには、省エネ活動など、個人個人の日常生活での取り組みが必要となります。あなたは、このことについてどう思いますか。次の中から1つだけ選んでください。 n=1,096 (%)

※二酸化炭素などの温室効果ガスによる地球温暖化で、海水面の上昇、砂漠化の進行、異常気象の多発など、人類社会にさまざまな影響を及ぼすおそれがあると指摘されています。

1	多少、生活に不自由を感じても、積極的に取り組みたい	16.1
2	できる部分があれば取り組みたい	68.2
3	生活に不自由を感じるなら取り組みたくない	6.3
4	どちらかという、取り組むことは難しい	2.7
5	地球温暖化問題に関心がない	1.5
6	わからない	3.4
	無回答	1.8

Q31 気候変動などに対して昭島市が行う適応策として、特に必要だと思う取り組みは何ですか。次の中から1つだけ選んでください。 n=1,096 (%)

※近年、集中豪雨や干ばつといった異常気象が各地で発生し、私たちの暮らしや健康、産業、自然への影響が懸念されています。こういった気候変動に対し、温室効果ガスの排出抑制といった「緩和策」のほかに、気候変動へ適応していく「適応策」が求められています。

1	災害時の避難方法、堤防整備など、水害への取り組み	32.0
2	上水施設の水害対策、雨水貯留など、水資源確保への取り組み	30.9
3	対象種の保護、保護区の追加など、自然生態系の保護への取り組み	7.0
4	作期の移動、品種の変更、被害農家への支援など、農業に関する取り組み	4.7
5	エアコン使用、水を飲むことの推奨、医療体制の整備、建物や道路の整備など、 熱中症に対する取り組み	21.4
6	その他（具体的に)	1.7
	無回答	2.2

Ⅲ 調査票と単純集計結果

Q32 あなたは、ごみの減量化のために、日頃からどのようなことに取り組んでいますか。次の中からあてはまるものをいくつでも選んでください。 n=1,096 (%)

※昭島市は、可燃ごみの処理について、現在の清掃センターに修繕を施し、焼却処理を継続しています。施設を安定稼働していくために、更なるごみの減量化が必要です。

1	「プラスチック-1運動」を参考に、マイバッグを利用し、必要性の低いワンウェイプラスチックの使用を極力減らす	61.9
2	外出時にマイボトルを携帯する	45.1
3	生ごみは水分を切ってから捨てる	53.0
4	小さな紙も分別して「雑誌・雑古紙」として出す	56.8
5	食品ロスを減らすため、食材は必要な分だけ購入し、食べきれぬ量を作る	44.1
6	コンポスト容器や電動式生ごみ処理機を利用して生ごみを減らす	3.6
7	不要な衣類は、拠点回収やリサイクルショップなどに出す	30.0
8	古紙、古布、びん、缶などは地域の市民団体による集団回収に出す	35.4
9	その他（具体的に：)	2.2
	無回答	1.2

Q33 あなたは、今までに、昭島市における水と緑に関する市民活動に参加したことがありますか。次の中からあてはまるものをいくつでも選んでください。 n=1,096 (%)

1	公園の清掃・草刈り	9.8
2	雑木林や森林の清掃・草刈り	0.6
3	多摩川や玉川上水の清掃	12.2
4	用水路の清掃・草刈り	1.6
5	街路樹の落ち葉の清掃	5.3
6	街角の花壇の手入れ	2.2
7	校庭の樹木・芝生の管理や維持	1.7
8	緑化のための募金	4.5
9	緑や水辺に関するイベント・講習会への参加	2.0
10	公園の設置計画や管理など、まちづくりに関する話し合いへの参加	1.1
11	その他（具体的に：)	1.3
12	特になし	71.4
	無回答	2.5

昭島の水道水

Q 3 4 あなたは、深層地下水 100%の昭島市の水道水をそのまま飲みますか。次の中から 1つ だけ選んでください。 n=1,096 (%)

1	そのまま飲む	69.3	4	市販の飲料水を購入している	6.6
2	沸かしてから飲む	6.7	5	その他（具体的に)	0.8
3	浄水器を使っている	15.8		無回答	0.8

都市景観

Q 3 5 あなたは、昭島のまちなみや景観に関して、どのように感じていますか。次の中から 1つ だけ選んでください。 n=1,096 (%)

1	美しいと思う	15.1	4	美しくないと思う	4.0
2	やや美しいと思う	44.6	5	その他（具体的に)	3.7
3	あまり美しいとは思わない	21.5	6	わからない	9.3
				無回答	1.7

少子高齢化

Q 3 6 あなたが、子育てをしやすい環境をつくるために必要だと思うものを、次の中から 3つ まで選んでください。 n=1,096 (%)

1	保育所、児童館、学童クラブなどの施設の充実	63.5
2	一時預かり・病児保育など預かりサービスの充実	40.2
3	子育ての経済的負担の軽減（手当支給・医療費・保育料など）	55.7
4	子育てに関する相談・支援体制の整備	25.2
5	公園・子育てひろば事業など遊びのための環境整備	28.6
6	母と子の健康の維持増進	10.3
7	産前・産後の支援（家事育児支援、産後ケアなど）	20.8
8	その他（具体的に)	3.0
	無回答	3.6

Q 3 7 あなたが、老後のことを考えた場合、最も不安に感じることはどのようなことですか。次の中から 1つ だけ選んでください。 n=1,096 (%)

1	健康	30.3
2	生きがいをもてるかどうか	5.9
3	ひとり暮らしになること	5.4
4	働く場所があるかどうか	2.4
5	介護が必要になったとき、必要な介護を受けられるかどうか	23.6
6	年金などの収入が安定して得られるかどうか	29.3
7	その他（具体的に)	1.6
	無回答	1.6

Ⅲ 調査票と単純集計結果

Q38 あなたが、高齢者のための施策として重要だと思うものを、次の中から3つまで選んでください。 n=1,096 (%)

1	雇用機会の拡充	23.8
2	医療制度・医療施設の充実	42.3
3	気軽に相談できる相談機関の充実	19.1
4	施設介護サービス（特別養護老人ホームなど）の充実	32.1
5	在宅介護サービス（訪問介護・看護、デイサービスなど）の充実	34.6
6	高齢者向け住宅の建設など、住宅対策の充実	18.0
7	地域で高齢者を見守る体制の充実	12.7
8	スポーツ、趣味活動や教養講座など、生きがい対策の充実	16.3
9	経験や能力を活かし活躍できる場（社会奉仕活動など）の充実	12.7
10	施設のバリアフリー化や、低床バスなど高齢者が生活しやすい環境の充実	8.7
11	安価で気軽に使える移動手段の充実	28.6
12	認知症対策の充実	20.0
13	その他（具体的に)	1.5
	無回答	1.7

広報

Q39 あなたは、昭島市に関わる情報をどのような方法で入手していますか。次の中からあてはまるものをいくつでも選んでください。 n=1,096 (%)

1	広報あきしま	83.4	10	各種新聞	9.0
2	あきしま市議会だより	26.0	11	各種情報誌	3.4
3	昭島市公式ホームページ	34.8	12	自治会などの回覧板	20.4
4	昭島市公式ホームページ以外のホームページ	2.4	13	ポスター・チラシ・リーフレットなど	11.8
5	昭島市公式ツイッター	3.5	14	家族や友人、近所の人の話	21.4
6	昭島市公式動画チャンネル	0.6	15	昭島市公式Instagram	1.4
7	昭島市市民便利帳	8.5	16	昭島市公式LINE	3.3
8	携帯メール情報サービス	7.8	17	その他（具体的に)	1.8
9	携帯電話（スマートフォンを除く）による各種情報サイト	2.6		無回答	1.5

デジタル化

Q40 昭島市が提供するインターネットを利用したサービスのうち、あなたが、現在利用しているもしくは今後利用したいものはどれですか。次の中からあてはまるものをいくつでも選んでください。 n=1,096 (%)

1 あきしま子育てアプリ	4.5	10 市民図書館座席予約サービス	4.1
2 昭島市ごみ分別アプリ	19.2	11 市民図書館蔵書検索・予約サービス	12.5
3 あきしま省エネ家計簿	1.5	12 市民便利帳（電子書籍版）	2.9
4 Yahoo!防災速報（昭島市に設定）	15.5	13 広報あきしま（電子版）	7.0
5 Akishima City Free Wi-Fi	7.8	14 マイナポータル	11.3
6 電子申請サービス	11.4	15 ぴったりサービス	0.2
7 公共施設予約サービス	6.9	16 昭島市公式ホームページ	24.6
8 コンビニ交付サービス	13.2	17 Yahoo!くらし（昭島市）	2.3
9 市民図書館電子書籍サービス	7.9	18 特にない	32.8
		無回答	5.8

Q41 あなたは、普段どのような場所でWi-Fiを利用されますか。次の中からあてはまるものをいくつでも選んでください。 n=1,096 (%)

1 自宅	77.6	5 コンビニ	2.8
2 職場・学校	22.4	6 公共施設	14.3
3 宿泊施設	18.9	7 その他（具体的に）	0.8
4 飲食店	13.2	8 特にない	15.0
		無回答	5.3

Q42 昭島市のデジタル化施策として、優先して行うべきと思う取り組みは何ですか。次の中からあてはまるものを5つまで選んでください。 n=1,096 (%)

1 オンラインでの申請・相談・キャッシュレス決済の導入	44.8
2 道路や駐輪場の混雑状況可視化サービスの導入	18.8
3 通学路の危険個所や防犯情報の可視化サービスの導入	26.5
4 災害発生時における避難所運営状況確認サービスの導入	49.1
5 産官学民等のステークホルダー（関係者）と共創の場づくり	3.5
6 市内企業のデジタル化等を促すための人材・財源面の支援	7.8
7 母子の健康情報の管理、予防接種などのお知らせ機能の導入	13.7
8 タブレットPCでの授業・自宅学習機能の導入	17.6
9 市内の診療科目別病院・診療所の検索・予約サービスの導入	42.9
10 健康情報の管理及び、健康増進のアドバイスサービスの導入	10.8
11 高齢者や障害者に対するデジタル化の支援	22.8
12 パソコン教室やスマートフォン教室の開催	13.4
13 空き家や道路の陥没等の危険個所の通報・改善機能の導入	15.3
14 特にない	11.8
無回答	4.8

男女共同参画

Q43 あなたは、次の各分野において男女の立場または待遇が対等になっていると思いますか。

ア～クのそれぞれの項目ごとに1つずつ選んでください。

n=1,096 (%)

項目	立場または 待遇	女性が優遇	やや女性が優遇	対 等	やや男性が優遇	男性が優遇	無回答
ア	家庭生活では	5.8	11.6	43.0	25.0	7.6	7.0
イ	職場では	2.4	6.8	30.9	36.4	12.9	10.6
ウ	教育の場では	1.1	4.2	65.3	15.4	2.4	11.6
エ	地域活動の場では	1.1	6.4	51.0	26.8	5.0	9.7
オ	法律や制度では	2.2	6.8	37.8	32.8	10.3	10.1
カ	しきたりや習慣では	1.2	5.7	22.4	41.1	20.0	9.5
キ	余暇生活では	3.1	13.9	52.5	15.7	5.3	9.6
ク	全体としては	1.6	6.8	38.5	38.0	6.4	8.7

市政

Q 4 4 あなたは、市外の人に昭島の良さを伝えるとしたら何を伝えますか。あなたの考えに近いものを、次の中から3つまで選んでください。 n=1,096 (%)

1	景観（まちなみ）や住環境がよい（住みやすい）	30.2
2	深層地下水 100%の水道水	83.5
3	おいしい食べ物がある（梨などの特産品、お土産、ご当地グルメなど）	2.2
4	買い物や交通（電車・バス）が便利	28.8
5	水や緑といった自然環境に恵まれている	37.2
6	医療や福祉が充実している	3.5
7	地域で行われる祭りなどの伝統行事	5.5
8	市民くじら祭、郷土芸能まつり、産業まつりなどのイベント	14.5
9	新種と認定されたアキシマクジラの化石	8.6
10	公共サービスが充実している	1.7
11	観光資源に恵まれている	0.4
12	その他（具体的に)	2.7
13	わからない	4.3
	無回答	1.8

Q 4 5 あなたは、市外の人から「住んでみたい」「訪れてみたい」と思っただけの魅力あるまちづくりのため、今後5年間で、昭島市はどのような施策を特に重点的にすすめていくべきだと思いますか。次の中から5つまで選んでください。 n=1,096 (%)

※選択肢は、各施策をわかりやすくするために[]で系統別に分類して示していますが、これにこだわらず、すべてを対象に選んでください。

Ⅲ 調査票と単純集計結果

1	[安全・安心] 防犯・防災対策の充実	43.1
2	[安全・安心] 交通安全対策の充実	10.0
3	[安全・安心] 安全で安心な消費生活の向上	14.9
4	[教育・文化・スポーツ] 幼児教育・学校教育など、教育環境の充実	27.1
5	[教育・文化・スポーツ] 青少年の健全育成	7.7
6	[教育・文化・スポーツ] 図書館活動の推進	5.7
7	[教育・文化・スポーツ] 公民館活動の充実など、生涯学習の充実	3.7
8	[教育・文化・スポーツ] 文化・芸術、スポーツ・レクリエーション活動の振興	12.0
9	[教育・文化・スポーツ] 文化財の保護や市民文化の育成など、文化の香るまちづくり	3.1
10	[環境] まちの美化など、生活環境の維持向上	19.3
11	[環境] 水や緑など、自然環境の保全	33.4
12	[環境] ごみ処理・リサイクルの推進	16.4
13	[環境] 節電・省エネなど、地球環境の保全	5.4
14	[インフラ整備] 道路や駅前広場などの都市基盤整備	19.1
15	[インフラ整備] 公園整備や緑化の推進	14.1
16	[インフラ整備] 上下水道の整備	9.6
17	[インフラ整備] 公共交通の充実	11.8
18	[インフラ整備] 立川基地跡地などの市街地整備	10.1
19	[インフラ整備] 住宅の確保、住環境の整備	5.7
20	[インフラ整備] 魅力ある都市景観の整備	11.0
21	[福祉・健康] こころの健康や母子保健、生活習慣病の予防など、健康づくりの推進	8.4
22	[福祉・健康] 児童福祉、子育て支援の充実	20.0
23	[福祉・健康] 高齢化社会への対応、高齢者福祉の充実	32.1
24	[福祉・健康] 心身に障害のある方々に対する福祉の増進	7.4
25	[福祉・健康] 生活困窮者への支援・保護	10.2
26	[産業・観光] 商業や工業、農業などの産業振興	7.0
27	[産業・観光] 雇用の安定・確保	11.1
28	[産業・観光] 中小企業労働者の福祉の増進	2.5
29	[産業・観光] 郷土芸能や郷土資産などの伝統的な地域文化の振興	3.3
30	[産業・観光] 新たな観光行事やイベントなどの充実・促進	4.8
31	[その他] 市民活動やコミュニティ活動への支援	3.0
32	[その他] 人権尊重と男女の性別に関係なく、社会で活躍できる環境	7.5
33	[その他] 国際化の推進	4.3
34	[その他] 情報化の推進	5.9
35	[その他] その他（具体的に)	2.5
	無回答	5.0

Q 4 6 あなたは、行政サービスの水準と負担について、どのような対応をすることが望ましいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。 n=1,096 (%)

1	行政サービスが一層充実するのであれば、サービスに見合った市民の負担が増えるのはしかたがない	10.3
2	多少の市民負担の増加程度であれば、行政サービスを充実させるべきである	21.9
3	市民負担が増えるのであれば、行政サービスをこれ以上充実させるべきではない	6.6
4	行政サービスを直接受ける人の負担を増やすなど、負担のあり方を検討すべきである	14.4
5	行政改革を推進することで市民負担を増やさず、行政サービスを維持するべきである	29.9
6	その他（具体的に)	2.9
7	わからない	10.2
	無回答	3.7

Q 4 7 あなたは、現在の市政は、市民の声を反映していると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。 n=1,096 (%)

1	反映している	2.7	5	どちらともいえない	48.6
2	やや反映している	18.7	6	その他（具体的に)	2.6
3	あまり反映していない	18.4		無回答	3.5
4	反映していない	5.5			

Q 4 8 あなたは、「市政への参画・協働」をするにあたって、どのように市政にかかわっていきたいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。 n=1,096 (%)

1	市による各種アンケート	63.2	6	公募による審議会などの委員	9.3
2	市長への手紙など	14.0	7	各種ボランティア活動	19.5
3	パブリックコメントの活用	13.0	8	参画・協働したくない	11.9
4	市長との懇談会や対話集会	9.5	9	その他（具体的に)	2.8
5	事業実施のための実行委員会	5.9		無回答	5.7

市役所

Q49 あなたは、市役所の窓口サービスについて、どう思いますか。次の中から1つだけ選んでください。 n=1,096 (%)

1 良い	22.3	4 悪い → Q50へ	5.3
2 まあまあである	24.0	5 窓口サービスを利用したことがない	6.7
3 普通	39.7	無回答	2.1

(Q49で「4 悪い」とお答えの方に)

Q50 どのような理由からそう思われましたか。次の中から1つだけ選んでください。

n=58 (%)

1 どの窓口かわからなかった	8.6
2 一つの窓口で用が済まなかった	8.6
3 時間がかかった	17.2
4 職員の態度や言葉づかいが悪かった	36.2
5 職員の説明などがわかりづらかった	12.1
6 その他（具体的に)	17.2

たいへんお疲れ様でした。これで質問は終わりです。
ご協力ありがとうございました。

IV 調查結果

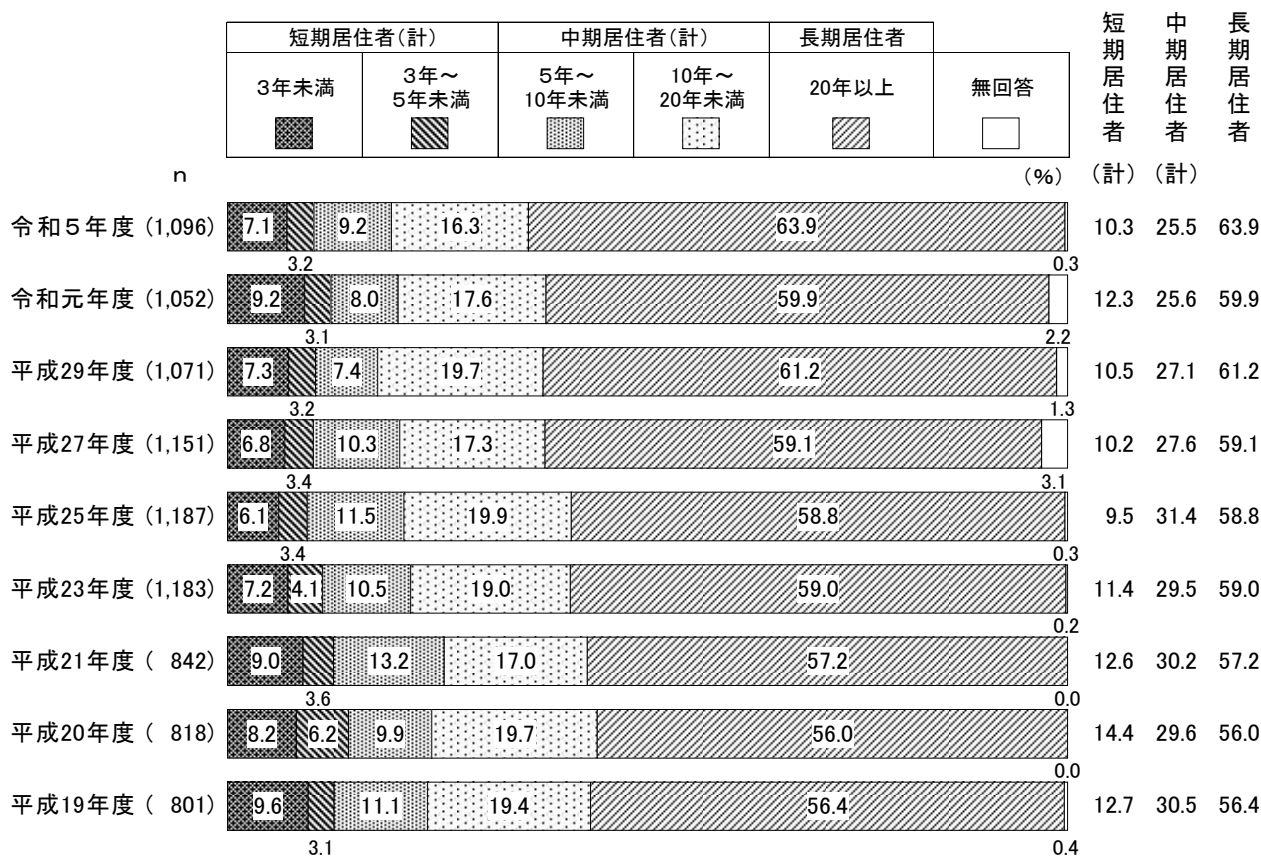
1 定住意向

(1) 居住年数

Q5 あなたは、昭島市に何年住んでいますか。次の中から1つだけ選んでください。

(n=1,096)

図1-1-1 居住年数（全体、過年度比較）

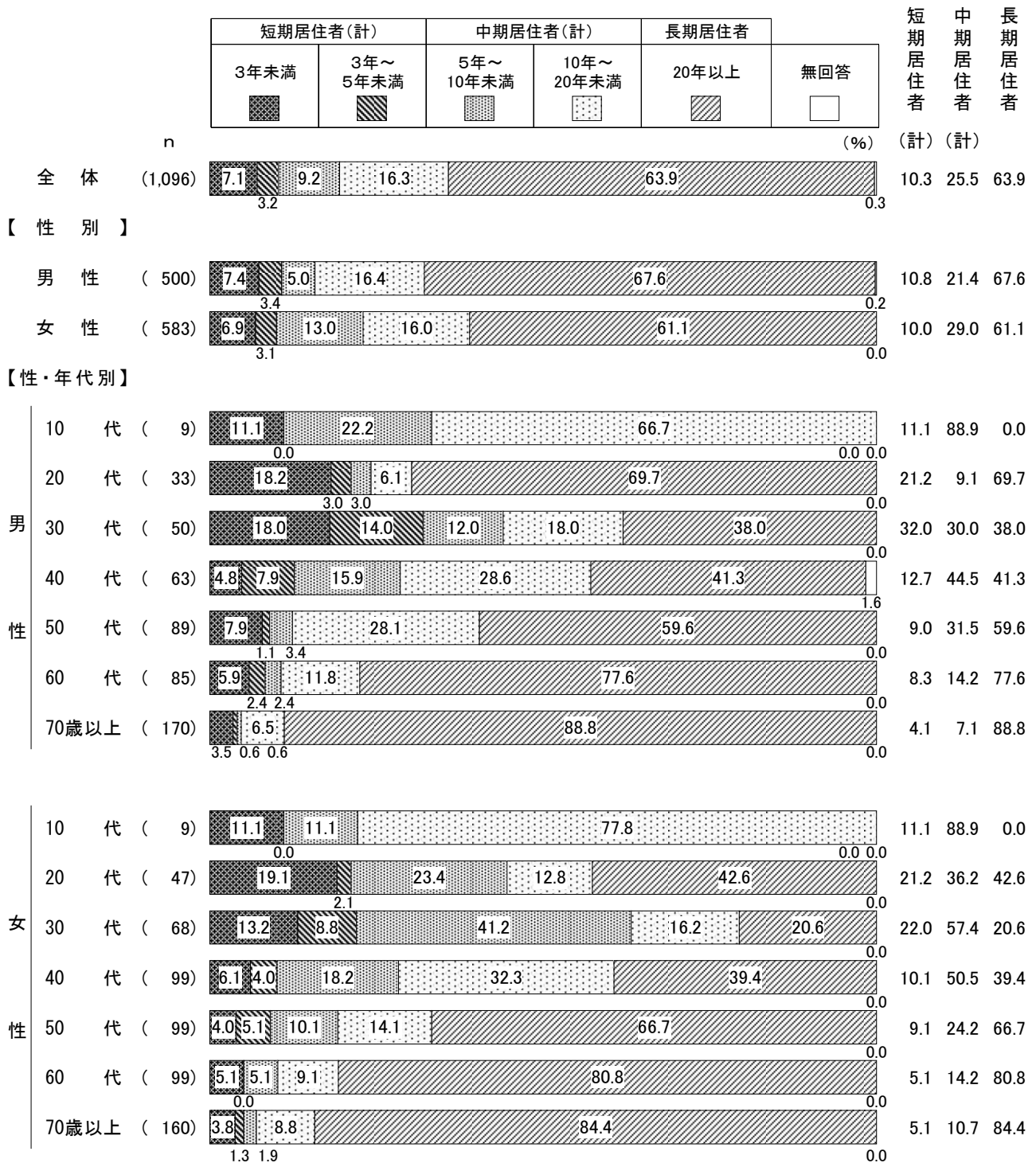


昭島市での居住年数を聞いたところ、「3年未満」(7.1%)と「3年～5年未満」(3.2%)を合わせた『短期居住者(計)』(10.3%)は約1割、「5年～10年未満」(9.2%)と「10年～20年未満」(16.3%)を合わせた『中期居住者(計)』(25.5%)は2割半ばとなっている。「20年以上」の『長期居住者』(63.9%)は6割以上となっている。

過去の調査と比較すると、『長期居住者』は令和元年度調査より4.0ポイント増加している。

(図1-1-1)

図 1-1-2 居住年数（性・年代別）

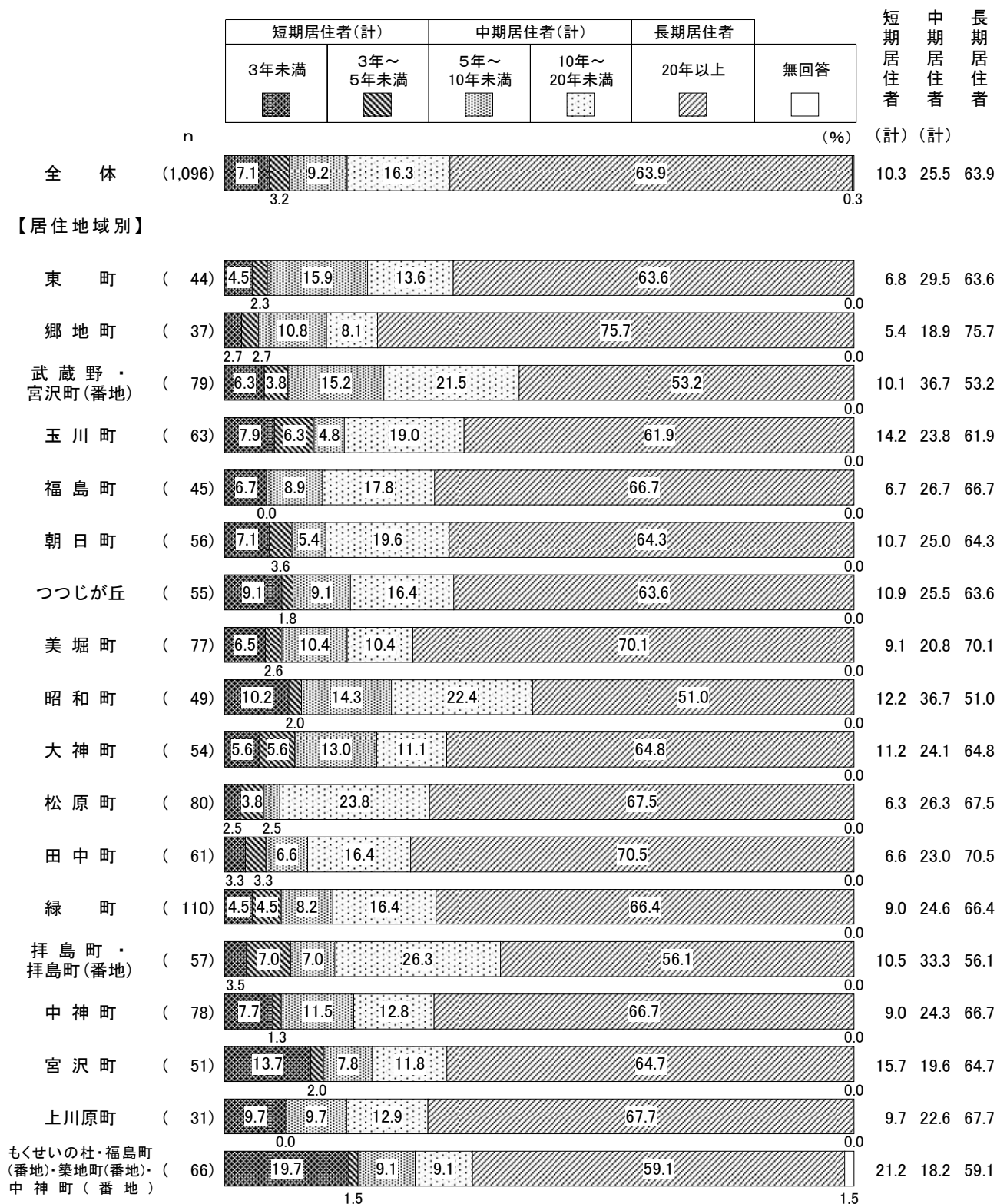


性別にみると、『中期居住者（計）』は女性（29.0%）が男性（21.4%）より7.6ポイント高くなっている。一方、『長期居住者』は男性（67.6%）が女性（61.1%）より6.5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『短期居住者（計）』は男性30代（32.0%）で3割以上と高くなっている。『中期居住者（計）』は女性30代（57.4%）で6割近くと高くなっている。『長期居住者』は男性70歳以上（88.8%）で9割近く、女性70歳以上（84.4%）で8割半ばと高くなっている。

（図 1-1-2）

図 1-1-3 居住年数（居住地域別）

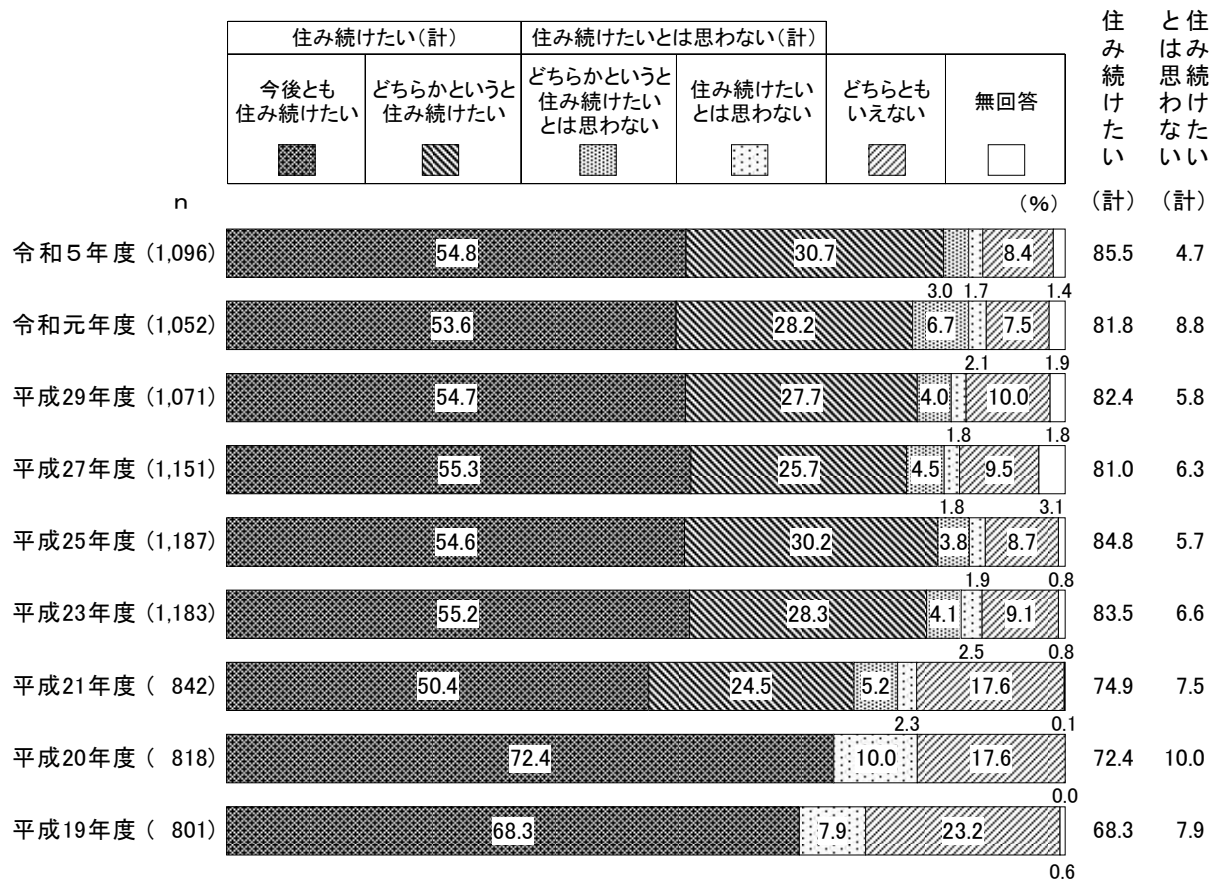


居住地域別にみると、『短期居住者（計）』はもくせいの杜・福島町(番地)・築地町(番地)・中神町(番地) (21.2%) で2割以上と高くなっている。『中期居住者（計）』は武蔵野・宮沢町(番地)と昭和町(ともに36.7%) で4割近くと高くなっている。『長期居住者』は郷地町 (75.7%) で7割半ばと高くなっている。(図 1-1-3)

(2) 定住意向

Q6 あなたは、これからも昭島市に住み続けたいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。(n=1,096)

図1-2-1 定住意向（全体、過年度比較）



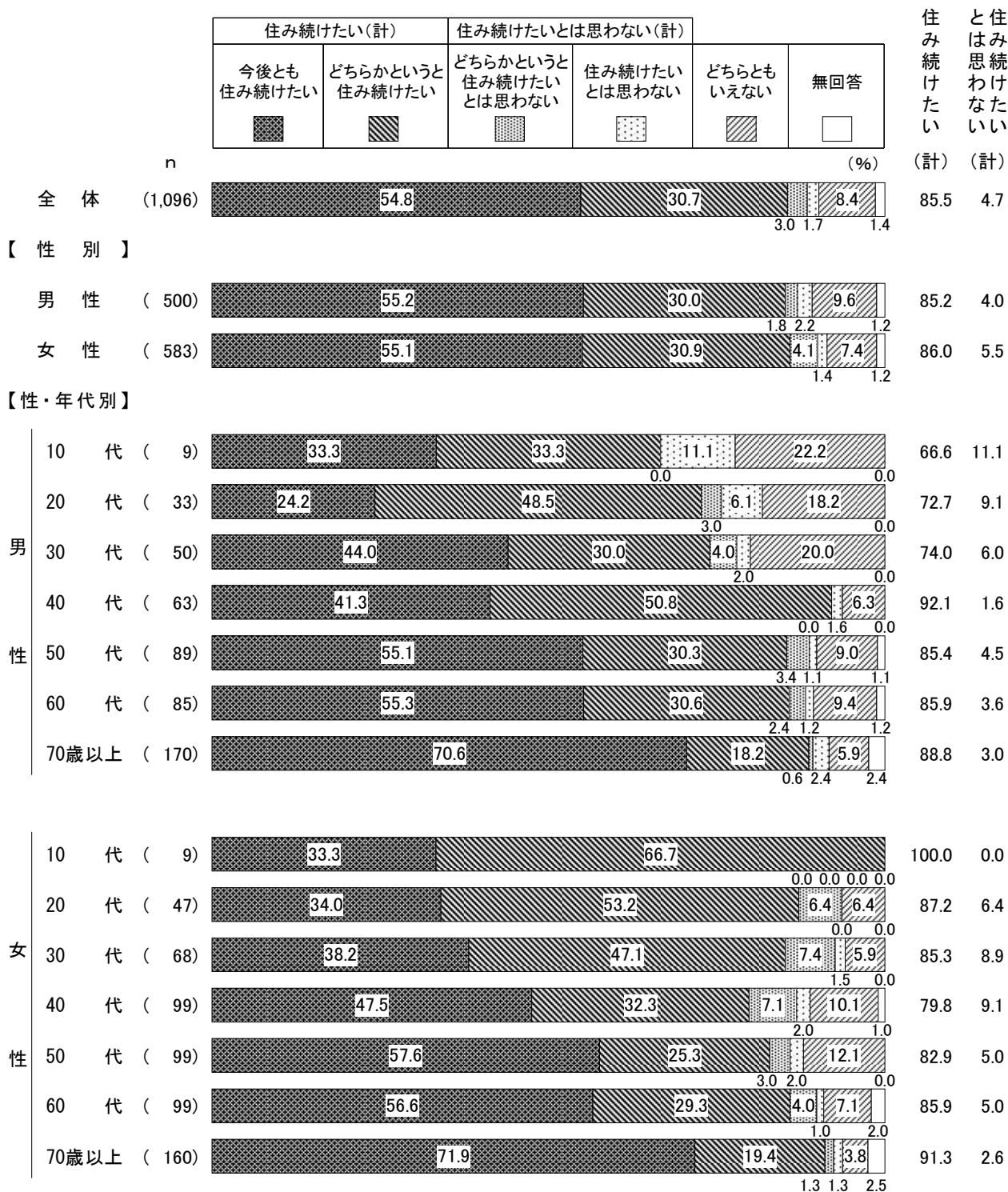
※平成20年度調査までは、選択肢が「住み続けたい」「住み続けたいとは思わない」「どちらともいえない」の3項目。

これからも昭島市に住み続けたいか聞いたところ、「今後とも住み続けたい」(54.8%)と「どちらかというに住み続けたい」(30.7%)を合わせた『住み続けたい(計)』(85.5%)は8割半ばとなっている。一方、「どちらかというに住み続けたいとは思わない」(3.0%)と「住み続けたいとは思わない」(1.7%)を合わせた『住み続けたいとは思わない(計)』(4.7%)は1割未満となっている。

過去の調査と比較すると、『住み続けたい(計)』は令和元年度調査より3.7ポイント増加している。一方、『住み続けたいとは思わない(計)』は令和元年度調査より4.1ポイント減少している。

(図1-2-1)

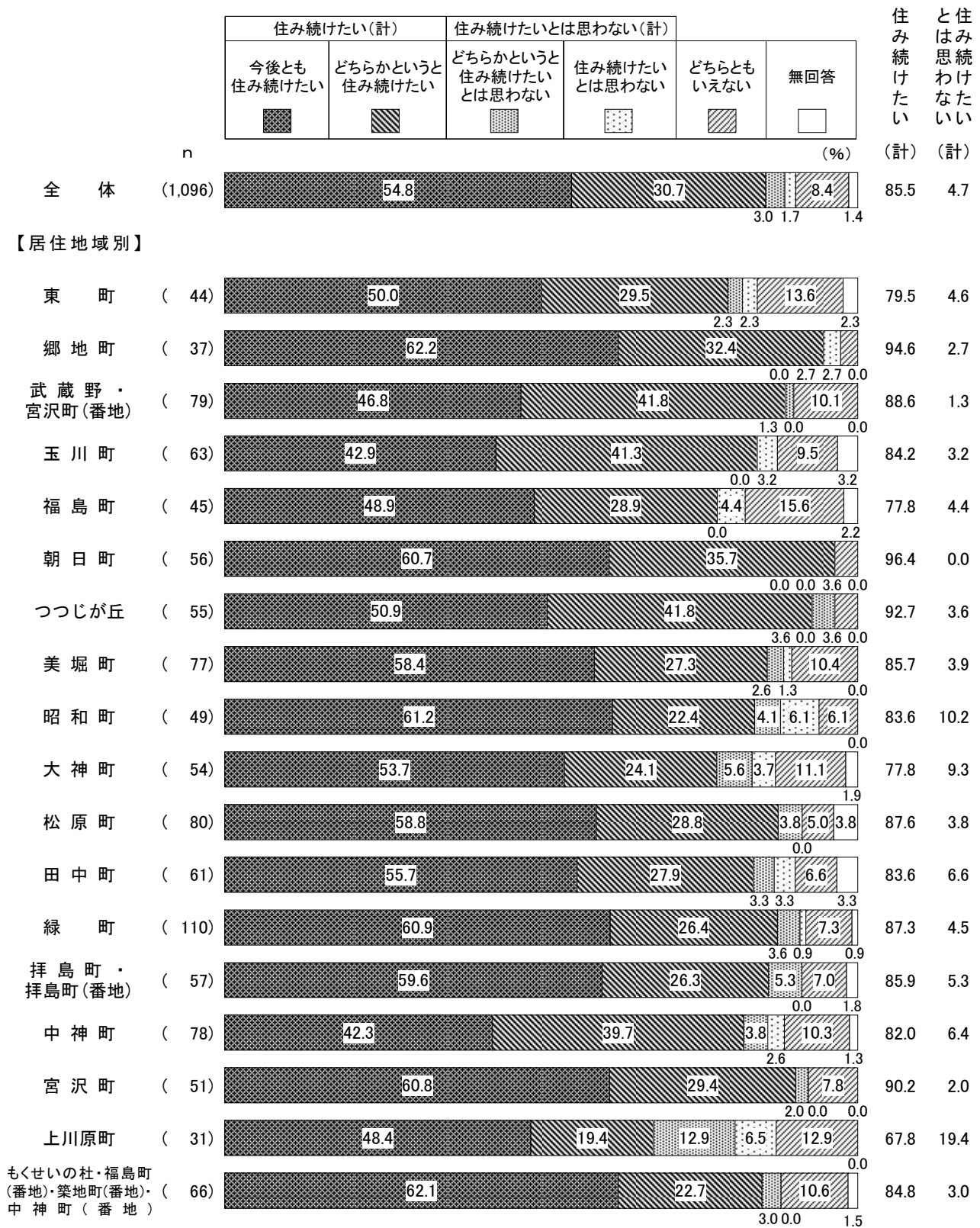
図 1-2-2 定住意向（性・年代別）



性別にみると、大きな違いはみられない。

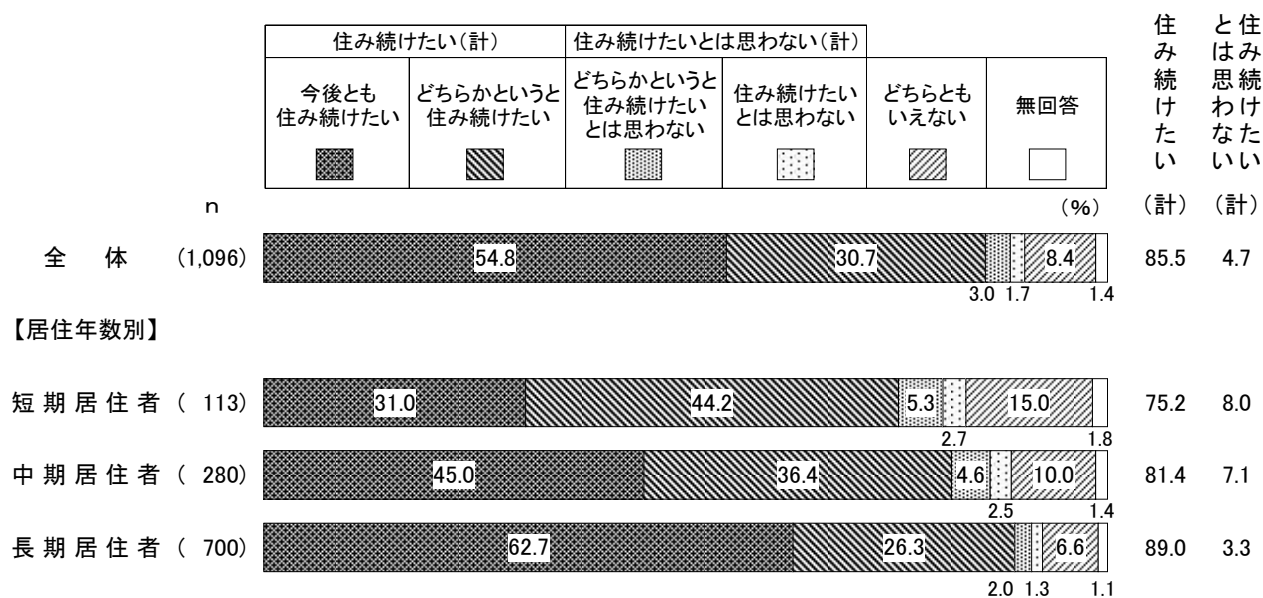
性・年代別にみると、『住み続けたい(計)』は男性40代(92.1%)と女性70歳以上(91.3%)で9割以上と高くなっている。(図1-2-2)

図 1-2-3 定住意向（居住地域別）



居住地域別にみると、『住み続けたい(計)』は朝日町(96.4%)で10割近く、郷地町(94.6%)で9割半ばと高くなっている。一方、『住み続けたいとは思わない(計)』は上川原町(19.4%)で約2割となっている。(図1-2-3)

図 1-2-4 定住意向（居住年数別）



居住年数別にみると、『住み続けたい(計)』は居住年数が長くなるほど割合が高く、長期居住者(89.0%)で約9割となっている。(図1-2-4)

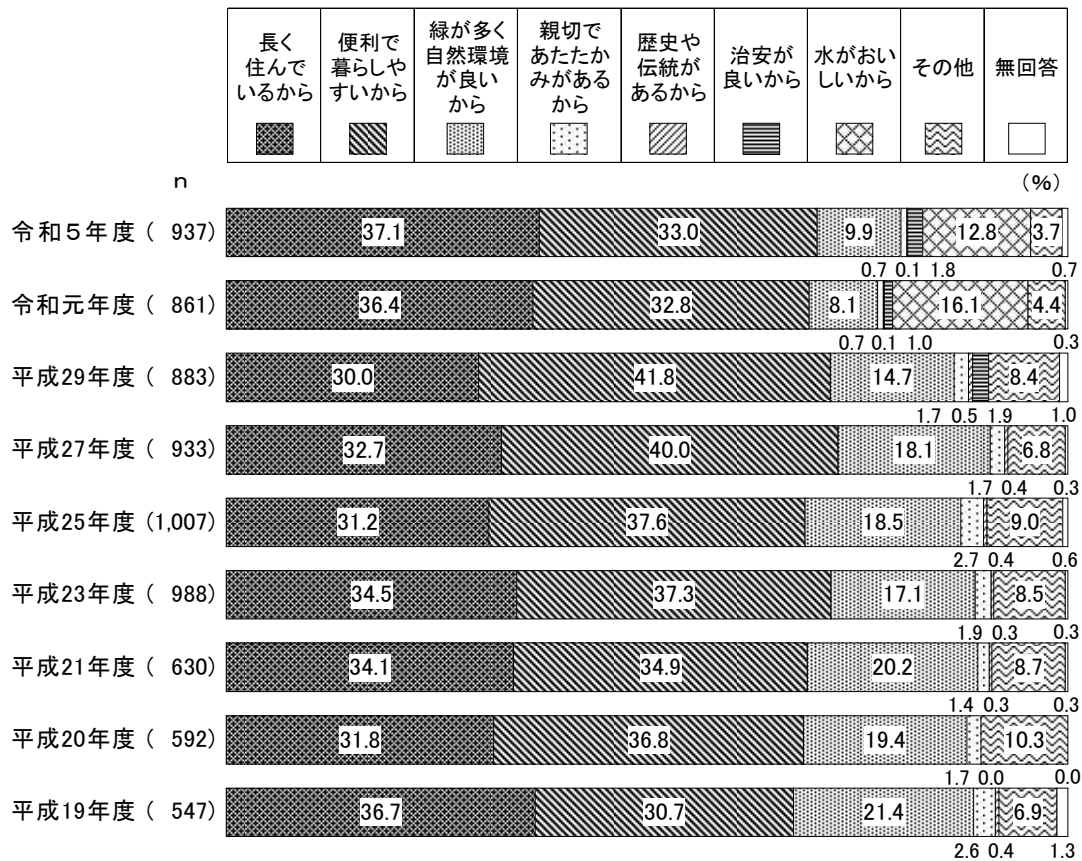
(3) 住み続けたい理由

(Q6で「今後とも住み続けたい」「どちらかというに住み続けたい」とお答えの方に)

Q7 昭島市に住み続けたいと思う理由は何ですか。次の中から1つだけ選んでください。

(n=937)

図1-3-1 住み続けたい理由(全体、過年度比較)



※「長く住んでいるから」は、平成29年度調査までは「むかしから住んでいるから」となっていた。

※「治安が良いから」は、平成29年度調査から追加された選択肢。

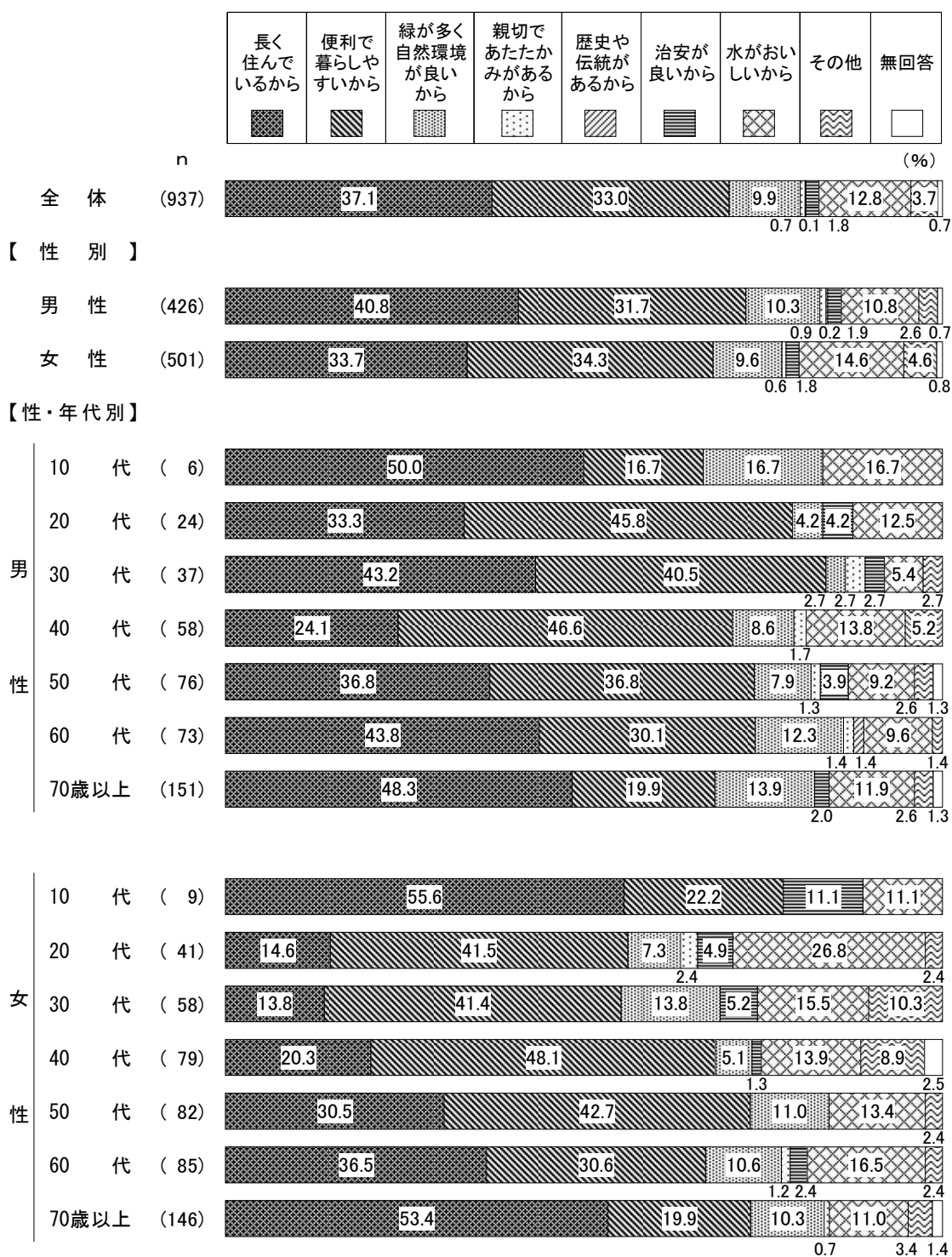
※「水がおいしいから」は、令和元年度調査から追加された選択肢。

昭島市に「住み続けたい」と回答した人(937人)に、その理由を聞いたところ、「長く住んでいるから」(37.1%)が4割近くで最も高く、次いで「便利で暮らしやすいから」(33.0%)、「水がおいしいから」(12.8%)、「緑が多く自然環境が良いから」(9.9%)などの順となっている。

過去の調査と比較すると、「水がおいしいから」は令和元年度調査より3.3ポイント減少している。

(図1-3-1)

図1-3-2 住み続けたい理由（性・年代別）



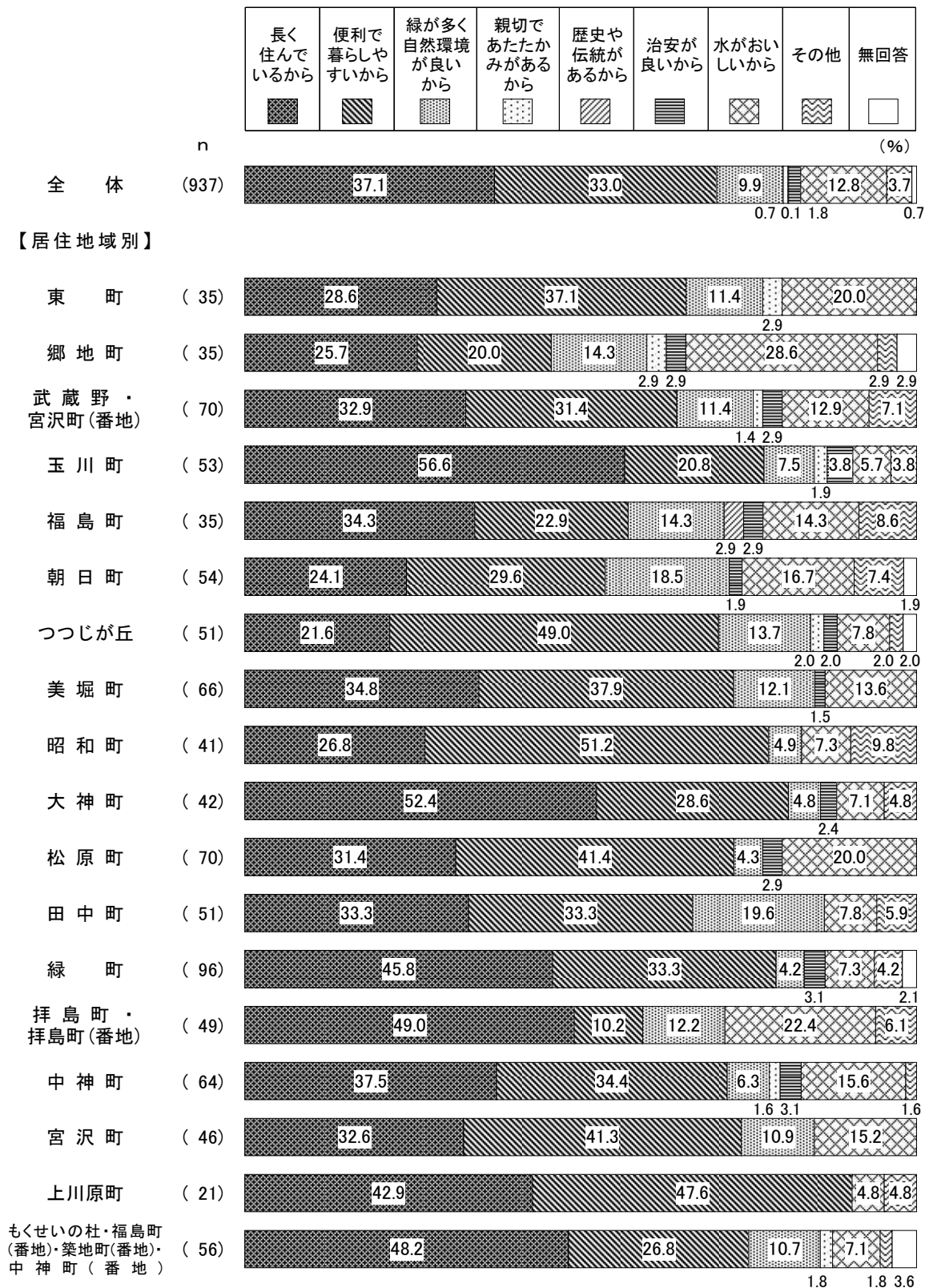
※0.0%の項目については記載を省略

性別にみると、「長く住んでいるから」は男性（40.8%）が女性（33.7%）より7.1ポイント高くなっている。一方、「水がおいしいから」は女性（14.6%）が男性（10.8%）より3.8ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「長く住んでいるから」は女性70歳以上（53.4%）で5割以上と高くなっている。「便利で暮らしやすいから」は女性40代（48.1%）と男性40代（46.6%）で5割近くと高くなっている。「水がおいしいから」は女性20代（26.8%）で3割近くと高くなっている。

（図1-3-2）

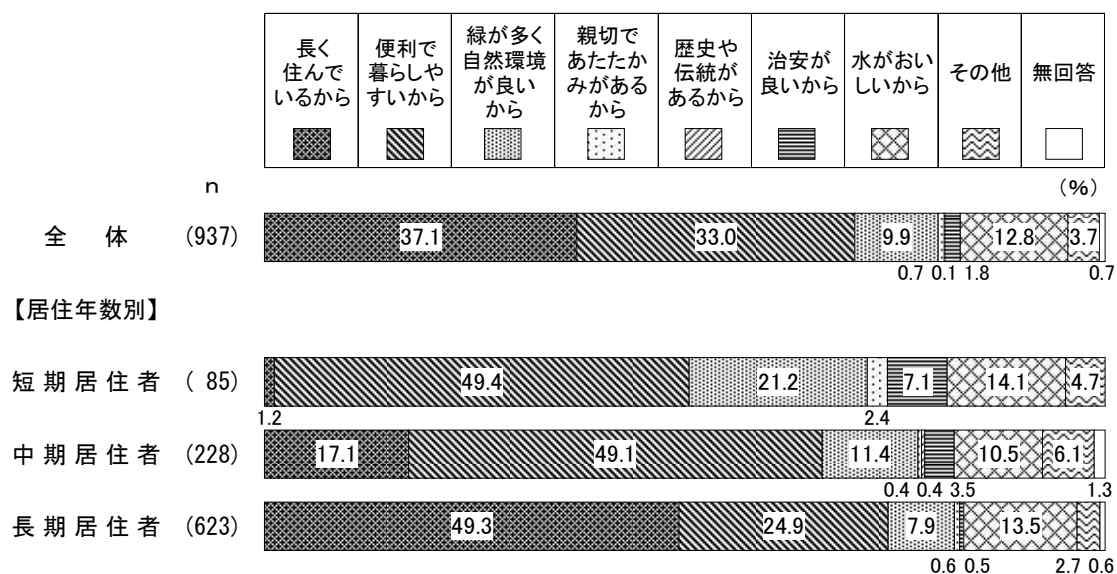
図1-3-3 住み続けたい理由（居住地域別）



※0.0%の項目については記載を省略

居住地域別にみると、「長く住んでいるから」は玉川町(56.6%)で6割近くと高くなっている。「便利で暮らしやすいから」は昭和町(51.2%)で5割以上と高くなっている。「水がおいしいから」は郷地町(28.6%)で3割近くと高くなっている。(図1-3-3)

図 1-3-4 住み続けたい理由（居住年数別）



※0.0%の項目については記載を省略

居住年数別にみると、「長く住んでいるから」は長期居住者（49.3%）で約5割と高くなっている。「便利で暮らしやすいから」は短期居住者（49.4%）、中期居住者（49.1%）で約5割と高くなっている。「緑が多く自然環境が良いから」は短期居住者（21.2%）で2割以上と高くなっている。（図1-3-4）

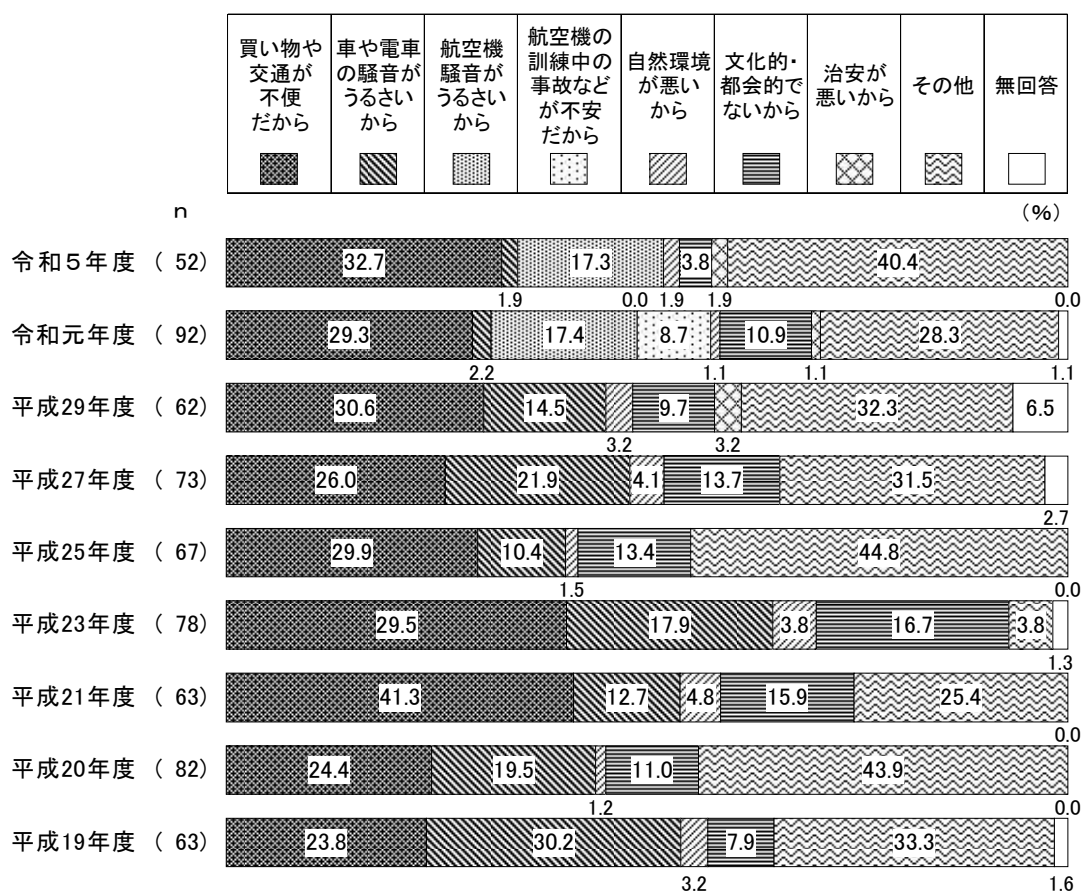
(4) 住み続けたいと思わない理由

(Q6で「どちらかというに住み続けたいとは思わない」「住み続けたいとは思わない」とお答えの方に)

Q8 昭島市に住み続けたいと思わない理由は何ですか。次の中から1つだけ選んでください。

(n=52)

図1-4-1 住み続けたいと思わない理由(全体、過年度比較)



- ※「車や電車の騒音がうるさいから」は、平成29年度調査までは「車や飛行機の騒音がうるさいから」となっていた。
- ※「航空機騒音がうるさいから」と「航空機の訓練中の事故などが不安だから」は、令和元年度調査から追加された選択肢。
- ※「治安が悪いから」は、平成29年度調査から追加された選択肢。

昭島市に「住み続けたいとは思わない」と回答した人(52人)に、その理由を聞いたところ、「買い物や交通が不便だから」(32.7%)が3割以上で最も高く、次いで「航空機騒音がうるさいから」(17.3%)、「文化的・都会的でないから」(3.8%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「買い物や交通が不便だから」は令和元年度調査より3.4ポイント増加している。一方、「航空機の訓練中の事故などが不安だから」は令和元年度調査より8.7ポイント、「文化的・都会的でないから」は令和元年度調査より7.1ポイント、それぞれ減少している。

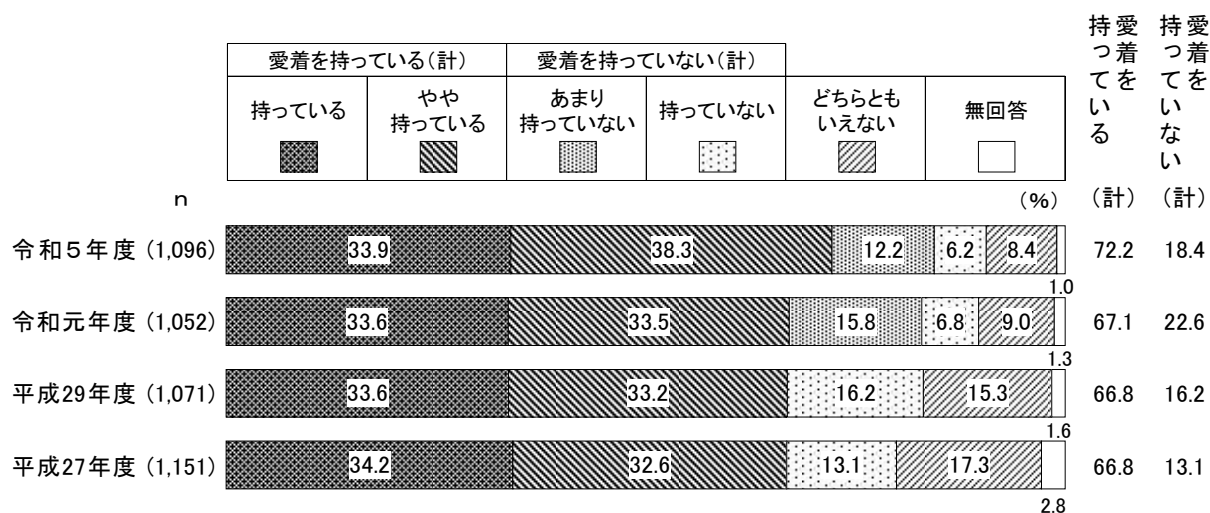
(図1-4-1)

2 昭島市への愛着度

(1) ふるさととしての愛着度

Q9 あなたは、昭島市に対して、ふるさととしての親しみや愛着を持っていますか。次の中から1つだけ選んでください。 (n=1,096)

図2-1-1 ふるさととしての愛着度（全体、過年度比較）

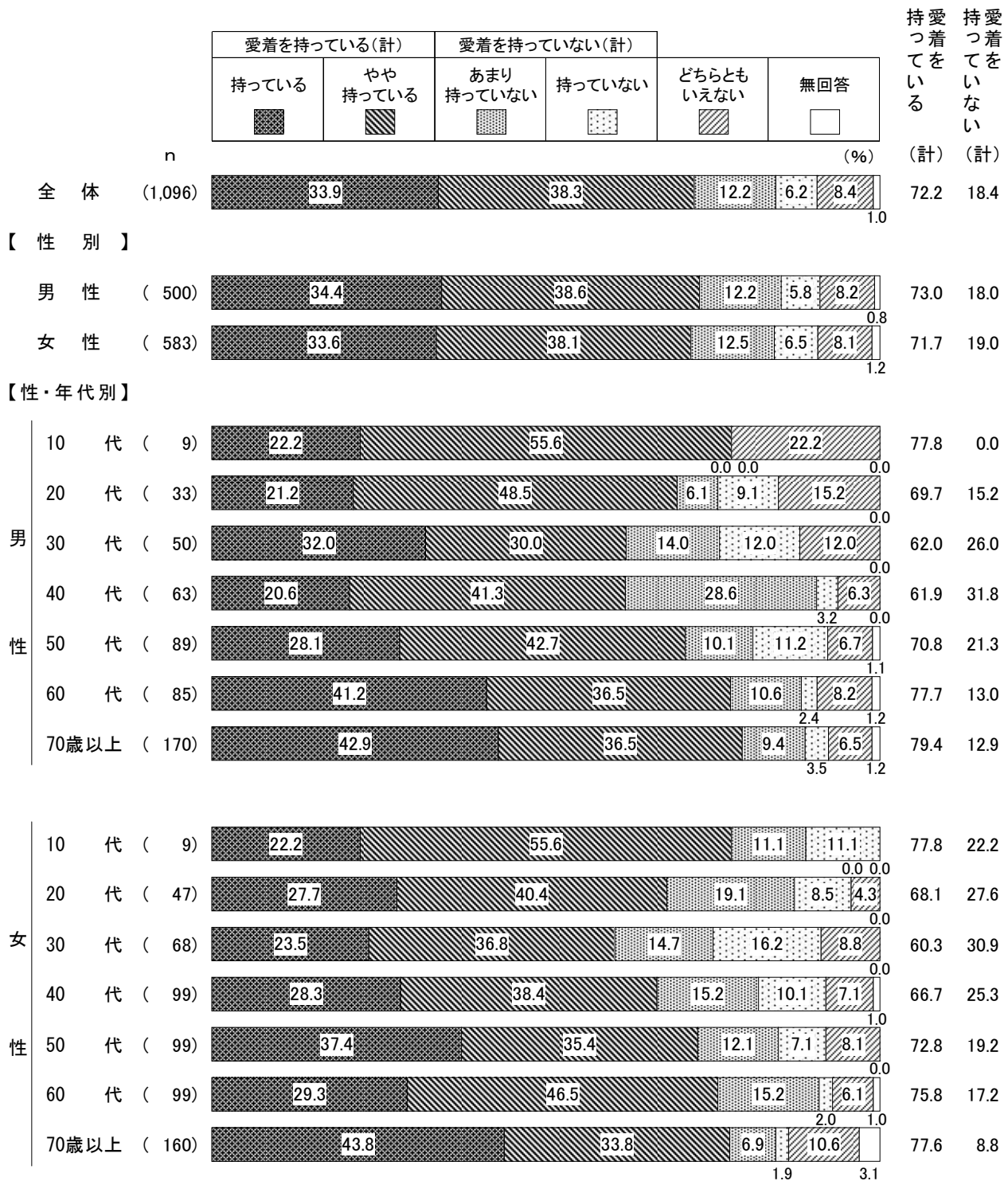


昭島市に対して、ふるさととしての親しみや愛着を持っているか聞いたところ、「持っている」(33.9%)と「やや持っている」(38.3%)を合わせた『愛着を持っている(計)』(72.2%)は7割以上となっている。一方、「あまり持ってない」(12.2%)と「持ってない」(6.2%)を合わせた『愛着を持っていない(計)』(18.4%)は2割近くとなっている。

過去の調査と比較すると、『愛着を持っている(計)』は令和元年度調査より5.1ポイント増加している。一方、『愛着を持っていない(計)』は令和元年度調査より4.2ポイント減少している。

(図2-1-1)

図2-1-2 ふるさどとしての愛着度（性・年代別）



性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、『愛着を持っている(計)』は男性70歳以上(79.4%)で約8割と高くなっている。一方、『愛着を持っていない(計)』は男性40代(31.8%)で3割以上と高くなっている。(図2-1-2)

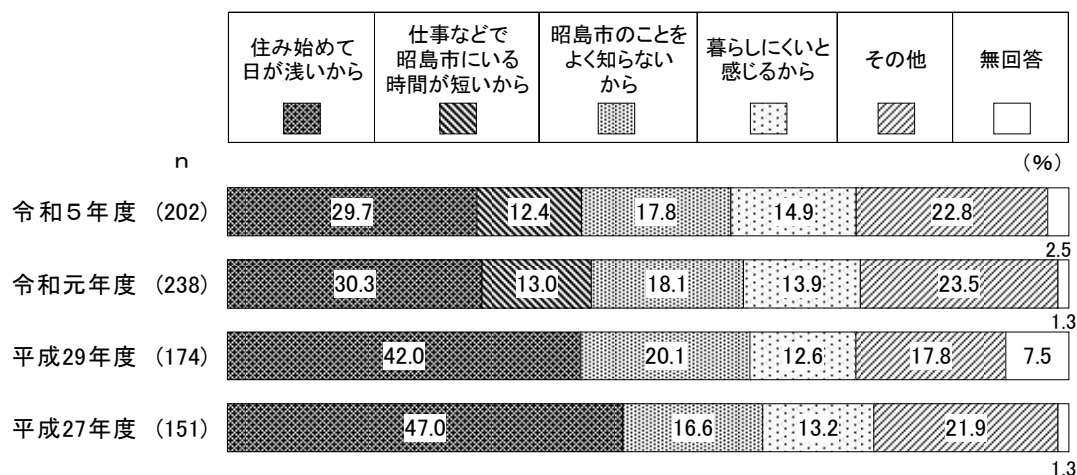
(2) 親しみや愛着を持っていない理由

(Q9で「あまり持っていない」「持っていない」とお答えの方に)

Q10 親しみや愛着を持っていない理由は何ですか。次の中から1つだけ選んでください。

(n=202)

図2-2-1 親しみや愛着を持っていない理由（全体、過年度比較）



※「住み始めて日が浅いから」は、平成29年度調査までは「長く住んでいない、日中は仕事で昭島にいないなど、昭島にいる時間（期間）が短い」となっていた。

※「仕事などで昭島市にいる時間が短いから」は、令和元年度調査から追加された選択肢。

昭島市に親しみや愛着を「持っていない」と回答した人（202人）に、その理由を聞いたところ、「住み始めて日が浅いから」（29.7%）が約3割で最も高く、次いで「昭島市のことをよく知らないから」（17.8%）、「暮らしにくいと感じるから」（14.9%）、「仕事などで昭島市にいる時間が短いから」（12.4%）の順となっている。

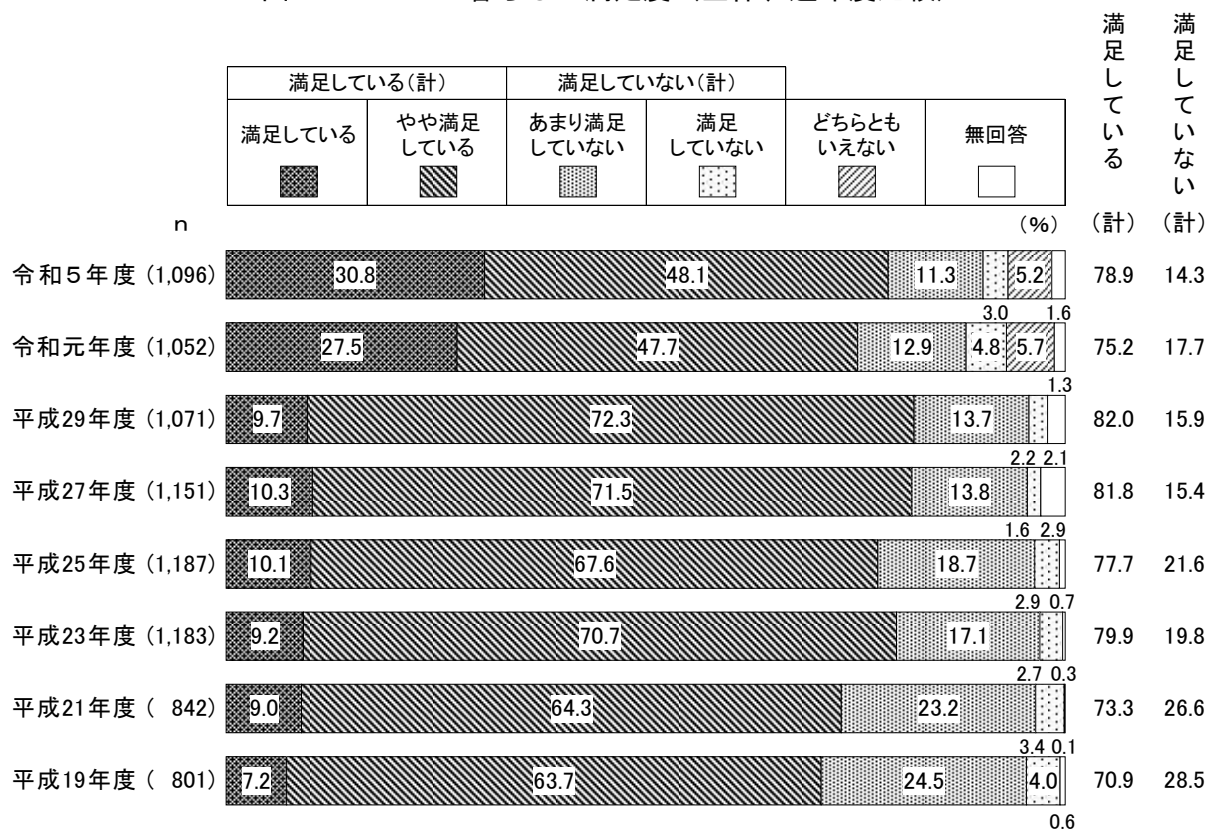
過去の調査と比較すると、令和元年度調査と大きな違いはみられない。（図2-2-1）

(3) 暮らしの満足度

Q11 あなたは、現在の暮らしに満足していますか。次の中から1つだけ選んでください。

(n=1,096)

図2-3-1 暮らしの満足度（全体、過年度比較）



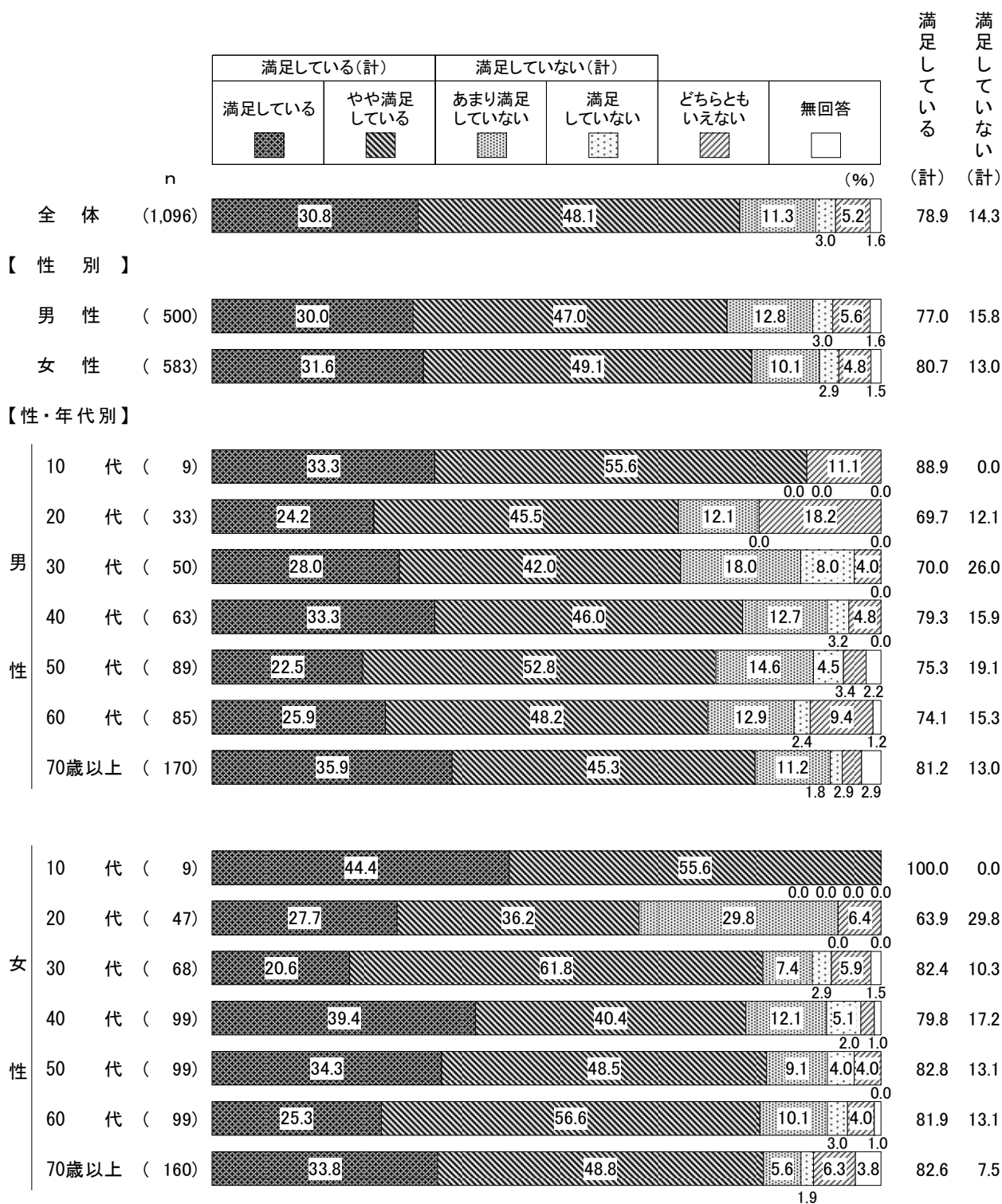
- ※「満足している」は、平成29年度調査までは「非常に満足している」となっていた。
- ※「やや満足している」は、平成29年度調査までは「まあ満足している」となっていた。
- ※「満足していない」は、平成29年度調査までは「全く満足していない」となっていた。
- ※「どちらともいえない」は、令和元年度調査から追加された選択肢。

現在の暮らしに満足しているか聞いたところ、「満足している」(30.8%)と「やや満足している」(48.1%)を合わせた『満足している(計)』(78.9%)は8割近くとなっている。一方、「あまり満足していない」(11.3%)と「満足していない」(3.0%)を合わせた『満足していない(計)』(14.3%)は1割半ばとなっている。

過去の調査と比較すると、『満足している(計)』は令和元年度調査より3.7ポイント増加している。一方、『満足していない(計)』は令和元年度調査より3.4ポイント減少している。

(図2-3-1)

図 2-3-2 暮らしの満足度（性・年代別）



性別にみると、『満足している（計）』は女性（80.7%）が男性（77.0%）より3.7ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『満足している（計）』は女性30代（82.4%）、女性50代（82.8%）、女性60代（81.9%）、女性70歳以上（82.6%）、男性70歳以上（81.2%）で8割以上と高くなっている。一方、『満足していない（計）』は女性20代（29.8%）で約3割と高くなっている。

（図 2-3-2）

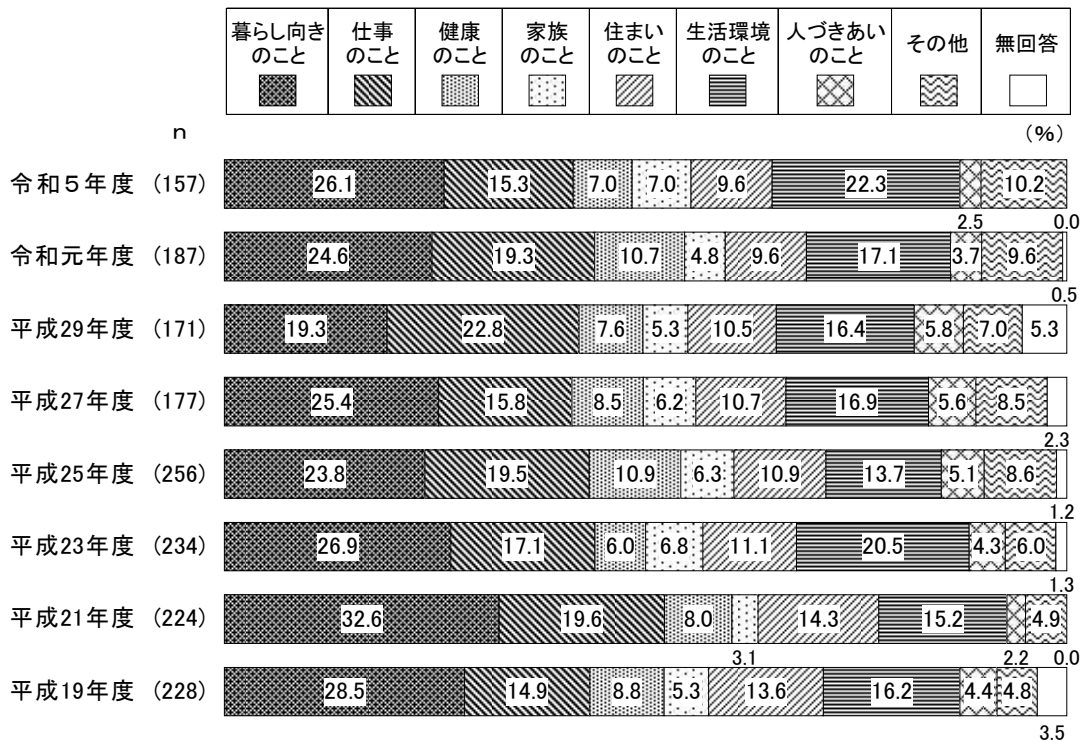
(4) 満足していない理由

(Q11で「あまり満足していない」「満足していない」とお答えの方に)

Q12 満足していないのはどのような理由からですか。次の中から1つだけ選んでください。

(n=157)

図2-4-1 満足していない理由（全体、過年度比較）



現在の暮らしに「満足していない」と回答した人（157人）に、その理由を聞いたところ、「暮らし向きのこと」（26.1%）が3割近くで最も高く、次いで「生活環境のこと」（22.3%）、「仕事のこと」（15.3%）、「住まいのこと」（9.6%）の順となっている。

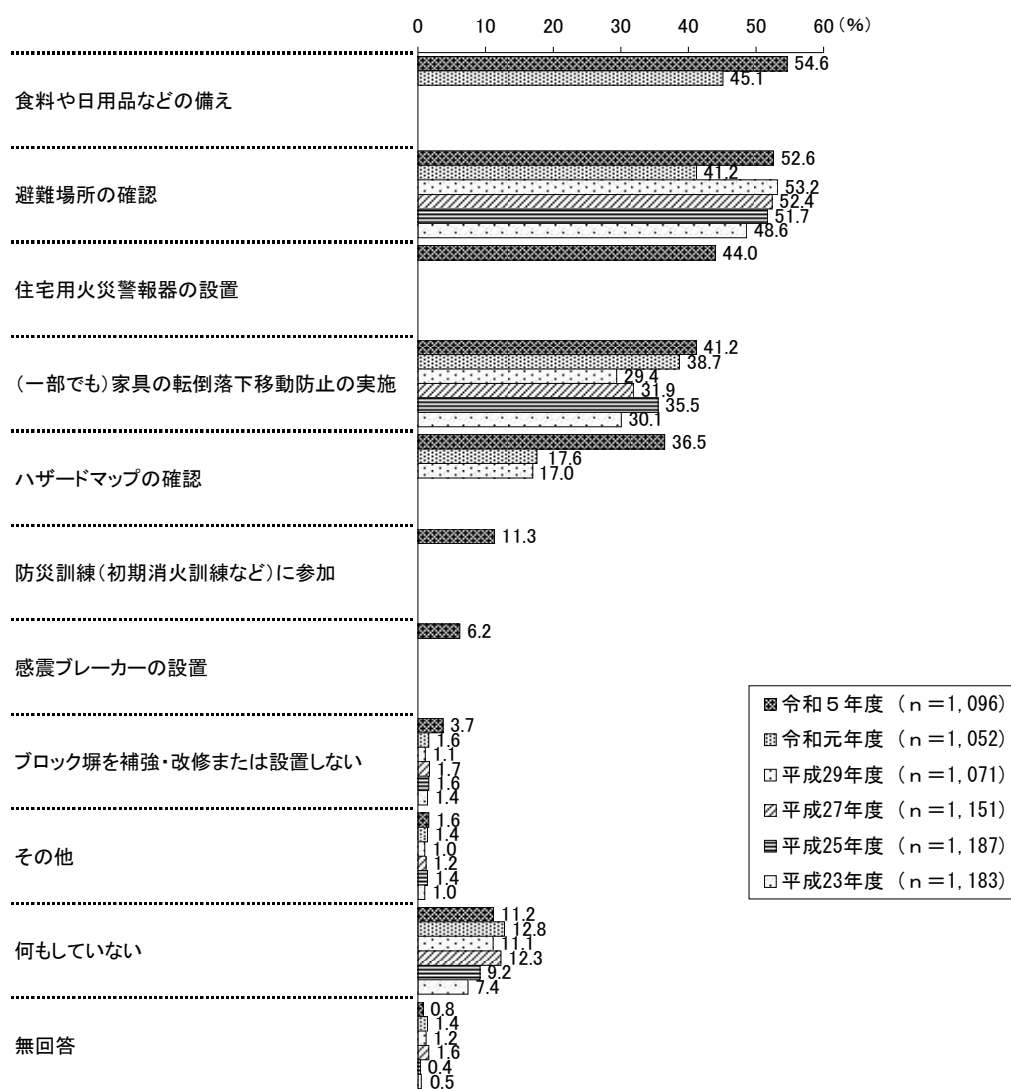
過去の調査と比較すると、「生活環境のこと」は令和元年度調査より5.2ポイント増加している。一方、「仕事のこと」は令和元年度調査より4.0ポイント、「健康のこと」は令和元年度調査より3.7ポイント、それぞれ減少している。（図2-4-1）

3 災害対策

(1) 災害に対する対策

Q13 あなたが、地震など災害に対して日頃から対策を講じていることは何ですか。次の中からあてはまるものをいくつでも選んでください。(n=1,096)

図3-1-1 災害に対する対策（全体、過年度比較）



※「食料や日用品などの備え」は、令和元年度調査から追加された選択肢で、令和元年度調査では「備蓄品（食料や飲料水など）を備えている」となっていた。

※「避難場所の確認」は、令和元年度調査では「避難場所を確認している」、平成29年度調査までは「避難場所を知っている」となっていた。

※「住宅用火災警報器の設置」、「防災訓練（初期消火訓練など）に参加」、「感震ブレーカーの設置」は、令和5年度調査から追加された選択肢。

※「(一部でも)家具の転倒落下移動防止の実施」は、令和元年度調査までは「家具の転倒防止」となっていた。

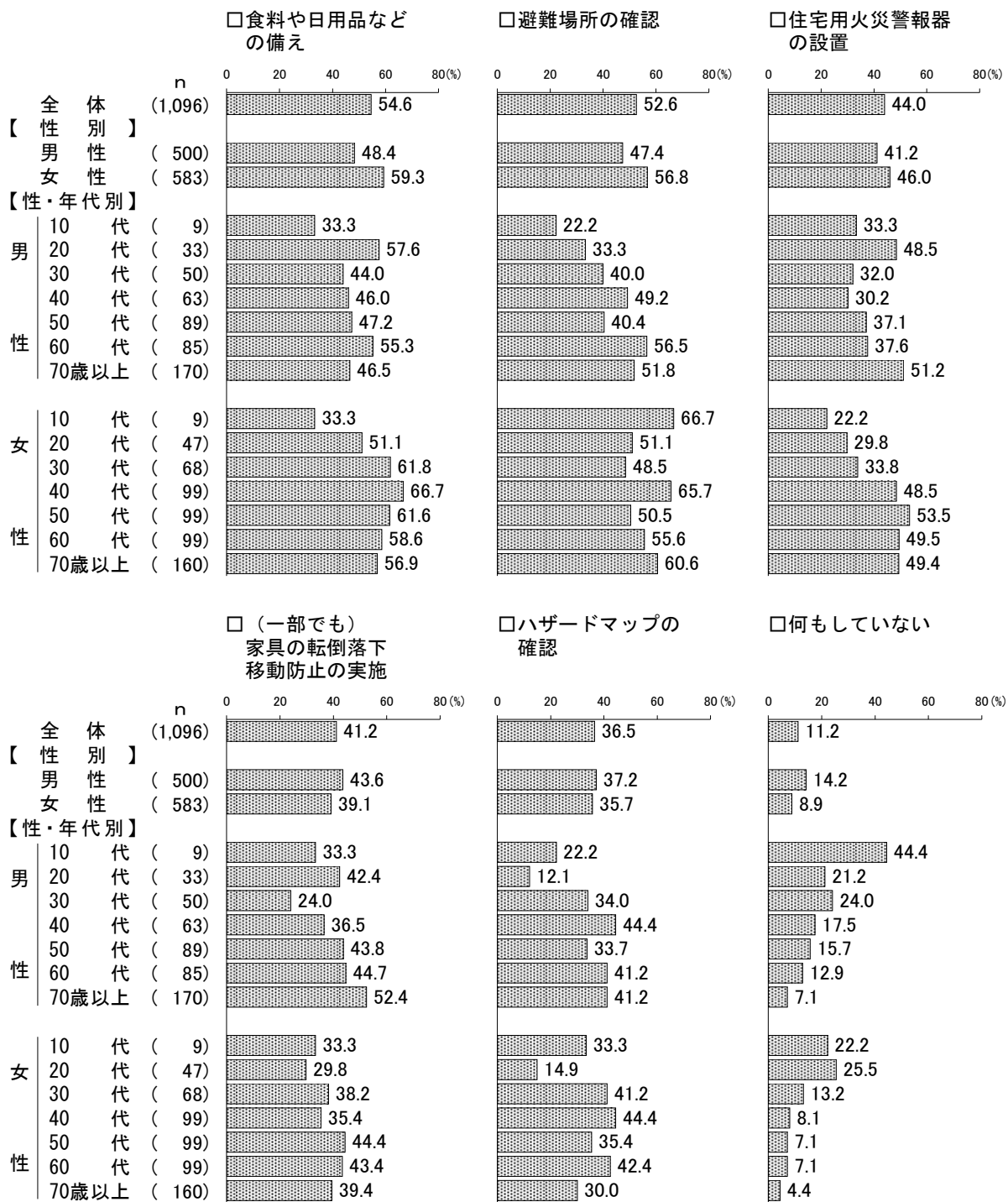
※「ハザードマップの確認」は、平成29年度調査から追加された選択肢。

※「ブロック塀を補強・改修または設置しない」は、令和元年度調査までは「ブロック塀の補強や改修」としていた。

災害に対して日頃から対策を講じていることを聞いたところ、「食料や日用品などの備え」(54.6%)が5割半ばで最も高く、次いで「避難場所の確認」(52.6%)、「住宅用火災警報器の設置」(44.0%)、「(一部でも)家具の転倒落下移動防止の実施」(41.2%)の順となっている。

過去の調査との比較は、選択肢が大幅に異なるため、参考に図示する。(図3-1-1)

図3-1-2 災害に対する対策（性・年代別）－上位5項目＋「何もしていない」

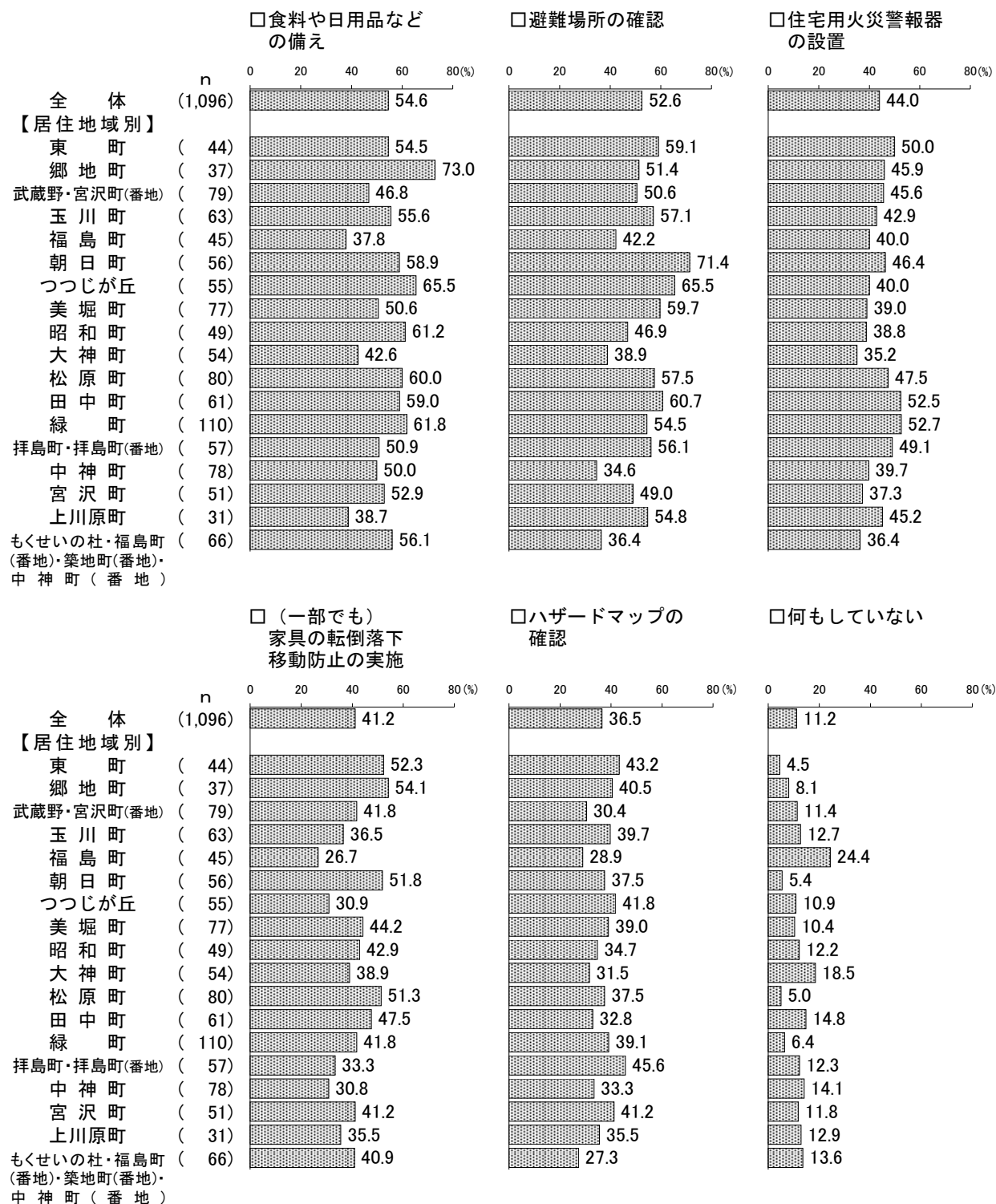


性別にみると、「食料や日用品などの備え」は女性（59.3%）が男性（48.4%）より10.9ポイント、「避難場所の確認」は女性（56.8%）が男性（47.4%）より9.4ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「何もしていない」は男性（14.2%）が女性（8.9%）より5.3ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「食料や日用品などの備え」は女性40代（66.7%）で7割近くと高くなっている。「避難場所の確認」は女性40代（65.7%）で6割半ばと高くなっている。「住宅用火災警報器の設置」は女性50代（53.5%）と男性70歳以上（51.2%）で5割以上と高くなっている。

(図3-1-2)

図3-1-3 災害に対する対策（居住地域別）－上位5項目＋「何もしていない」

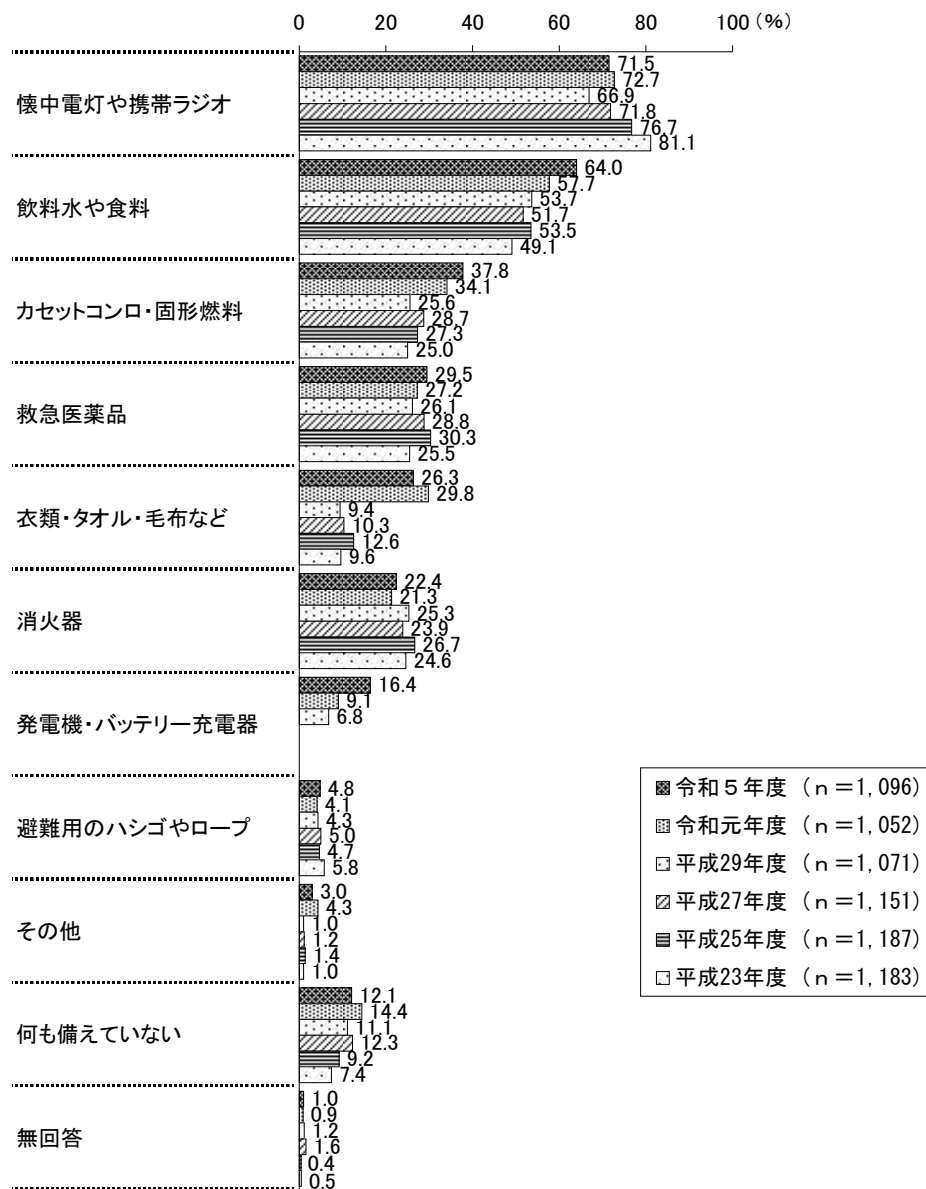


居住地域別にみると、「食料や日用品などの備え」は郷地町（73.0%）で7割以上と高くなっている。「避難場所の確認」は朝日町（71.4%）で7割以上と高くなっている。「(一部でも)家具の転倒落下移動防止の実施」は郷地町（54.1%）で5割半ばと高くなっている。（図3-1-3）

(2) 災害に対する備え

Q14 あなたが、地震など災害に対して日頃から備えているものは何ですか。次の中からあてはまるものをいくつでも選んでください。
(n=1,096)

図3-2-1 災害に対する備え（全体、過年度比較）



※「衣類・タオル・毛布など」は、平成29年度調査までは「衣類」となっていた。

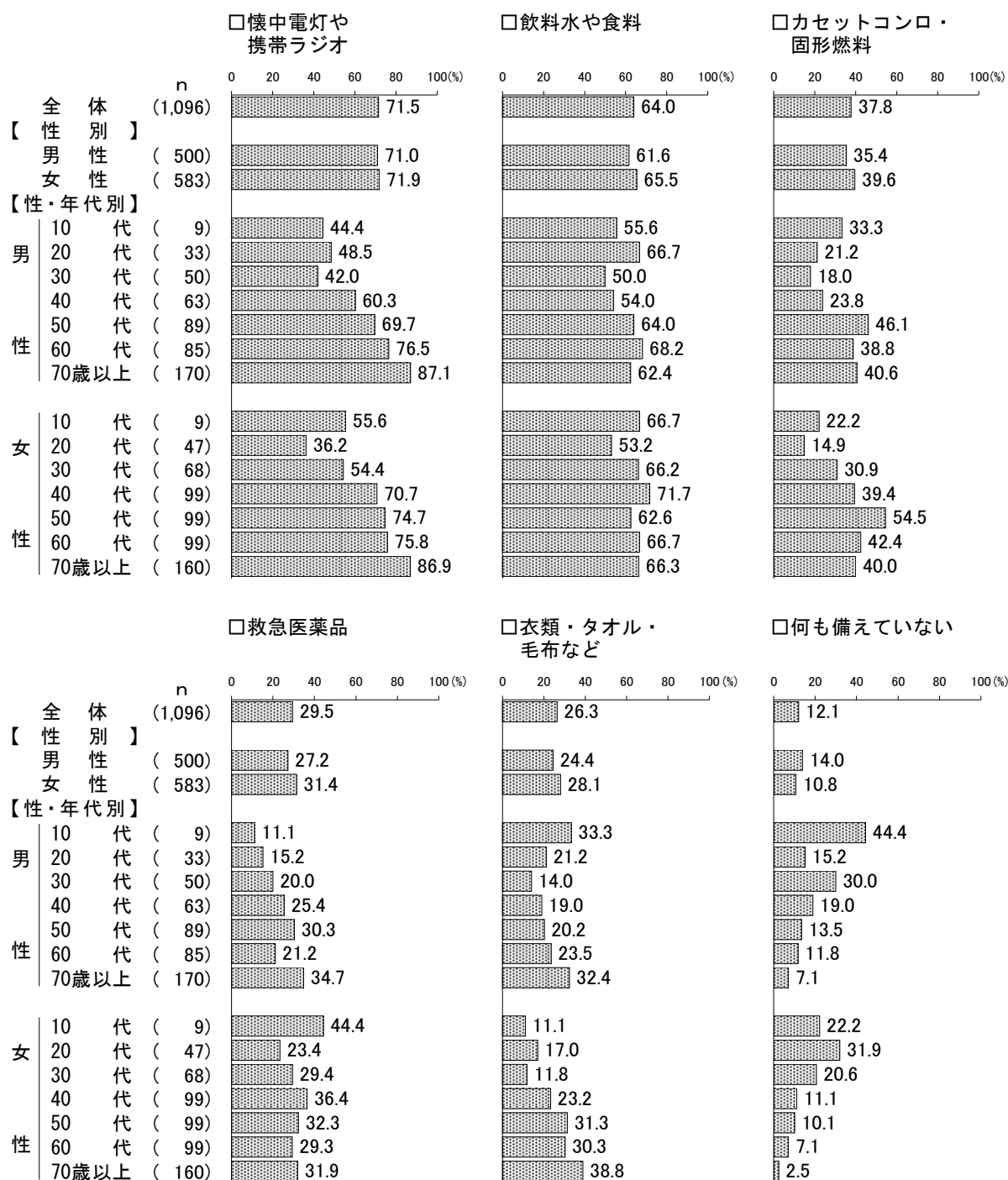
※「発電機・バッテリー充電器」は、平成29年度調査から追加された選択肢。

※「何も備えていない」は、平成29年度調査までは「何もしていない」となっていた。

災害に対して日頃から備えているものを聞いたところ、「懐中電灯や携帯ラジオ」(71.5%)が7割以上で最も高く、次いで「飲料水や食料」(64.0%)、「カセットコンロ・固形燃料」(37.8%)、「救急医薬品」(29.5%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「発電機・バッテリー充電器」は令和元年度調査より7.3ポイント、「飲料水や食料」は令和元年度調査より6.3ポイント、それぞれ増加している。一方、「衣類・タオル・毛布など」は令和元年度調査より3.5ポイント減少している。(図3-2-1)

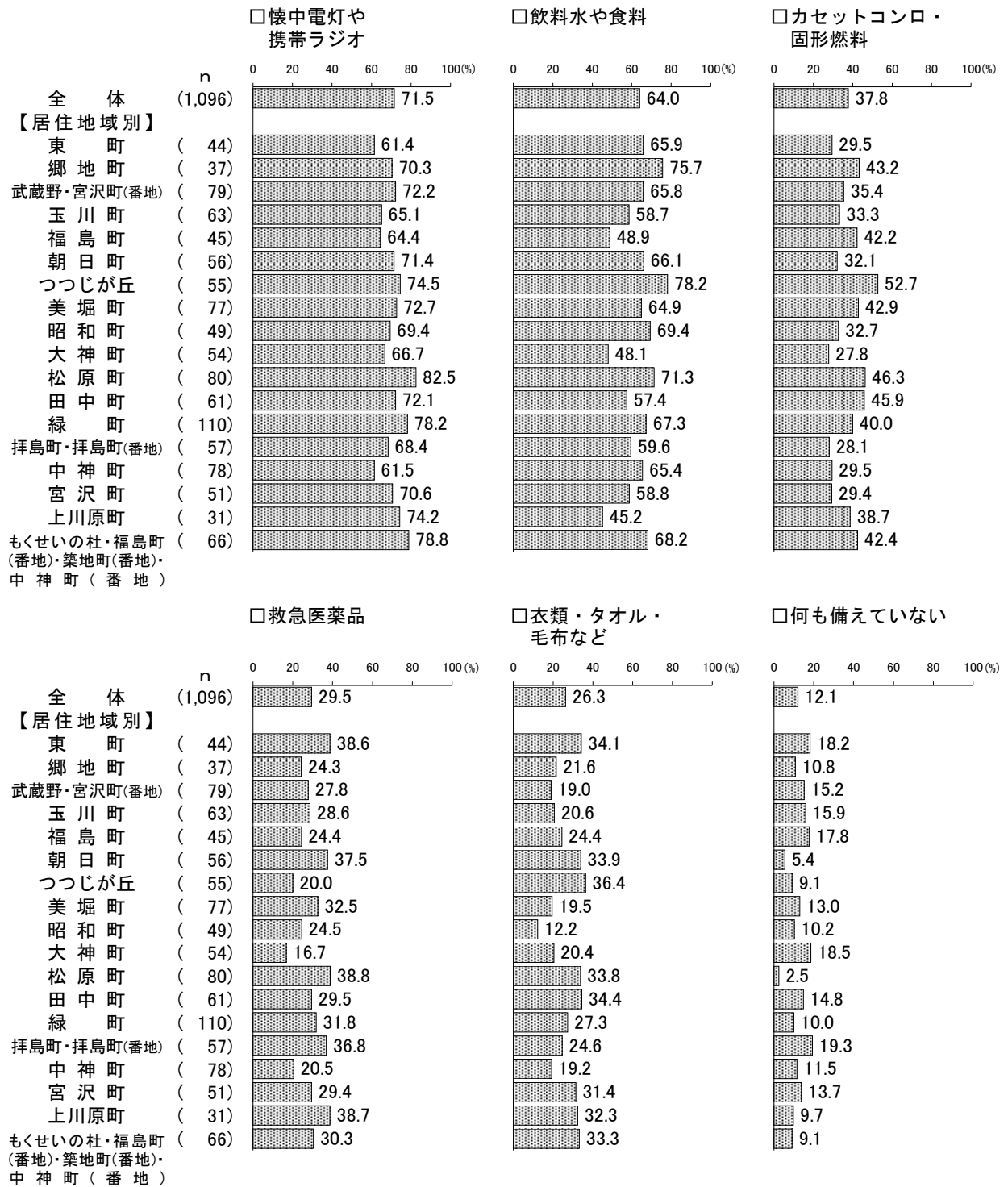
図3-2-2 災害に対する備え（性・年代別）－上位5項目＋「何も備えていない」



性別にみると、「カセットコンロ・固形燃料」は女性（39.6%）が男性（35.4%）より4.2ポイント、「救急医薬品」は女性（31.4%）が男性（27.2%）より4.2ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「何も備えていない」は男性（14.0%）が女性（10.8%）より3.2ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「懐中電灯や携帯ラジオ」は男女ともにおおむね年代が高くなるほど割合が高く、男性70歳以上（87.1%）と女性70歳以上（86.9%）で9割近くとなっている。「飲料水や食料」は女性40代（71.7%）で7割以上と高くなっている。「カセットコンロ・固形燃料」は女性50代（54.5%）で5割半ばと高くなっている。（図3-2-2）

図3-2-3 災害に対する備え（居住地域別）－上位5項目＋「何も備えていない」



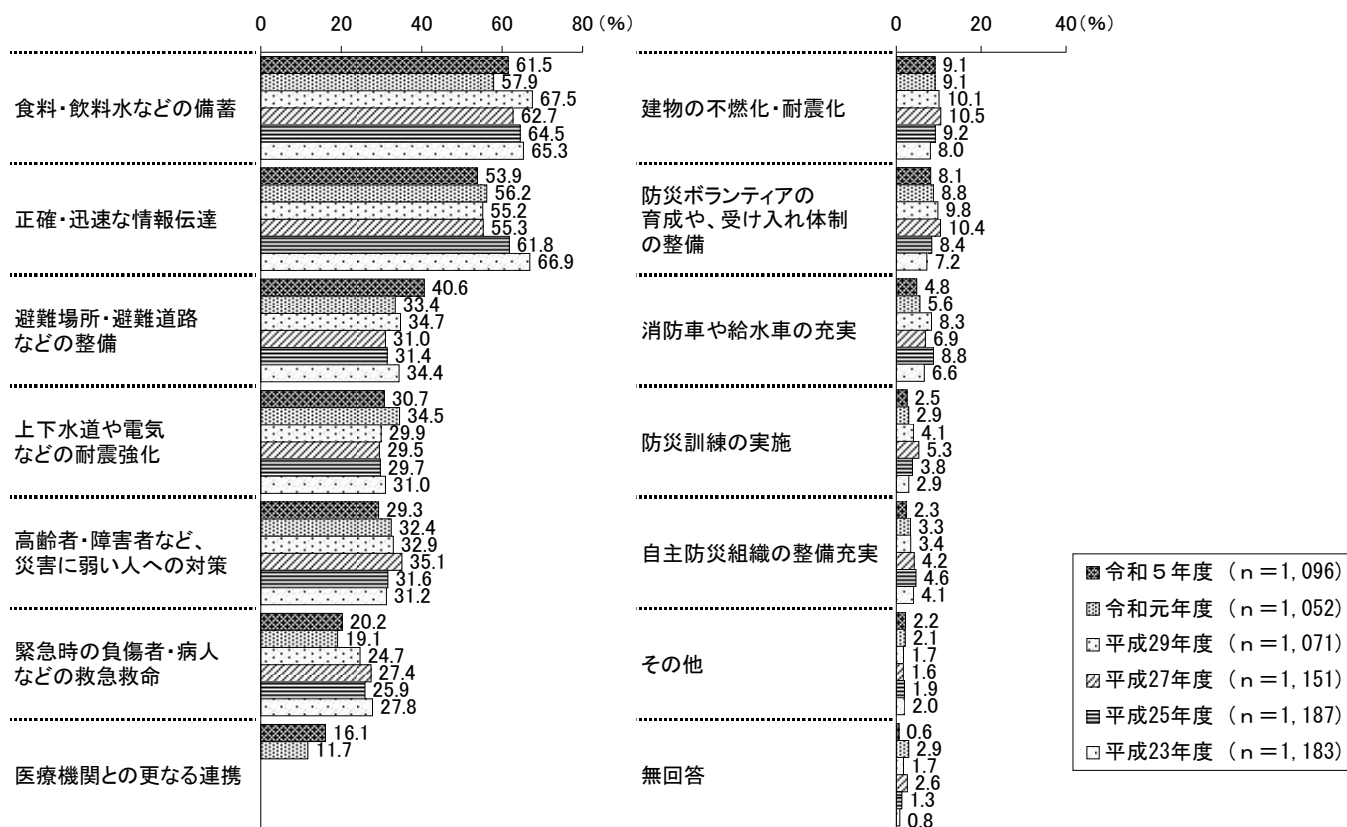
居住地域別にみると、「懐中電灯や携帯ラジオ」は松原町（82.5%）で8割以上と高くなっている。「飲料水や食料」はつつじが丘（78.2%）で8割近くと高くなっている。「カセットコンロ・固形燃料」はつつじが丘（52.7%）で5割以上と高くなっている。（図3-2-3）

(3) 市が災害対策としてすべきこと

Q15 あなたは、大規模地震や集中豪雨などの自然災害に備えるため、昭島市はどのような対策を講じる必要があると思いますか。次の中から3つまで選んでください。

(n=1,096)

図3-3-1 市が災害対策としてすべきこと（全体、過年度比較）



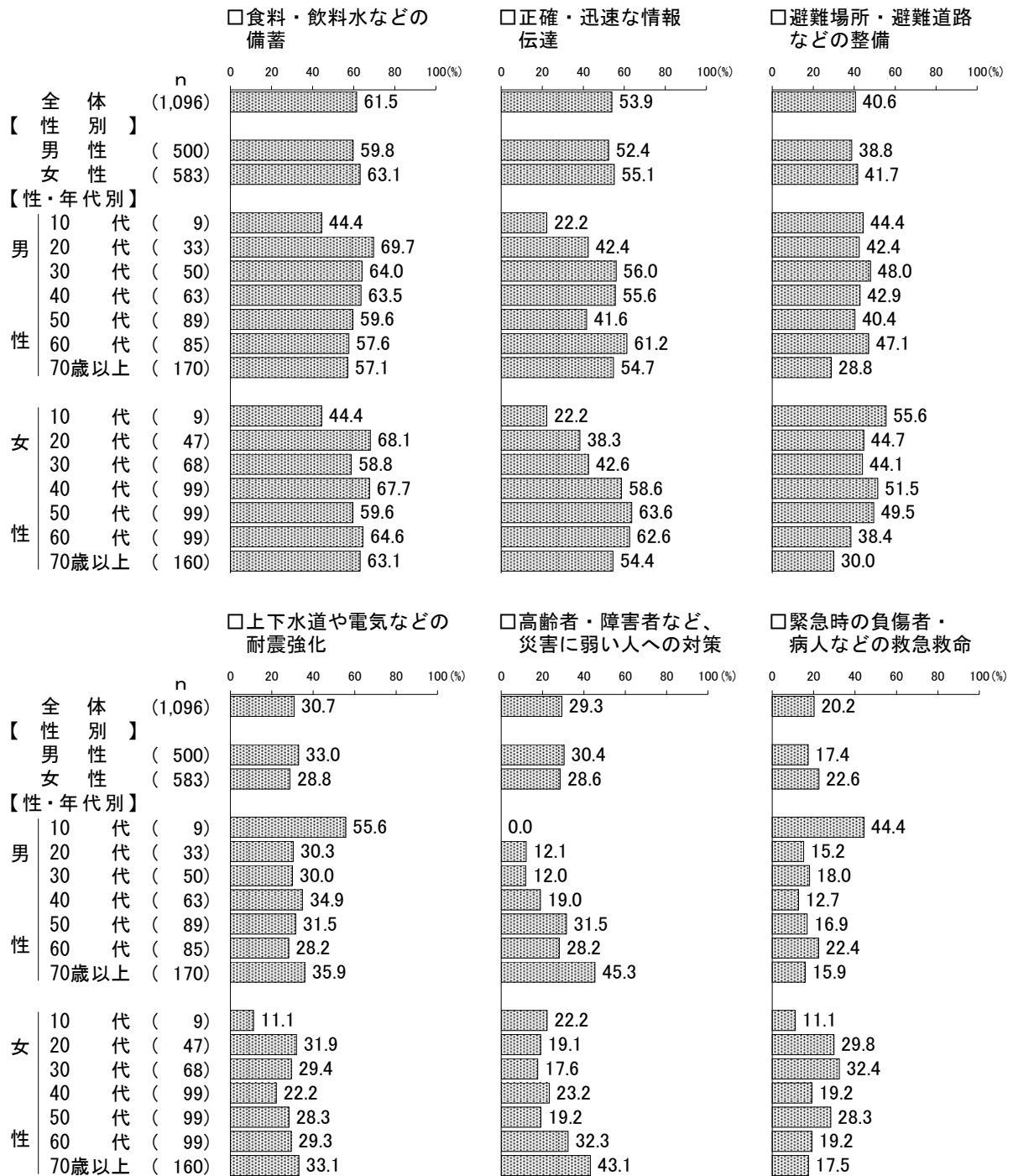
※「上下水道や電気などの耐震強化」は、平成29年度調査までは「水道や電気などの耐震強化」となっていた。
 ※「医療機関との更なる連携」は、令和元年度調査から追加された選択肢。

自然災害に備えるため、昭島市はどのような対策を講じる必要があるか聞いたところ、「食料・飲料水などの備蓄」(61.5%)が6割以上で最も高く、次いで「正確・迅速な情報伝達」(53.9%)、「避難場所・避難道路などの整備」(40.6%)、「上下水道や電気などの耐震強化」(30.7%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「避難場所・避難道路などの整備」は令和元年度調査より7.2ポイント、「医療機関との更なる連携」は令和元年度調査より4.4ポイント、それぞれ増加している。一方、「上下水道や電気などの耐震強化」は令和元年度調査より3.8ポイント減少している。

(図3-3-1)

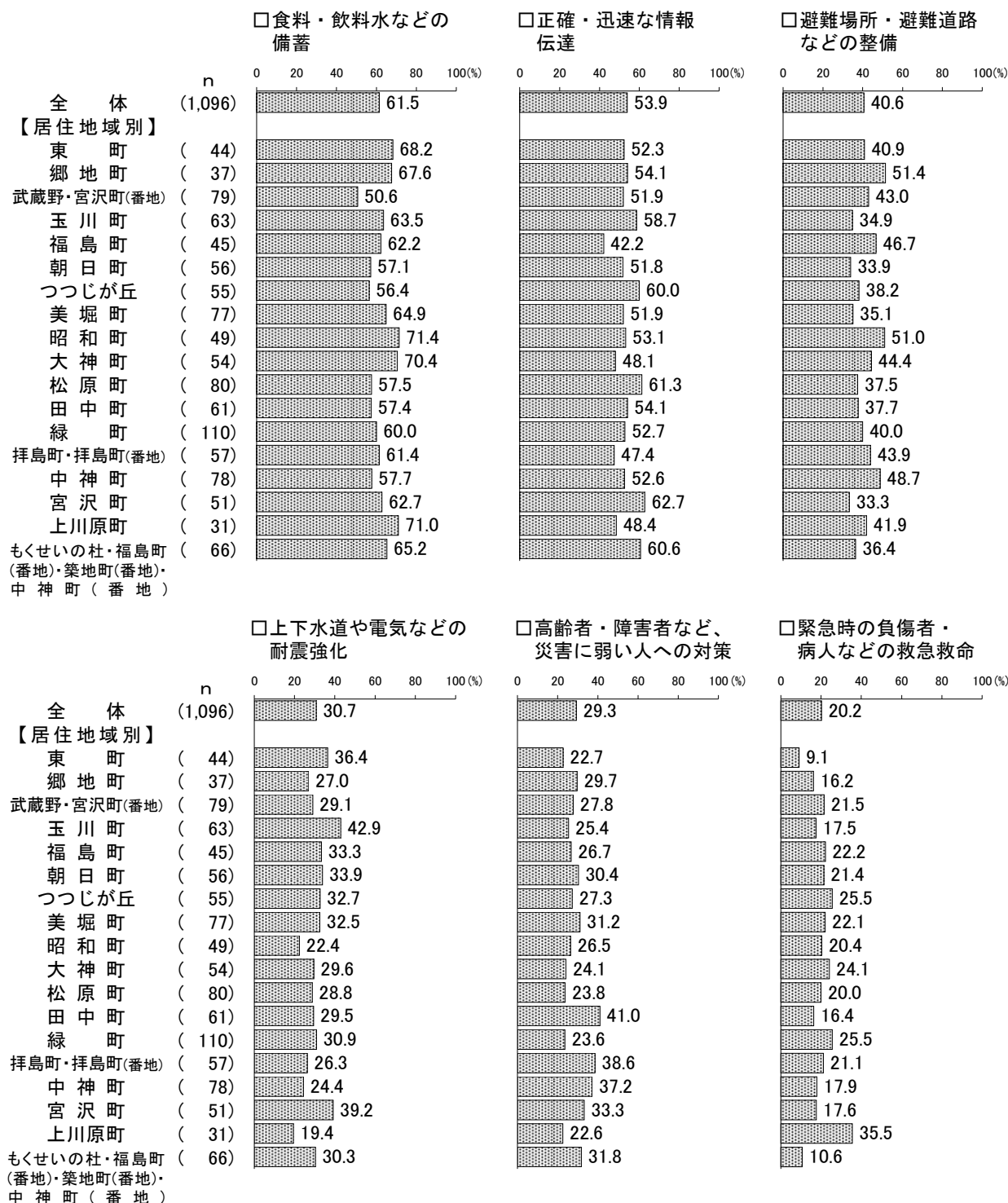
図3-3-2 市が災害対策としてすべきこと（性・年代別）－上位6項目



性別にみると、「緊急時の負傷者・病人などの救急救命」は女性（22.6%）が男性（17.4%）より5.2ポイント高くなっている。一方、「上下水道や電気などの耐震強化」は男性（33.0%）が女性（28.8%）より4.2ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「食料・飲料水などの備蓄」は男性20代（69.7%）で約7割と高くなっている。「正確・迅速な情報伝達」は女性50代（63.6%）、女性60代（62.6%）、男性60代（61.2%）で6割以上と高くなっている。「避難場所・避難道路などの整備」は女性40代（51.5%）で5割以上と高くなっている。（図3-3-2）

図3-3-3 市が災害対策としてすべきこと（居住地域別）－上位6項目



居住地域別にみると、「食料・飲料水などの備蓄」は昭和町（71.4%）で7割以上と高くなっている。「正確・迅速な情報伝達」は宮沢町（62.7%）、松原町（61.3%）で6割以上と高くなっている。「避難場所・避難道路などの整備」は郷地町（51.4%）で5割以上と高くなっている。

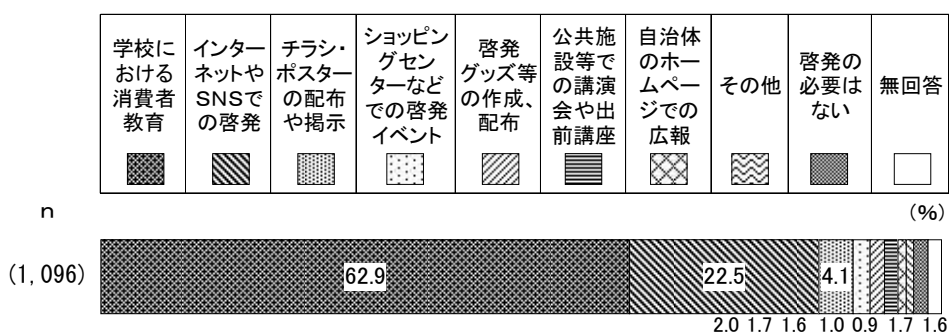
(図3-3-3)

4 日常生活

(1) 効果的だと思う若者の消費者トラブルの啓発活動

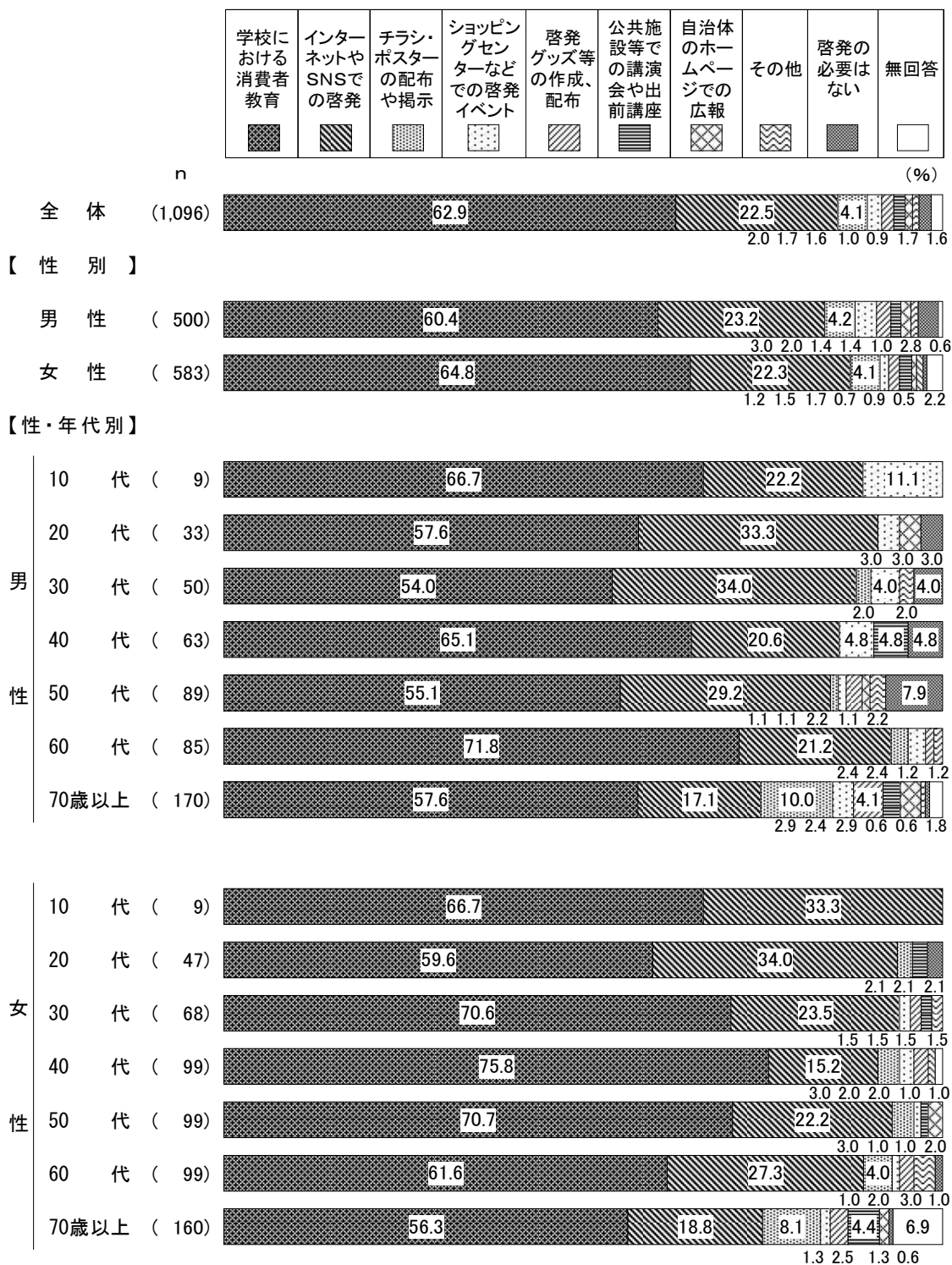
Q16 あなたは、成年年齢引下げにより、消費者トラブルに巻き込まれることが懸念される若者に対する普及、啓発活動としてどのようなものが効果的だと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。 (n=1,096)

図4-1-1 効果的だと思う若者の消費者トラブルの啓発活動（全体）



効果的だと思う若者の消費者トラブルの啓発活動を聞いたところ、「学校における消費者教育」(62.9%)が6割以上で最も高く、次いで「インターネットやSNSでの啓発」(22.5%)、「チラシ・ポスターの配布や掲示」(4.1%)の順となっている。(図4-1-1)

図4-1-2 効果的だと思う若者の消費者トラブルの啓発活動（性・年代別）



※0.0%の項目については記載を省略

性別にみると、「学校における消費者教育」は女性（64.8%）が男性（60.4%）より4.4ポイント高くなっている。

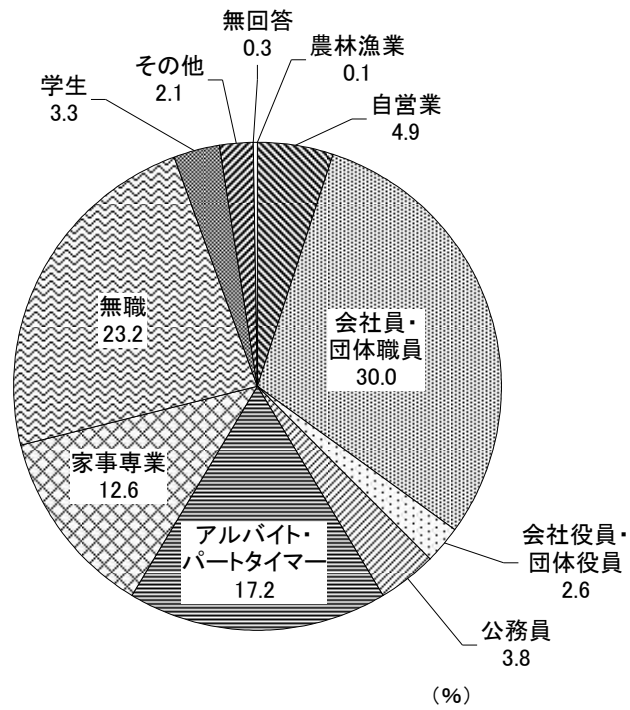
性・年代別にみると、「学校における消費者教育」は女性40代（75.8%）で7割半ばと高くなっている。「インターネットやSNSでの啓発」は男性30代と女性20代（ともに34.0%）で3割半ばと高くなっている。（図4-1-2）

(2) 職業

Q17 あなたのご職業は何ですか。次の中から主なものを1つだけ選んでください。

(n=1,096)

図4-2-1 職業

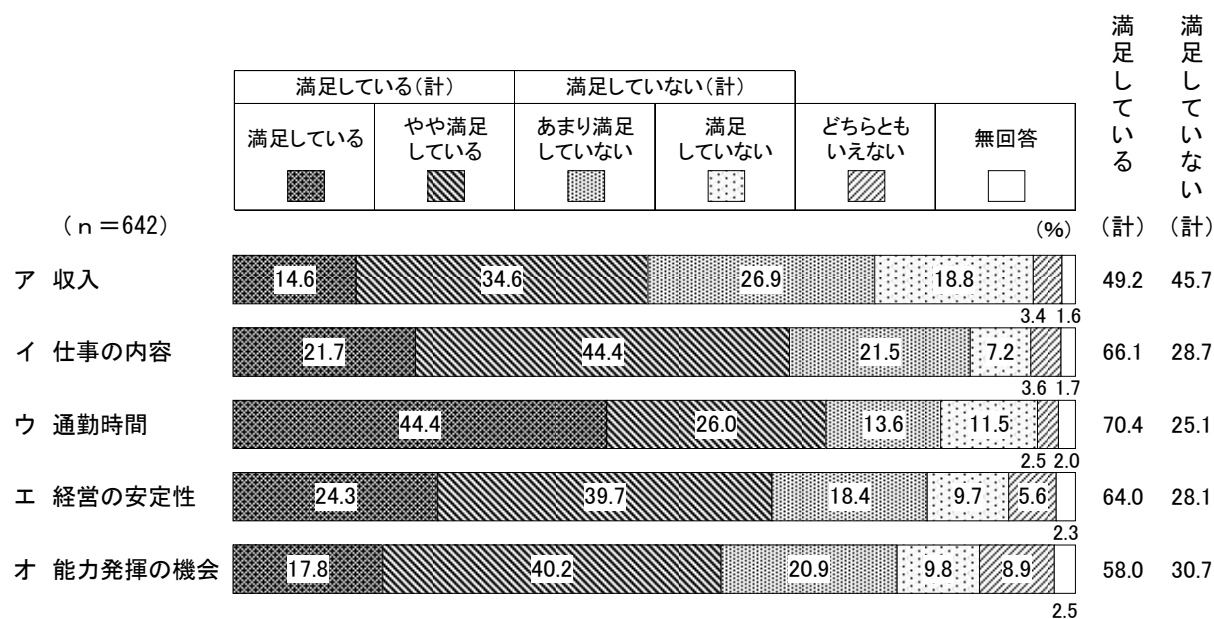


(3) 仕事の満足度

(Q17で「農林漁業」「自営業」「会社員・団体職員」「会社役員・団体役員」「公務員」「アルバイト・パートタイマー」とお答えの方に)

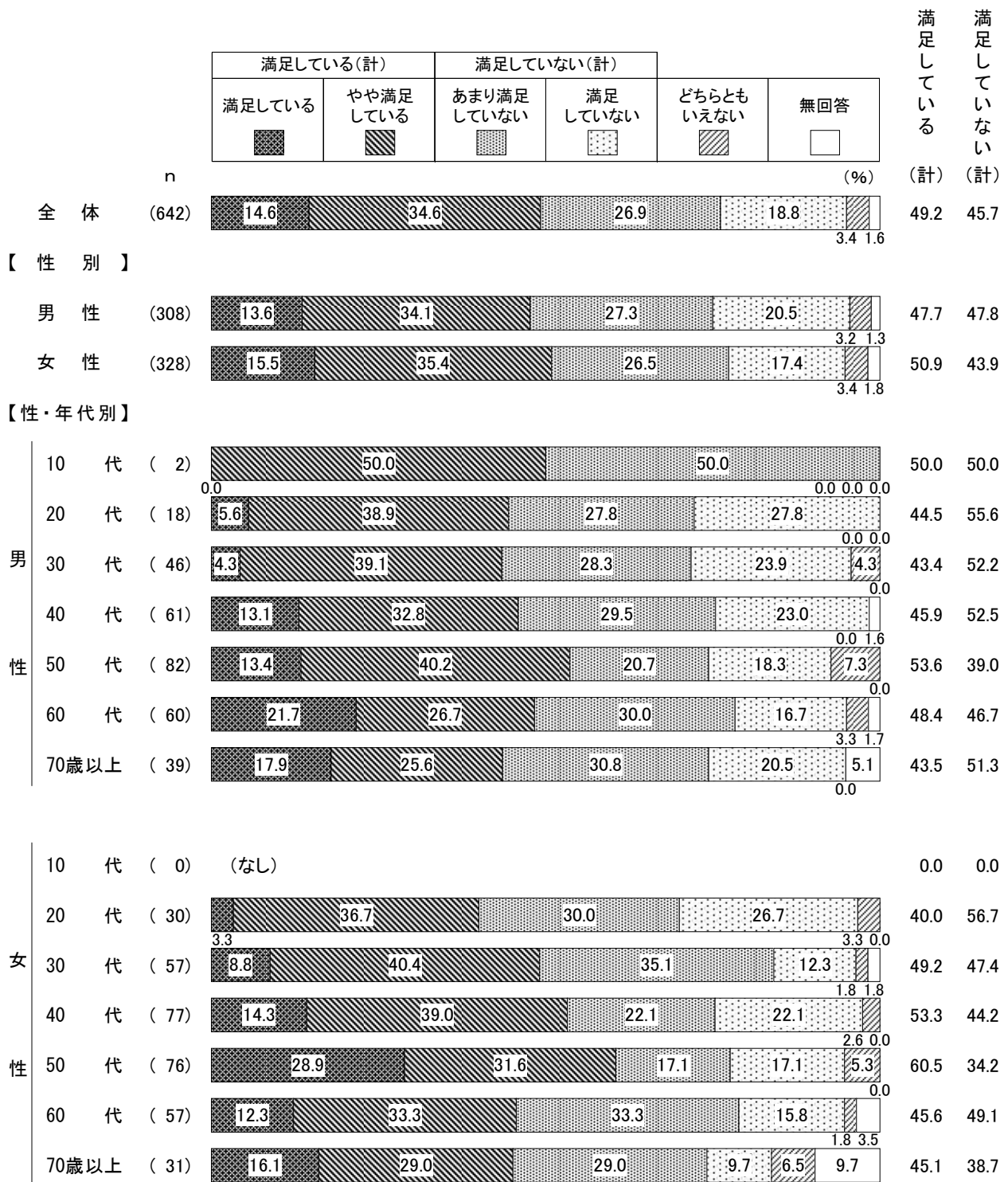
Q18 あなたは、次の項目について、満足していますか。ア～オのそれぞれの項目ごとに1つずつ選んでください。(n=642)

図4-3-1 仕事の満足度(全体)



「仕事をしている」と回答した人(642人)に、仕事の満足度を聞いたところ、「満足している」と「やや満足している」を合わせた『満足している(計)』は、【通勤時間】(70.4%)で約7割と最も高く、次いで【仕事の内容】(66.1%)、【経営の安定性】(64.0%)の順となっている。一方、「あまり満足していない」と「満足していない」を合わせた『満足していない(計)』は、【収入】(45.7%)で4割半ばと最も高く、次いで【能力発揮の機会】(30.7%)、【仕事の内容】(28.7%)の順となっている。(図4-3-1)

図4-3-2 仕事の満足度（性・年代別） 【ア 収入】

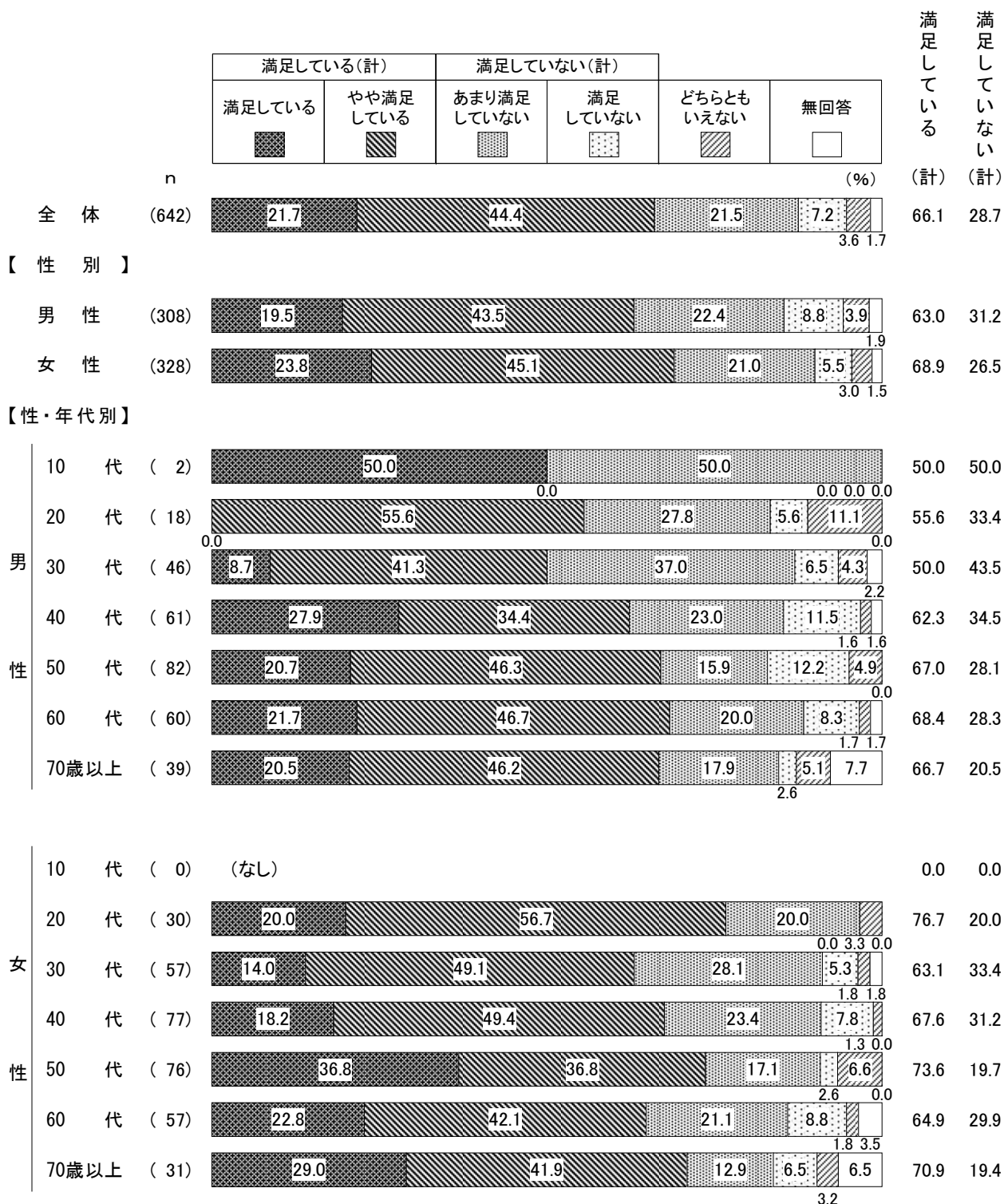


仕事の満足度【収入】を性別にみると、『満足している(計)』は女性(50.9%)が男性(47.7%)より3.2ポイント高くなっている。一方、『満足していない(計)』は男性(47.8%)が女性(43.9%)より3.9ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『満足している(計)』は女性50代(60.5%)で約6割と高くなっている。一方、『満足していない(計)』は女性20代(56.7%)で6割近くと高くなっている。

(図4-3-2)

図4-3-3 仕事の満足度（性・年代別） 【イ 仕事の内容】

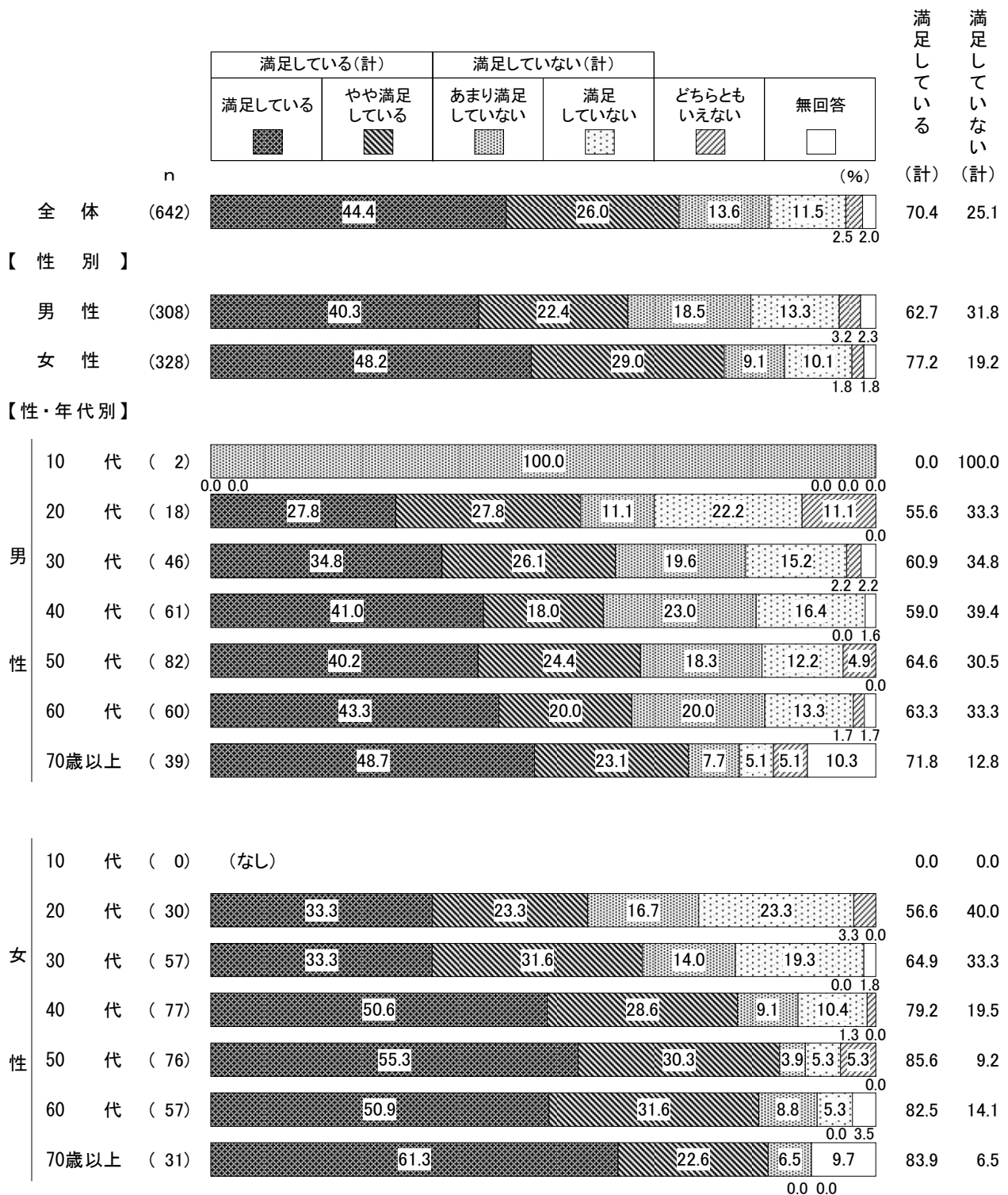


仕事の満足度【仕事の内容】を性別にみると、『満足している(計)』は女性(68.9%)が男性(63.0%)より5.9ポイント高くなっている。一方、『満足していない(計)』は男性(31.2%)が女性(26.5%)より4.7ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『満足している(計)』は女性20代(76.7%)で8割近くと高くなっている。一方、『満足していない(計)』は男性30代(43.5%)で4割以上と高くなっている。

(図4-3-3)

図4-3-4 仕事の満足度（性・年代別） 【ウ 通勤時間】

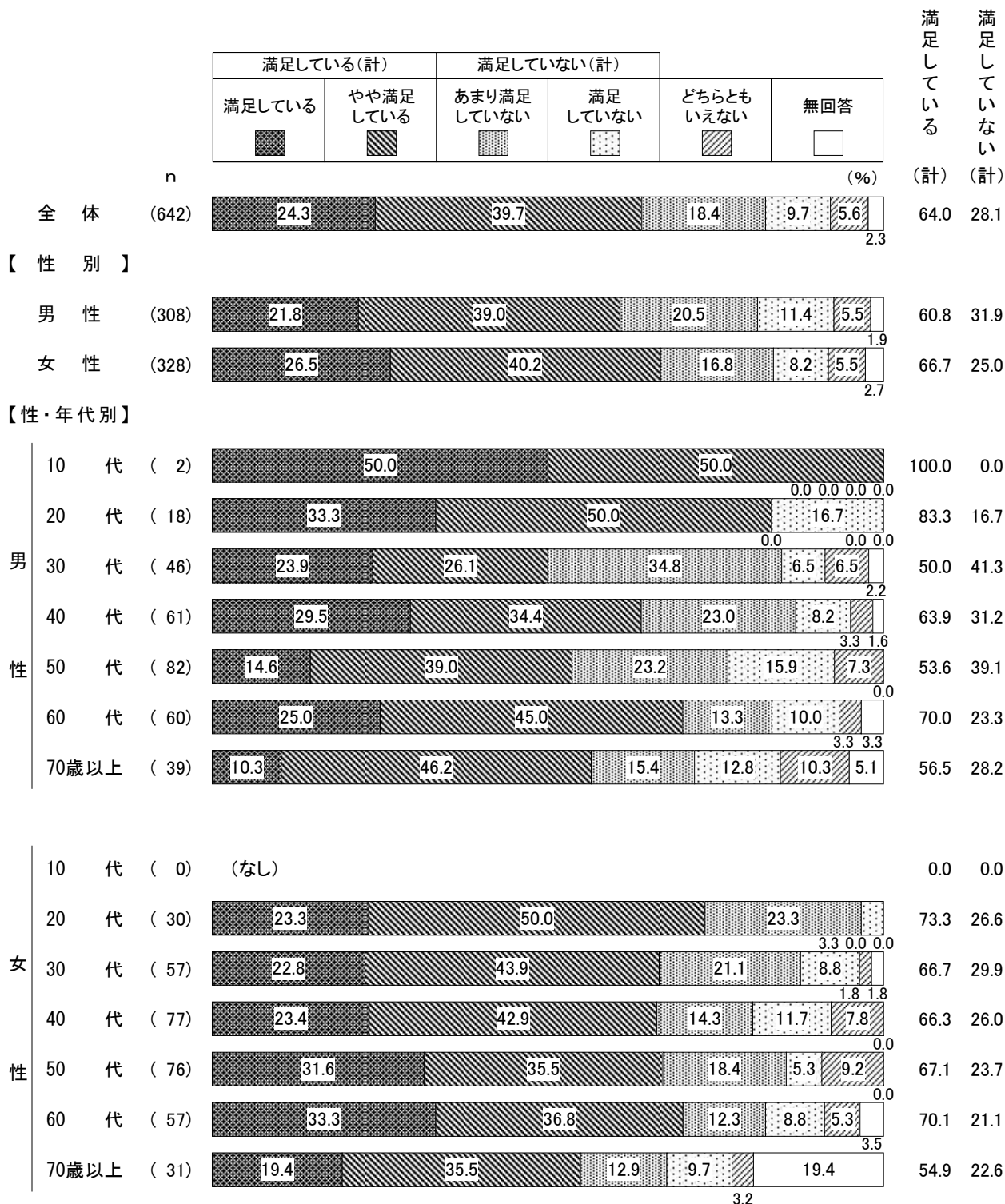


仕事の満足度【通勤時間】を性別にみると、『満足している(計)』は女性(77.2%)が男性(62.7%)より14.5ポイント高くなっている。一方、『満足していない(計)』は男性(31.8%)が女性(19.2%)より12.6ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『満足している(計)』は女性50代(85.6%)で8割半ばと高くなっている。一方、『満足していない(計)』は女性20代(40.0%)で4割と高くなっている。

(図4-3-4)

図4-3-5 仕事の満足度（性・年代別） 【エ 経営の安定性】

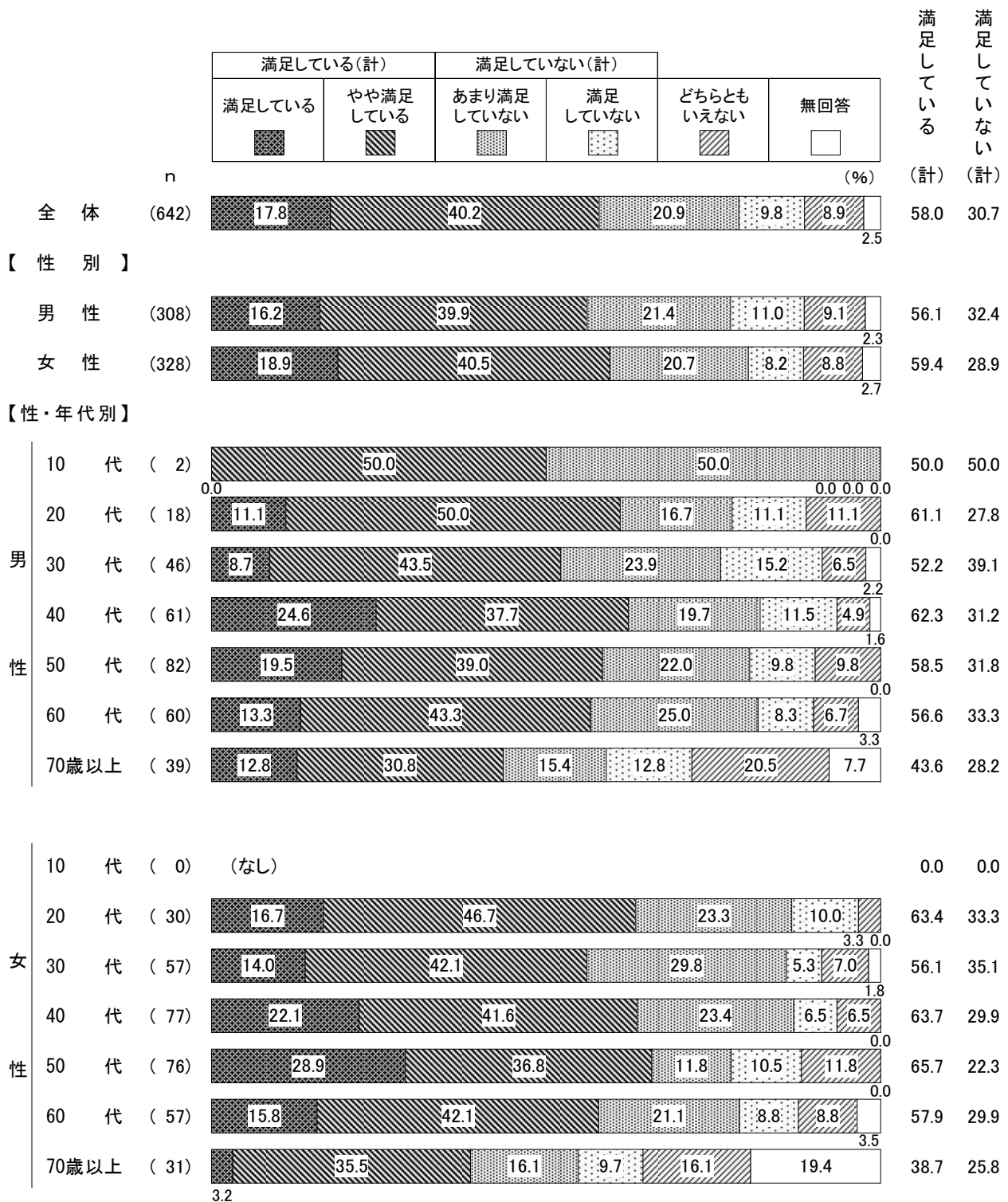


仕事の満足度【経営の安定性】を性別にみると、『満足している(計)』は女性(66.7%)が男性(60.8%)より5.9ポイント高くなっている。一方、『満足していない(計)』は男性(31.9%)が女性(25.0%)より6.9ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『満足している(計)』は女性20代(73.3%)で7割以上と高くなっている。一方、『満足していない(計)』は男性30代(41.3%)で4割以上と高くなっている。

(図4-3-5)

図4-3-6 仕事の満足度（性・年代別） 【才 能力発揮の機会】



仕事の満足度【能力発揮の機会】を性別にみると、『満足している（計）』は女性（59.4%）が男性（56.1%）より3.3ポイント高くなっている。一方、『満足していない（計）』は男性（32.4%）が女性（28.9%）より3.5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『満足している（計）』は女性50代（65.7%）で6割半ばと高くなっている。一方、『満足していない（計）』は男性30代（39.1%）で約4割と高くなっている。

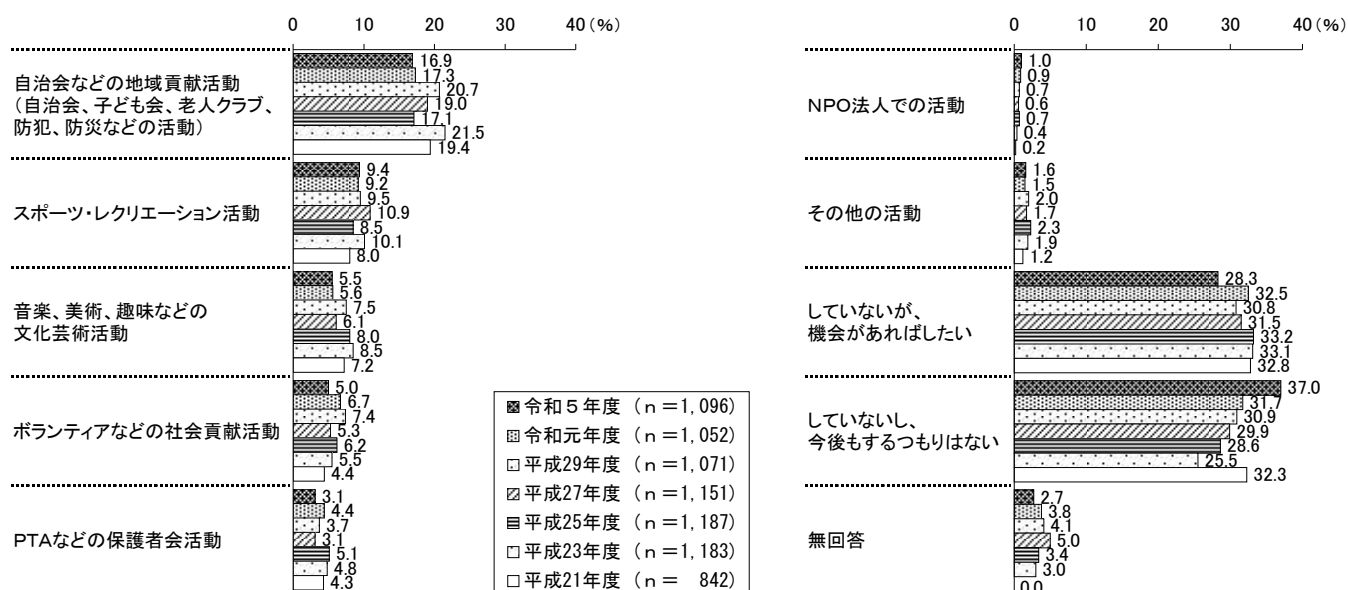
(図4-3-6)

5 地域活動・自治会

(1) 行っている地域活動

Q19 あなたは、現在、地域でどのような活動をしていますか。次の中からあてはまるものをいくつか選んでください。(n=1,096)

図5-1-1 行っている地域活動（全体、過年度比較）

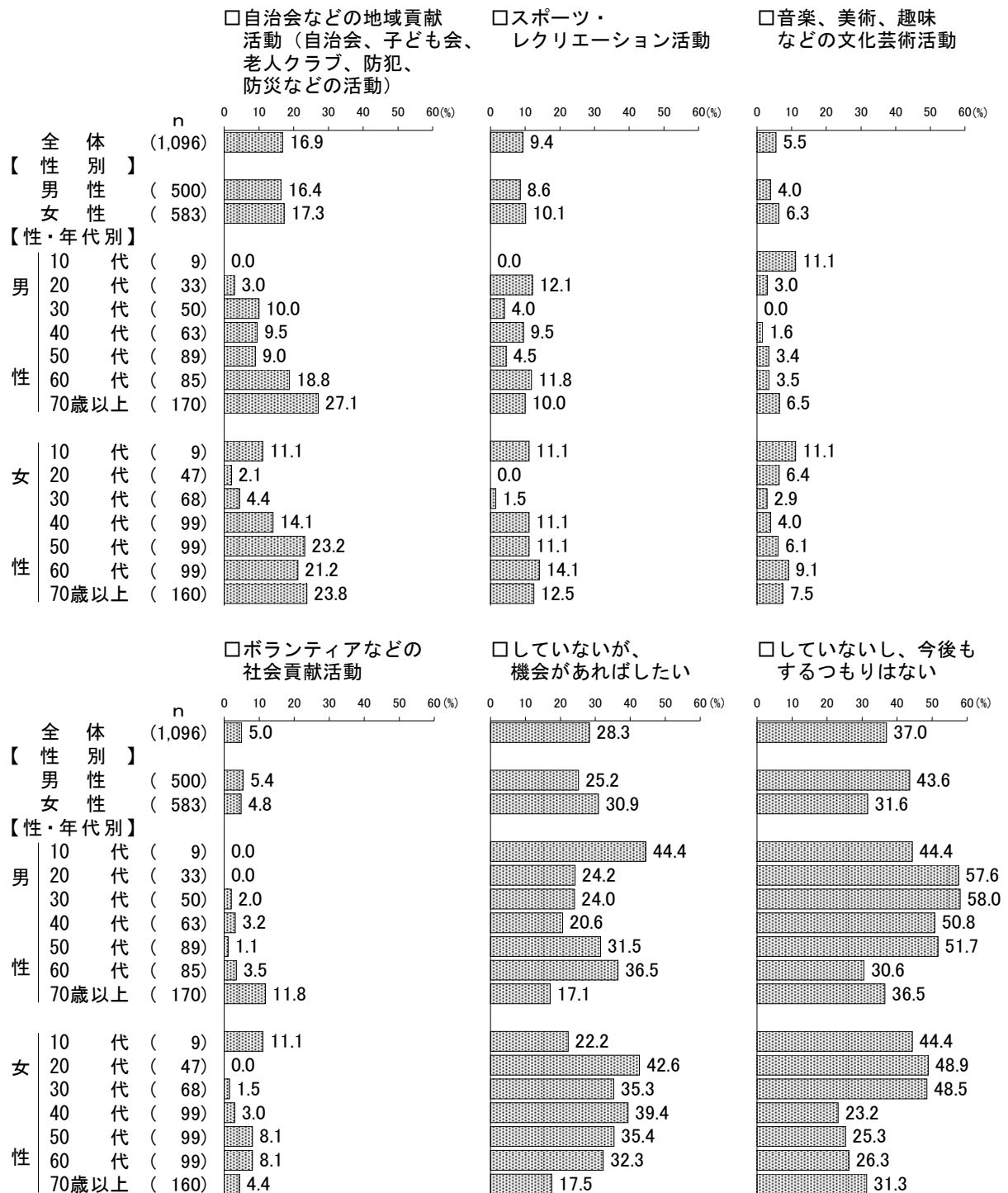


現在、地域でどのような活動をしているか聞いたところ、「自治会などの地域貢献活動（自治会、子ども会、老人クラブ、防犯、防災などの活動）」（16.9%）が2割近くで最も高く、次いで「スポーツ・レクリエーション活動」（9.4%）、「音楽、美術、趣味などの文化芸術活動」（5.5%）、「ボランティアなどの社会貢献活動」（5.0%）の順となっている。一方、「していないが、機会があればしたい」（28.3%）は3割近く、「していないし、今後するつもりはない」（37.0%）は4割近くとなっている。

過去の調査と比較すると、「していないし、今後するつもりはない」は令和元年度調査より5.3ポイント増加している。一方、「していないが、機会があればしたい」は令和元年度調査より4.2ポイント減少している。（図5-1-1）

図5-1-2 行っている地域活動（性・年代別）

ー上位4項目+「していないが、機会があればしたい」、「していないし、今後もするつもりはない」

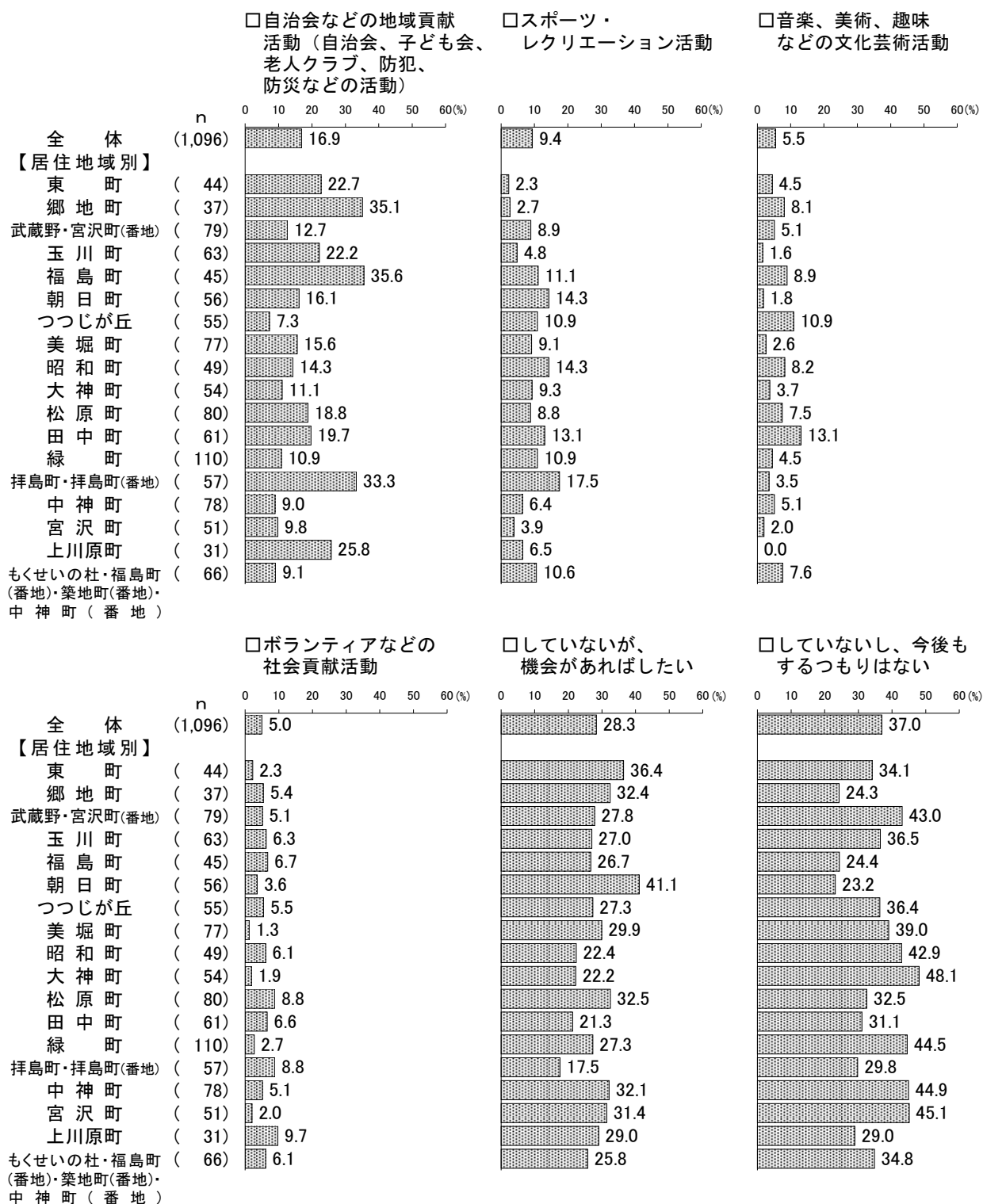


性別にみると、「していないし、今後もするつもりはない」は男性（43.6%）が女性（31.6%）より12.0ポイント高くなっている。一方、「していないが、機会があればしたい」は女性（30.9%）が男性（25.2%）より5.7ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「自治会などの地域貢献活動（自治会、子ども会、老人クラブ、防犯、防災などの活動）」は男性70歳以上（27.1%）で3割近くと高くなっている。一方、「していないし、今後もするつもりはない」は男性20代（57.6%）と男性30代（58.0%）で6割近くと高くなっている。（図5-1-2）

図5-1-3 行っている地域活動（居住地域別）

－上位4項目＋「していないが、機会があればしたい」、「していないし、今後もしるつもりはない」

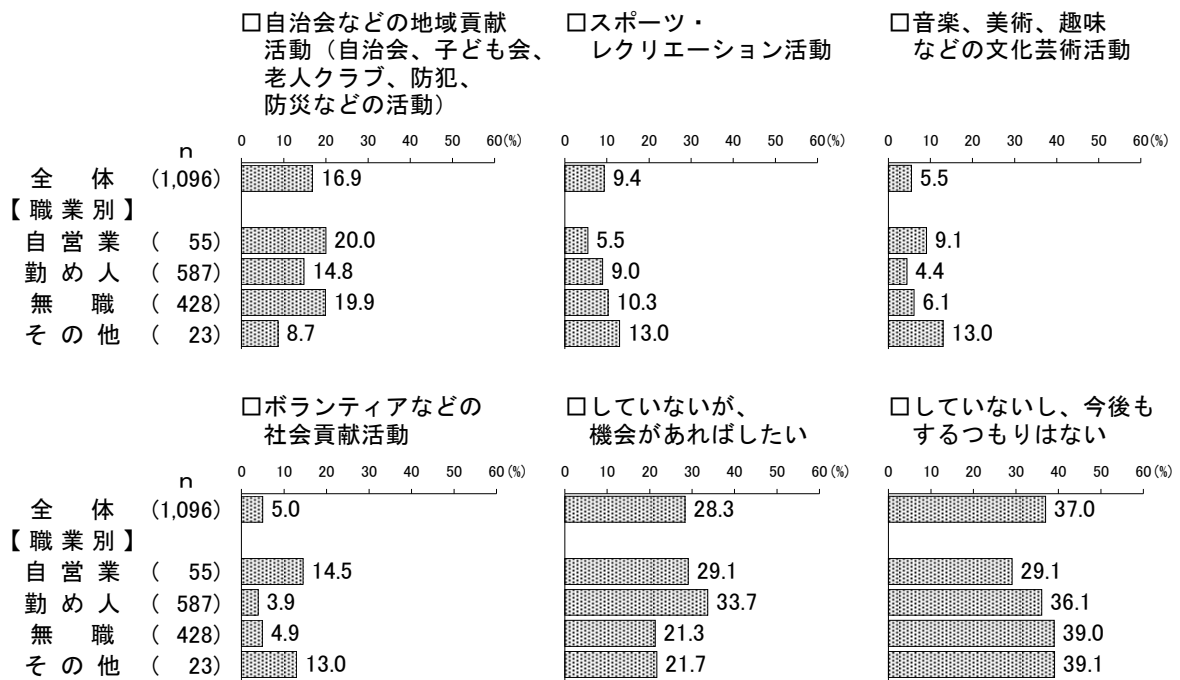


居住地域別にみると、「自治会などの地域貢献活動（自治会、子ども会、老人クラブ、防犯、防災などの活動）」は福島町（35.6%）と郷地町（35.1%）で3割半ばと高くなっている。「していないが、機会があればしたい」は朝日町（41.1%）で4割以上と高くなっている。一方、「していないし、今後もしるつもりはない」は大神町（48.1%）で5割近くと高くなっている。

(図5-1-3)

図5-1-4 行っている地域活動（職業別）

ー上位4項目+「していないが、機会があればしたい」、「していないし、今後もするつもりはない」



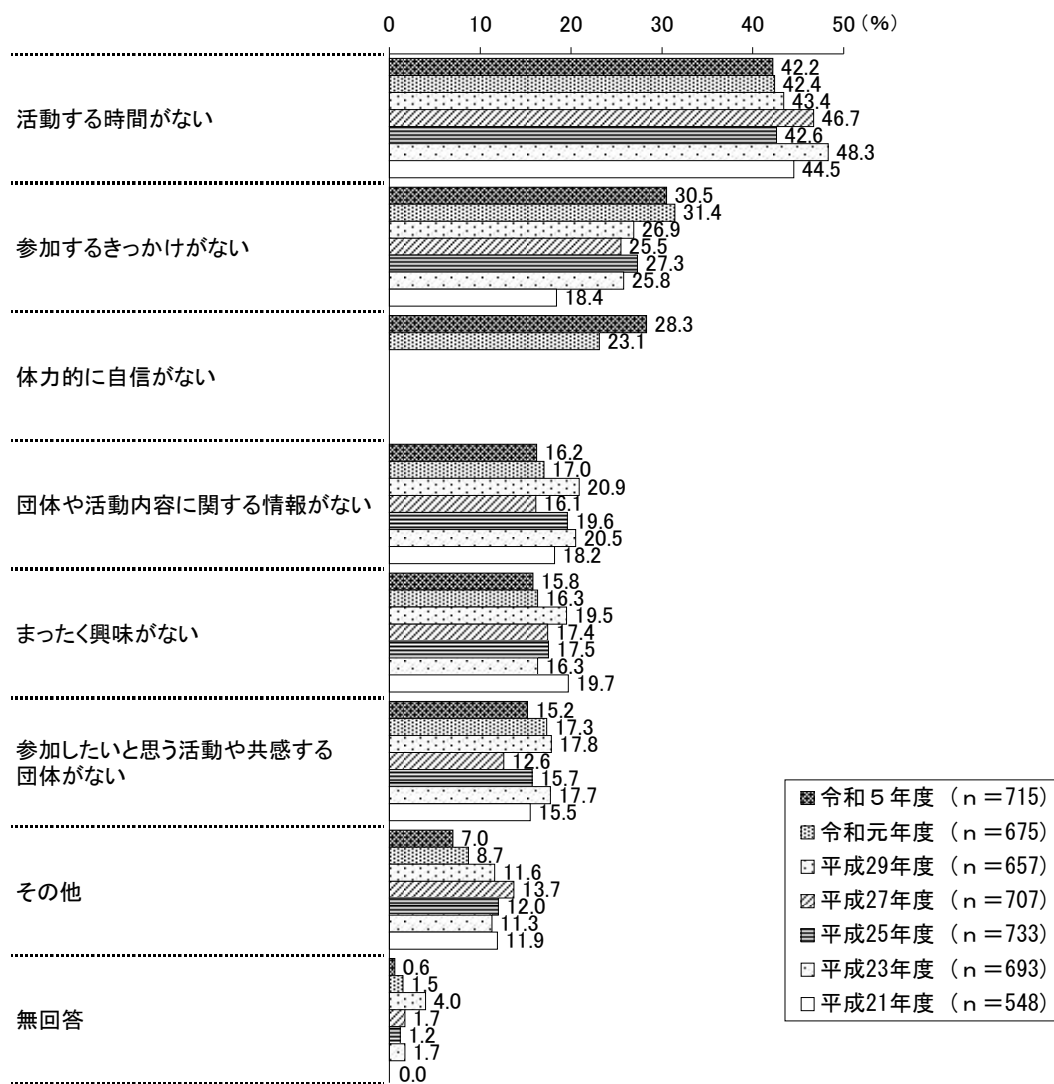
職業別にみると、「自治会などの地域貢献活動（自治会、子ども会、老人クラブ、防犯、防災などの活動）」は自営業（20.0%）で2割と高くなっている。「していないが、機会があればしたい」は勤め人（33.7%）で3割以上と高くなっている。「していないし、今後もするつもりはない」は無職（39.0%）で約4割と高くなっている。（図5-1-4）

(2) 地域活動に参加できない理由

(Q19で「していないが、機会があればしたい」「していないし、今後もするつもりはない」とお答えの方に)

Q20 現在、活動に参加できない理由は何ですか。次の中からあてはまるものをいくつでも選んでください。(n=715)

図5-2-1 地域活動に参加できない理由（全体、過年度比較）

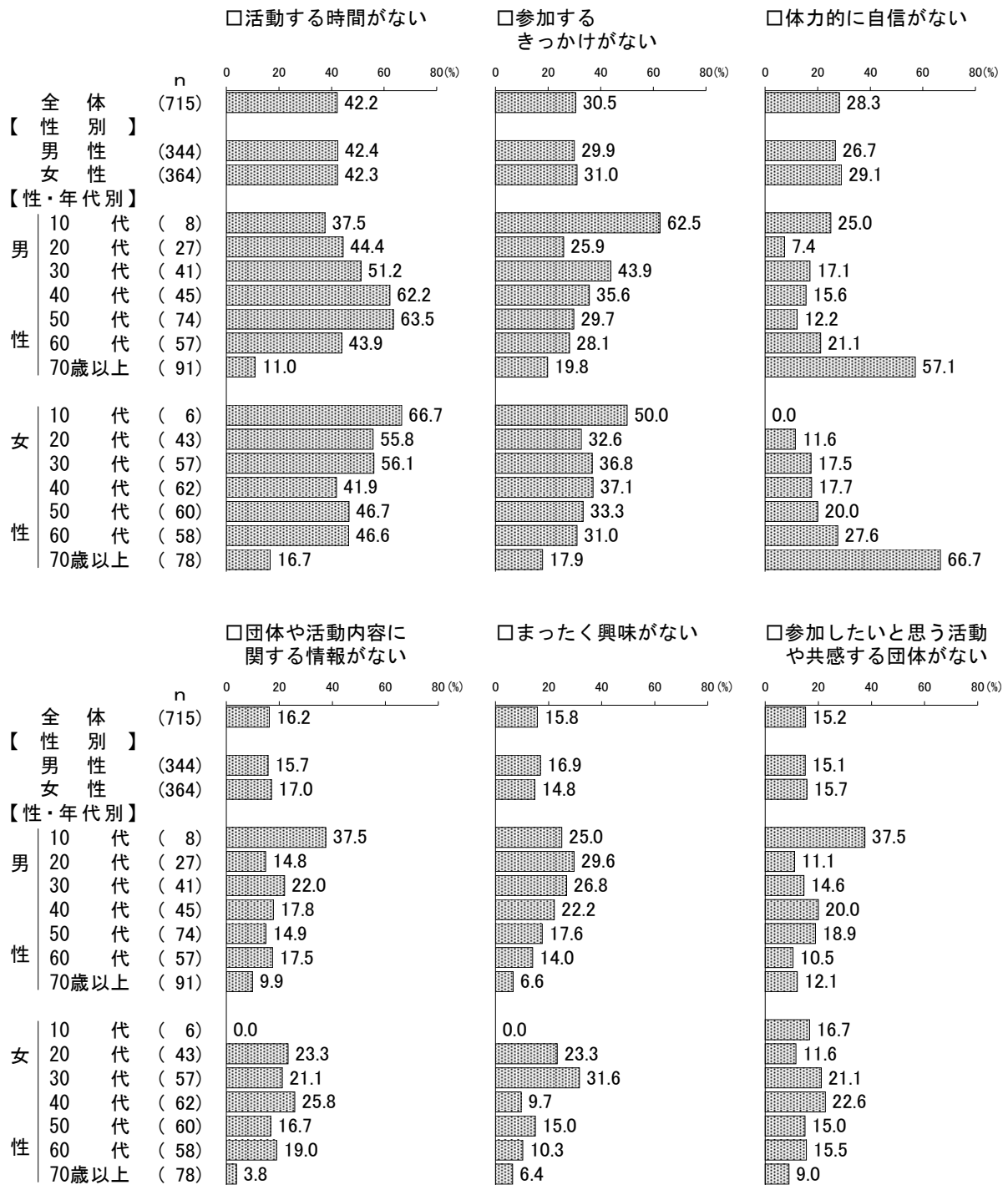


※「体力的に自信がない」は、令和元年度調査から追加された選択肢。

地域活動を「していないが、機会があればしたい」、「していないし、今後もするつもりはない」と回答した人（715人）に、その理由を聞いたところ、「活動する時間がない」（42.2%）が4割以上で最も高く、次いで「参加するきっかけがない」（30.5%）、「体力的に自信がない」（28.3%）、「団体や活動内容に関する情報がない」（16.2%）の順となっている。

過去の調査と比較すると、「体力的に自信がない」は令和元年度調査より5.2ポイント増加している。（図5-2-1）

図5-2-2 地域活動に参加できない理由（性・年代別）



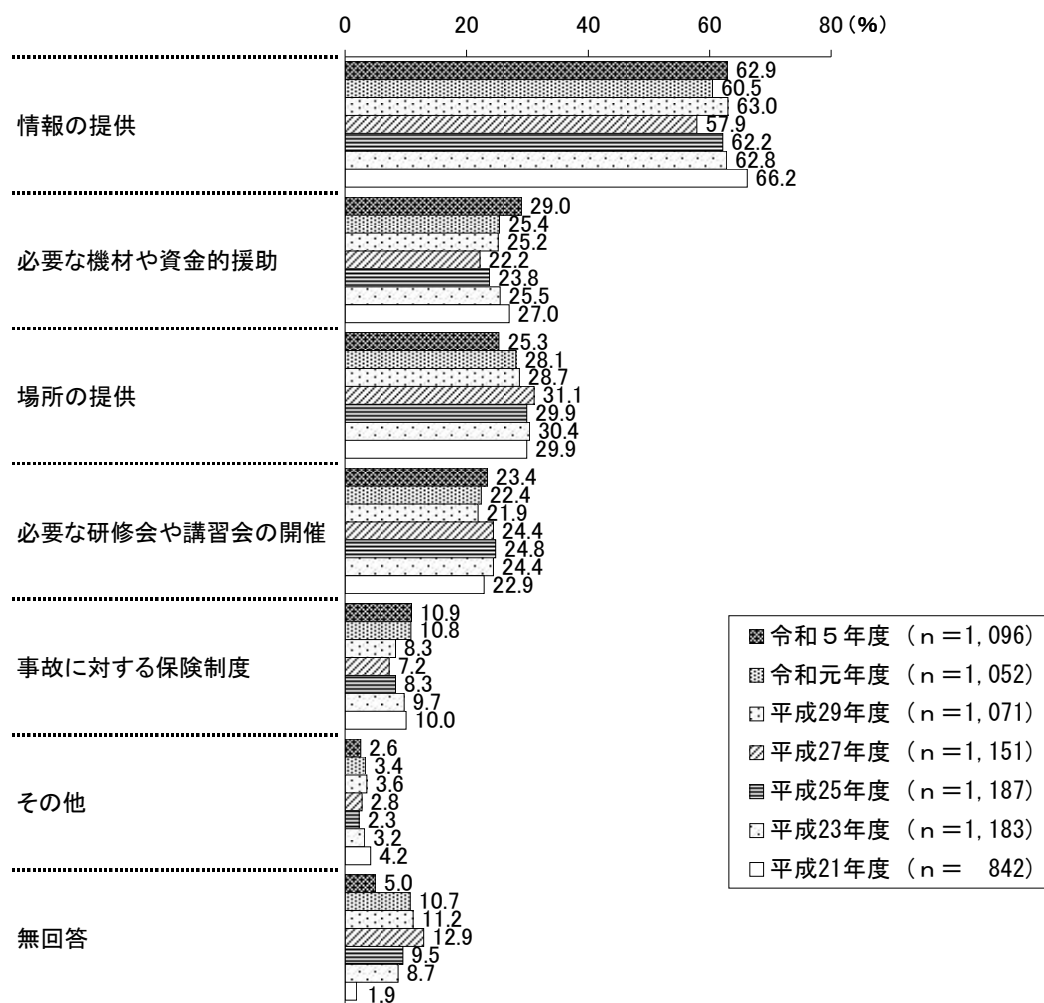
性別にみると、大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、「活動する時間がない」は男性40代（62.2%）と男性50代（63.5%）で6割以上と高くなっている。また、「参加するきっかけがない」は男性30代（43.9%）で4割以上と高くなっている。「体力的に自信がない」は女性70歳以上（66.7%）で7割近く、男性70歳以上（57.1%）で6割近くと高くなっている。（図5-2-2）

(3) 地域活動を推進するために市が力を入れるべきこと

Q21 あなたは、地域活動を推進するために、今後、昭島市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。次の中から2つまで選んでください。(n=1,096)

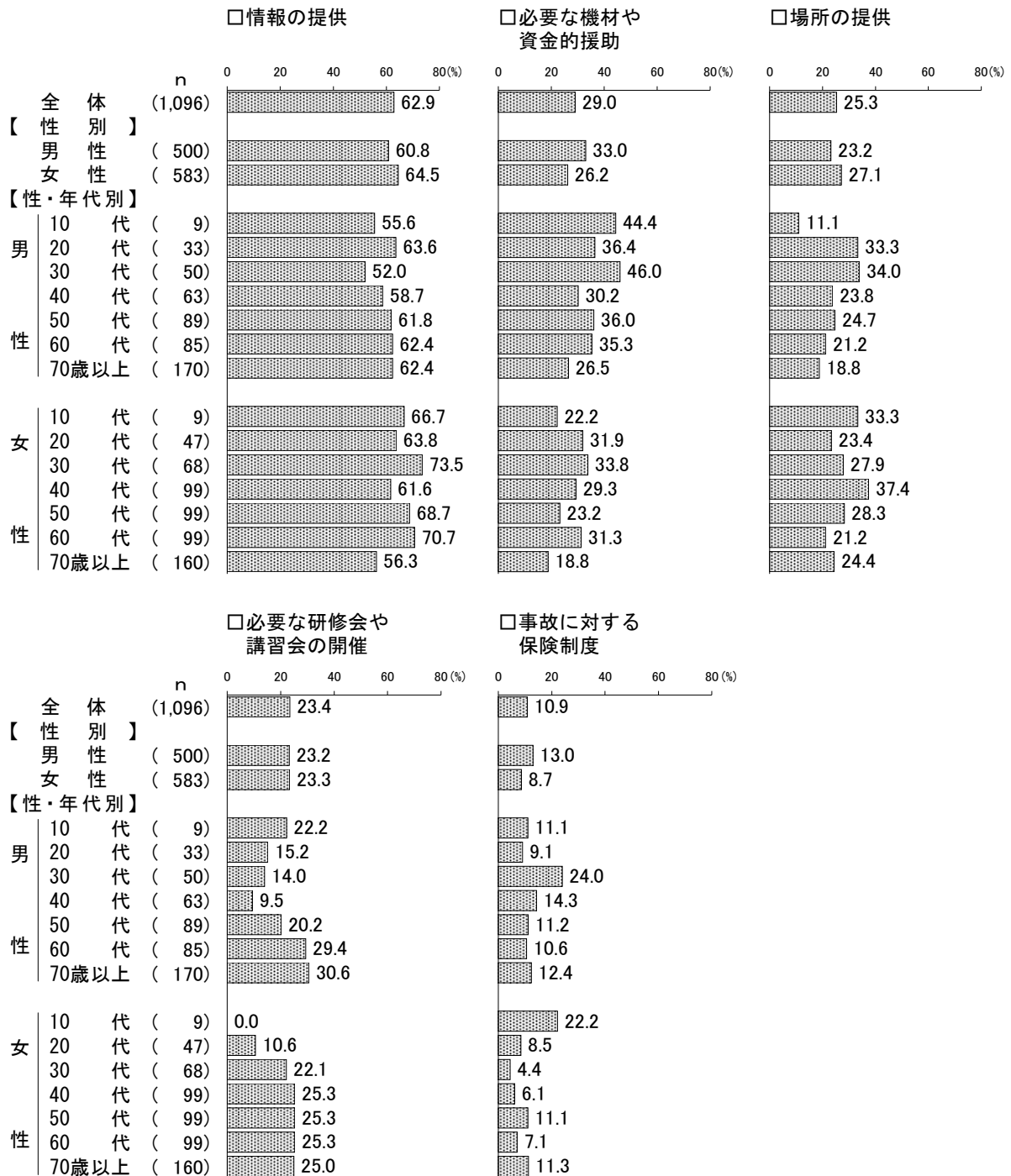
図5-3-1 地域活動を推進するために市が力を入れるべきこと（全体、過年度比較）



地域活動を推進するために市が力を入れるべきことを聞いたところ、「情報の提供」(62.9%)が6割以上で最も高く、次いで「必要な機材や資金的援助」(29.0%)、「場所の提供」(25.3%)、「必要な研修会や講習会の開催」(23.4%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「必要な機材や資金的援助」は令和元年度調査より3.6ポイント増加している。(図5-3-1)

図5-3-2 地域活動を推進するために市が力を入れるべきこと（性・年代別）



性別にみると、「必要な機材や資金的援助」は男性（33.0%）が女性（26.2%）より6.8ポイント高くなっている。一方、「場所の提供」は女性（27.1%）が男性（23.2%）より3.9ポイント高くなっている。

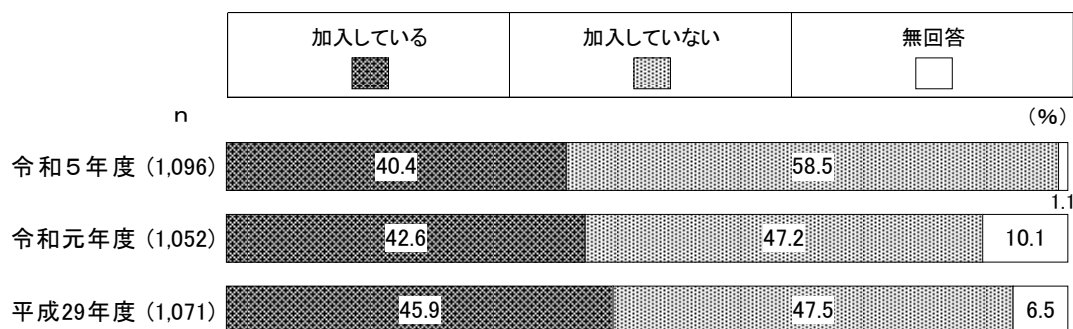
性・年代別にみると、「情報の提供」は女性30代（73.5%）で7割以上と高くなっている。「必要な機材や資金的援助」は男性30代（46.0%）で4割半ばと高くなっている。「場所の提供」は女性40代（37.4%）で4割近くと高くなっている。（図5-3-2）

(4) 自治会への加入状況

Q22 あなたは、現在、自治会に加入していますか。次の中から選んでください。

(n=1,096)

図5-4-1 自治会への加入状況（全体、過年度比較）



※令和元年度調査では、「地域に自治会がない」の選択肢が設けられていた。

※令和元年度調査までは、「わからない」の選択肢が設けられていた。

※令和元年度調査の「加入していない」の値は、「加入していない」(43.7%)と「地域に自治会がない」(3.5%)を合わせた値となっており、「無回答」の値は、「無回答」(3.2%)と「わからない」(6.9%)を合わせた値となっている。

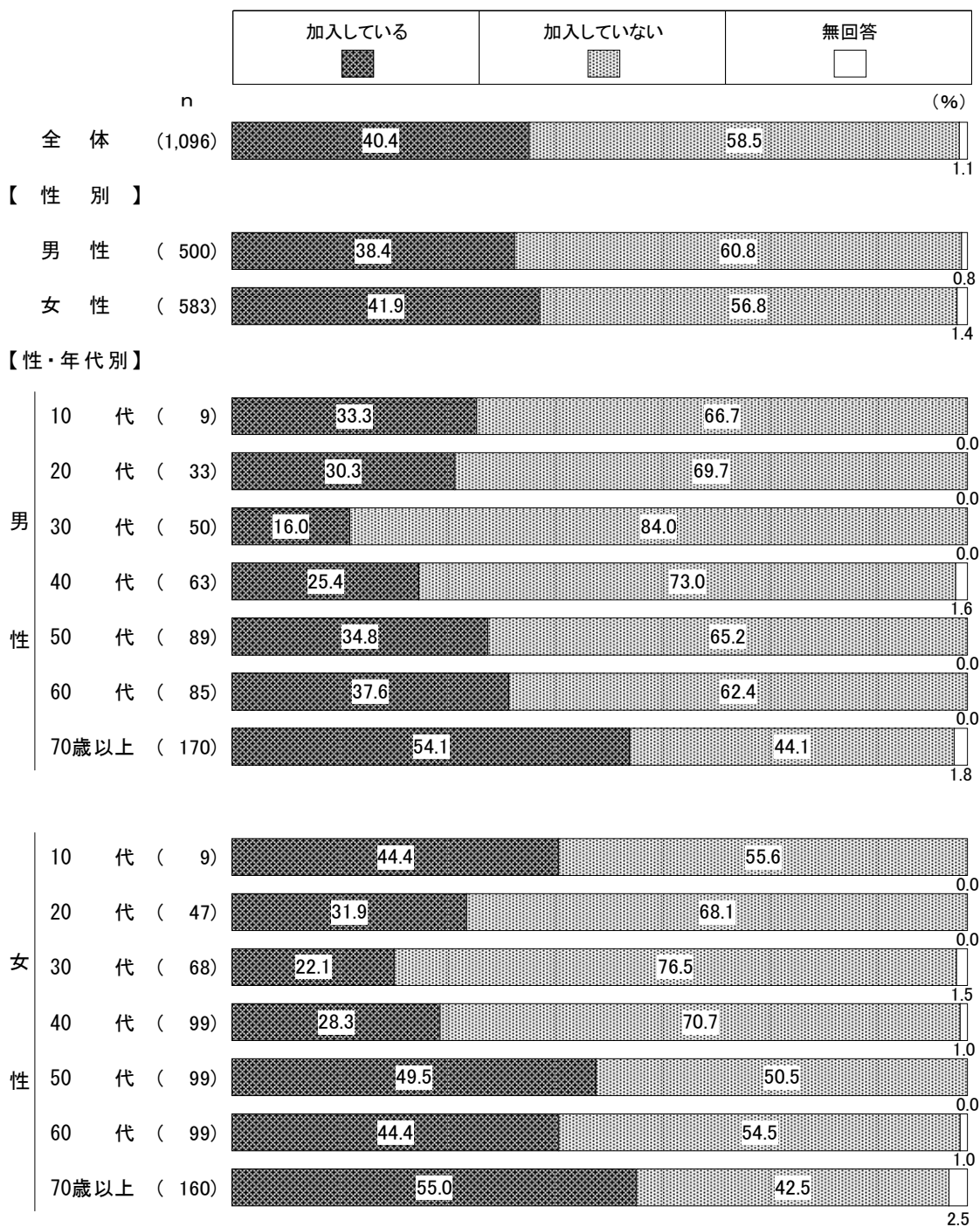
※平成29年度調査の「無回答」の値は、「無回答」(1.1%)と「わからない」(5.4%)を合わせた値となっている。

現在、自治会に加入しているか聞いたところ、「加入している」(40.4%)が約4割、「加入していない」(58.5%)は6割近くとなっている。

過去の調査と比較すると、「加入していない」は令和元年度調査より11.3ポイント増加している。

(図5-4-1)

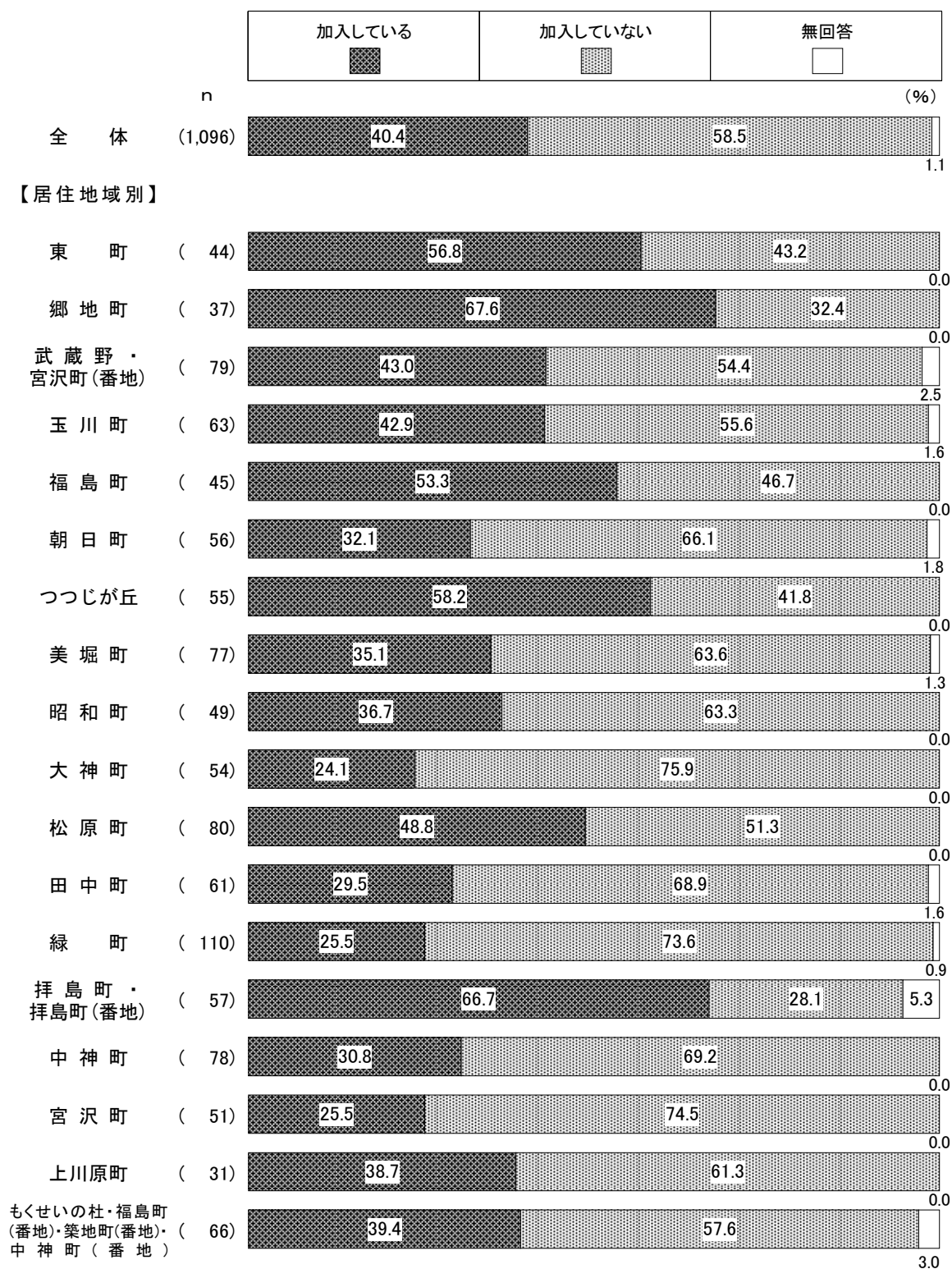
図5-4-2 自治会への加入状況（性・年代別）



性別にみると、「加入している」は女性（41.9%）が男性（38.4%）より3.5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「加入している」は女性70歳以上（55.0%）と男性70歳以上（54.1%）で5割半ばと高くなっている。一方、「加入していない」は男性30代（84.0%）で8割半ばと高くなっている。（図5-4-2）

図5-4-3 自治会への加入状況（居住地域別）



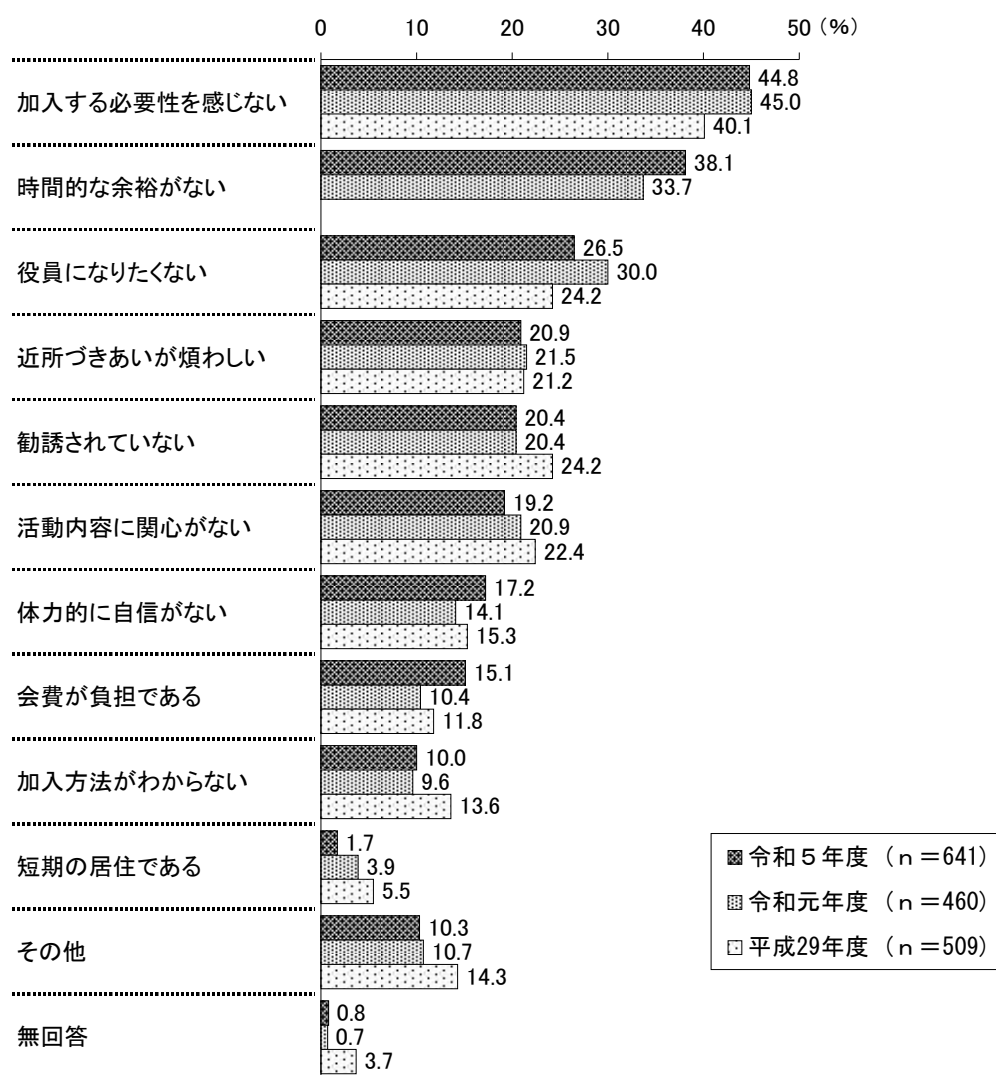
居住地域別にみると、「加入している」は郷地町（67.6%）と拝島町・拝島町（番地）（66.7%）で7割近くと高くなっている。一方、「加入していない」は大神町（75.9%）と宮沢町（74.5%）で7割半ばと高くなっている。（図5-4-3）

(5) 自治会に加入していない理由

(Q22で「加入していない」とお答えの方に)

Q23 自治会に加入していない理由は何ですか。次の中からあてはまるものをいくつでも選んでください。
(n=641)

図5-5-1 自治会に加入していない理由（全体、過年度比較）



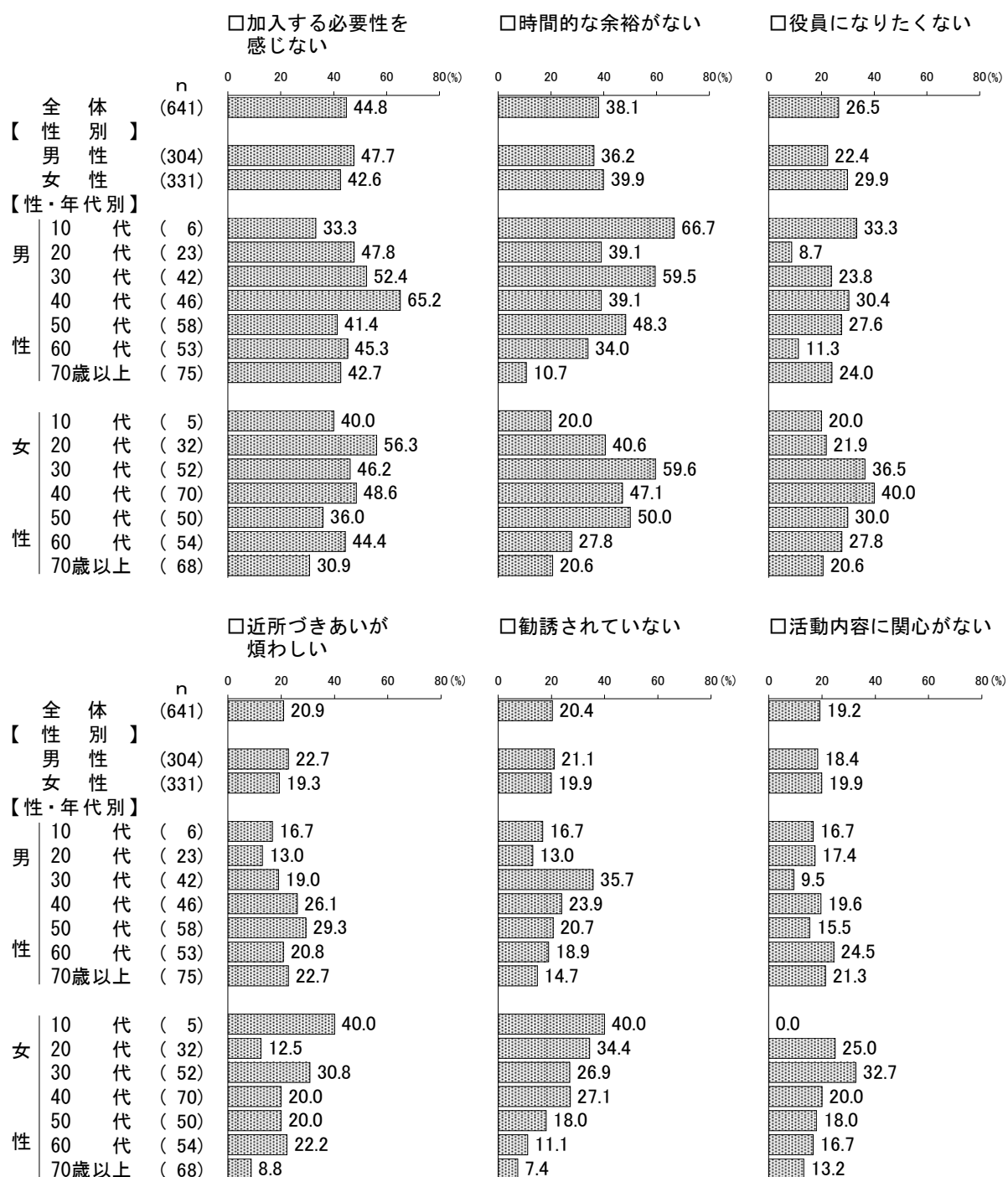
※「時間的な余裕がない」は、令和元年度調査から追加された選択肢。

※「体力的に自信がない」の平成29年度調査の値は、「高齢のため」の値となっている。

自治会に「加入していない」と回答した人（641人）に、その理由を聞いたところ、「加入する必要性を感じない」（44.8%）が4割半ばで最も高く、次いで「時間的な余裕がない」（38.1%）、「役員になりたくない」（26.5%）、「近所づきあいが煩わしい」（20.9%）の順となっている。

過去の調査と比較すると、「会費が負担である」は令和元年度調査より4.7ポイント、「時間的な余裕がない」は令和元年度調査より4.4ポイント、それぞれ増加している。一方、「役員になりたくない」は令和元年度調査より3.5ポイント減少している。（図5-5-1）

図5-5-2 自治会に加入していない理由（性・年代別）－上位6項目



性別にみると、「役員になりたくない」は女性（29.9%）が男性（22.4%）より7.5ポイント高くなっている。一方、「加入する必要性を感じない」は男性（47.7%）が女性（42.6%）より5.1ポイント高くなっている。

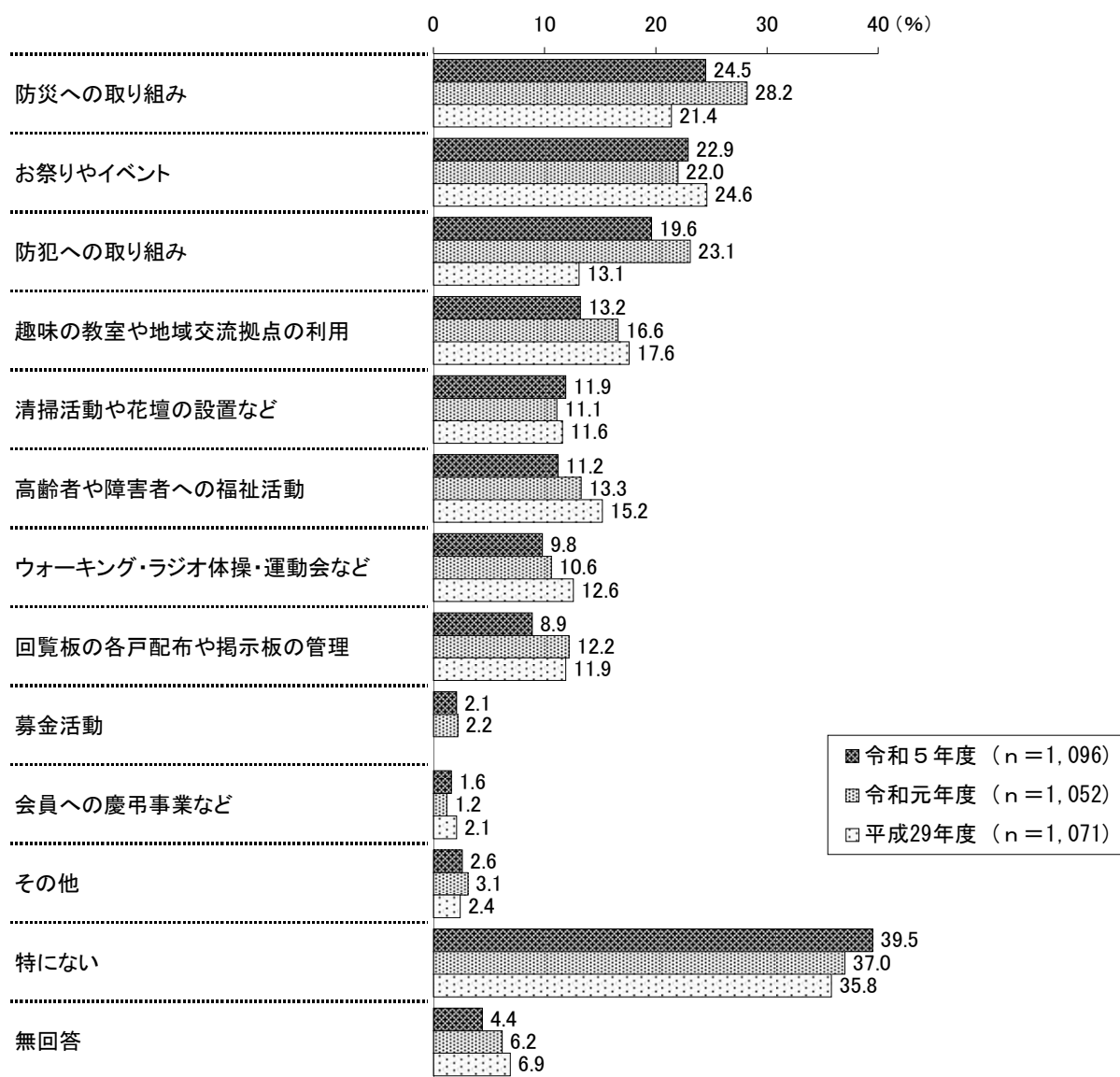
性・年代別にみると、「加入する必要性を感じない」は男性40代（65.2%）で6割半ばと高くなっている。「時間的な余裕がない」は女性30代（59.6%）と男性30代（59.5%）で約6割と高くなっている。「役員になりたくない」は女性40代（40.0%）で4割と高くなっている。

(図5-5-2)

(6) 参加したいと思う自治会の活動

Q24 現在、自治会への加入率が低下してきています。今後、あなたは、どのような自治会活動に参加したいと思いますか。次の中からあてはまるものをいくつでも選んでください。
(n=1,096)

図5-6-1 参加したいと思う自治会の活動（全体、過年度比較）



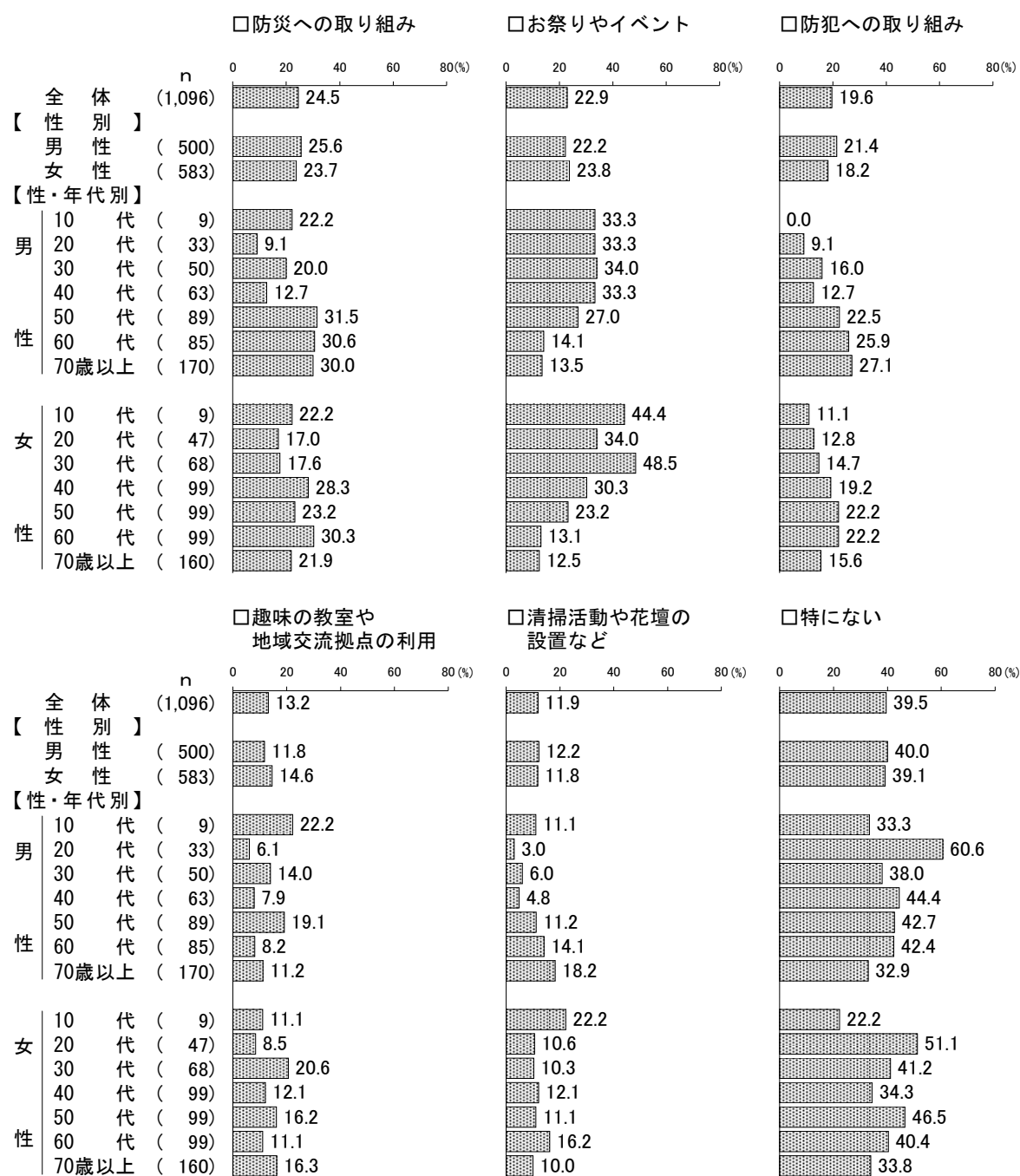
※「防犯への取り組み」の平成29年度調査の値は、「防犯パトロール」の値となっている。

※「募金活動」は、令和元年度調査から追加された選択肢。

どのような自治会活動に参加したいか聞いたところ、「防災への取り組み」(24.5%)が2割半ばで最も高く、次いで、「お祭りやイベント」(22.9%)、「防犯への取り組み」(19.6%)、「趣味の教室や地域交流拠点の利用」(13.2%)の順となっている。一方、「特にない」(39.5%)は約4割となっている。

過去の調査と比較すると、「防災への取り組み」は令和元年度調査より3.7ポイント、「防犯への取り組み」は令和元年度調査より3.5ポイント、それぞれ減少している。(図5-6-1)

図5-6-2 参加したいと思う自治会の活動（性・年代別）－上位5項目＋「特にない」



性別にみると、「防犯への取り組み」は男性（21.4%）が女性（18.2%）より3.2ポイント高くなっている。

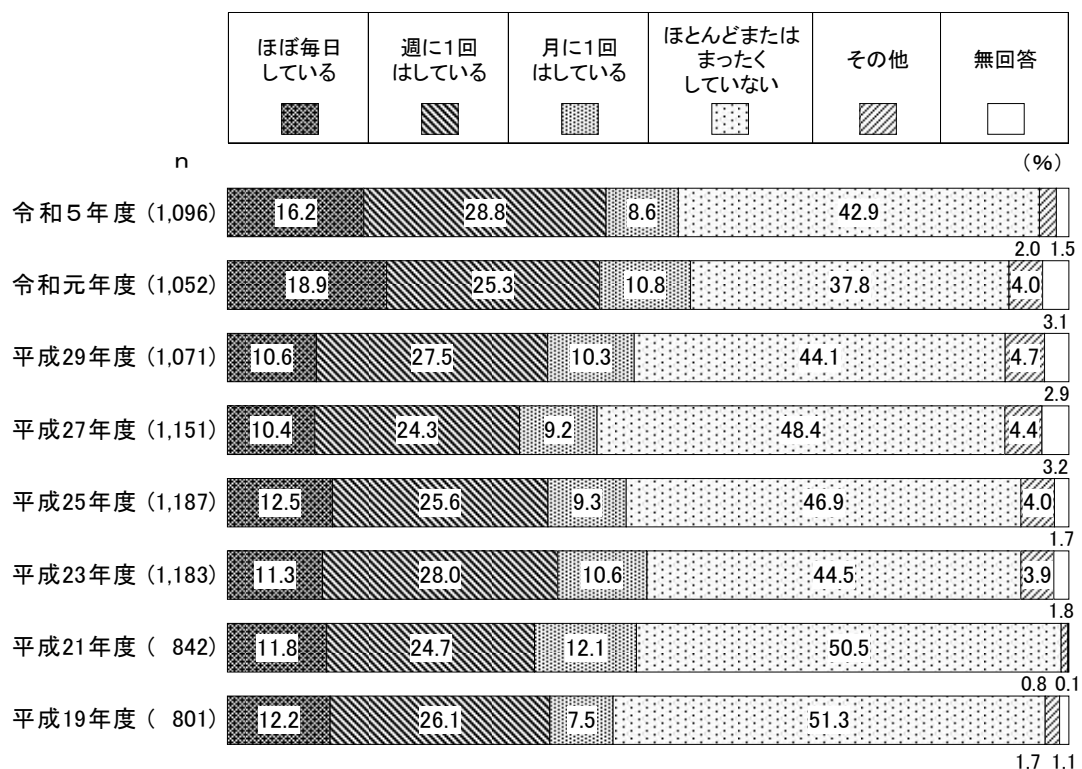
性・年代別にみると、「防災への取り組み」は男性50代（31.5%）で3割以上と高くなっている。「お祭りやイベント」は女性30代（48.5%）で5割近くと高くなっている。「特にない」は男性20代（60.6%）で約6割と高くなっている。（図5-6-2）

6 生涯学習

(1) スポーツやレクリエーションの頻度

Q25 あなたは、日頃からウォーキングなどのスポーツやレクリエーションにどの程度親しんでいますか。次の中から1つだけ選んでください。(n=1,096)

図6-1-1 スポーツやレクリエーションの頻度（全体、過年度比較）



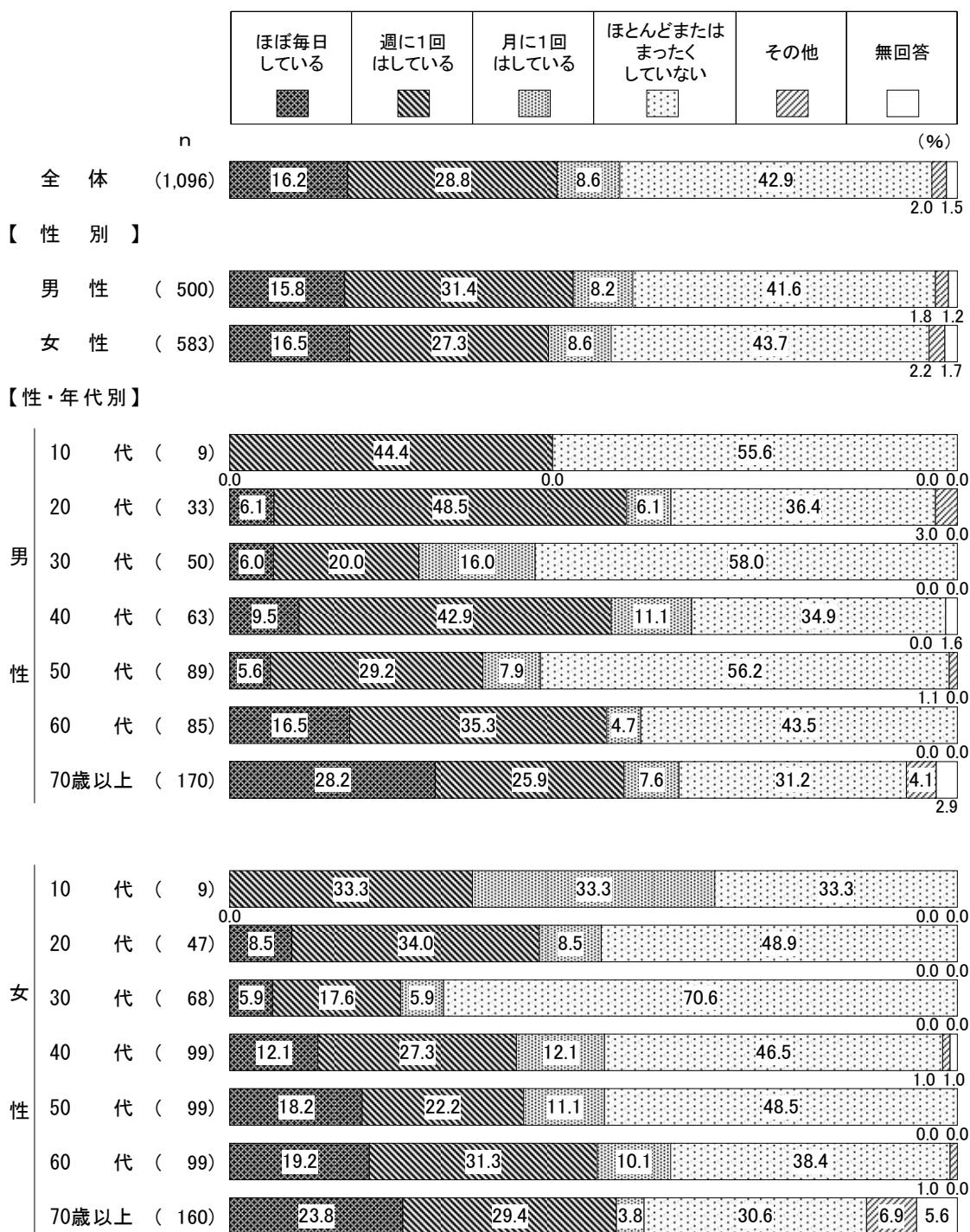
※「ほとんどまたはまったくしていない」は、平成29年度調査までは「ほとんどしていない」となっていた。

日頃からウォーキングなどのスポーツやレクリエーションにどの程度親しんでいるか聞いたところ、「ほとんどまたはまったくしていない」(42.9%)が4割以上で最も高く、次いで「週に1回はしている」(28.8%)、「ほぼ毎日している」(16.2%)、「月に1回はしている」(8.6%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「ほとんどまたはまったくしていない」は令和元年度調査より5.1ポイント、「週に1回はしている」は令和元年度調査より3.5ポイント、それぞれ増加している。

(図6-1-1)

図6-1-2 スポーツやレクリエーションの頻度（性・年代別）



性別にみると、「週に1回はしている」は男性（31.4%）が女性（27.3%）より4.1ポイント高くなっている。

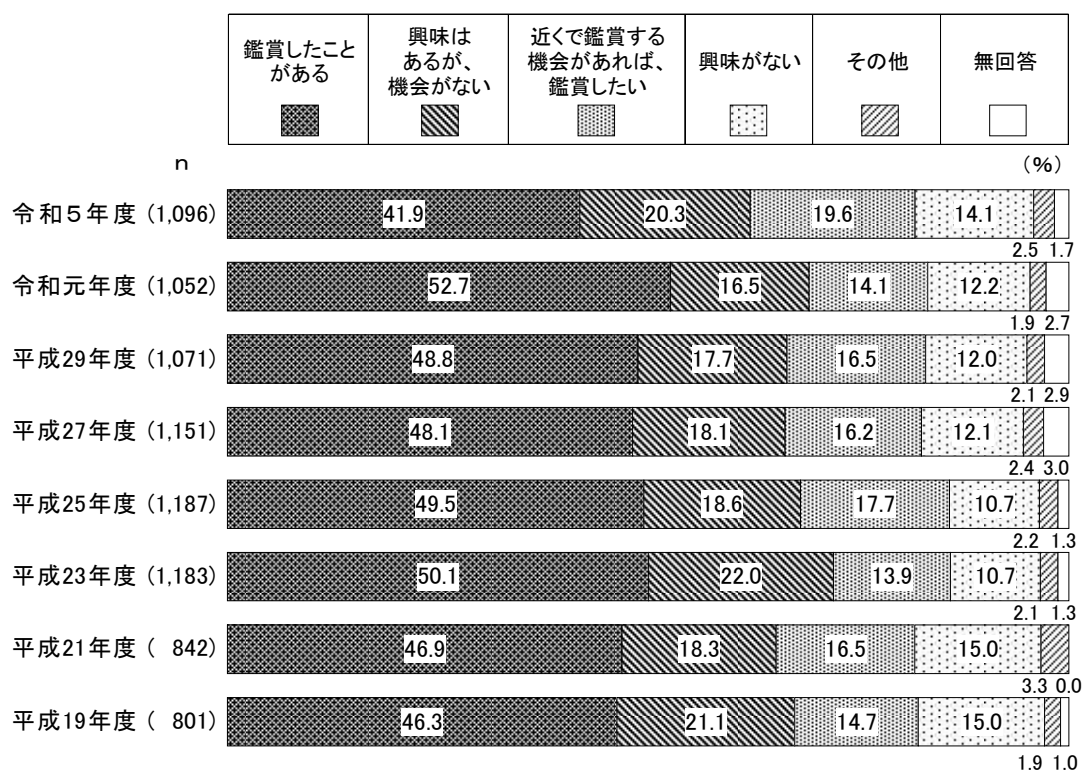
性・年代別にみると、「ほぼ毎日している」は男性70歳以上（28.2%）で3割近くと高くなっている。「週に1回はしている」は男性20代（48.5%）で5割近くと高くなっている。一方、「ほとんどまたはまったくしていない」は女性30代（70.6%）で約7割と高くなっている。

(図6-1-2)

(2) 音楽・演劇・美術などの鑑賞

Q26 あなたは、この1年間に音楽、演劇、美術などを外出して鑑賞したことがありますか。
次の中から1つだけ選んでください。(n=1,096)

図6-2-1 音楽・演劇・美術などの鑑賞（全体、過年度比較）

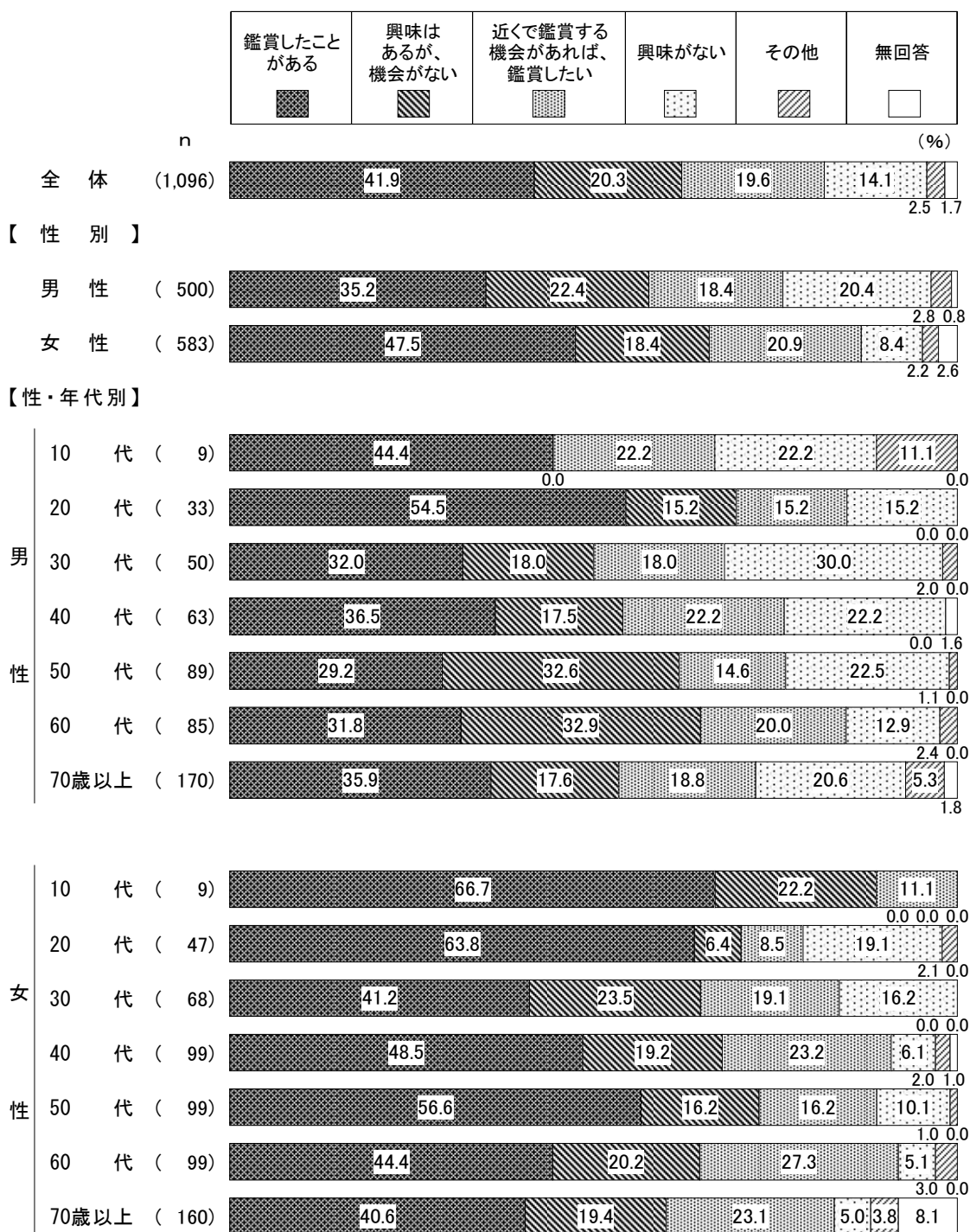


この1年間に音楽、演劇、美術などを外出して鑑賞したことがあるか聞いたところ、「鑑賞したことがある」(41.9%)が4割以上で最も高く、次いで「興味はあるが、機会がない」(20.3%)、「近くで鑑賞する機会があれば、鑑賞したい」(19.6%)、「興味がない」(14.1%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「近くで鑑賞する機会があれば、鑑賞したい」は令和元年度調査より5.5ポイント、「興味はあるが、機会がない」は令和元年度調査より3.8ポイント、それぞれ増加している。一方、「鑑賞したことがある」は令和元年度調査より10.8ポイント減少している。

(図6-2-1)

図6-2-2 音楽・演劇・美術などの鑑賞（性・年代別）



性別にみると、「鑑賞したことがある」は女性（47.5%）が男性（35.2%）より12.3ポイント高くなっている。一方、「興味がない」は男性（20.4%）が女性（8.4%）より12.0ポイント高くなっている。

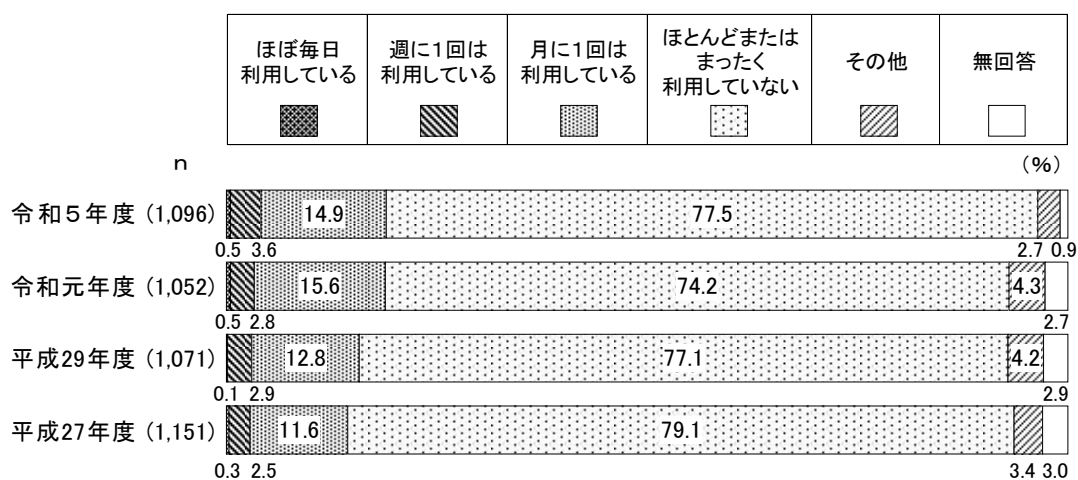
性・年代別にみると、「鑑賞したことがある」は女性20代（63.8%）で6割以上と高くなっている。「興味はあるが、機会がない」は男性50代（32.6%）と男性60代（32.9%）で3割以上と高くなっている。一方、「興味がない」は男性30代（30.0%）で3割と高くなっている。

(図6-2-2)

(3) 図書館の利用頻度

Q27 あなたは、昭島市の図書館をどのくらい利用していますか。次の中から1つだけ選んでください。
(n=1,096)

図6-3-1 図書館の利用頻度（全体、過年度比較）



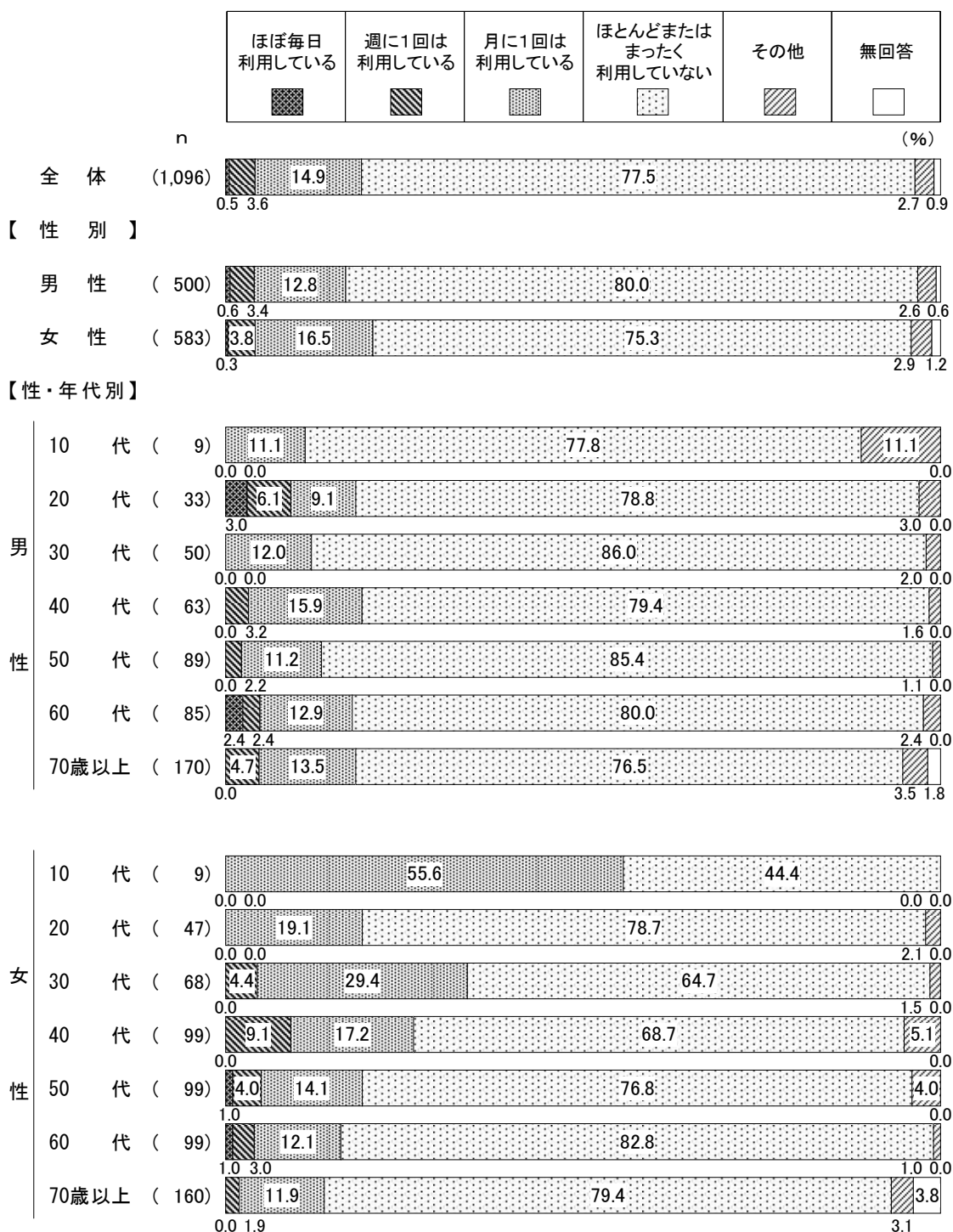
※「ほぼ毎日利用している」は、平成29年度調査までは「毎日利用している」となっていた。

※「ほとんどまたはまったく利用していない」は、平成29年度調査までは「ほとんど利用していない」となっていた。

昭島市の図書館をどのくらい利用しているか聞いたところ、「ほとんどまたはまったく利用していない」(77.5%)が8割近くで最も高く、次いで「月に1回は利用している」(14.9%)、「週に1回は利用している」(3.6%)、「ほぼ毎日利用している」(0.5%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「ほとんどまたはまったく利用していない」は令和元年度調査より3.3ポイント増加している。(図6-3-1)

図 6-3-2 図書館の利用頻度（性・年代別）



性別にみると、「ほとんどまたはまったく利用していない」は男性（80.0%）が女性（75.3%）より4.7ポイント高くなっている。一方、「月に1回は利用している」は女性（16.5%）が男性（12.8%）より3.7ポイント高くなっている。

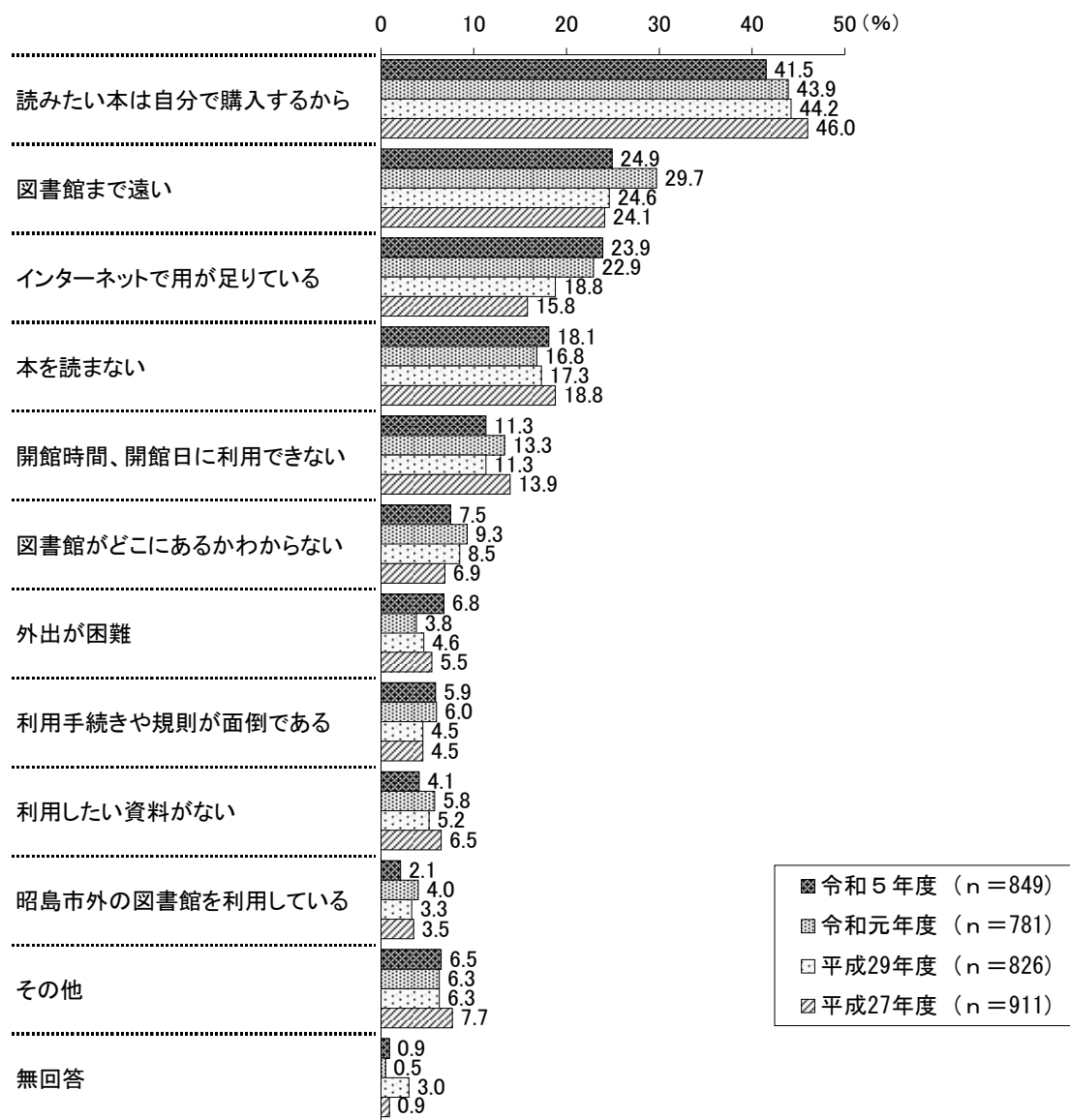
性・年代別にみると、「月に1回は利用している」は女性30代（29.4%）で約3割と高くなっている。「ほとんどまたはまったく利用していない」は男性30代（86.0%）と男性50代（85.4%）で8割半ばと高くなっている。（図6-3-2）

(4) 図書館を利用していない理由

(Q27で「ほとんどまたはまったく利用していない」とお答えの方に)

Q28 利用していない理由は何ですか。次の中からあてはまるものをいくつでも選んでください。(n=849)

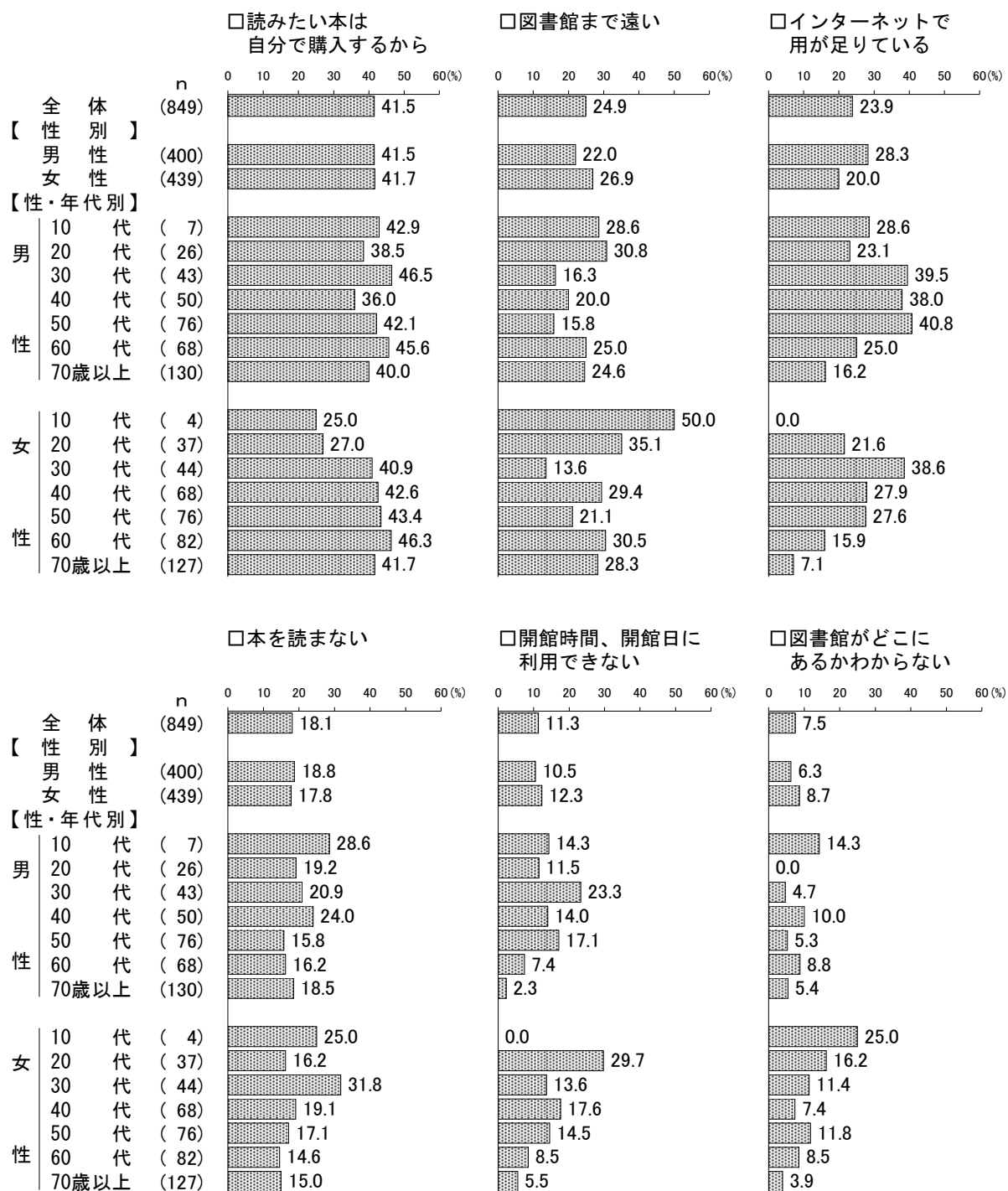
図6-4-1 図書館を利用していない理由（全体、過年度比較）



図書館を「ほとんどまたはまったく利用していない」と回答した人（849人）に、その理由を聞いたところ、「読みたい本は自分で購入するから」（41.5%）が4割以上で最も高く、次いで「図書館まで遠い」（24.9%）、「インターネットで用が足りている」（23.9%）、「本を読まない」（18.1%）の順となっている。

過去の調査と比較すると、「外出が困難」は令和元年度調査より3.0ポイント増加している。一方、「図書館まで遠い」は令和元年度調査より4.8ポイント減少している。（図6-4-1）

図6-4-2 図書館を利用していない理由（性・年代別）－上位6項目



性別にみると、「インターネットで用が足りている」は男性（28.3%）が女性（20.0%）より8.3ポイント高くなっている。一方、「図書館まで遠い」は女性（26.9%）が男性（22.0%）より4.9ポイント高くなっている。

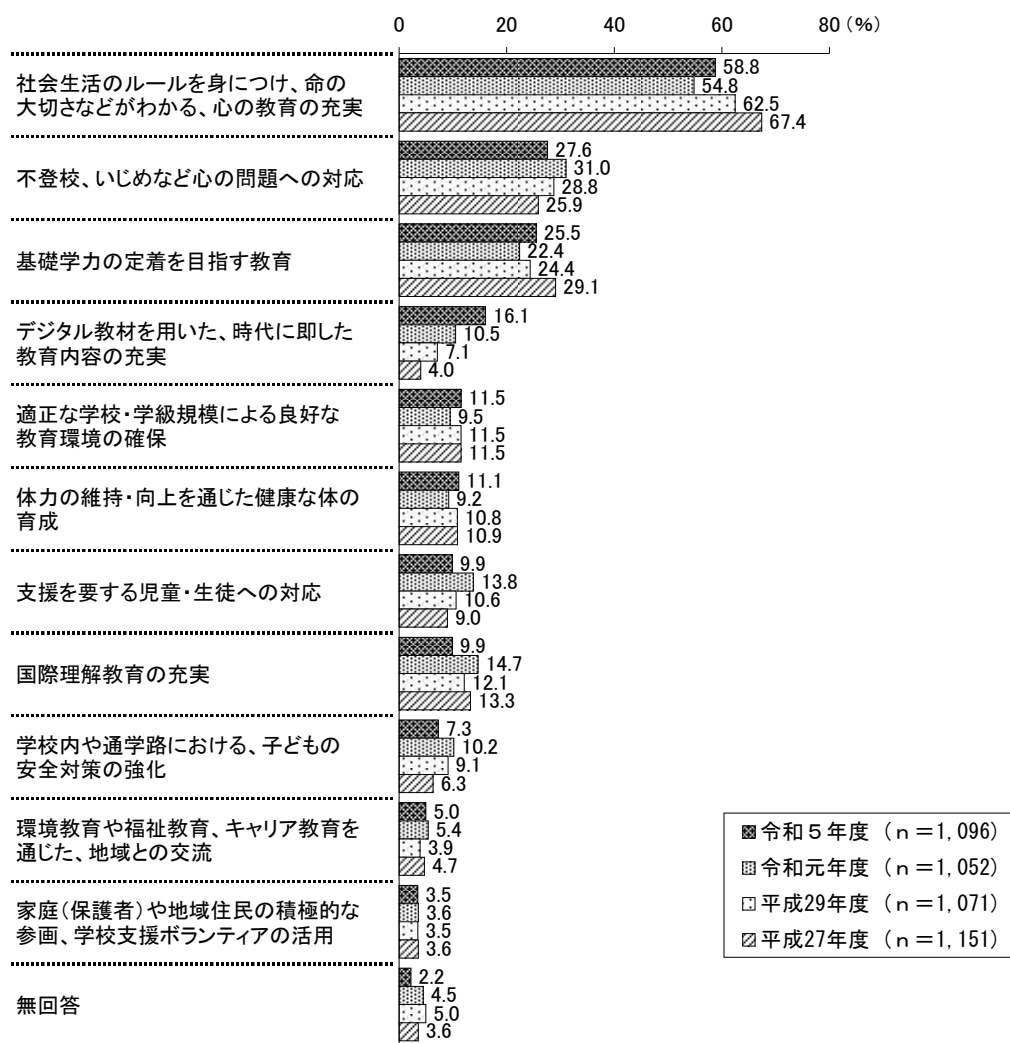
性・年代別にみると、「読みたい本は自分で購入するから」は男性30代（46.5%）と女性60代（46.3%）で5割近くと高くなっている。「図書館まで遠い」は女性20代（35.1%）で3割半ばと高くなっている。「インターネットで用が足りている」は男性30代（39.5%）と男性50代（40.8%）で約4割と高くなっている。（図6-4-2）

7 学校教育

(1) 学校教育の充実すべき取り組み

Q29 昭島市は、未来を担う子どもたちの育成に向けて、教育振興基本計画に基づき、学校教育の充実に取り組んでいます。あなたが、今後、更に充実すべきと思う取り組みは何か。次の中から2つまで選んでください。(n=1,096)

図7-1-1 学校教育の充実すべき取り組み（全体、過年度比較）

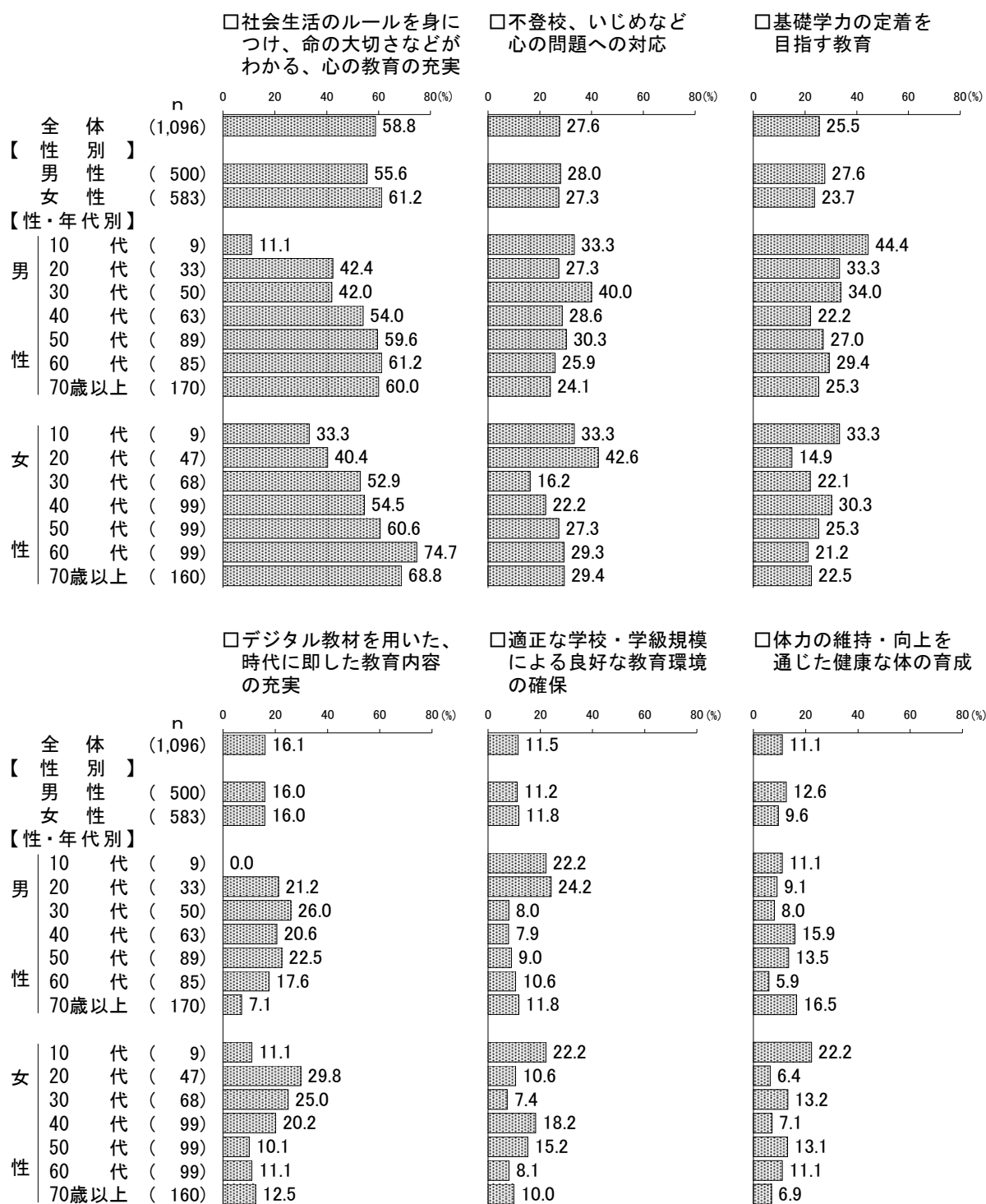


※「国際理解教育の充実」は、令和元年度調査までは「国際化を視野に入れた教育内容の充実」となっていた。

学校教育の充実すべき取り組みを聞いたところ、「社会生活のルールを身につけ、命の大切さなどがわかる、心の教育の充実」(58.8%)が6割近くで最も高く、次いで「不登校、いじめなど心の問題への対応」(27.6%)、「基礎学力の定着を目指す教育」(25.5%)、「デジタル教材を用いた、時代に即した教育内容の充実」(16.1%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「社会生活のルールを身につけ、命の大切さなどがわかる、心の教育の充実」は令和元年度調査より4.0ポイント増加している。一方、「不登校、いじめなど心の問題への対応」は令和元年度調査より3.4ポイント減少している。(図7-1-1)

図7-1-2 学校教育の充実すべき取り組み（性・年代別）－上位6項目



性別にみると、「社会生活のルールを身につけ、命の大切さなどがわかる、心の教育の充実」は女性(61.2%)が男性(55.6%)より5.6ポイント高くなっている。一方、「基礎学力の定着を目指す教育」は男性(27.6%)が女性(23.7%)より3.9ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「社会生活のルールを身につけ、命の大切さなどがわかる、心の教育の充実」は女性60代(74.7%)で7割半ばと高くなっている。「不登校、いじめなど心の問題への対応」は女性20代(42.6%)で4割以上と高くなっている。「基礎学力の定着を目指す教育」は男性30代(34.0%)で3割半ばと高くなっている。(図7-1-2)

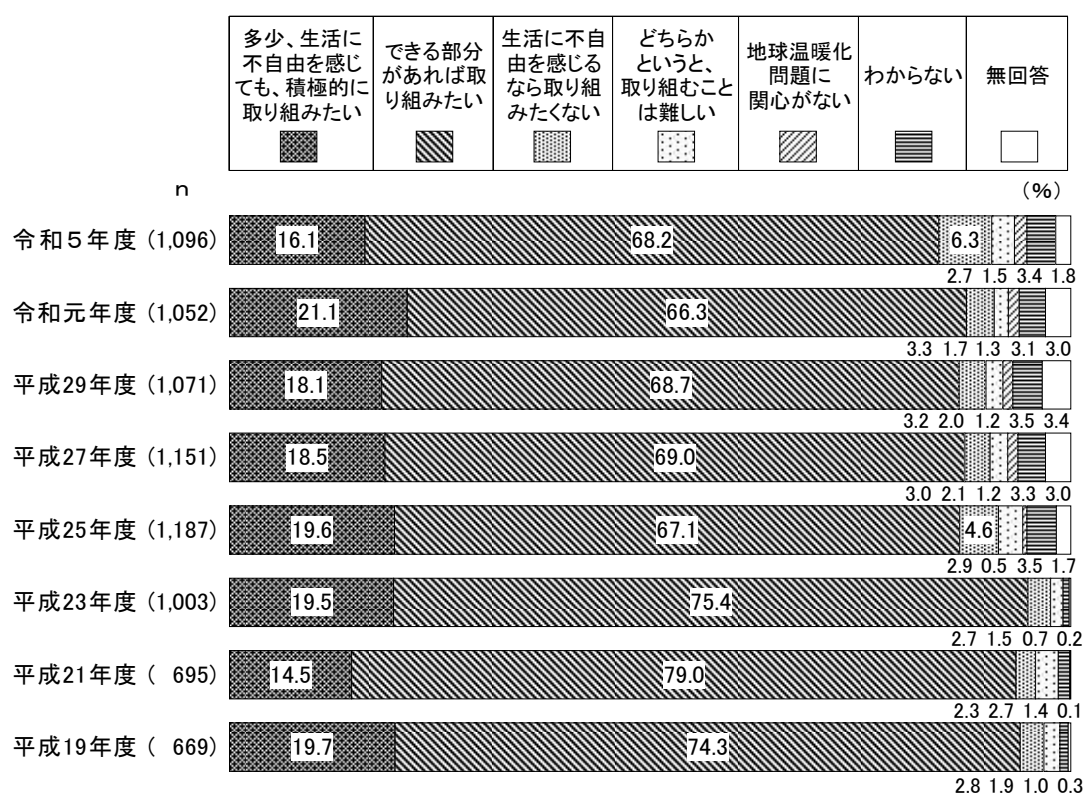
8 環境

(1) 地球温暖化問題への関心

Q30 地球温暖化防止のためには、省エネ活動など、個人個人の日常生活での取り組みが必要となります。あなたは、このことについてどう思いますか。次の中から1つだけ選んでください。(n=1,096)

※二酸化炭素などの温室効果ガスによる地球温暖化で、海水面の上昇、砂漠化の進行、異常気象の多発など、人類社会にさまざまな影響を及ぼすおそれがあると指摘されています。

図8-1-1 地球温暖化問題への関心（全体、過年度比較）

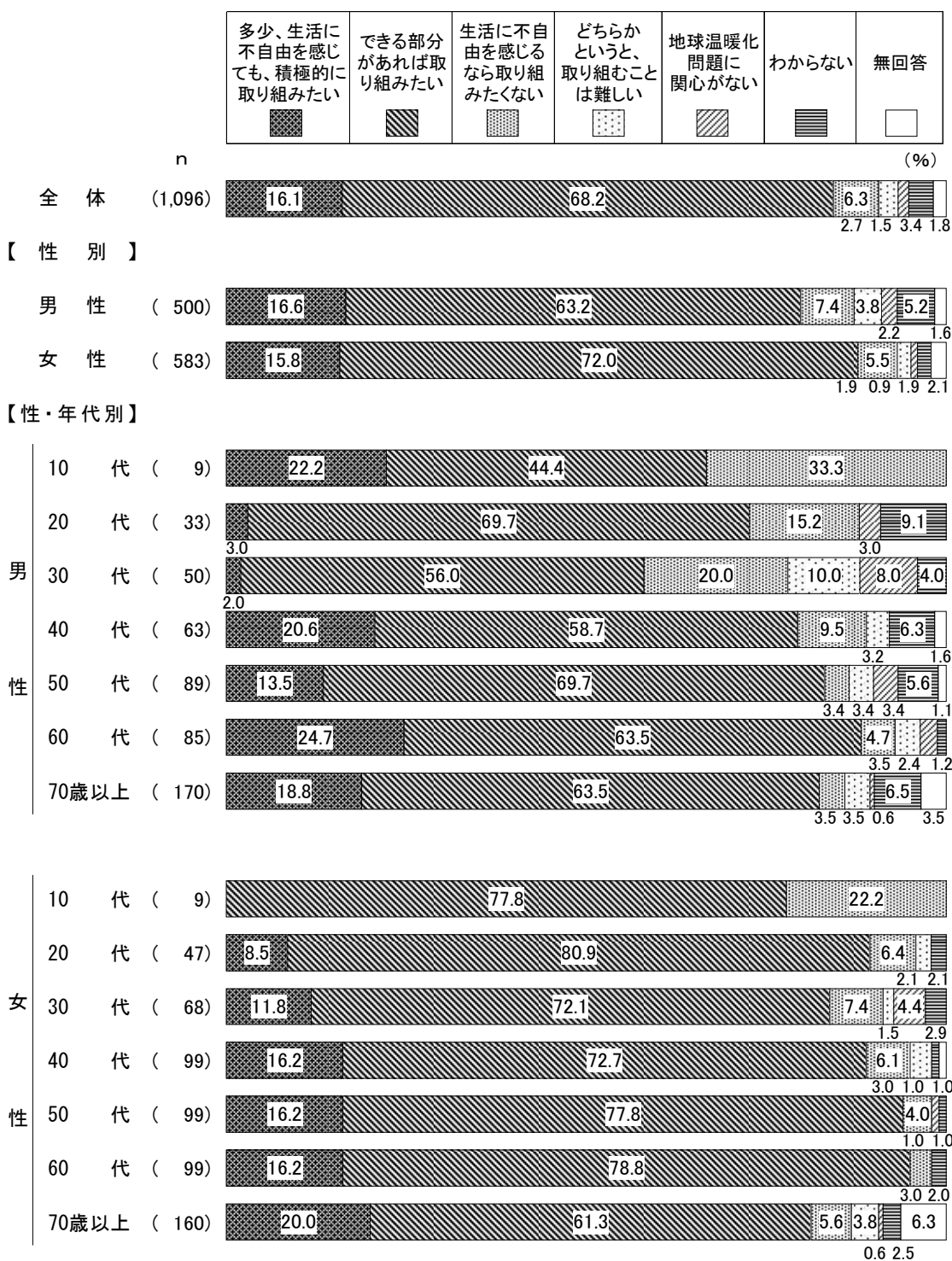


※「地球温暖化問題に関心がない」は、平成25年度調査から追加された選択肢。

地球温暖化問題について聞いたところ、「できる部分があれば取り組みたい」(68.2%)が7割近くで最も高く、次いで「多少、生活に不自由を感じても、積極的に取り組みたい」(16.1%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「生活に不自由を感じるなら取り組みたくない」は令和元年度調査より3.0ポイント増加している。一方、「多少、生活に不自由を感じても、積極的に取り組みたい」は令和元年度調査より5.0ポイント減少している。(図8-1-1)

図8-1-2 地球温暖化問題への関心（性・年代別）



※0.0%の項目については記載を省略

性別にみると、「できる部分があれば取り組みたい」は女性（72.0%）が男性（63.2%）より8.8ポイント高くなっている。

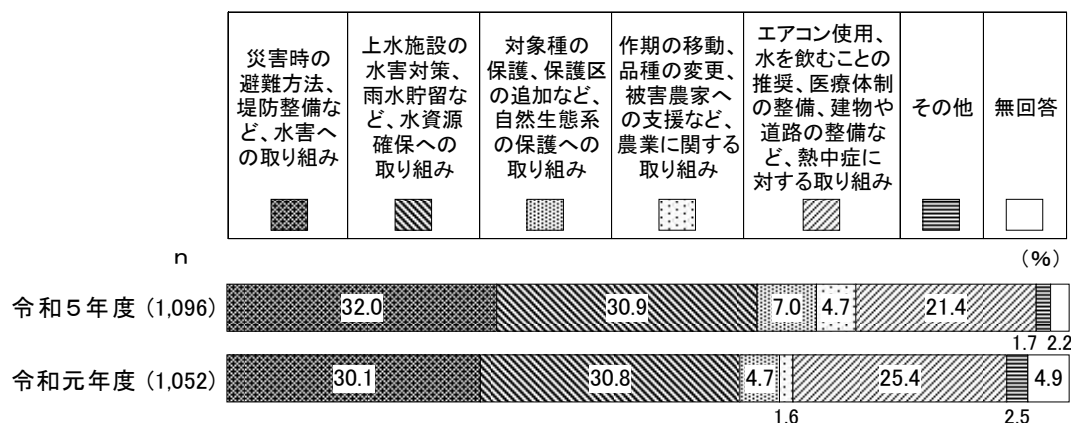
性・年代別にみると、「多少、生活に不自由を感じても、積極的に取り組みたい」は男性60代（24.7%）で2割半ばと高くなっている。「できる部分があれば取り組みたい」は女性20代（80.9%）で約8割と高くなっている。「生活に不自由を感じるなら取り組みたくない」は男性30代（20.0%）で2割と高くなっている。（図8-1-2）

(2) 気候変動への適応策

Q31 気候変動などに対して昭島市が行う適応策として、特に必要だと思う取り組みは何ですか。次の中から1つだけ選んでください。(n=1,096)

※近年、集中豪雨や干ばつといった異常気象が各地で発生し、私たちの暮らしや健康、産業、自然への影響が懸念されています。こういった気候変動に対し、温室効果ガスの排出抑制といった「緩和策」のほかに、気候変動へ適応していく「適応策」が求められています。

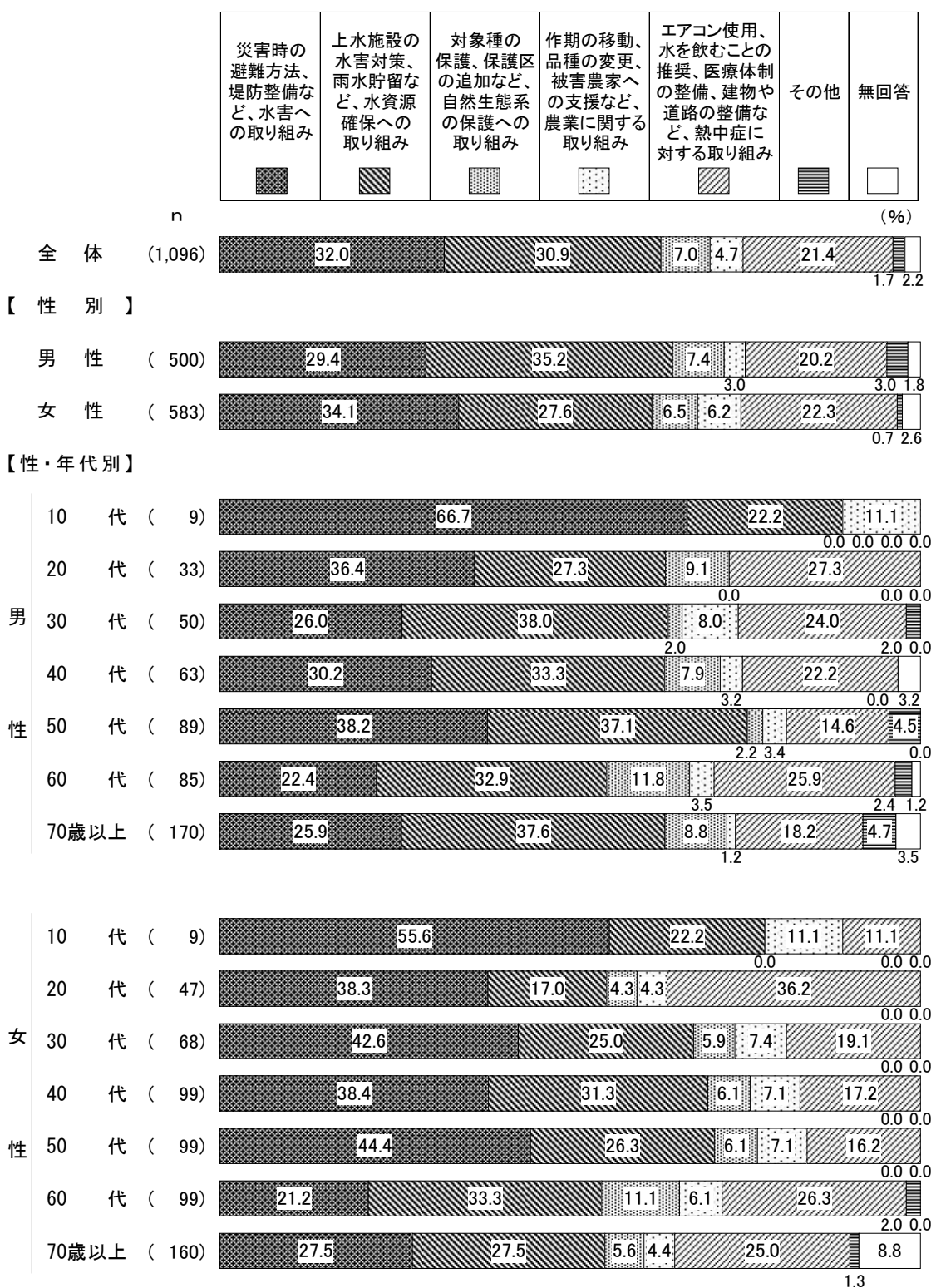
図8-2-1 気候変動への適応策（全体、過年度比較）



気候変動などに対して昭島市が行う適応策として、特に必要だと思う取り組みを聞いたところ、「災害時の避難方法、堤防整備など、水害への取り組み」(32.0%)が3割以上で最も高く、次いで「上水施設の水害対策、雨水貯留など、水資源確保への取り組み」(30.9%)、「エアコン使用、水を飲むことの推奨、医療体制の整備、建物や道路の整備など、熱中症に対する取り組み」(21.4%)、「対象種の保護、保護区の追加など、自然生態系の保護への取り組み」(7.0%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「作期の移動、品種の変更、被害農家への支援など、農業に関する取り組み」は令和元年度調査より3.1ポイント増加している。一方、「エアコン使用、水を飲むことの推奨、医療体制の整備、建物や道路の整備など、熱中症に対する取り組み」は令和元年度調査より4.0ポイント減少している。(図8-2-1)

図8-2-2 気候変動への適応策（性・年代別）



性別にみると、「上水施設の水害対策、雨水貯留など、水資源確保への取り組み」は男性（35.2%）が女性（27.6%）より7.6ポイント高くなっている。一方、「災害時の避難方法、堤防整備など、水害への取り組み」は女性（34.1%）が男性（29.4%）より4.7ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「災害時の避難方法、堤防整備など、水害への取り組み」は女性50代（44.4%）で4割半ばと高くなっている。「エアコン使用、水を飲むことの推奨、医療体制の整備、建物や道路の整備など、熱中症に対する取り組み」は女性20代（36.2%）で4割近くと高くなっている。

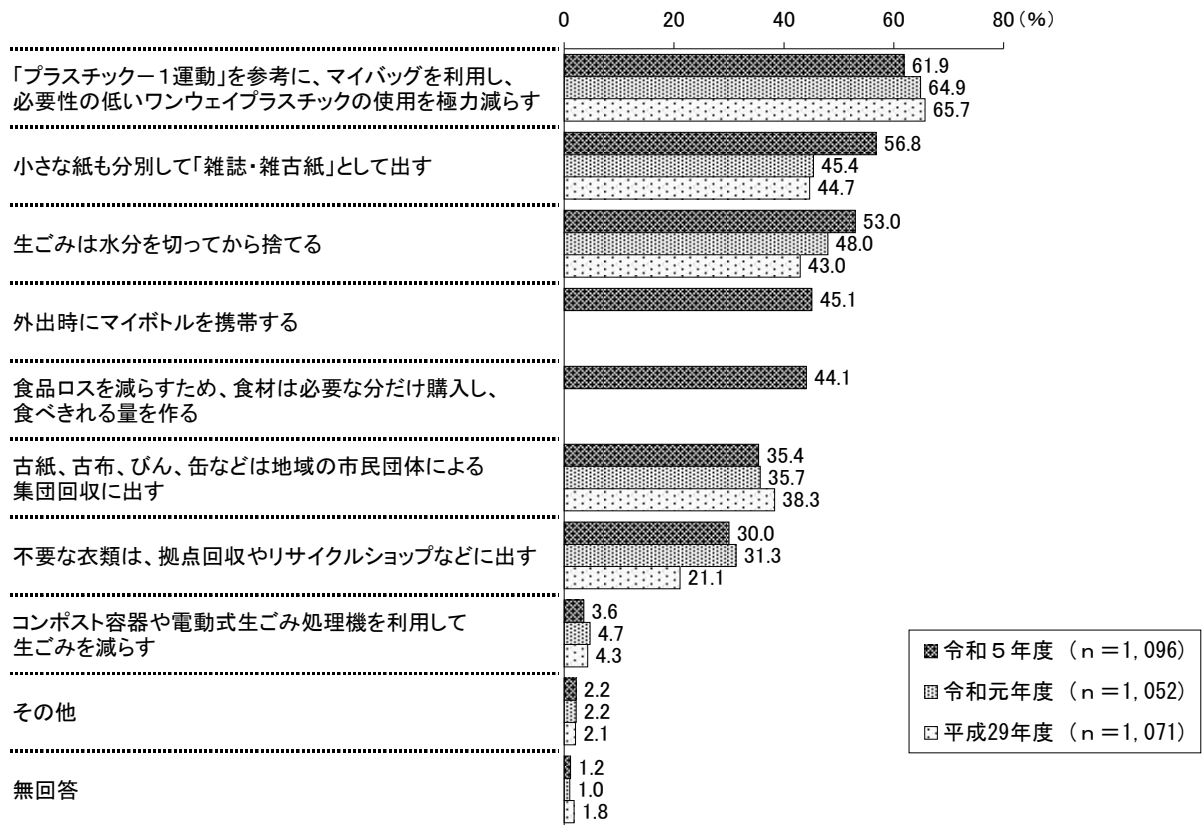
（図8-2-2）

(3) ごみ減量化への取り組み

Q32 あなたは、ごみの減量化のために、日頃からどのようなことに取り組んでいますか。
次の中からあてはまるものをいくつでも選んでください。(n=1,096)

※昭島市は、可燃ごみの処理について、現在の清掃センターに修繕を施し、焼却処理を継続
しています。施設を安定稼働していくために、更なるごみの減量化が必要です。

図 8-3-1 ごみ減量化への取り組み（全体、過年度比較）

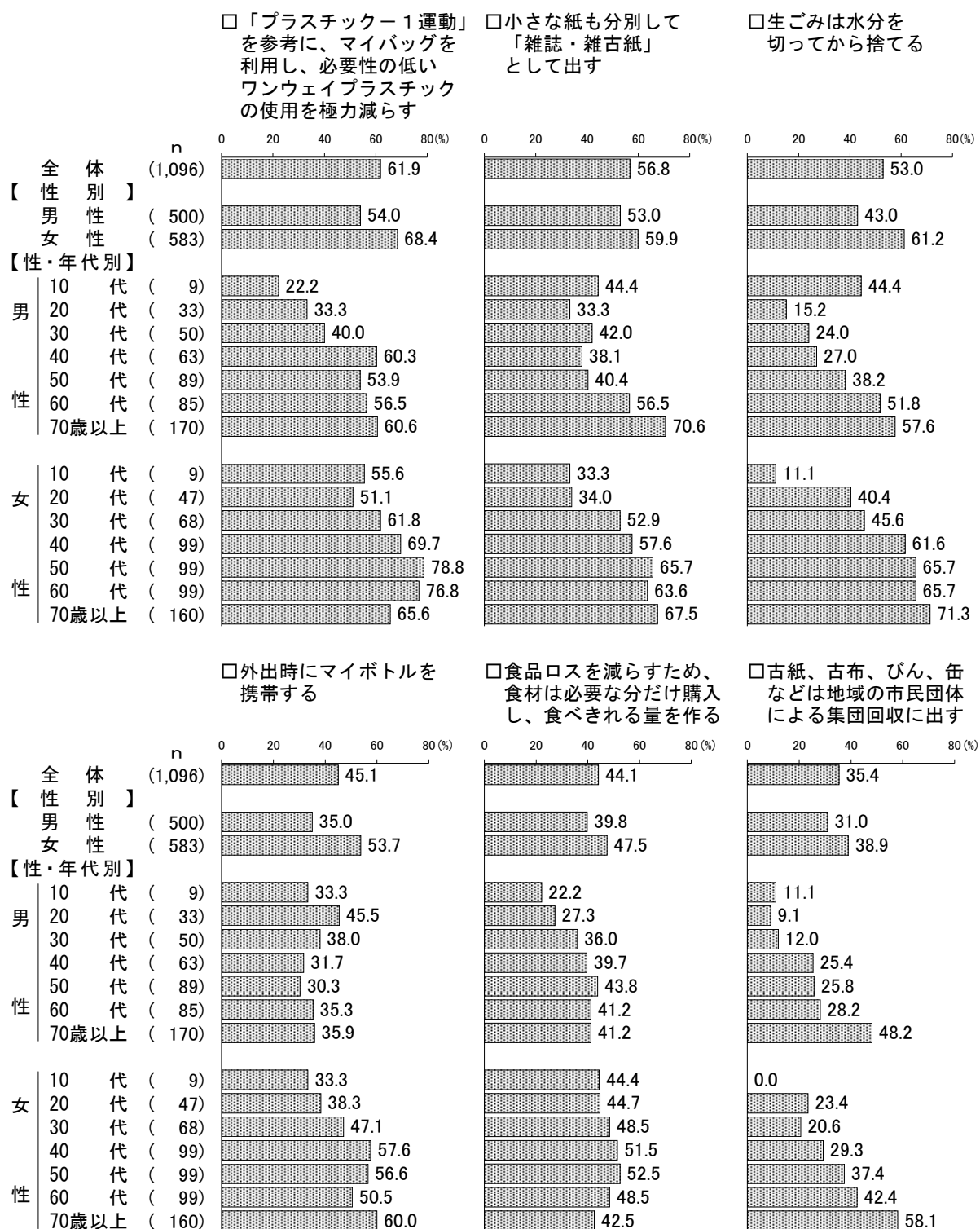


- ※ 『『プラスチック1運動』を参考に、マイバッグを利用し、必要性の低いワンウェイプラスチックの使用を極力減らす』は、令和元年度調査までは「買い物にはマイバッグを持参し、レジ袋はもらわない」となっていた。
- ※ 「小さな紙も分別して『雑誌・雑古紙』として出す」は、令和元年度調査までは「メモ紙などの小さな紙も可燃ごみとせず、『雑誌・雑古紙』として出す」となっていた。
- ※ 「生ごみは水分を切ってから捨てる」は、令和元年度調査までは「生ごみは、『水切り』を徹底する」となっていた。
- ※ 「外出時にマイボトルを携帯する」と「食品ロスを減らすため、食材は必要な分だけ購入し、食べきれぬ量を作る」は、令和5年度調査から追加された選択肢。
- ※ 「不要な衣類は、拠点回収やリサイクルショップなどに出す」は、平成29年度調査では「衣類や家具等の不用品は、リサイクルショップやフリーマーケットに出す」となっていた。

ごみの減量化のために、日頃からどのようなことに取り組んでいるか聞いたところ、『『プラスチック1運動』を参考に、マイバッグを利用し、必要性の低いワンウェイプラスチックの使用を極力減らす』（61.9%）が6割以上で最も高く、次いで「小さな紙も分別して『雑誌・雑古紙』として出す」（56.8%）、「生ごみは水分を切ってから捨てる」（53.0%）、「外出時にマイボトルを携帯する」（45.1%）の順となっている。

過去の調査との比較は、選択肢が大幅に異なるため、参考に図示する。(図 8-3-1)

図8-3-2 ごみ減量化への取り組み（性・年代別）－上位6項目



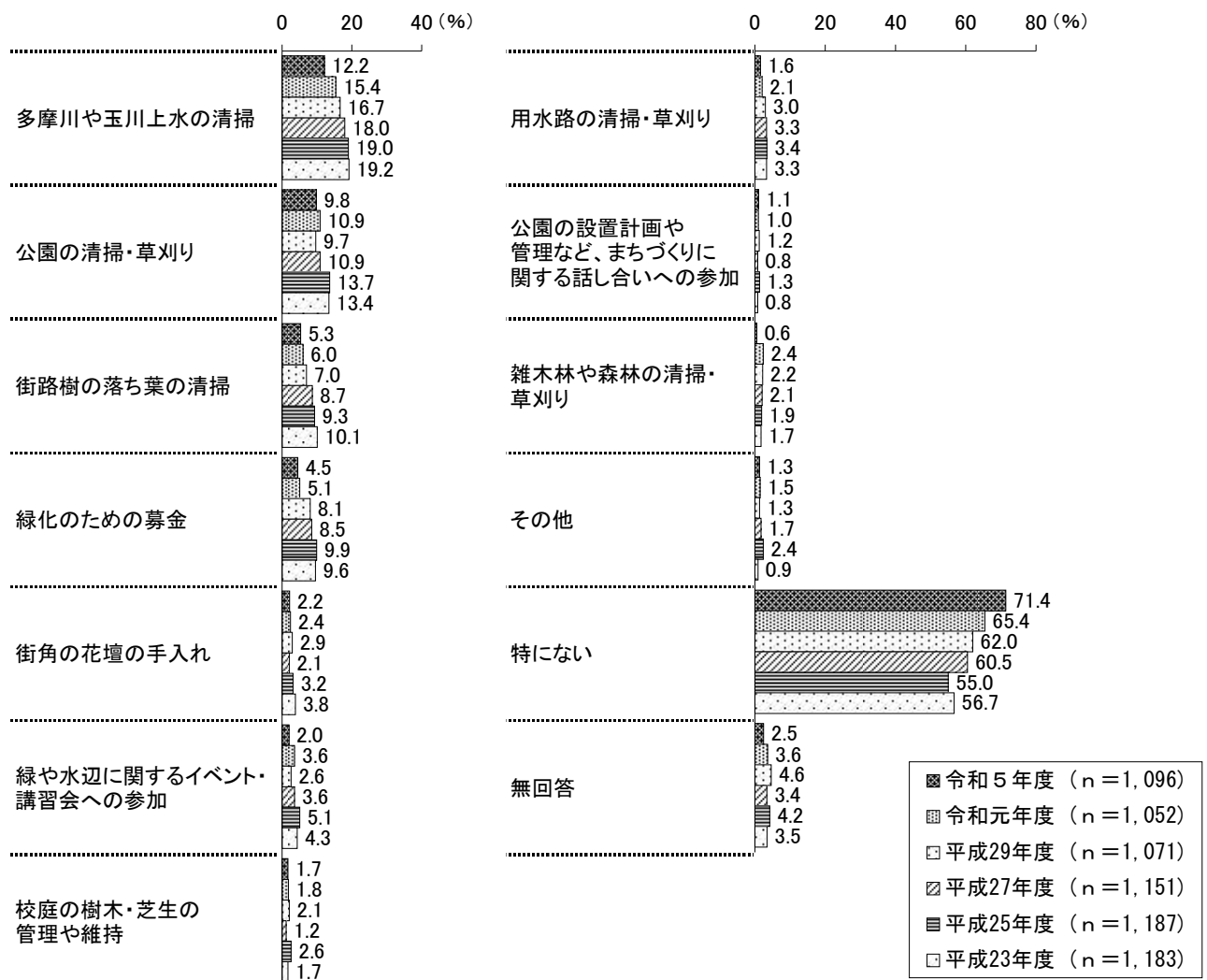
性別にみると、「外出時にマイボトルを携帯する」は女性（53.7%）が男性（35.0%）より18.7ポイント、「生ごみは水分を切ってから捨てる」は女性（61.2%）が男性（43.0%）より18.2ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「『プラスチック1運動』を参考に、マイバッグを利用し、必要性の低いワンウェイプラスチックの使用を極力減らす」は女性50代（78.8%）と女性60代（76.8%）で8割近くと高くなっている。「生ごみは水分を切ってから捨てる」は男女ともにおおむね年代が高くなるほど割合が高く、女性70歳以上（71.3%）で7割以上となっている。（図8-3-2）

(4) 水と緑に関する市民活動

Q33 あなたは、今までに、昭島市における水と緑に関する市民活動に参加したことがありますか。次の中からあてはまるものをいくつでも選んでください。(n=1,096)

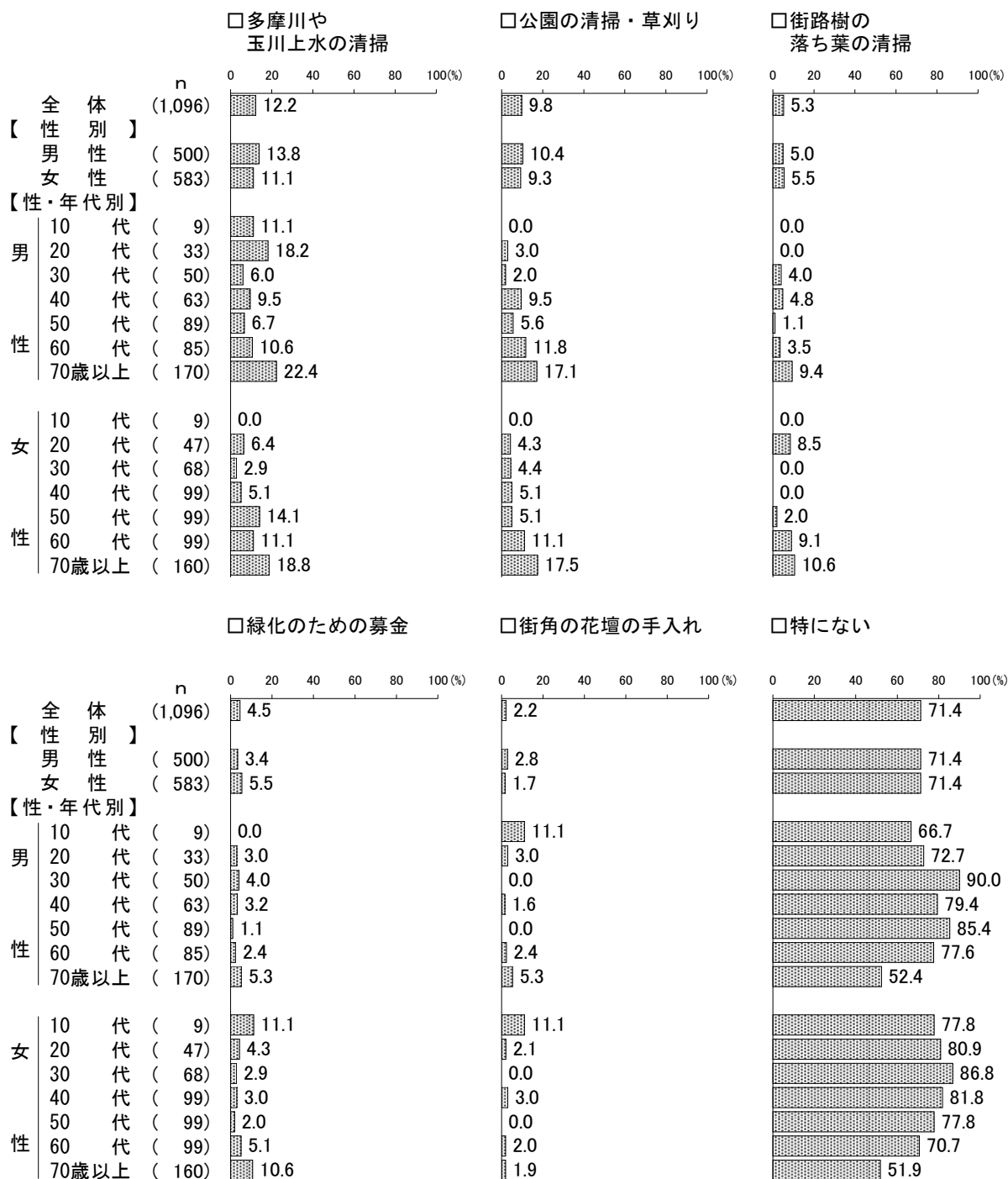
図8-4-1 水と緑に関する市民活動（全体、過年度比較）



昭島市における水と緑に関する市民活動に参加したことがあるか聞いたところ、「多摩川や玉川上水の清掃」(12.2%)が1割以上で最も高く、次いで「公園の清掃・草刈り」(9.8%)、「街路樹の落ち葉の清掃」(5.3%)、「緑化のための募金」(4.5%)の順となっている。一方、「特にない」(71.4%)は7割以上となっている。

過去の調査と比較すると、「特にない」は令和元年度調査より6.0ポイント増加している。一方、「多摩川や玉川上水の清掃」は令和元年度調査より3.2ポイント減少している。(図8-4-1)

図8-4-2 水と緑に関する市民活動（性・年代別）－上位5項目＋「特にない」



性別にみると、大きな違いはみられない。

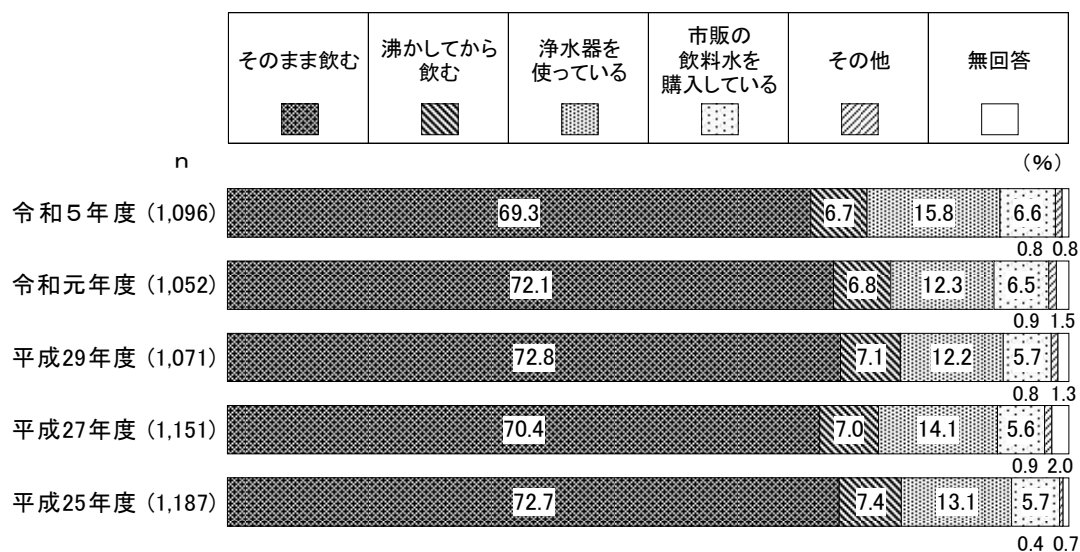
性・年代別にみると、「多摩川や玉川上水の清掃」は男性70歳以上（22.4%）で2割以上と高くなっている。「特にない」は男性30代（90.0%）で9割と高くなっている。（図8-4-2）

9 昭島の水道水

(1) 水道水の飲用状況

Q34 あなたは、深層地下水100%の昭島市の水道水をそのまま飲みますか。次の中から1つだけ選んでください。 (n=1,096)

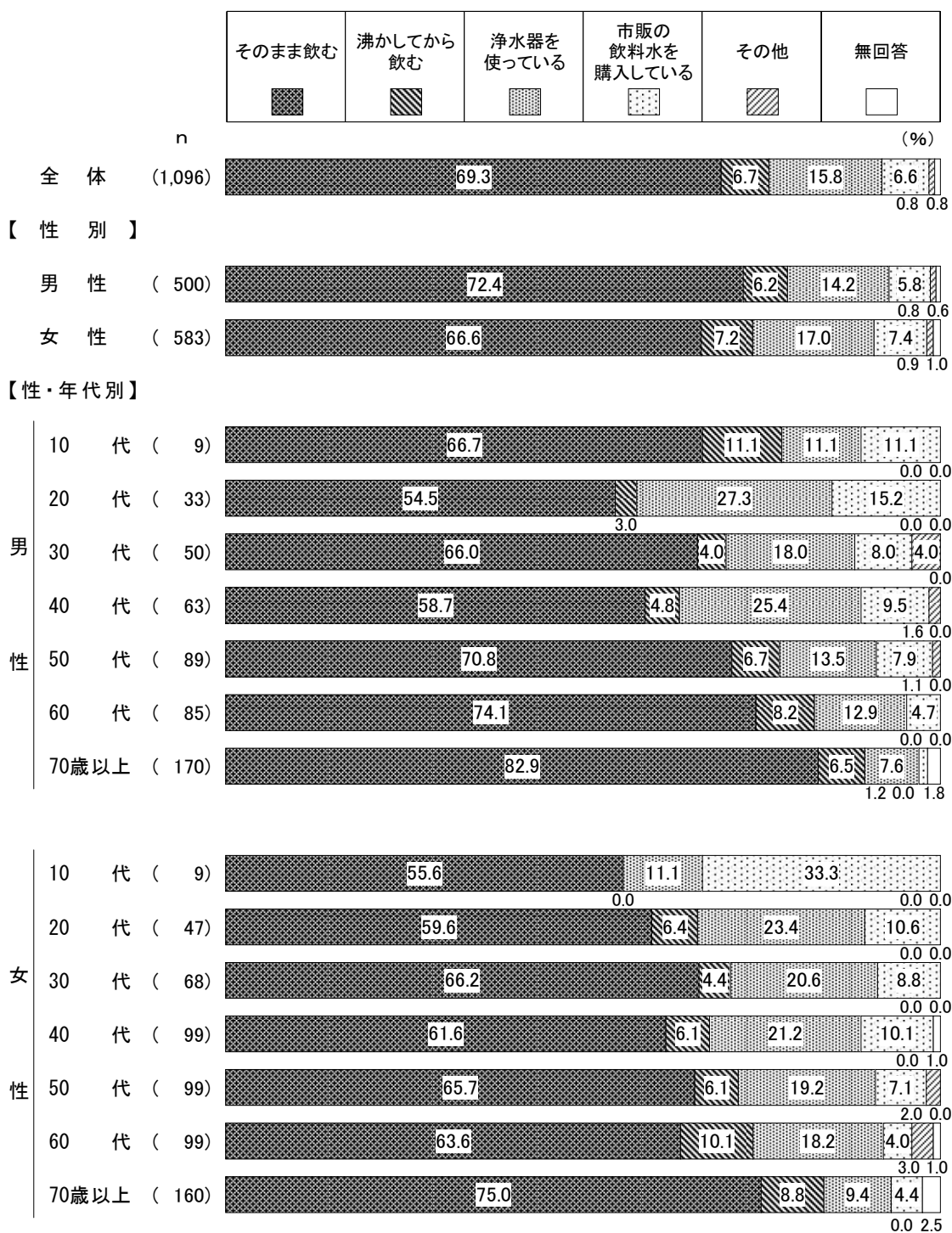
図9-1-1 水道水の飲用状況（全体、過年度比較）



昭島市の水道水をそのまま飲むか聞いたところ、「そのまま飲む」(69.3%)が約7割で最も高く、次いで「浄水器を使っている」(15.8%)、「沸かしてから飲む」(6.7%)、「市販の飲料水を購入している」(6.6%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「浄水器を使っている」は令和元年度調査より3.5ポイント増加している。(図9-1-1)

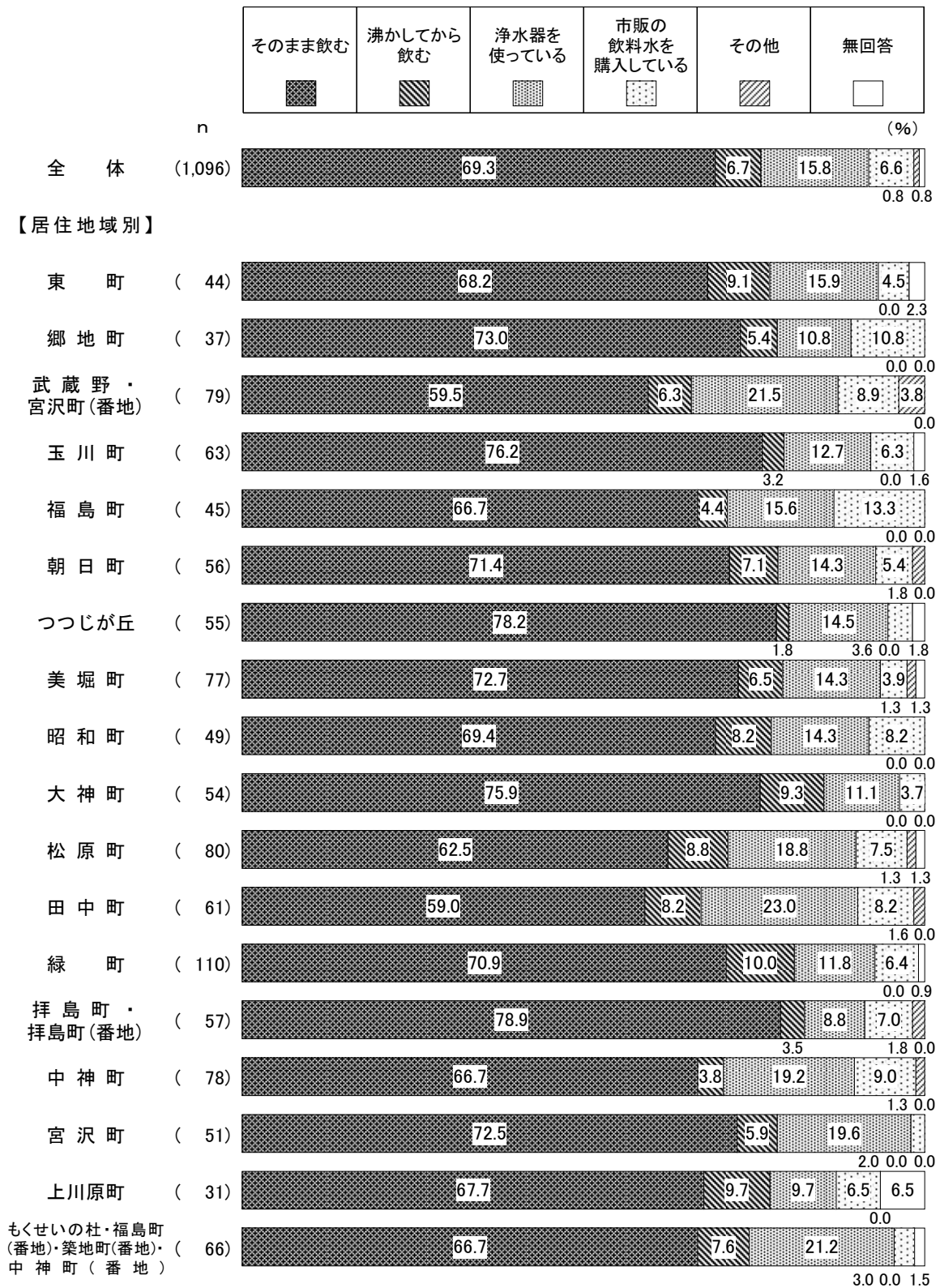
図9-1-2 水道水の飲用状況（性・年代別）



性別にみると、「そのまま飲む」は男性（72.4%）が女性（66.6%）より5.8ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「そのまま飲む」は男性70歳以上（82.9%）で8割以上と高くなっている。「浄水器を使っている」は男性20代（27.3%）で3割近くと高くなっている。（図9-1-2）

図9-1-3 水道水の飲用状況（居住地域別）



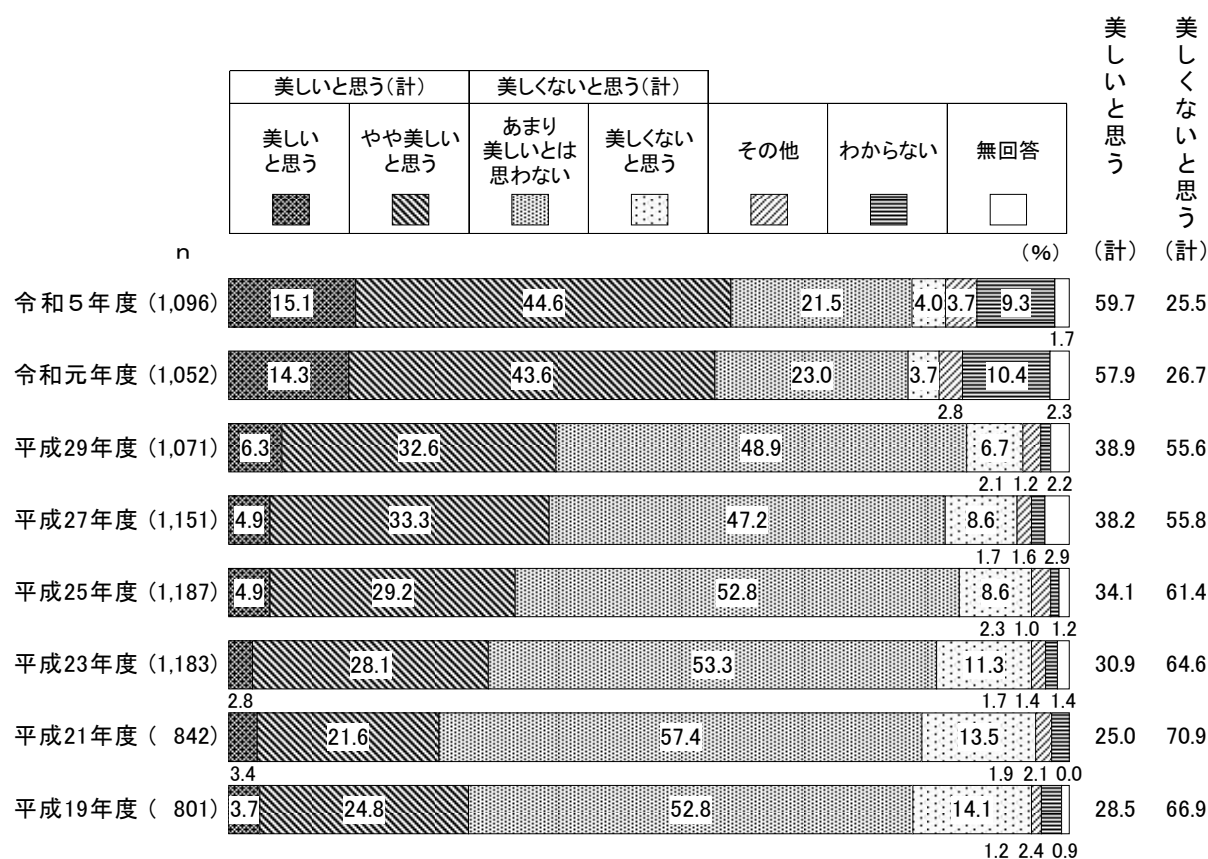
居住地域別にみると、「そのまま飲む」は拝島町・拝島町(番地) (78.9%)、つつじが丘 (78.2%)、玉川町 (76.2%) で8割近くと高くなっている。「浄水器を使っている」は田中町 (23.0%)、武蔵野・宮沢町(番地) (21.5%)、もくせいの杜・福島町(番地)・築地町(番地)・中神町(番地) (21.2%) で2割以上と高くなっている。(図9-1-3)

10 都市景観

(1) 昭島のまちなみや景観に対する意識

Q35 あなたは、昭島のまちなみや景観に関して、どのように感じていますか。次の中から1つだけ選んでください。
(n=1,096)

図10-1-1 昭島のまちなみや景観に対する意識（全体、過年度比較）

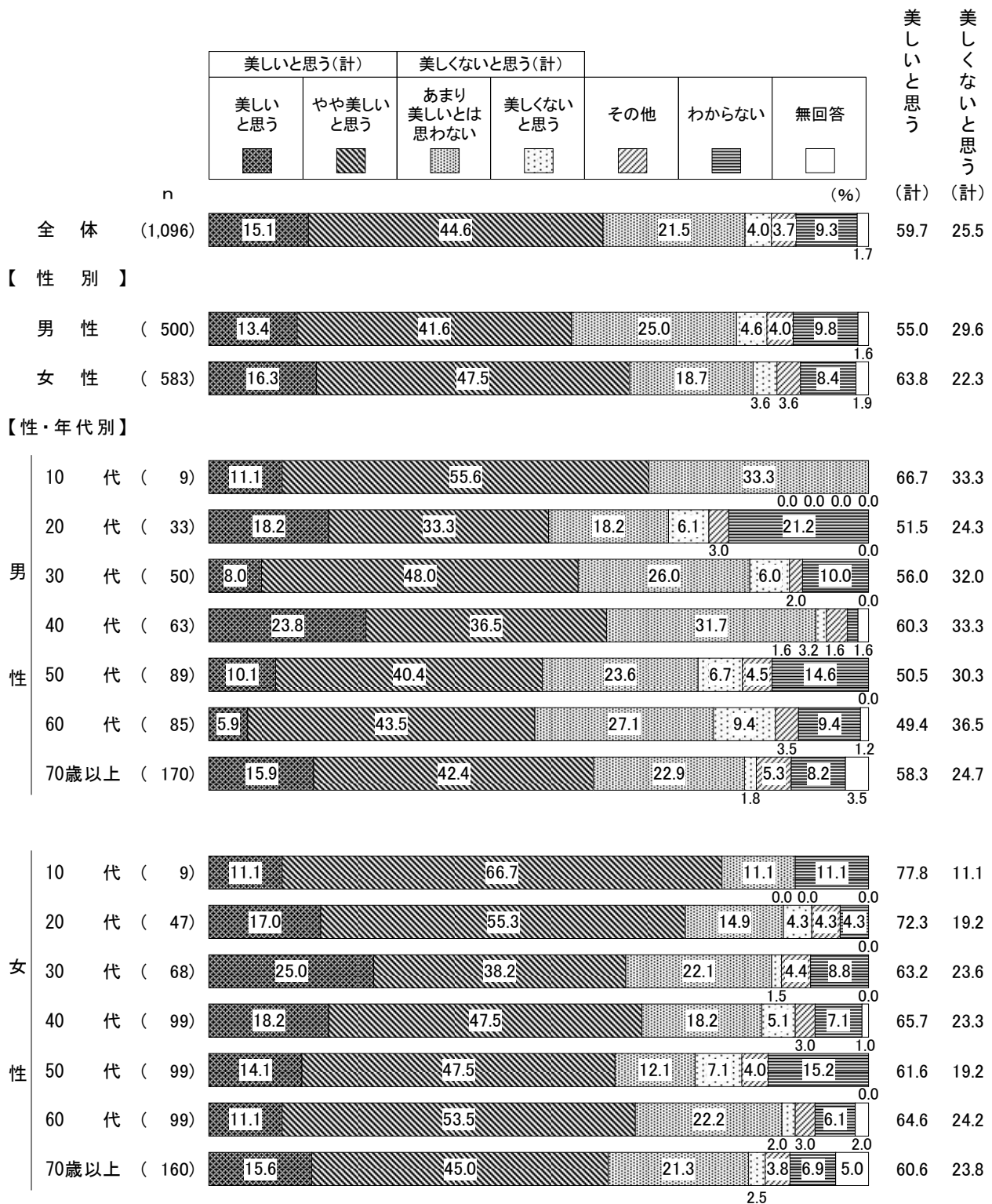


- ※「美しいと思う」は、平成29年度調査までは「たいへん美しいと思う」となっていた。
- ※「やや美しいと思う」は、平成29年度調査までは「まあまあ美しいと思う」となっていた。
- ※「あまり美しいとは思わない」の平成29年度調査までの値は、「普通である」の値となっている。
- ※「美しくないと思う」は、平成29年度調査までは「美しいとは思わない」となっていた。

昭島のまちなみや景観に関して、どのように感じているか聞いたところ、「美しいと思う」(15.1%)と「やや美しいと思う」(44.6%)を合わせた『美しいと思う(計)』(59.7%)は約6割となっている。一方、「あまり美しいとは思わない」(21.5%)と「美しくないと思う」(4.0%)を合わせた『美しくないと思う(計)』(25.5%)は2割半ばとなっている。

過去の調査と比較すると、令和元年度調査と大きな違いはみられない。(図10-1-1)

図10-1-2 昭島のまちなみや景観に対する意識（性・年代別）



性別にみると、『美しいと思う（計）』は女性（63.8%）が男性（55.0%）より8.8ポイント高くなっている。一方、『美しくないと思う（計）』は男性（29.6%）が女性（22.3%）より7.3ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『美しいと思う（計）』は女性20代（72.3%）で7割以上と高くなっている。一方、『美しくないと思う（計）』は男性60代（36.5%）で4割近くと高くなっている。

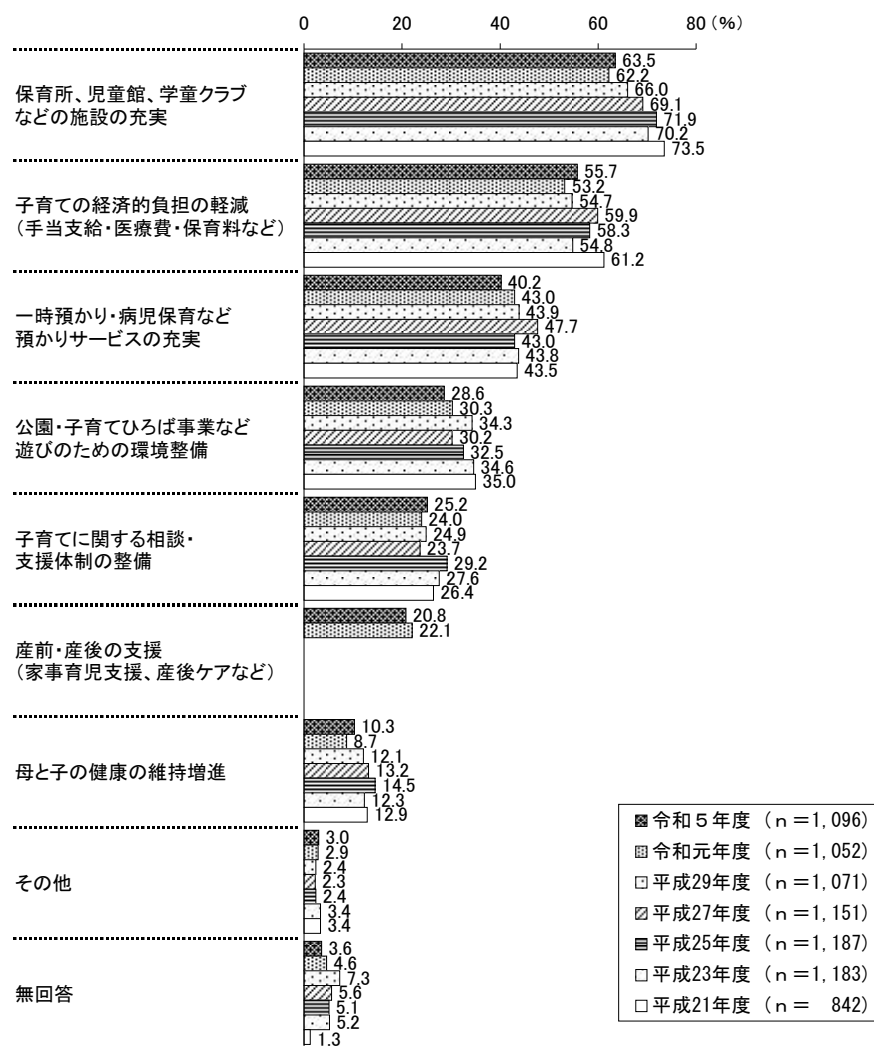
(図10-1-2)

11 少子高齢化

(1) 子育てをしやすい環境づくりに必要なこと

Q36 あなたが、子育てをしやすい環境をつくるために必要だと思うものを、次の中から3つまで選んでください。
(n=1,096)

図11-1-1 子育てをしやすい環境づくりに必要なこと（全体、過年度比較）



※「一時預かり・病児保育など預かりサービスの充実」は、平成21年度調査から平成25年度調査までは「保育時間延長・病後児保育などのサービスの充実」、平成27年度調査から令和元年度調査までは「保育時間延長・一時預かり・病後児保育などのサービスの充実」となっていた。

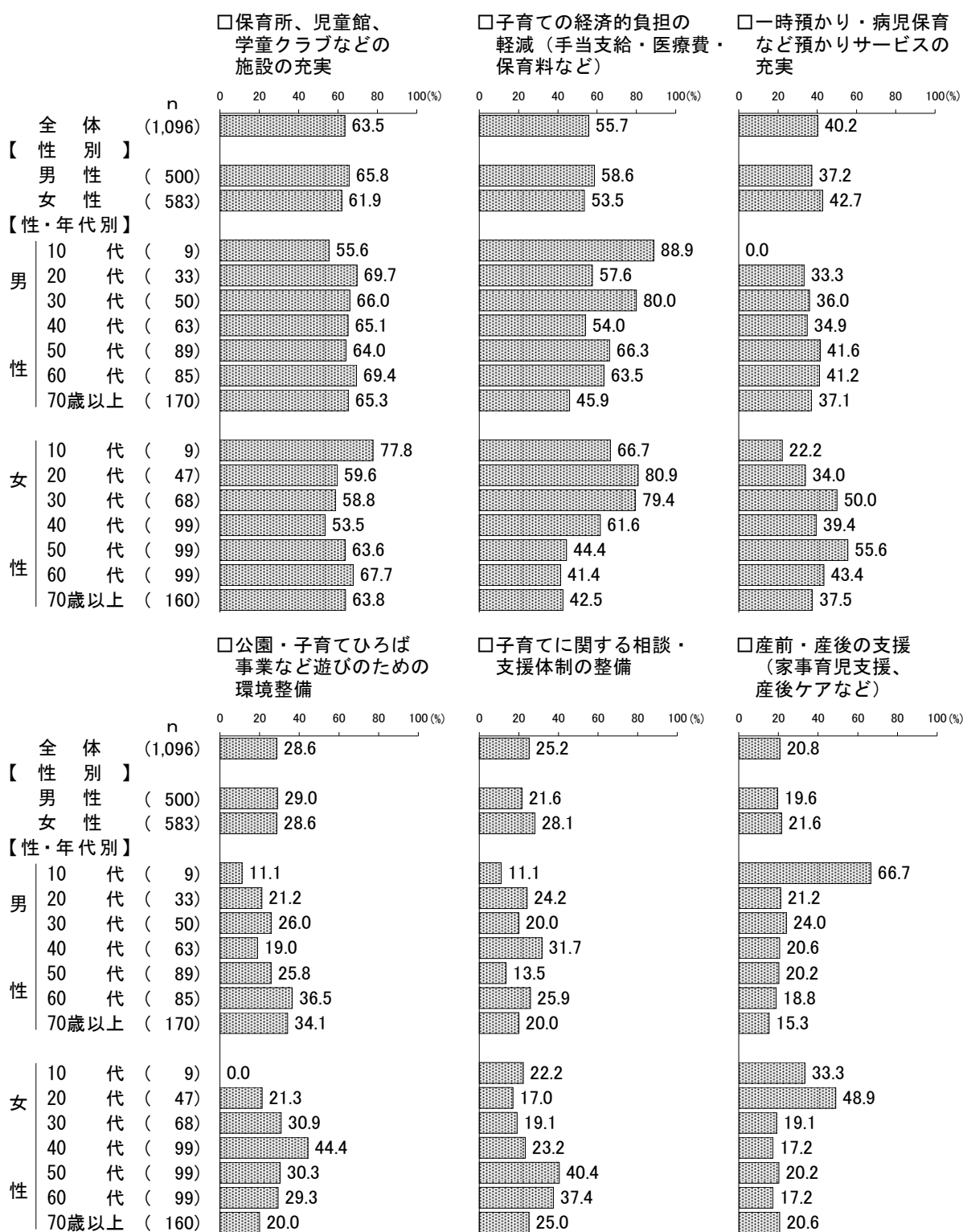
※「公園・子育てひろば事業など遊びのための環境整備」は、平成元年度調査までは「公園など、子どもの遊びのための環境整備」となっていた。

※「産前・産後の支援 (家事育児支援、産後ケアなど)」は、令和元年度調査から追加された選択肢で、令和元年度調査では「妊娠期からの支援 (産前・産後サポートなど)」となっていた。

子育てをしやすい環境をつくるために必要だと思うものを聞いたところ、「保育所、児童館、学童クラブなどの施設の充実」(63.5%)が6割以上で最も高く、次いで「子育ての経済的負担の軽減(手当支給・医療費・保育料など)」(55.7%)、「一時預かり・病児保育など預かりサービスの充実」(40.2%)、「公園・子育てひろば事業など遊びのための環境整備」(28.6%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、令和元年度調査と大きな違いはみられない。(図11-1-1)

図11-1-2 子育てをしやすい環境づくりに必要なこと（性・年代別）－上位6項目



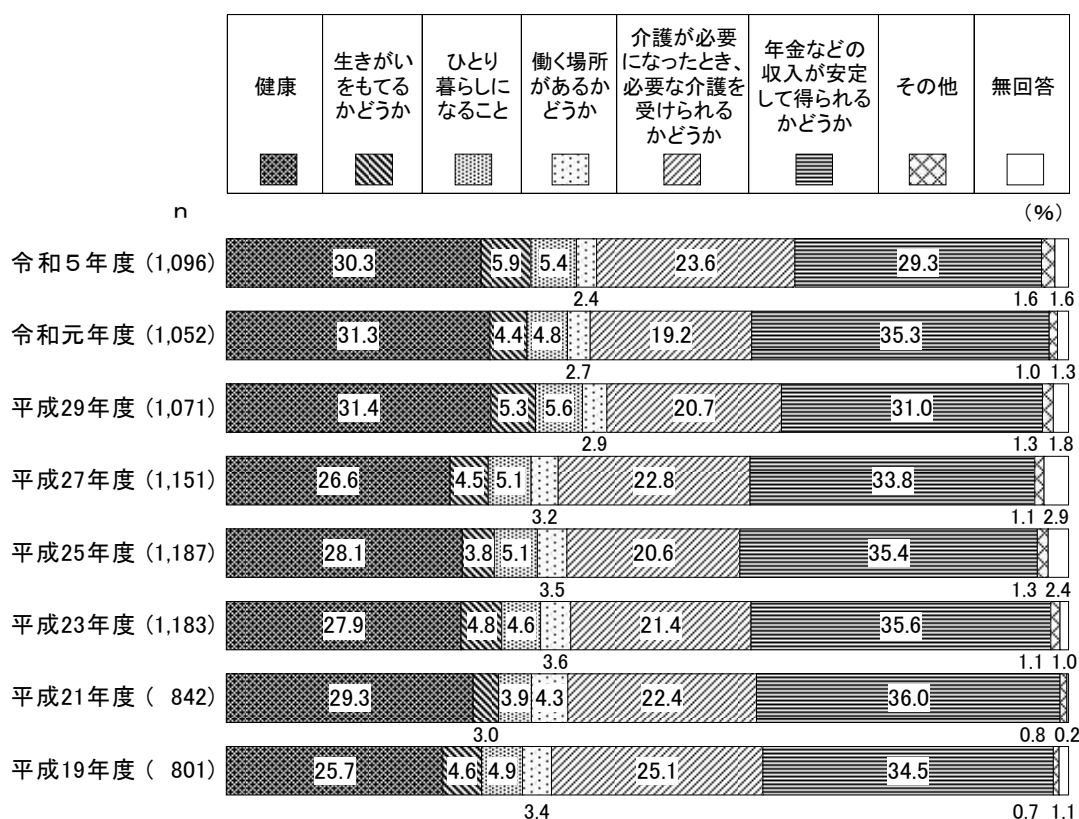
性別にみると、「子育てに関する相談・支援体制の整備」は女性（28.1%）が男性（21.6%）より6.5ポイント高くなっている。一方、「子育ての経済的負担の軽減（手当支給・医療費・保育料など）」は男性（58.6%）が女性（53.5%）より5.1ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「保育所、児童館、学童クラブなどの施設の充実」は男性20代（69.7%）と男性60代（69.4%）で約7割と高くなっている。「子育ての経済的負担の軽減（手当支給・医療費・保育料など）」は女性20代（80.9%）、女性30代（79.4%）、男性30代（80.0%）で約8割と高くなっている。（図11-1-2）

(2) 老後について最も不安に感じること

Q37 あなたが、老後のことを考えた場合、最も不安に感じることはどのようなことですか。
次の中から1つだけ選んでください。(n=1,096)

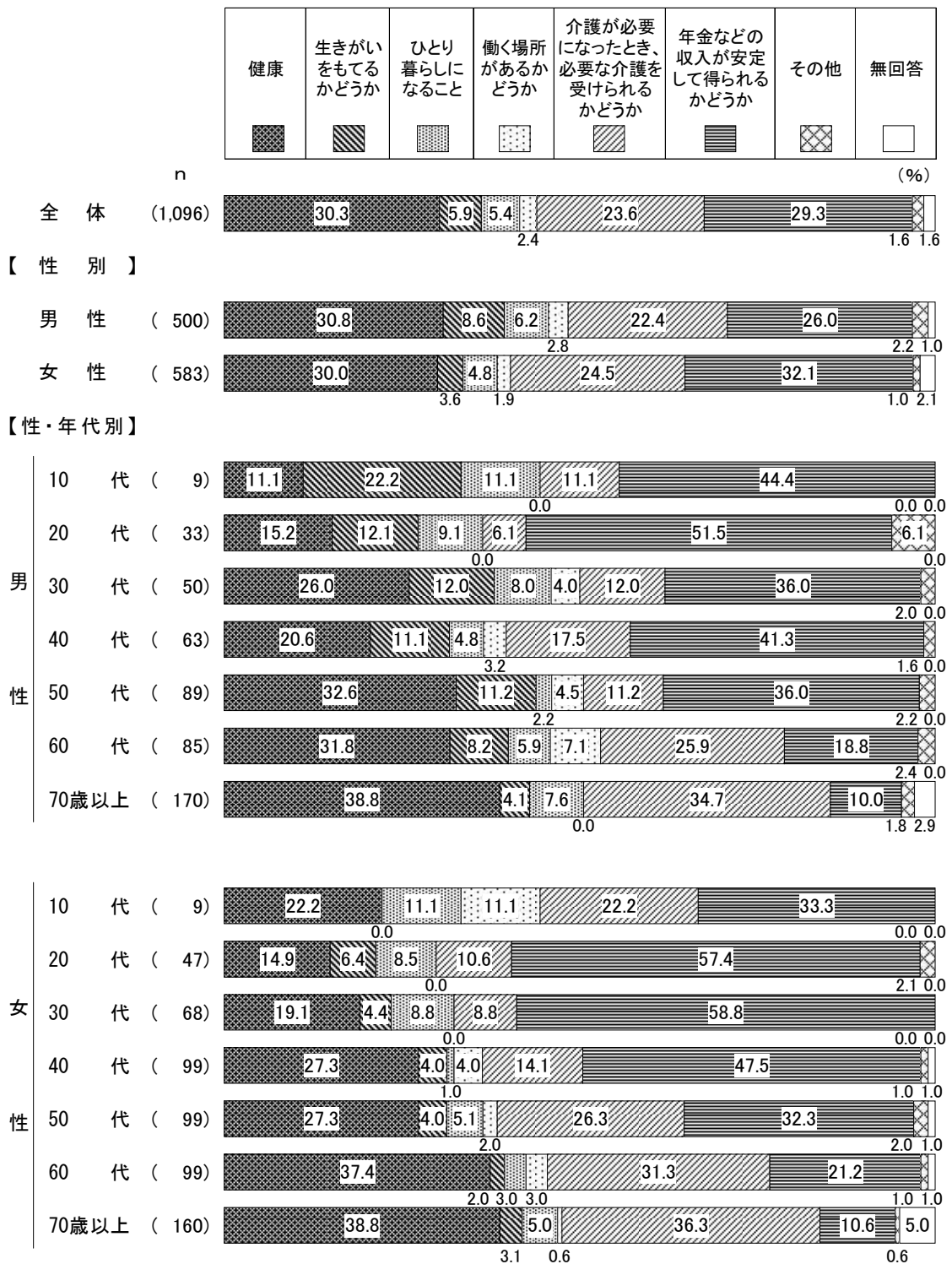
図11-2-1 老後について最も不安に感じること（全体、過年度比較）



老後のことを考えた場合、最も不安に感じることを聞いたところ、「健康」(30.3%)が約3割で最も高く、次いで「年金などの収入が安定して得られるかどうか」(29.3%)、「介護が必要になったとき、必要な介護を受けられるかどうか」(23.6%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「介護が必要になったとき、必要な介護を受けられるかどうか」は令和元年度調査より4.4ポイント増加している。一方、「年金などの収入が安定して得られるかどうか」は令和元年度調査より6.0ポイント減少している。(図11-2-1)

図11-2-2 老後について最も不安に感じること（性・年代別）



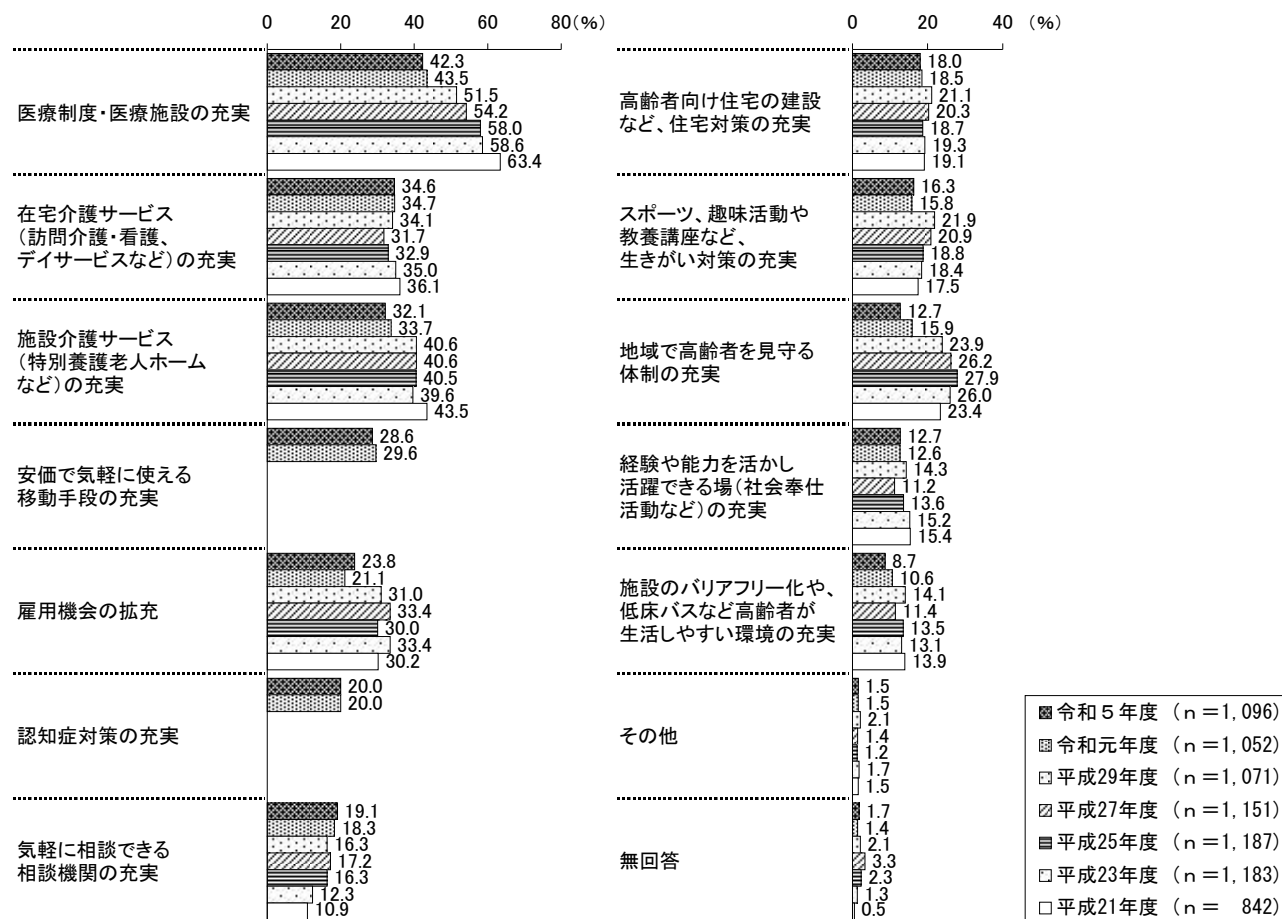
性別にみると、「年金などの収入が安定して得られるかどうか」は女性(32.1%)が男性(26.0%)より6.1ポイント高くなっている。一方、「生きがいをもてるかどうか」は男性(8.6%)が女性(3.6%)より5.0ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「健康」は男性70歳以上(38.8%)、女性60代(37.4%)、女性70歳以上(38.8%)で4割近くと高くなっている。「年金などの収入が安定して得られるかどうか」は女性20代(57.4%)と女性30代(58.8%)で6割近くと高くなっている。(図11-2-2)

(3) 高齢者のための重要な施策

Q38 あなたが、高齢者のための施策として重要だと思うものを、次の中から3つまで選んでください。
(n=1,096)

図11-3-1 高齢者のための重要な施策（全体、過年度比較）



※「在宅介護サービス（訪問介護・看護、デイサービスなど）の充実」は、平成29年度調査までは「介護サービス（在宅・通所）の充実」となっていた。

※「施設介護サービス（特別養護老人ホームなど）の充実」は、平成29年度調査までは「介護サービス（入所施設）の充実」となっていた。

※「安価で気軽に使える移動手段の充実」と「認知症対策の充実」は、令和元年度調査から追加された選択肢。

※「気軽に相談できる相談機関の充実」は、平成29年度調査までは「相談員など、相談機関の充実」としていた。

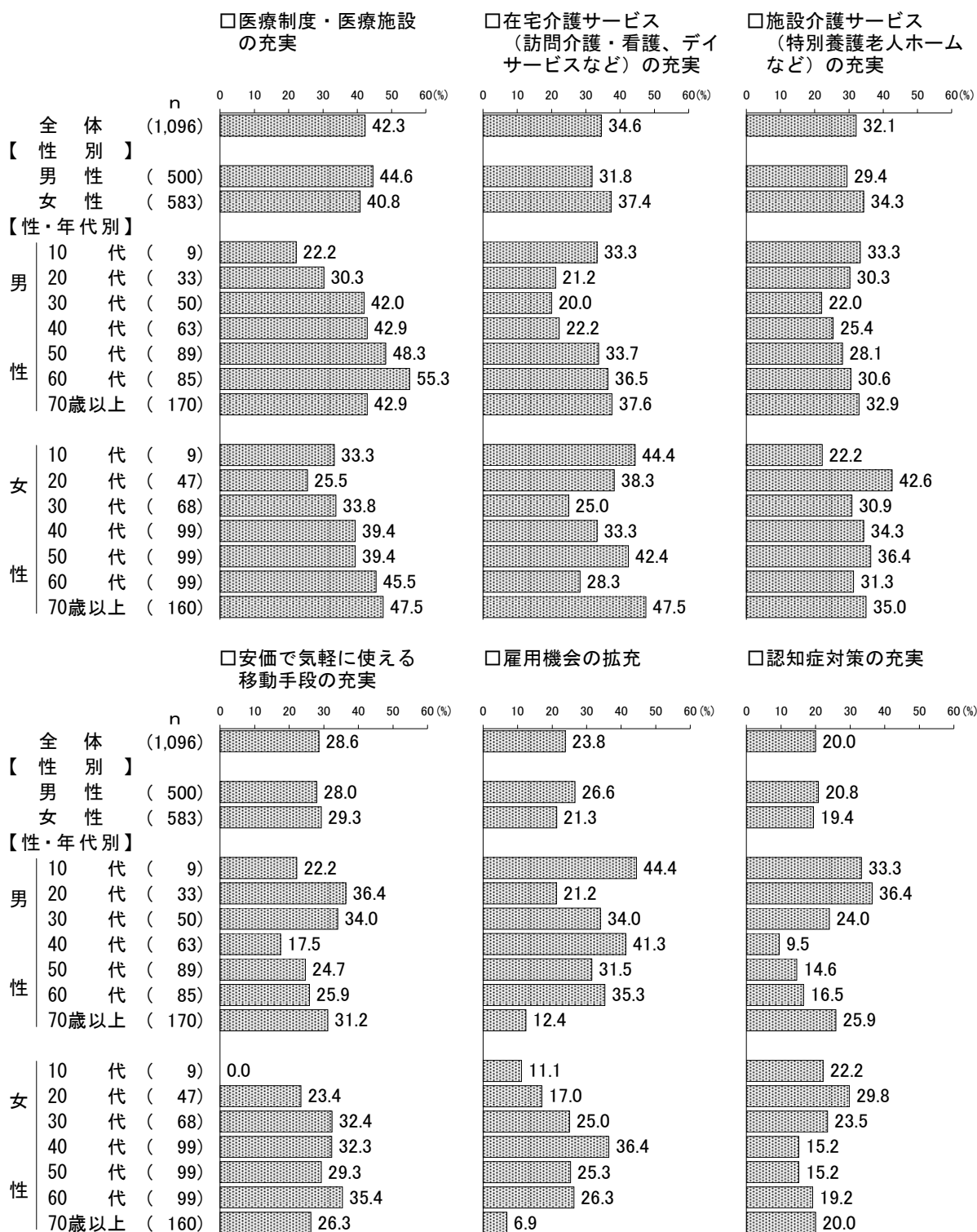
※「経験や能力を活かし活躍できる場（社会奉仕活動など）の充実」は、平成29年度調査までは「経験と能力を生かした社会奉仕活動の促進」となっていた。

※「施設のバリアフリー化や、低床バスなど高齢者が生活しやすい環境の充実」は、平成29年度調査までは「高齢者が利用する施設のバリアフリー化、低床バスなどの導入の推進」となっていた。

高齢者のための施策として重要だと思うものを聞いたところ、「医療制度・医療施設の充実」（42.3%）が4割以上で最も高く、次いで「在宅介護サービス（訪問介護・看護、デイサービスなど）の充実」（34.6%）、「施設介護サービス（特別養護老人ホームなど）の充実」（32.1%）、「安価で気軽に使える移動手段の充実」（28.6%）の順となっている。

過去の調査と比較すると、「地域で高齢者を見守る体制の充実」は令和元年度調査より3.2ポイント減少している。（図11-3-1）

図11-3-2 高齢者のための重要な施策（性・年代別）－上位6項目



性別にみると、「在宅介護サービス（訪問介護・看護、デイサービスなど）の充実」は女性（37.4%）が男性（31.8%）より5.6ポイント高くなっている。一方、「雇用機会の拡充」は男性（26.6%）が女性（21.3%）より5.3ポイント高くなっている。

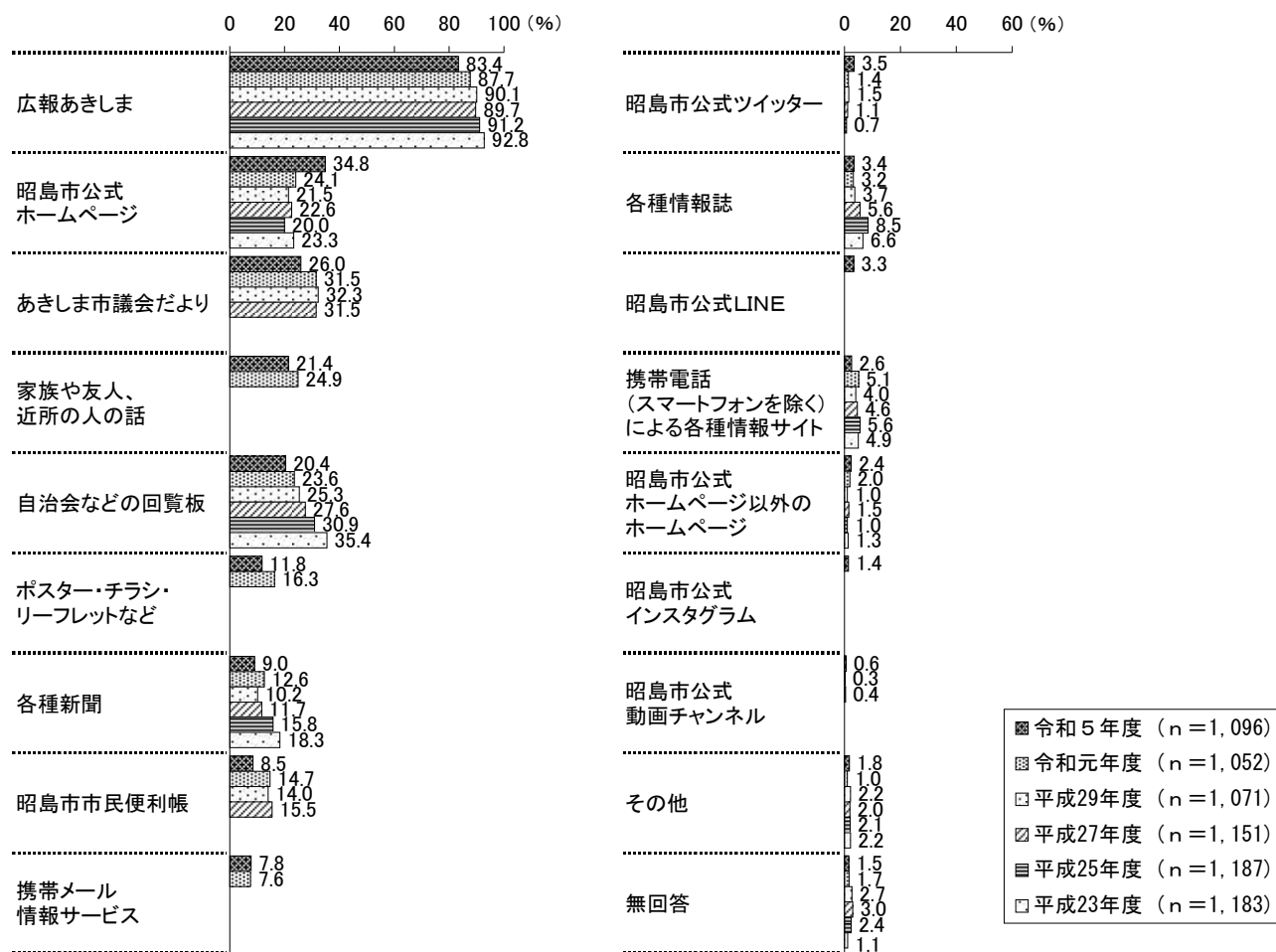
性・年代別にみると、「医療制度・医療施設の充実」は男性60代（55.3%）で5割半ばと高くなっている。「在宅介護サービス（訪問介護・看護、デイサービスなど）の充実」は女性70歳以上（47.5%）で5割近くと高くなっている。「施設介護サービス（特別養護老人ホームなど）の充実」は女性20代（42.6%）で4割以上と高くなっている。（図11-3-2）

12 広報

(1) 市に関わる情報の入手方法

Q39 あなたは、昭島市に関わる情報をどのような方法で入手していますか。次の中からあてはまるものをいくつでも選んでください。
(n=1,096)

図12-1-1 市に関わる情報の入手方法（全体、過年度比較）



※「あきしま市議会だより」と「昭島市市民便利帳」は、平成27年度調査から追加された選択肢。

※「家族や友人、近所の人のお話」、「ポスター・チラシ・リーフレットなど」、「携帯メール情報サービス」は、令和元年度調査から追加された選択肢。

※「昭島市公式ツイッター」は、平成25年度調査から追加された選択肢。

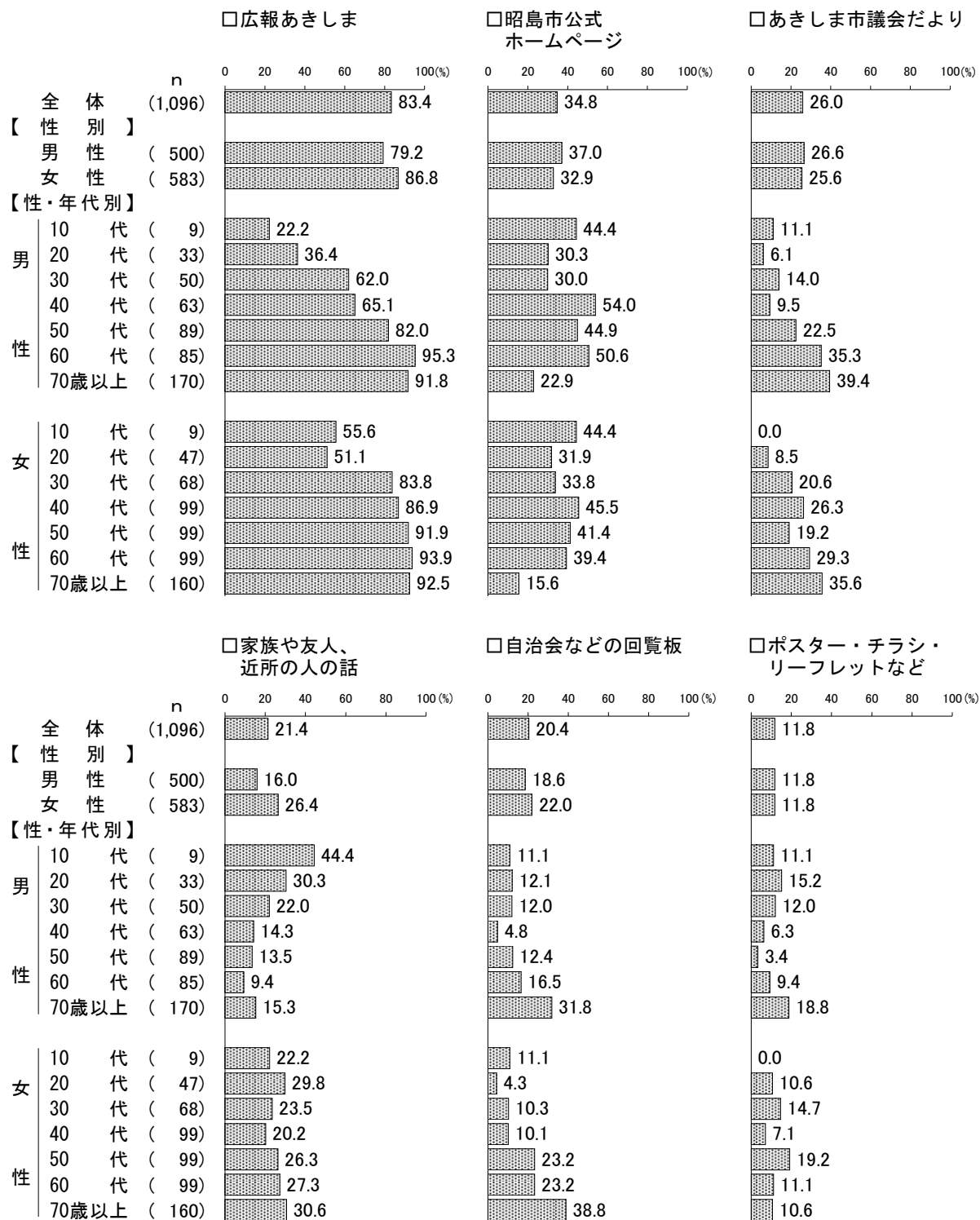
※「昭島市公式LINE」と「昭島市公式Instagram」は、令和5年度調査から追加された選択肢。

※「昭島市公式動画チャンネル」は、平成29年度調査から追加された選択肢。

昭島市に関わる情報をどのような方法で入手しているか聞いたところ、「広報あきしま」(83.4%)が8割以上で最も高く、次いで「昭島市公式ホームページ」(34.8%)、「あきしま市議会だより」(26.0%)、「家族や友人、近所の人のお話」(21.4%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「昭島市公式ホームページ」は令和元年度調査より10.7ポイント増加している。一方、「昭島市市民便利帳」は令和元年度調査より6.2ポイント、「あきしま市議会だより」は令和元年度調査より5.5ポイント、それぞれ減少している。(図12-1-1)

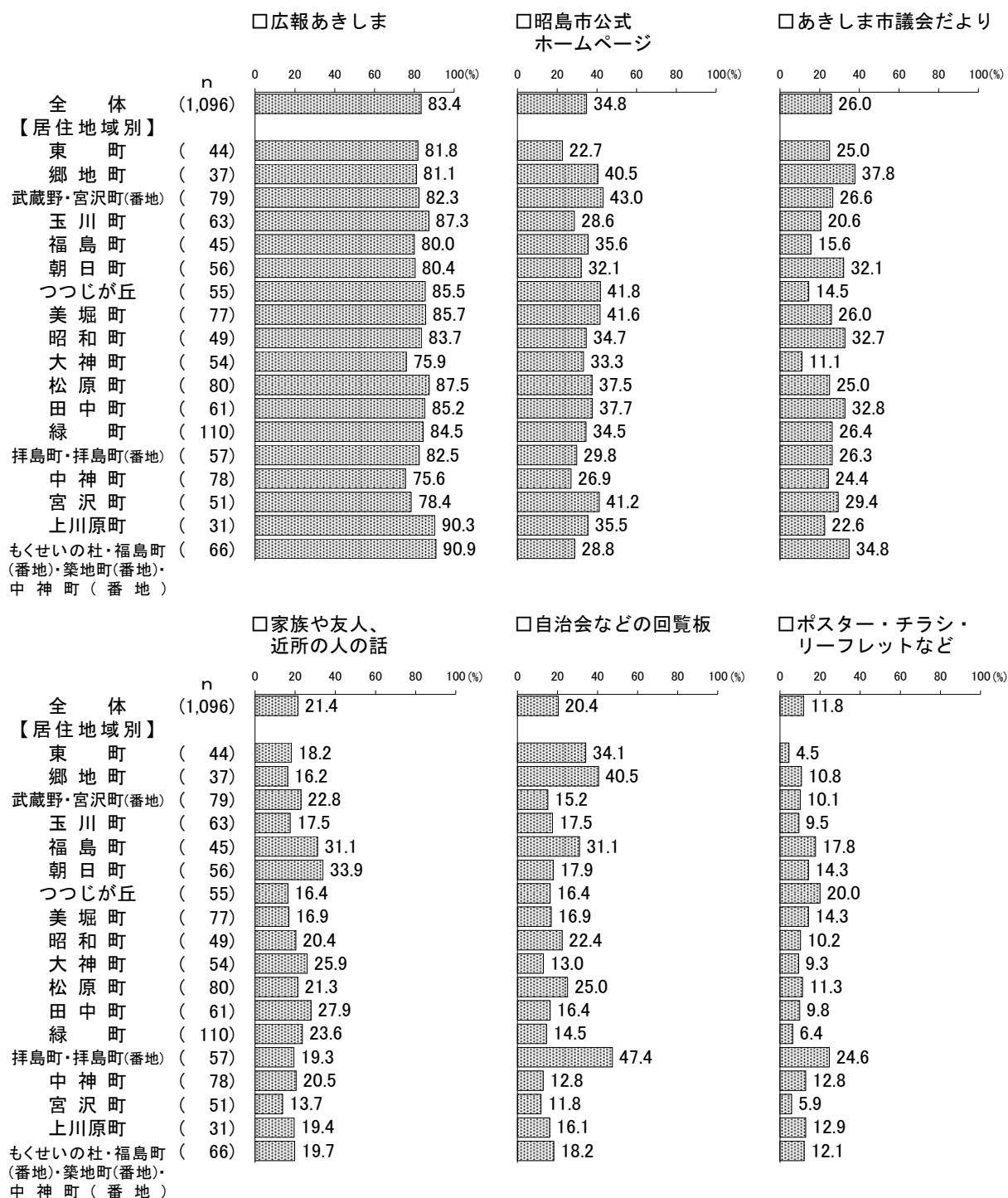
図12-1-2 市に関わる情報の入手方法（性・年代別）－上位6項目



性別にみると、「家族や友人、近所の人の話」は女性（26.4%）が男性（16.0%）より10.4ポイント、「広報あきしま」は女性（86.8%）が男性（79.2%）より7.6ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「昭島市公式ホームページ」は男性（37.0%）が女性（32.9%）より4.1ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「広報あきしま」は男性60代（95.3%）で9割半ばと高くなっている。「昭島市公式ホームページ」は男性40代（54.0%）で5割半ばと高くなっている。（図12-1-2）

図12-1-3 市に関わる情報の入手方法（居住地域別）－上位6項目



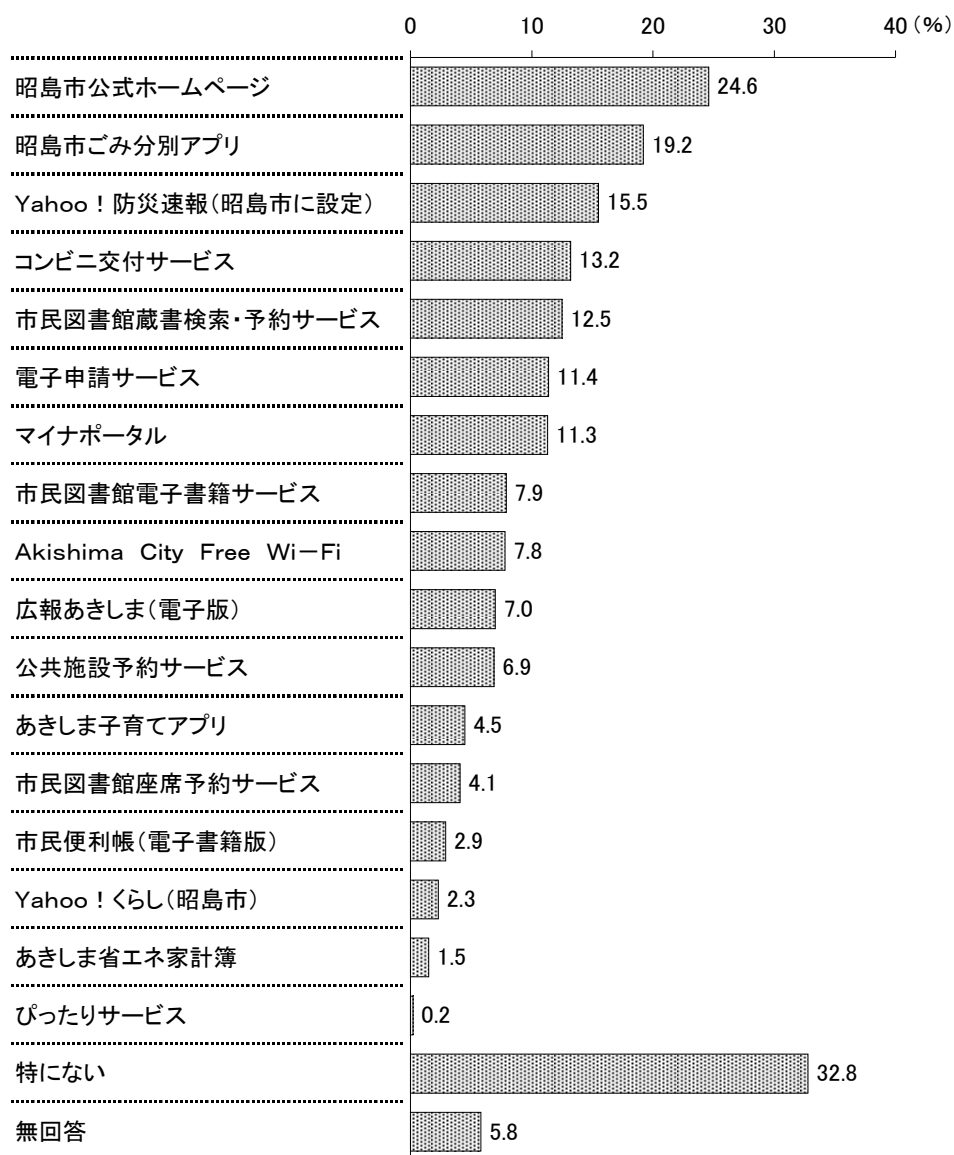
居住地域別にみると、「広報あきしま」はもくせいの杜・福島町（番地）・築地町（番地）・中神町（番地）（90.9%）、上川原町（90.3%）で約9割と高くなっている。「昭島市公式ホームページ」は武蔵野・宮沢町（番地）（43.0%）、つつじが丘（41.8%）、美堀町（41.6%）、宮沢町（41.2%）で4割以上と高くなっている。「自治会などの回覧板」は拝島町・拝島町（番地）（47.4%）で5割近くと高くなっている。（図12-1-3）

13 デジタル化

(1) 利用したい昭島市のインターネットサービス

Q40 昭島市が提供するインターネットを利用したサービスのうち、あなたが、現在利用しているもしくは今後利用したいものはどれですか。次の中からあてはまるものをいくつか選んでください。
(n=1,096)

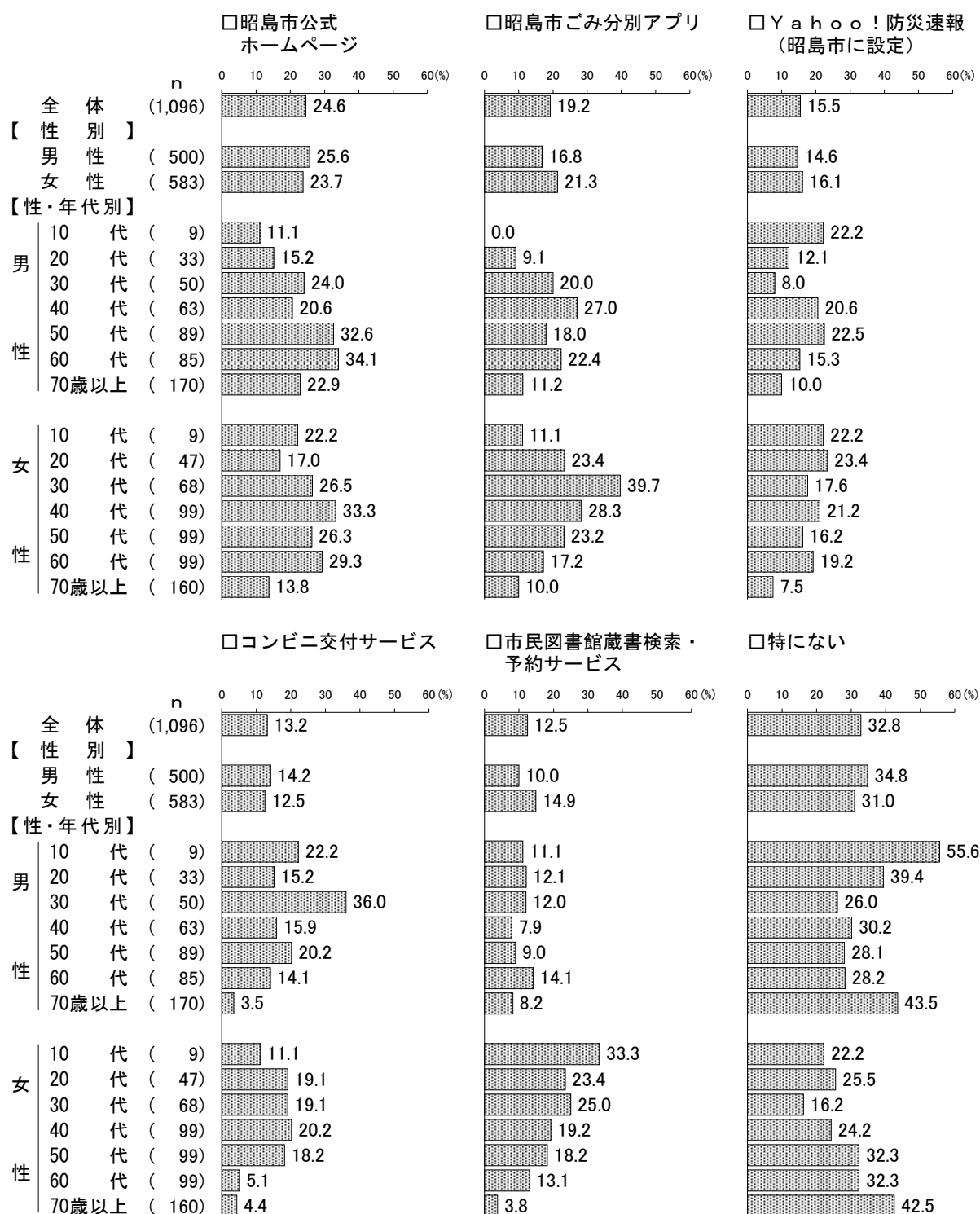
図13-1-1 利用したい昭島市のインターネットサービス（全体）



利用したい昭島市のインターネットサービスを聞いたところ、「昭島市公式ホームページ」(24.6%)が2割半ばで最も高く、次いで「昭島市ごみ分別アプリ」(19.2%)、「Yahoo! 防災速報(昭島市に設定)」(15.5%)、「コンビニ交付サービス」(13.2%)の順となっている。一方、「特にない」(32.8%)は3割以上となっている。(図13-1-1)

図13-1-2 利用したい昭島市のインターネットサービス（性・年代別）

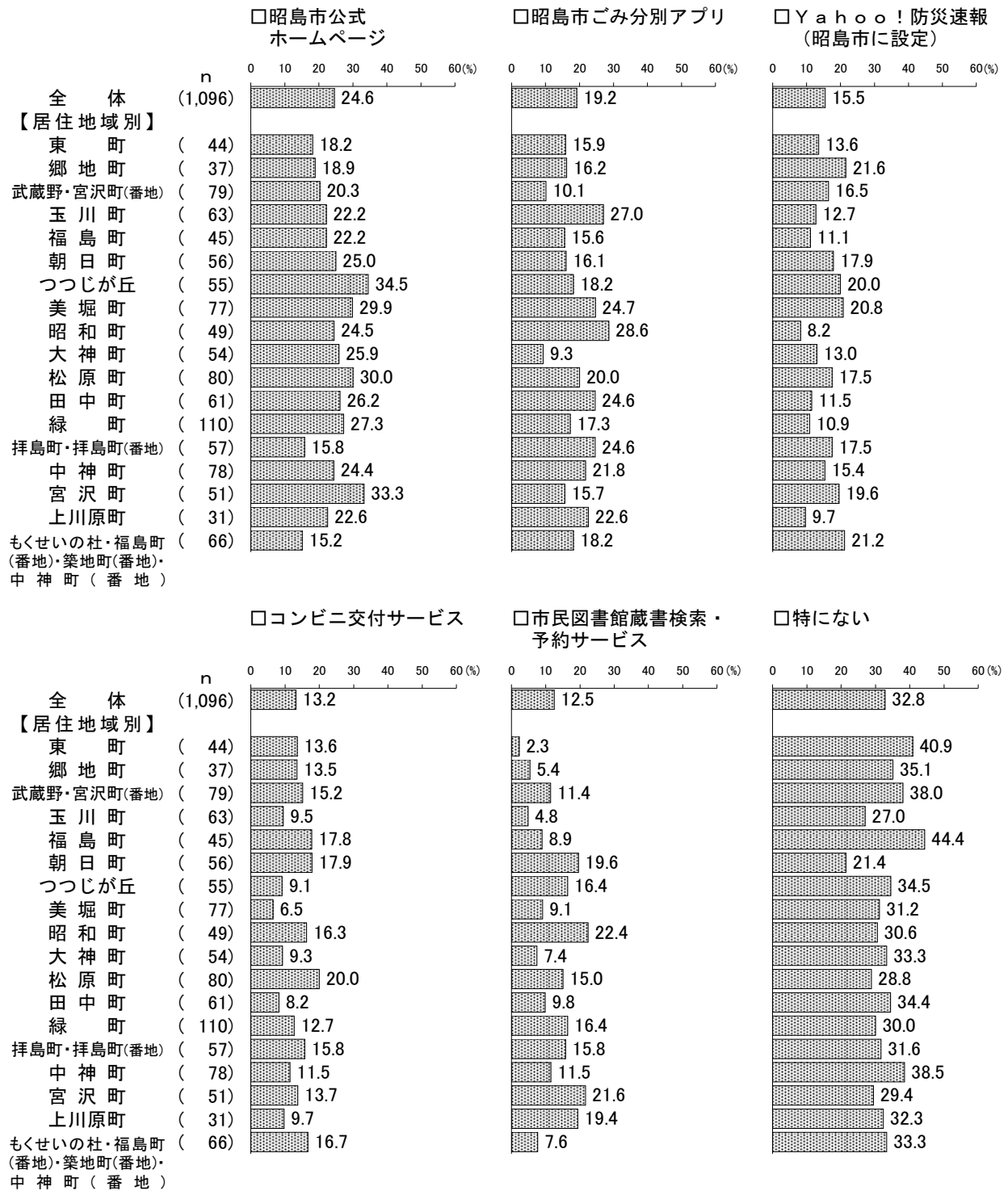
-上位5項目+「特にない」



性別にみると、「市民図書館蔵書検索・予約サービス」は女性（14.9%）が男性（10.0%）より4.9ポイント高くなっている。一方、「特にない」は男性（34.8%）が女性（31.0%）より3.8ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「昭島市公式ホームページ」は男性60代（34.1%）で3割半ばと高くなっている。「昭島市ごみ分別アプリ」は女性30代（39.7%）で約4割と高くなっている。「コンビニ交付サービス」は男性30代（36.0%）で3割半ばと高くなっている。（図13-1-2）

図13-1-3 利用したい昭島市のインターネットサービス（居住地域別）
-上位5項目+「特にない」

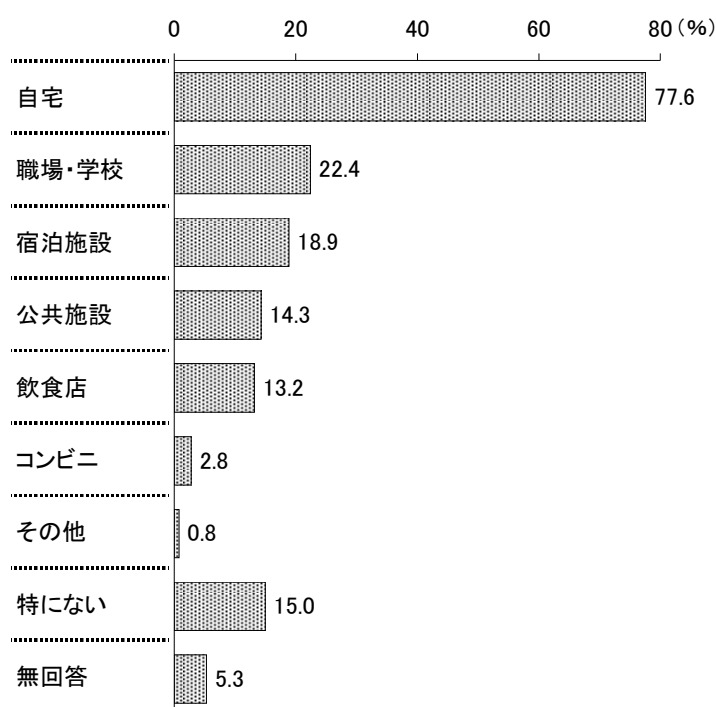


居住地域別にみると、「昭島市公式ホームページ」はつつじが丘（34.5%）で3割半ばと高くなっている。「昭島市ごみ分別アプリ」は昭和町（28.6%）と玉川町（27.0%）で3割近くと高くなっている。「特にない」は福島町（44.4%）で4割半ばと高くなっている。（図13-1-3）

(2) Wi-Fiを利用する場所

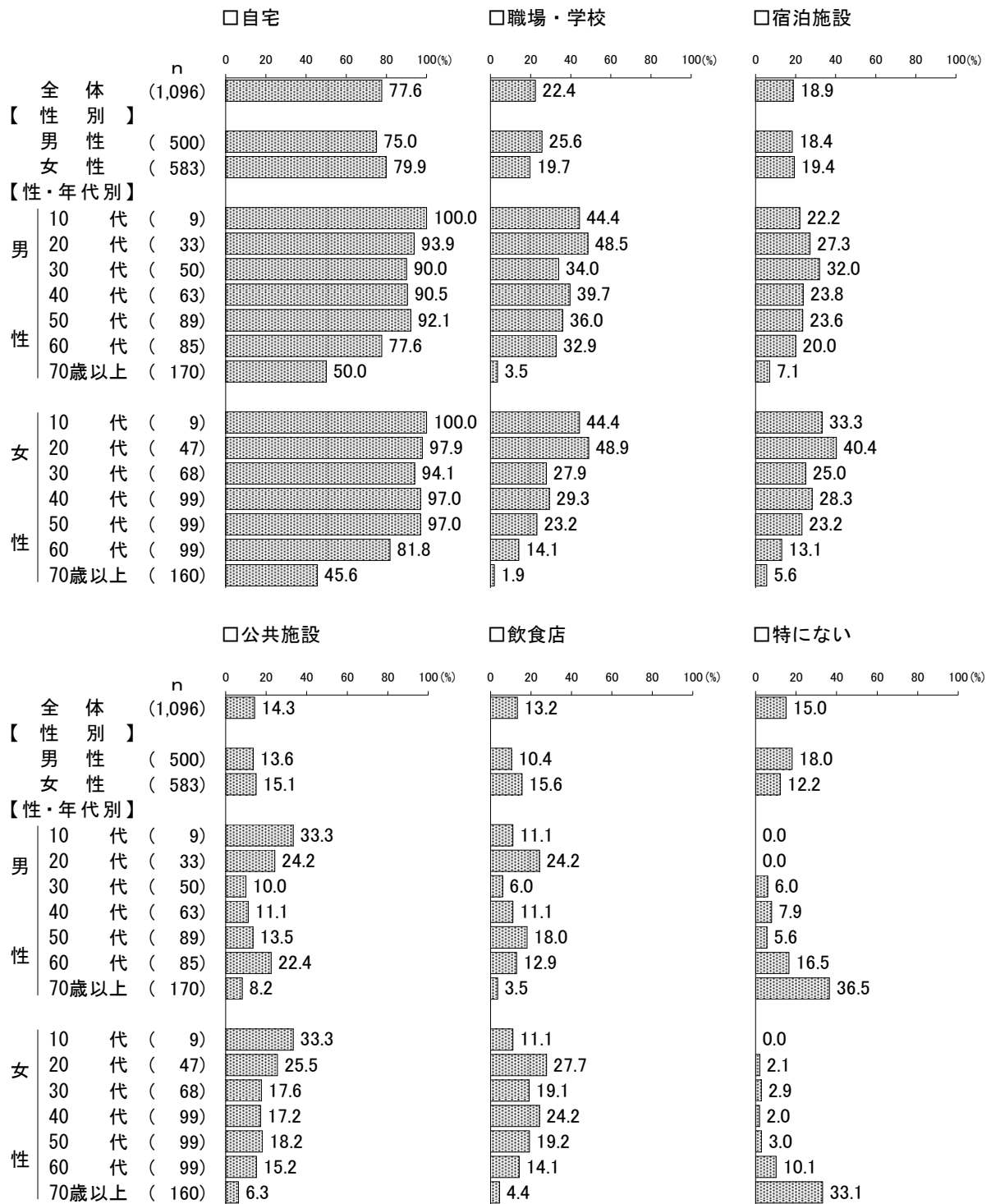
Q41 あなたは、普段どのような場所でWi-Fiを利用されますか。次の中からあてはまるものをいくつでも選んでください。(n=1,096)

図13-2-1 Wi-Fiを利用する場所(全体)



普段どのような場所でWi-Fiを利用するか聞いたところ、「自宅」(77.6%)が8割近くで最も高く、次いで「職場・学校」(22.4%)、「宿泊施設」(18.9%)、「公共施設」(14.3%)の順となっている。一方、「特にない」(15.0%)は1割半ばとなっている。(図13-2-1)

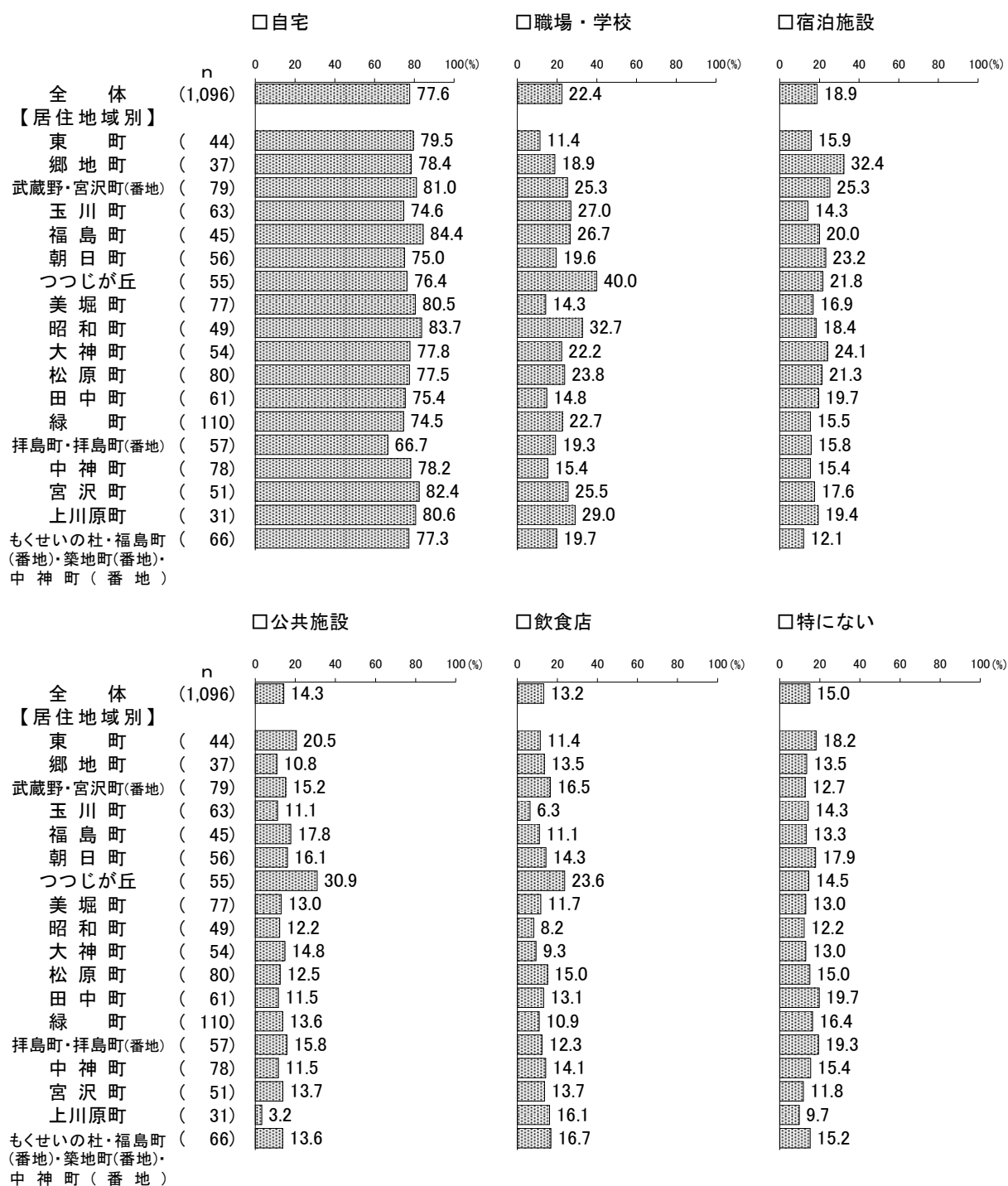
図13-2-2 Wi-Fiを利用する場所（性・年代別）－上位5項目＋「特にない」



性別にみると、「職場・学校」は男性（25.6%）が女性（19.7%）より5.9ポイント高くなっている。一方、「飲食店」は女性（15.6%）が男性（10.4%）より5.2ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「自宅」は男女ともに50代以下の年代で9割以上と高くなっている。「職場・学校」は女性20代（48.9%）と男性20代（48.5%）で5割近くと高くなっている。「宿泊施設」は女性20代（40.4%）で約4割と高くなっている。（図13-2-2）

図13-2-3 Wi-Fiを利用する場所（居住地域別）－上位5項目＋「特にない」

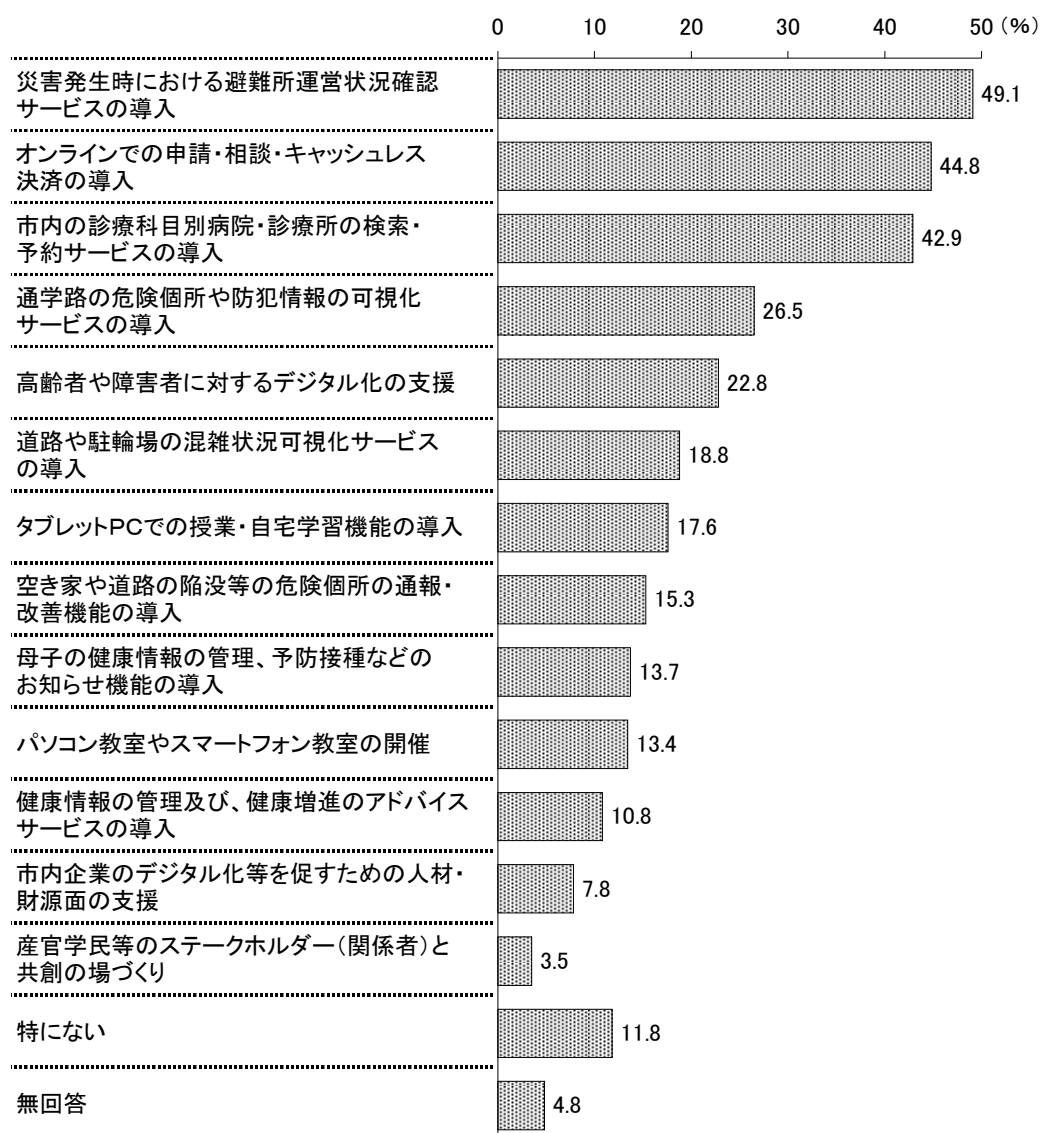


居住地域別にみると、「自宅」は福島町（84.4%）で8割半ばと高くなっている。「職場・学校」はつつじが丘（40.0%）で4割と高くなっている。「宿泊施設」は郷地町（32.4%）で3割以上と高くなっている。（図13-2-3）

(3) デジタル施策の優先度

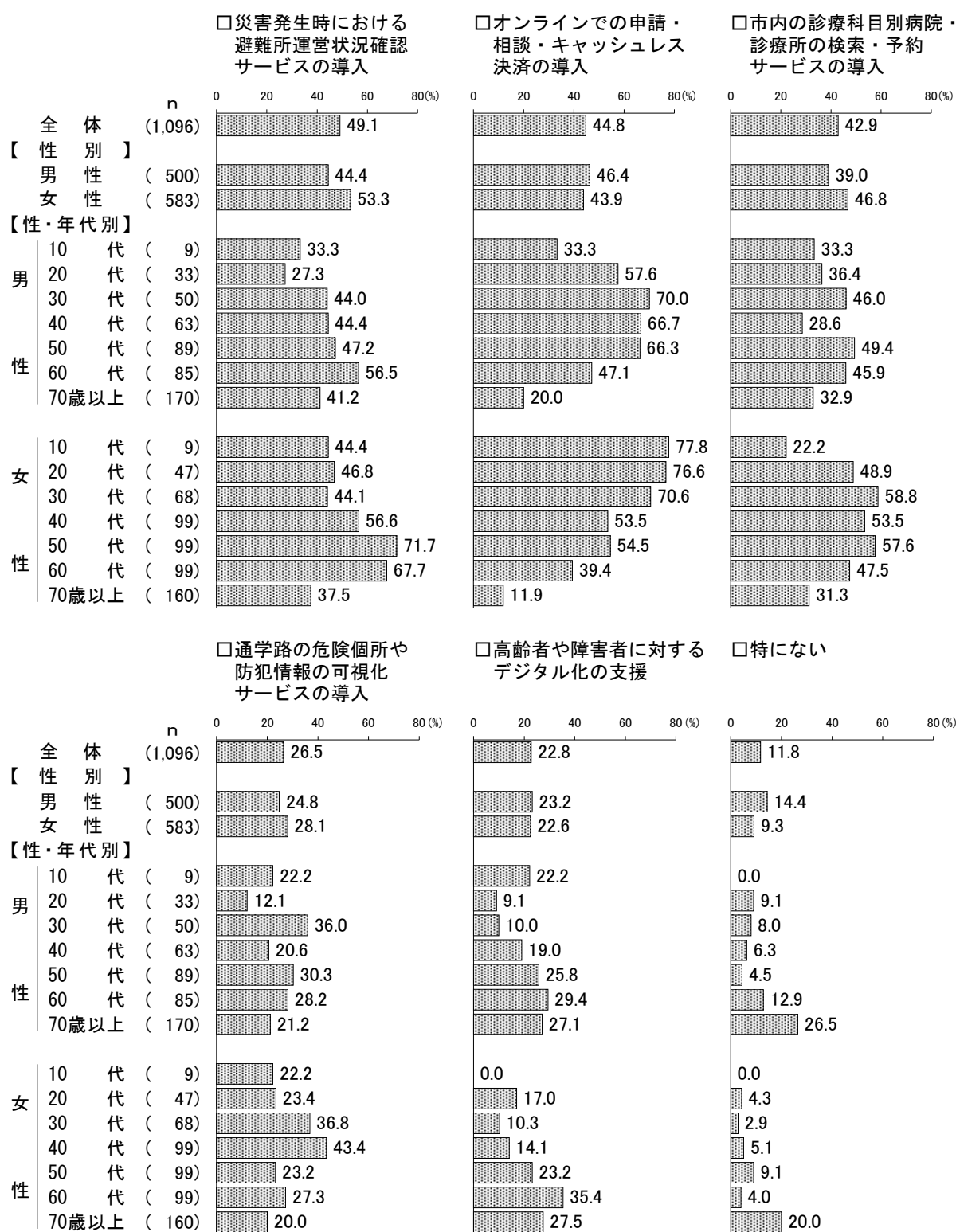
Q42 昭島市のデジタル化施策として、優先して行うべきと思う取り組みは何ですか。次の中からあてはまるものを5つまで選んでください。(n=1,096)

図13-3-1 デジタル施策の優先度 (全体)



昭島市のデジタル化施策として、優先して行うべきと思う取り組みを聞いたところ、「災害発生時における避難所運営状況確認サービスの導入」(49.1%)が約5割で最も高く、次いで「オンラインでの申請・相談・キャッシュレス決済の導入」(44.8%)、「市内の診療科目別病院・診療所の検索・予約サービスの導入」(42.9%)、「通学路の危険箇所や防犯情報の可視化サービスの導入」(26.5%)の順となっている。(図13-3-1)

図13-3-2 デジタル施策の優先度（性・年代別）－上位5項目＋「特にない」



性別にみると、「災害発生時における避難所運営状況確認サービスの導入」は女性（53.3%）が男性（44.4%）より8.9ポイント、「市内の診療科目別病院・診療所の検索・予約サービスの導入」は女性（46.8%）が男性（39.0%）より7.8ポイント、それぞれ高くなっている。

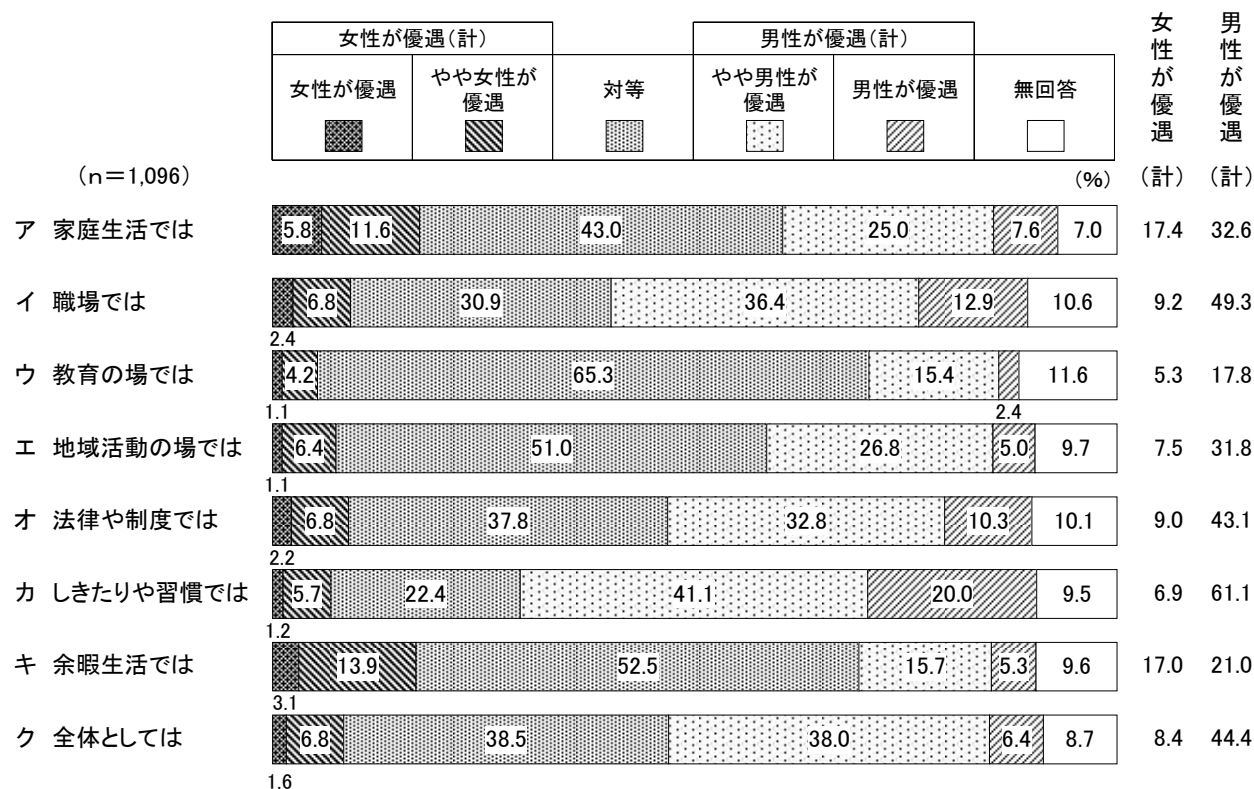
性・年代別にみると、「災害発生時における避難所運営状況確認サービスの導入」は女性50代（71.7%）で7割以上と高くなっている。「オンラインでの申請・相談・キャッシュレス決済の導入」は女性20代（76.6%）で8割近くと高くなっている。（図13-3-2）

14 男女共同参画

(1) 男女の立場または待遇

Q43 あなたは、次の各分野において男女の立場または待遇が対等になっていると思いますか。ア～クのそれぞれの項目ごとに1つずつ選んでください。(n=1,096)

図14-1-1 男女の立場または待遇 (全体)

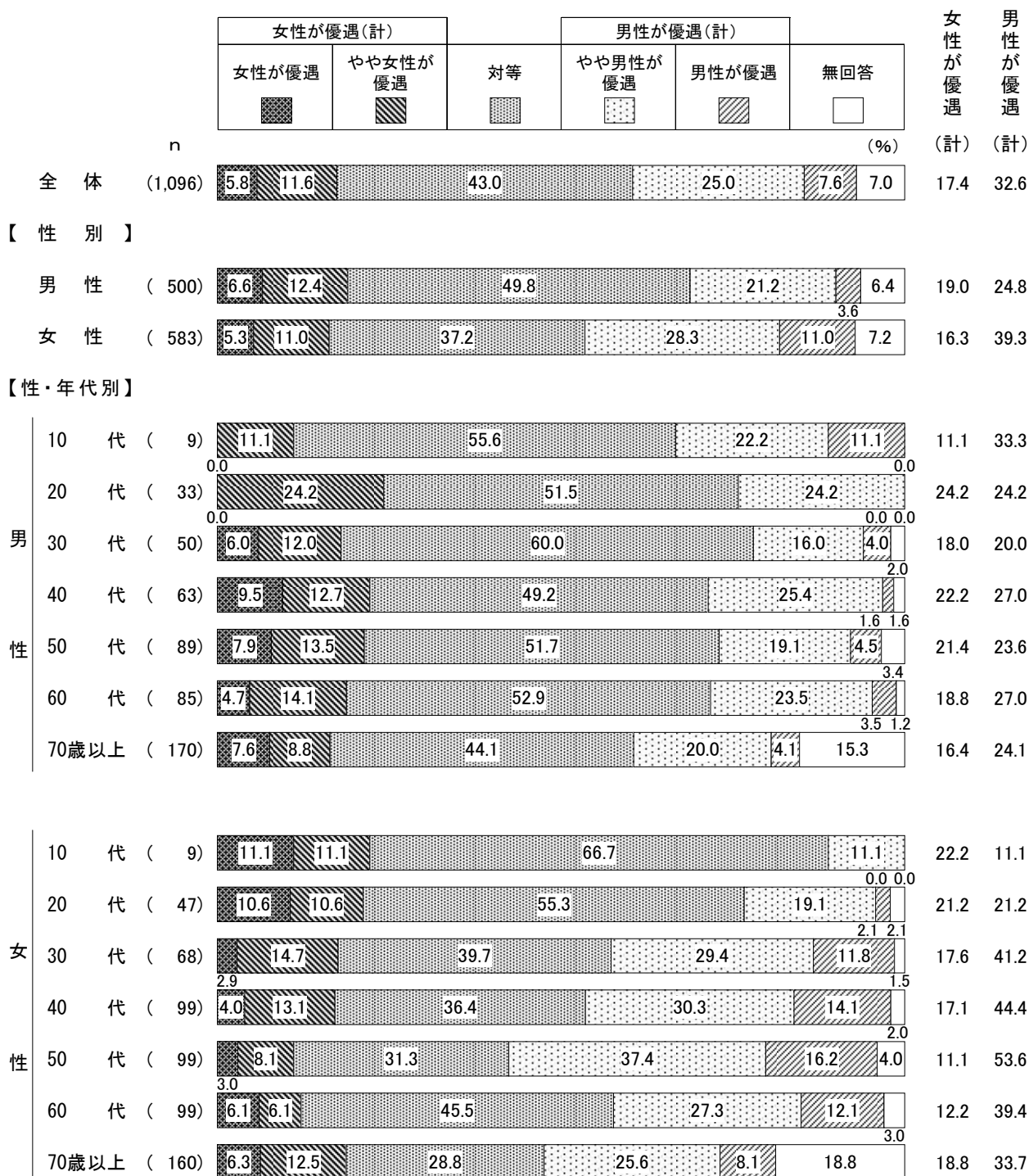


男女の立場または待遇が対等になっていると思うか聞いたところ、「対等」は、【教育の場では】(65.3%)で6割半ばと最も高く、次いで【余暇生活では】(52.5%)、【地域活動の場では】(51.0%)の順となっている。

また、「やや男性が優遇」と「男性が優遇」を合わせた『男性が優遇(計)』は、【しきたりや習慣では】(61.1%)で6割以上と最も高く、次いで【職場では】(49.3%)、【全体としては】(44.4%)の順となっている。

一方、「女性が優遇」と「やや女性が優遇」を合わせた『女性が優遇(計)』は、【家庭生活では】(17.4%)で2割近くと最も高くなっている。(図14-1-1)

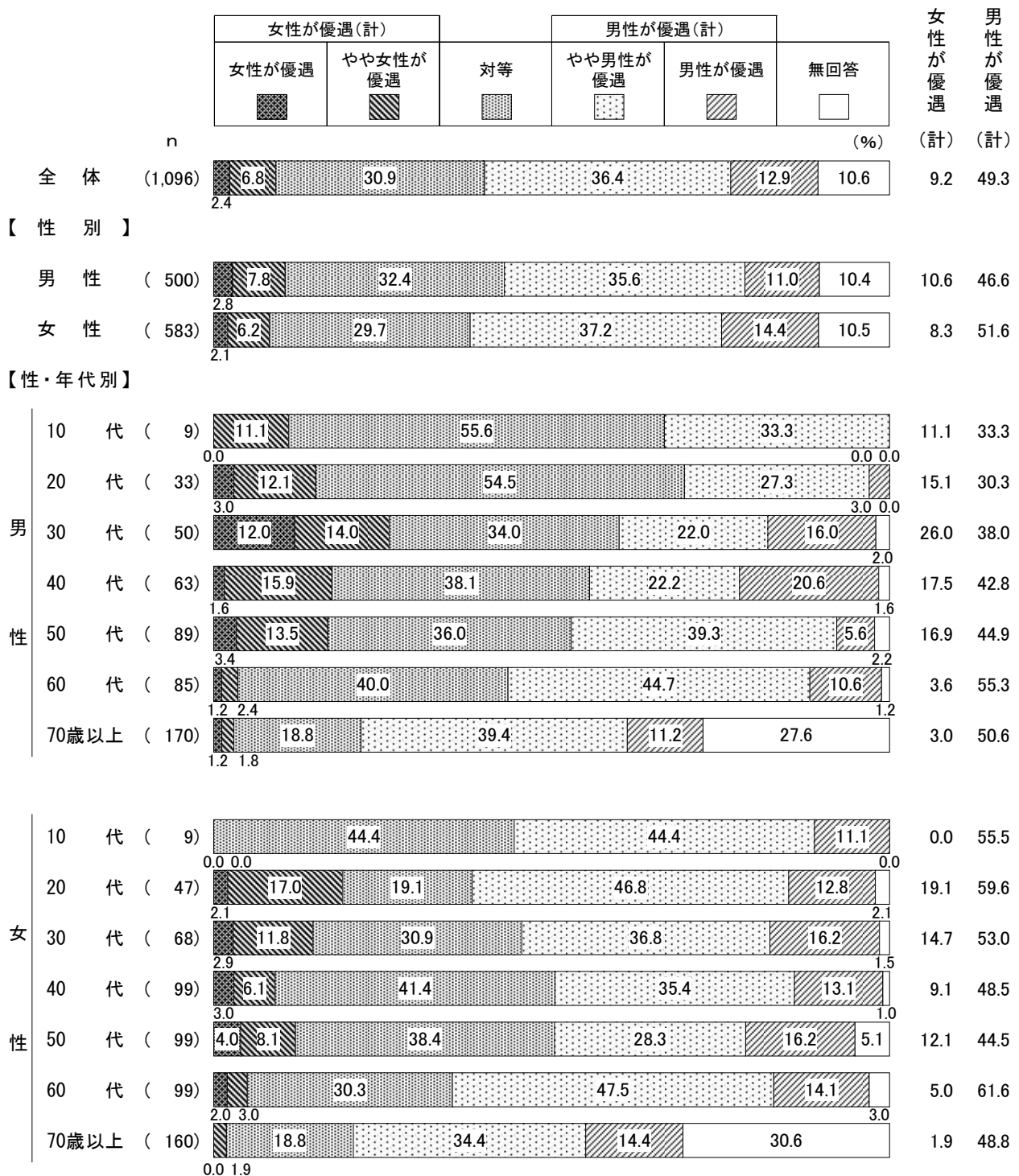
図14-1-2 男女の立場または待遇（性・年代別） 【ア 家庭生活では】



【家庭生活では】を性別にみると、『男性が優遇（計）』は女性（39.3%）が男性（24.8%）より14.5ポイント高くなっている。一方、「対等」は男性（49.8%）が女性（37.2%）より12.6ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『女性が優遇（計）』は男性20代（24.2%）で2割半ばと高くなっている。一方、『男性が優遇（計）』は女性50代（53.6%）で5割以上と高くなっている。また、「対等」は男性30代（60.0%）で6割と高くなっている。（図14-1-2）

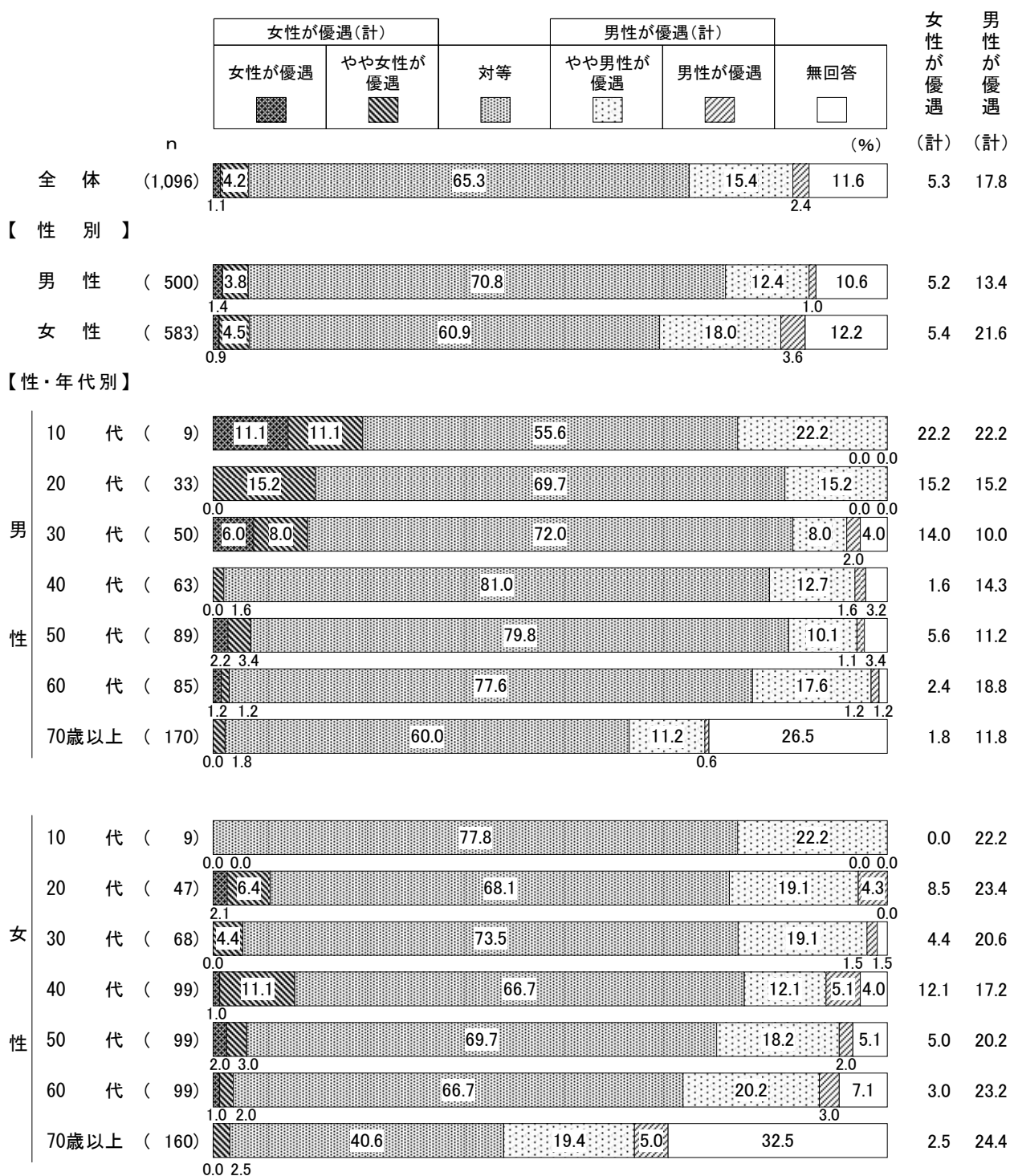
図14-1-3 男女の立場または待遇（性・年代別） 【イ 職場では】



【職場では】を性別にみると、『男性が優遇（計）』は女性（51.6%）が男性（46.6%）より5.0ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『女性が優遇（計）』は男性30代（26.0%）で2割半ばと高くなっている。一方、『男性が優遇（計）』は女性60代（61.6%）で6割以上と高くなっている。また、「対等」は男性20代（54.5%）で5割半ばと高くなっている。（図14-1-3）

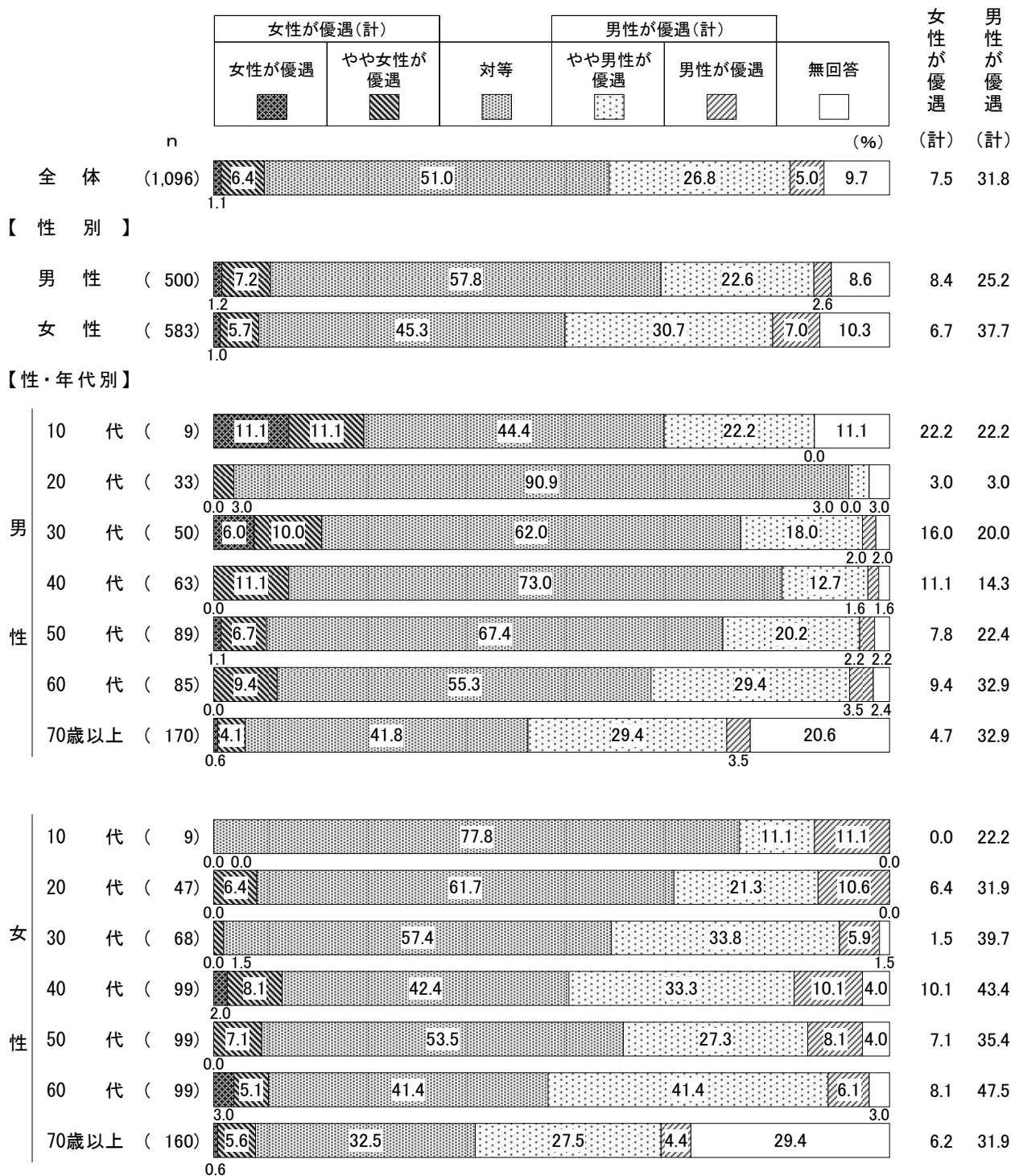
図14-1-4 男女の立場または待遇（性・年代別） 【ウ 教育の場では】



【教育の場では】を性別にみると、『男性が優遇（計）』は女性（21.6%）が男性（13.4%）より8.2ポイント高くなっている。一方、「対等」は男性（70.8%）が女性（60.9%）より9.9ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『男性が優遇（計）』は女性70歳以上（24.4%）で2割半ばと高くなっている。「対等」は男性40代（81.0%）で約8割と高くなっている。（図14-1-4）

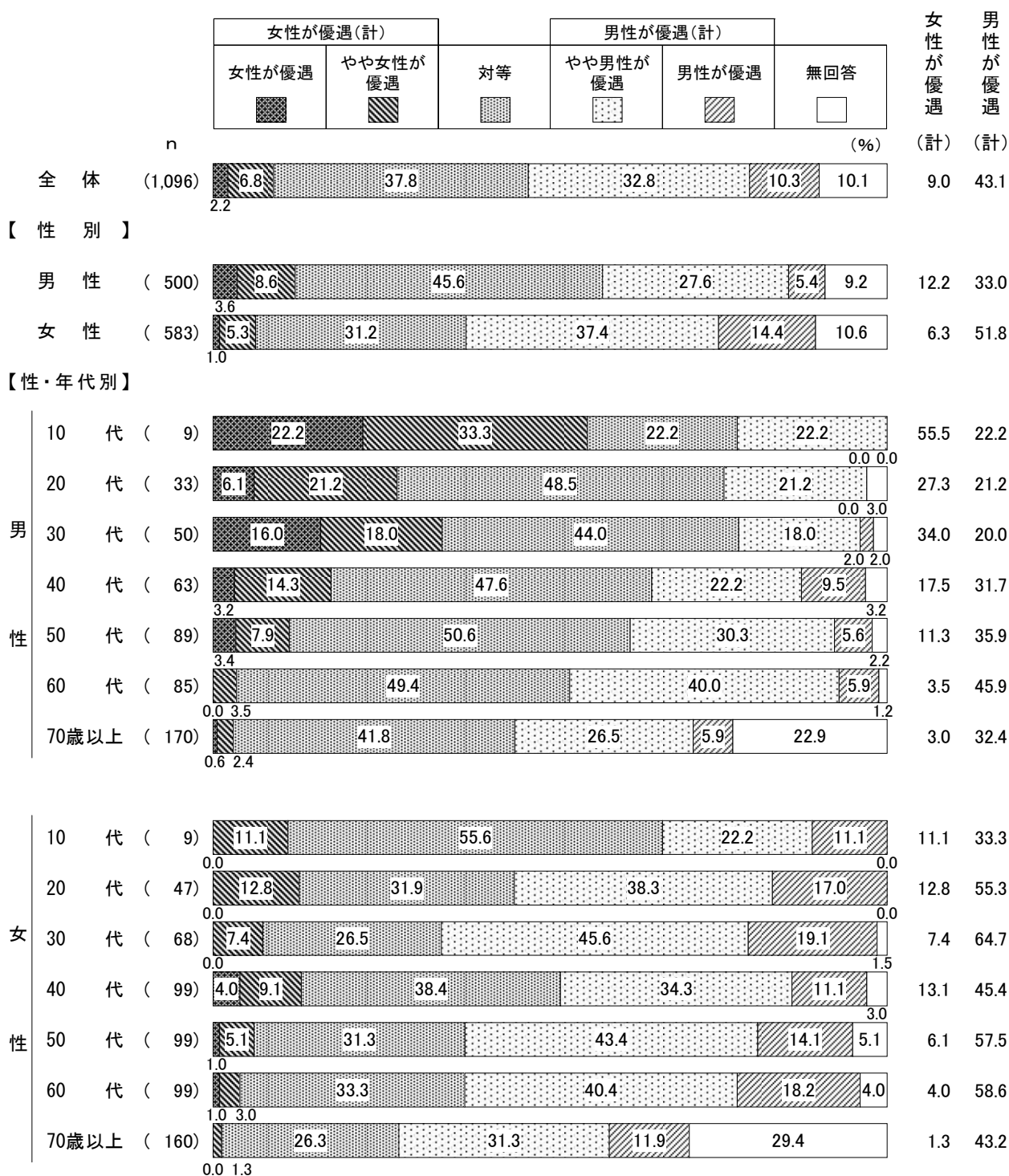
図14-1-5 男女の立場または待遇（性・年代別） 【工 地域活動の場では】



【地域活動の場では】を性別にみると、『男性が優遇（計）』は女性（37.7%）が男性（25.2%）より12.5ポイント高くなっている。一方、「対等」は男性（57.8%）が女性（45.3%）より12.5ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『男性が優遇（計）』は女性60代（47.5%）で5割近くと高くなっている。「対等」は男性20代（90.9%）で約9割と高くなっている。（図14-1-5）

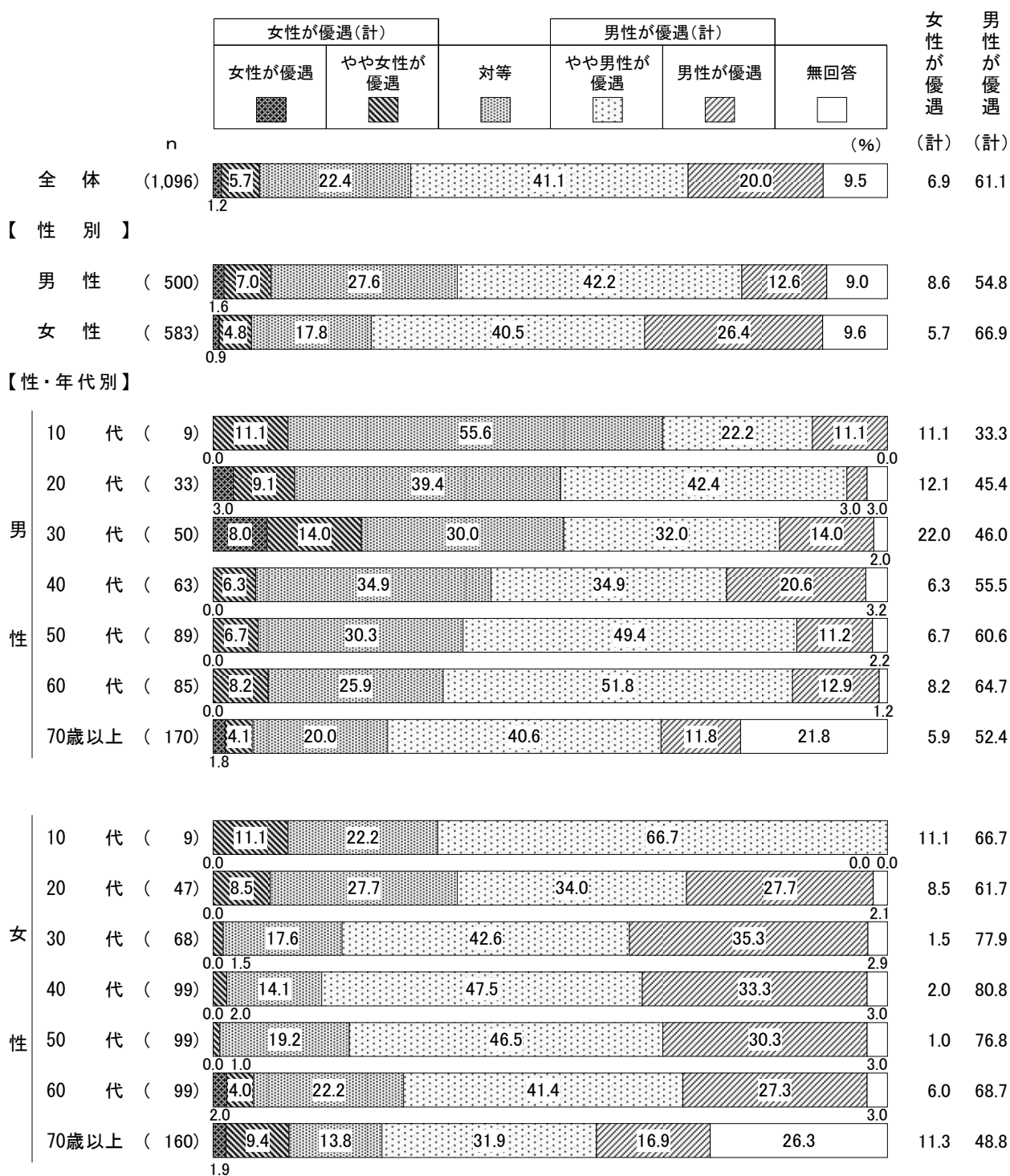
図14-1-6 男女の立場または待遇（性・年代別） 【オ 法律や制度では】



【法律や制度では】を性別にみると、『男性が優遇（計）』は女性（51.8%）が男性（33.0%）より18.8ポイント高くなっている。一方、「対等」は男性（45.6%）が女性（31.2%）より14.4ポイント、『女性が優遇（計）』は男性（12.2%）が女性（6.3%）より5.9ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、『女性が優遇（計）』は男性30代（34.0%）で3割半ばと高くなっている。一方、『男性が優遇（計）』は女性30代（64.7%）で6割半ばと高くなっている。また、「対等」は男性50代（50.6%）と男性60代（49.4%）で約5割と高くなっている。（図14-1-6）

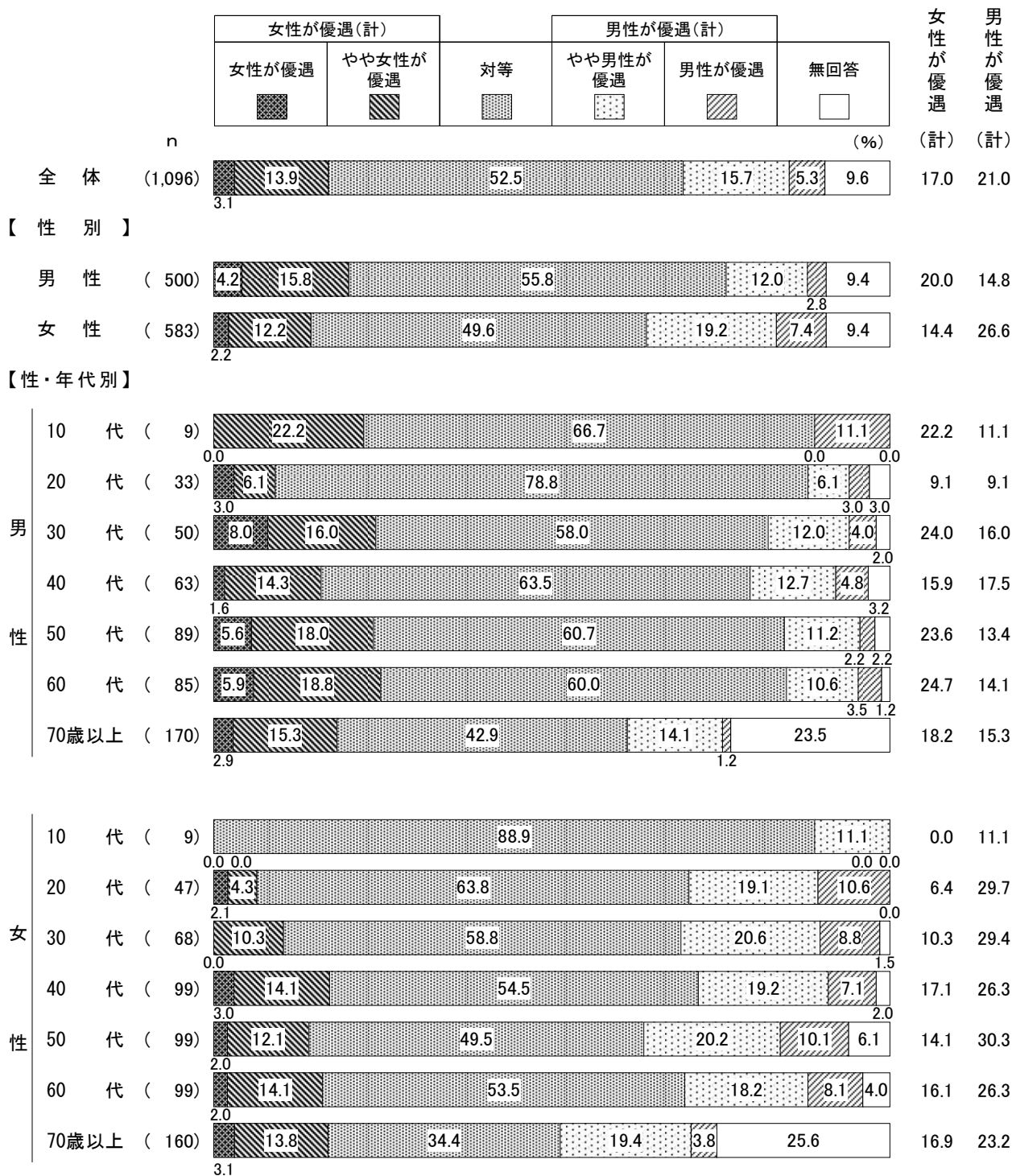
図14-1-7 男女の立場または待遇（性・年代別） 【カ しきたりや習慣では】



【しきたりや習慣では】を性別にみると、『男性が優遇(計)』は女性(66.9%)が男性(54.8%)より12.1ポイント高くなっている。一方、「対等」は男性(27.6%)が女性(17.8%)より9.8ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『女性が優遇(計)』は男性30代(22.0%)で2割以上と高くなっている。一方、『男性が優遇(計)』は女性40代(80.8%)で約8割と高くなっている。また、「対等」は男性20代(39.4%)で約4割と高くなっている。(図14-1-7)

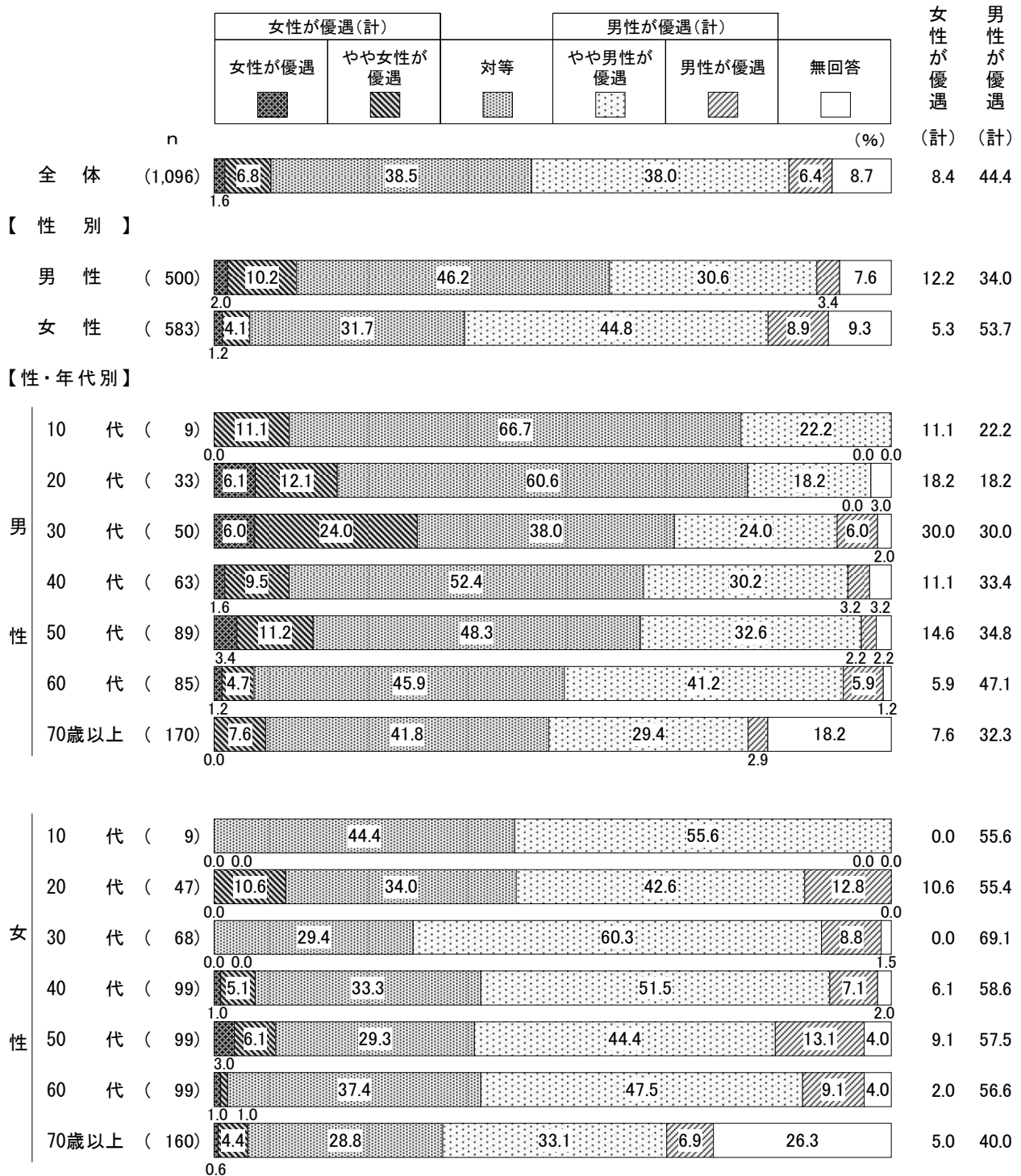
図14-1-8 男女の立場または待遇（性・年代別） 【キ 余暇生活では】



【余暇生活では】を性別にみると、『男性が優遇（計）』は女性（26.6%）が男性（14.8%）より11.8ポイント高くなっている。一方、「対等」は男性（55.8%）が女性（49.6%）より6.2ポイント、『女性が優遇（計）』は男性（20.0%）が女性（14.4%）より5.6ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、『女性が優遇（計）』は男性30代（24.0%）と男性60代（24.7%）で2割半ばと高くなっている。一方、『男性が優遇（計）』は女性20代（29.7%）、女性30代（29.4%）、女性50代（30.3%）で約3割と高くなっている。また、「対等」は男性20代（78.8%）で8割近くと高くなっている。（図14-1-8）

図14-1-9 男女の立場または待遇（性・年代別） 【ク 全体としては】



【全体としては】を性別にみると、『男性が優遇（計）』は女性（53.7%）が男性（34.0%）より19.7ポイント高くなっている。一方、「対等」は男性（46.2%）が女性（31.7%）より14.5ポイント、『女性が優遇（計）』は男性（12.2%）が女性（5.3%）より6.9ポイント、それぞれ高くなっている。

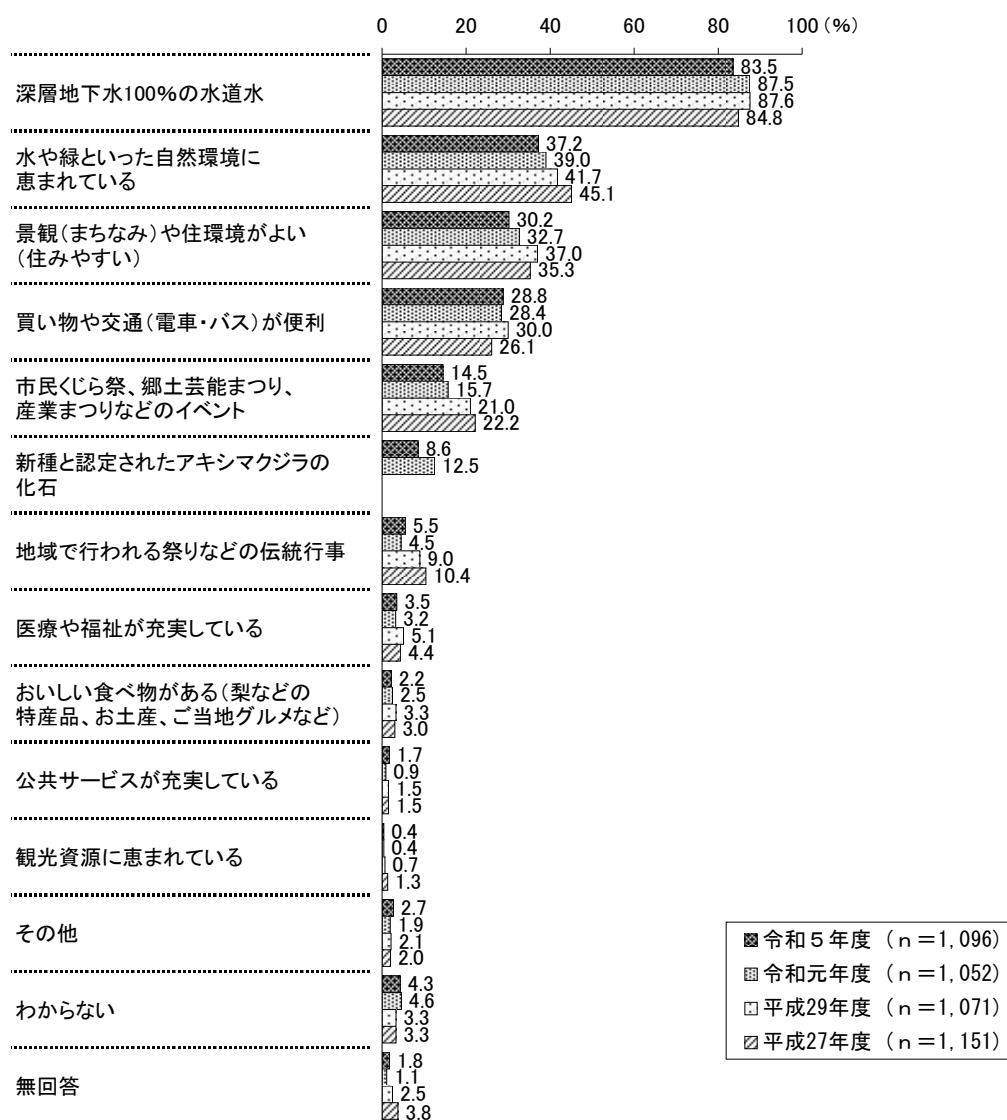
性・年代別にみると、『女性が優遇（計）』は男性30代（30.0%）で3割と高くなっている。一方、『男性が優遇（計）』は女性30代（69.1%）で約7割と高くなっている。また、「対等」は男性20代（60.6%）で約6割と高くなっている。（図14-1-9）

15 市政

(1) 昭島の魅力

Q44 あなたは、市外の人に昭島の良さを伝えるとしたら何を伝えますか。あなたの考えに近いものを、次の中から3つまで選んでください。(n=1,096)

図15-1-1 昭島の魅力（全体、過年度比較）



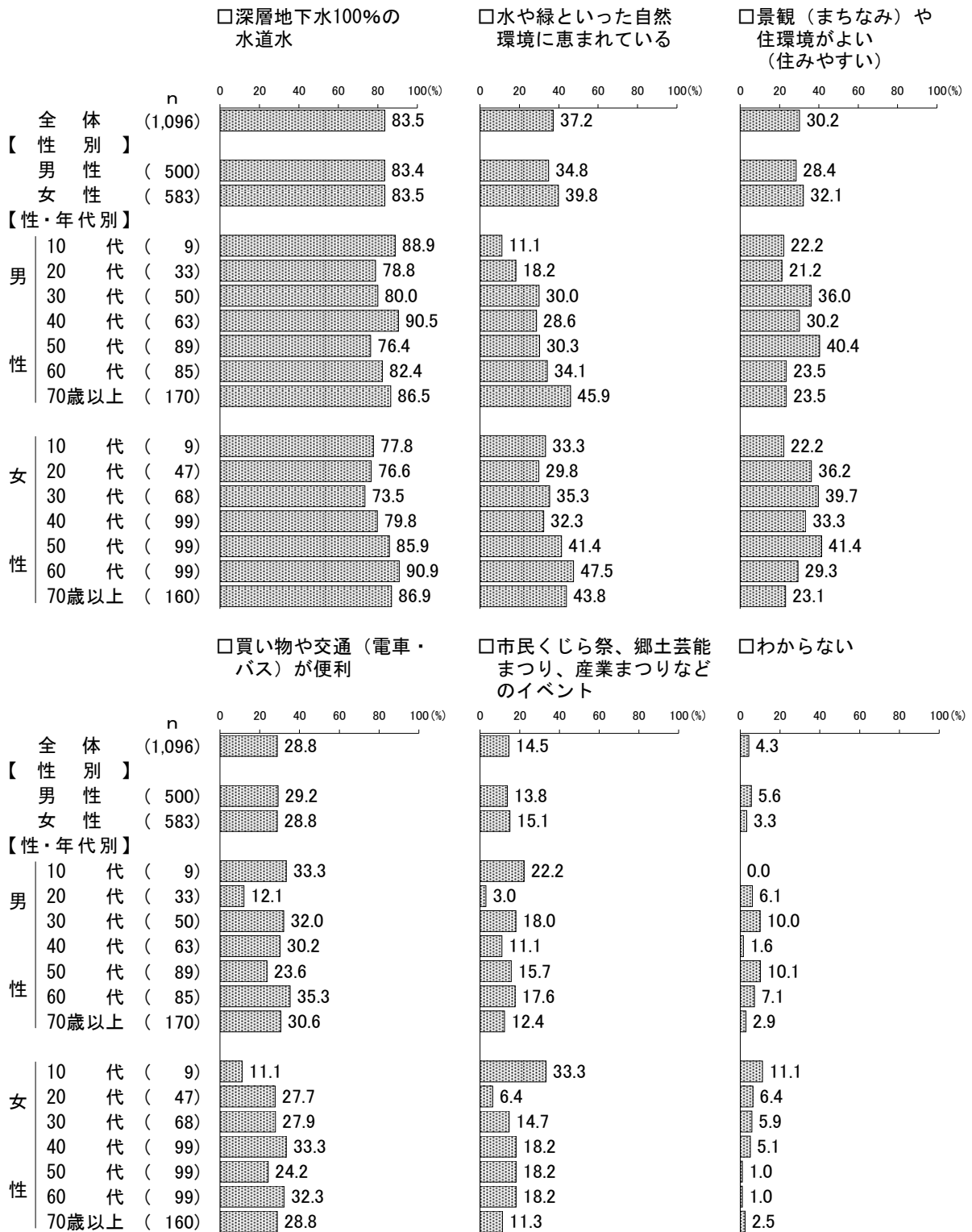
※「景観(まちなみ)や住環境がよい(住みやすい)」は、令和元年度調査までは「住環境がよい(住みやすい)」となっていた。

※「新種と認定されたアキシマクジラの化石」は、令和元年度調査から追加された選択肢。

市外の人に昭島の良さを伝えるとしたら何を伝えるか聞いたところ、「深層地下水100%の水道水」(83.5%)が8割以上で最も高く、次いで「水や緑といった自然環境に恵まれている」(37.2%)、「景観(まちなみ)や住環境がよい(住みやすい)」(30.2%)、「買い物や交通(電車・バス)が便利」(28.8%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「深層地下水100%の水道水」は令和元年度調査より4.0ポイント、「新種と認定されたアキシマクジラの化石」は令和元年度調査より3.9ポイント、それぞれ減少している。(図15-1-1)

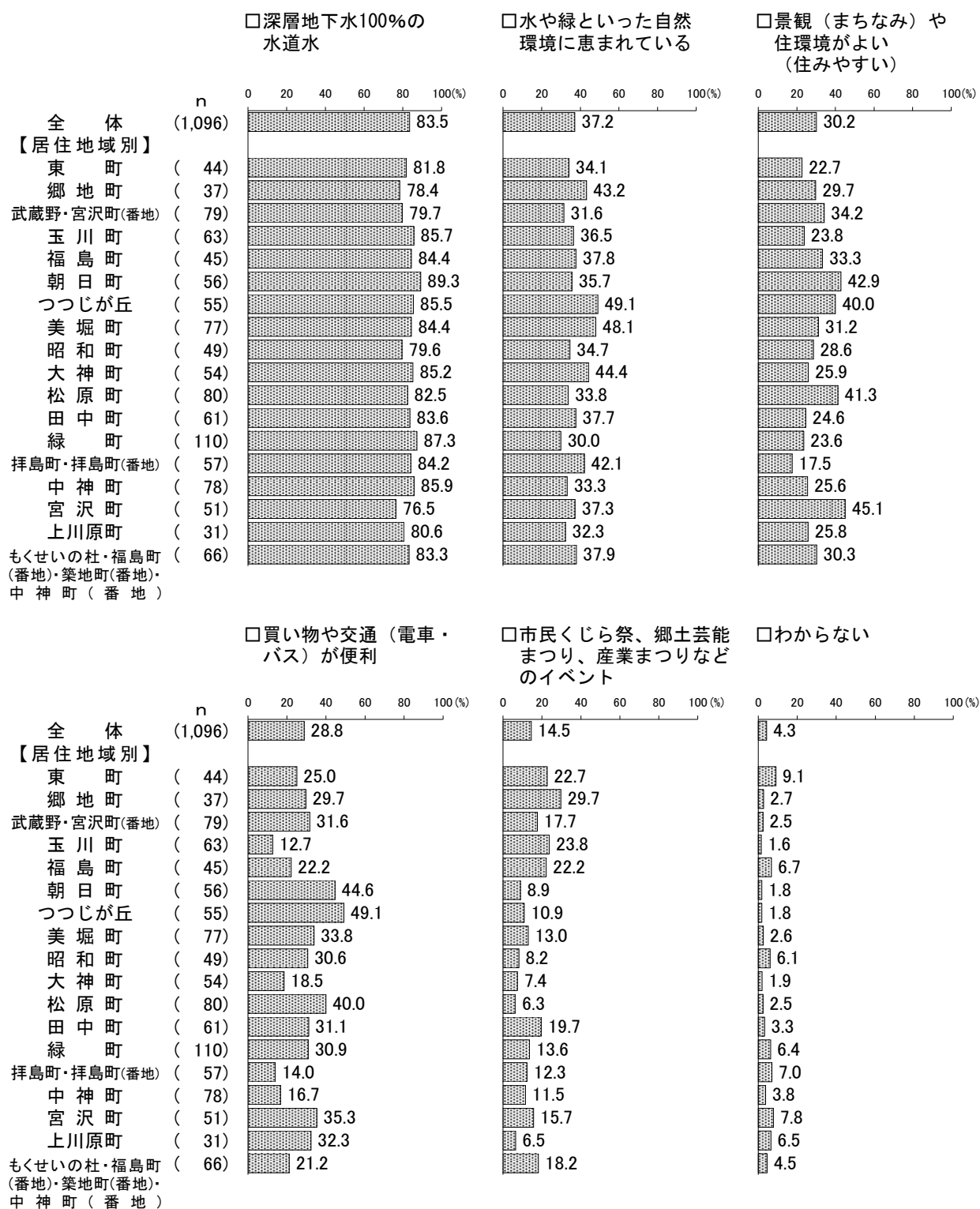
図15-1-2 昭島の魅力（性・年代別）－上位5項目＋「わからない」



性別にみると、「水や緑といった自然環境に恵まれている」は女性（39.8％）が男性（34.8％）より5.0ポイント、「景観(まちなみ)や住環境がよい(住みやすい)」は女性(32.1%)が男性(28.4%)より3.7ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「深層地下水100%の水道水」は女性60代（90.9%）と男性40代（90.5%）で約9割と高くなっている。「水や緑といった自然環境に恵まれている」は女性60代（47.5%）で5割近くと高くなっている。「景観(まちなみ)や住環境がよい(住みやすい)」は女性50代(41.4%)で4割以上と高くなっている。（図15-1-2）

図15-1-3 昭島の魅力（居住地域別）－上位5項目＋「わからない」



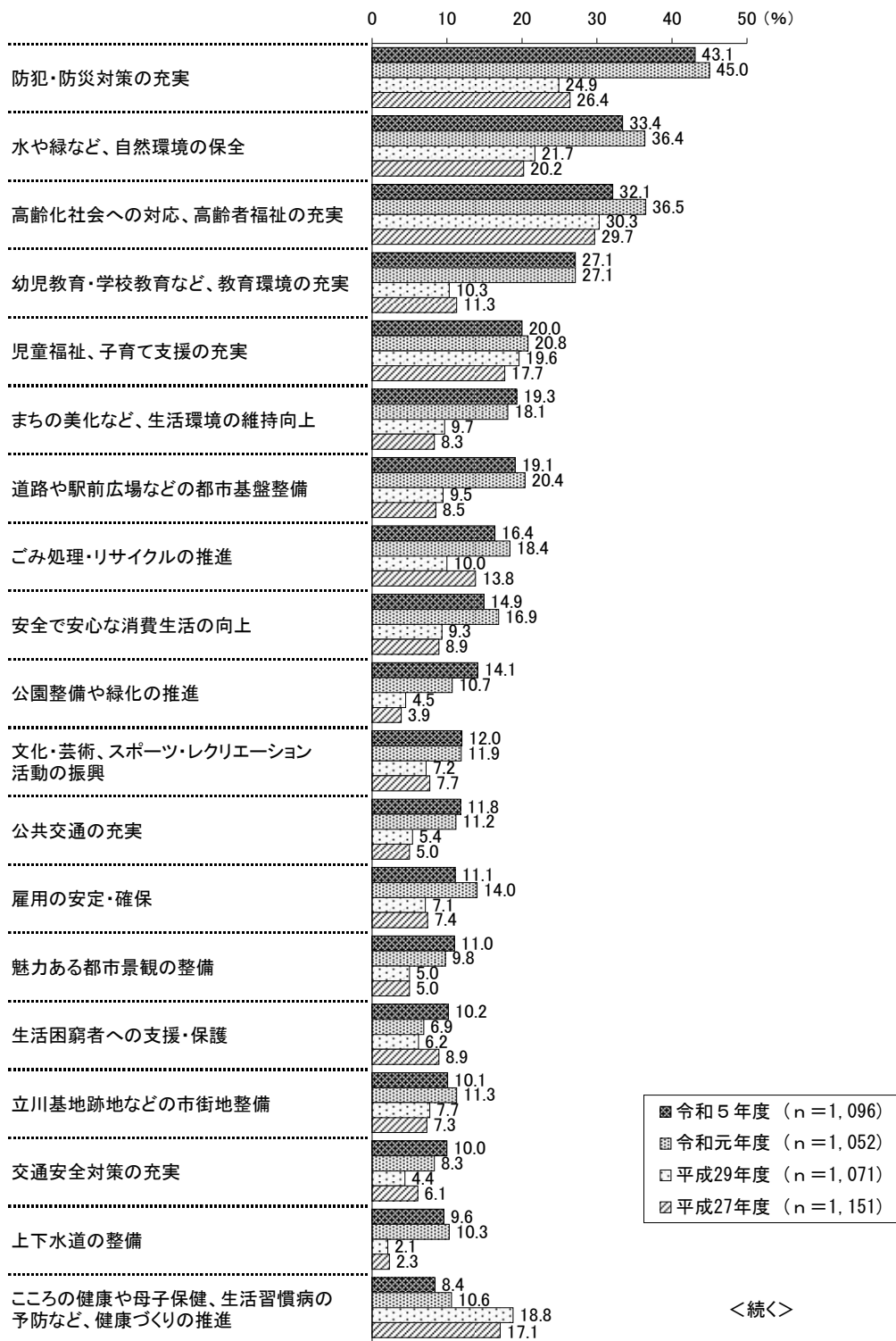
居住地域別にみると、「深層地下水100%の水道水」は朝日町（89.3%）で約9割と高くなっている。「水や緑といった自然環境に恵まれている」はつつじが丘（49.1%）で約5割と高くなっている。「買い物や交通（電車・バス）が便利」はつつじが丘（49.1%）で約5割と高くなっている。

（図15-1-3）

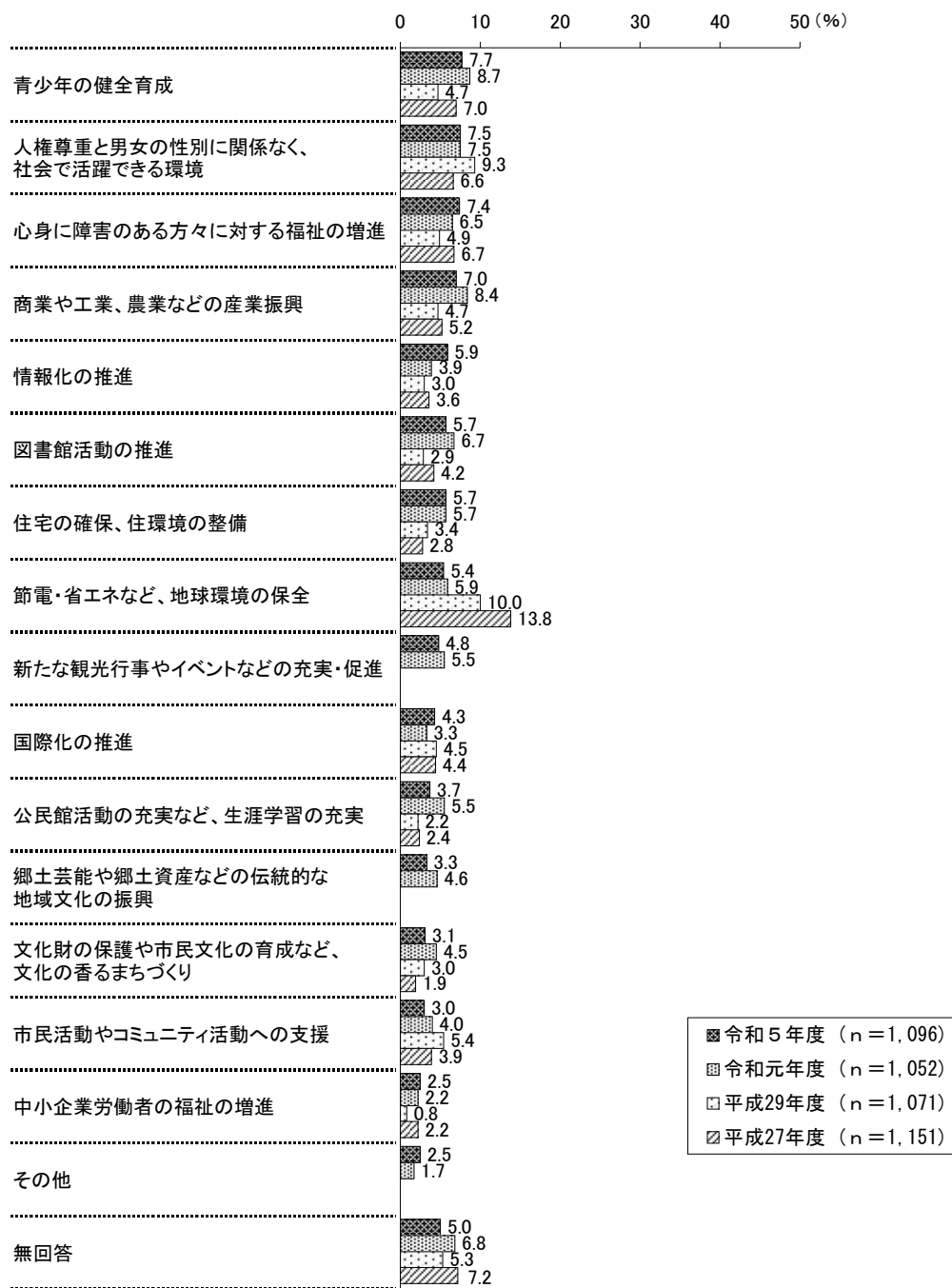
(2) 魅力あるまちづくりへの施策

Q45 あなたは、市外の人から「住んでみたい」「訪れてみたい」と思っただけの魅力あるまちづくりのため、今後5年間で、昭島市はどのような施策を特に重点的にすすめていくべきだと思いますか。次の中から5つまで選んでください。(n=1,096)

図15-2-1 魅力あるまちづくりへの施策（全体、過年度比較）



<続く>

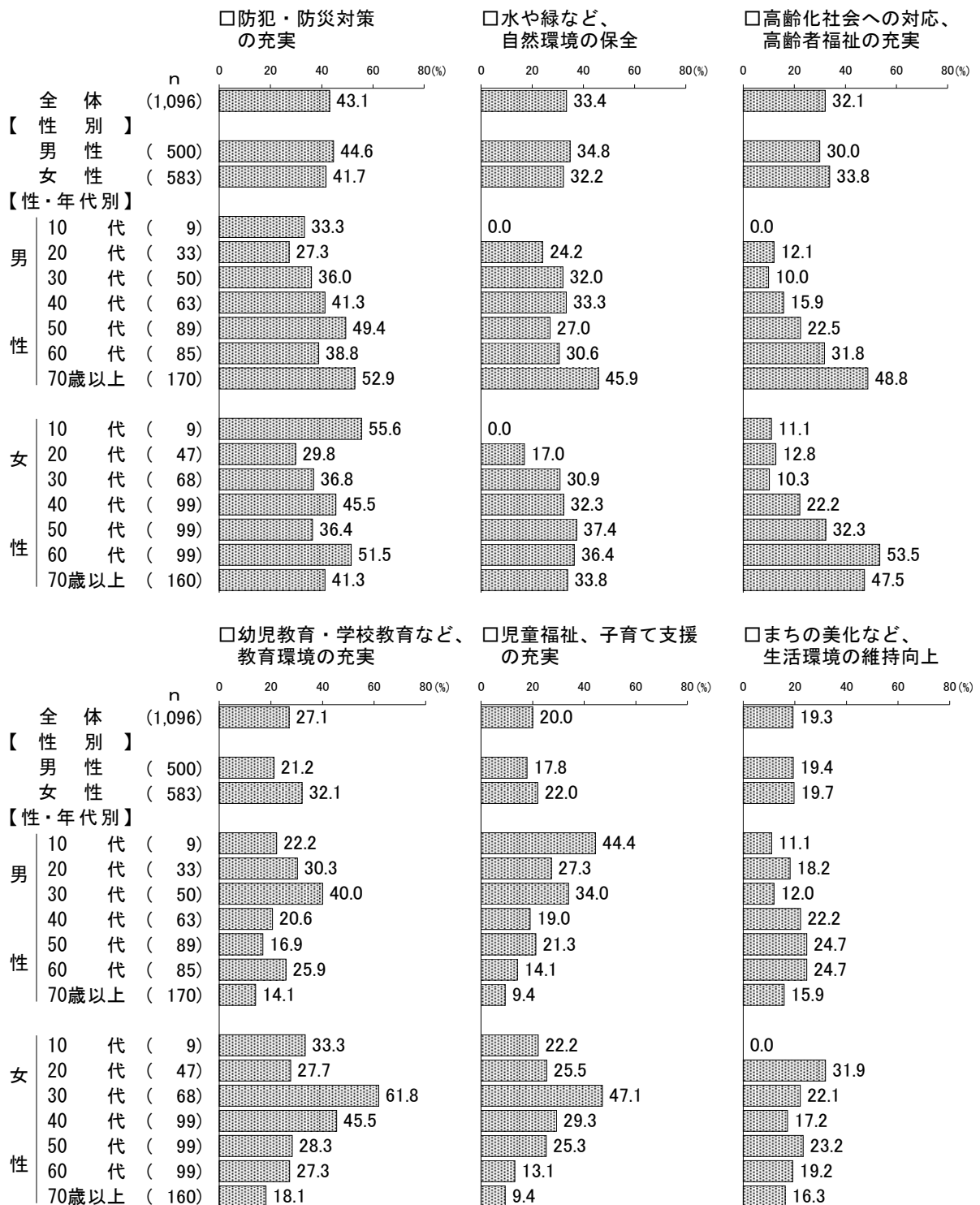


- ※「ごみ処理・リサイクルの推進」と「節電・省エネなど、地球環境の保全」の平成29年度調査までの値は、それぞれ「ごみ処理・リサイクル、節電、省エネなどの地球環境の保全」の値となっている。
- ※「こころの健康や母子保健、生活習慣病の予防など、健康づくりの推進」は、平成29年度調査までは「健康づくりや医療、保険などの充実」となっていた。
- ※「人権尊重と男女の性別に関係なく、社会で活躍できる環境」は、平成29年度調査までは「男女の性別に関係なく、社会で活躍できる環境」となっていた。
- ※「新たな観光行事やイベントなどの充実・促進」、「郷土芸能や郷土資産などの伝統的な地域文化の振興」、「その他」は、令和元年度調査から追加された選択肢。

今後5年間で、昭島市はどのような施策を特に重点的にすすめていくべきか聞いたところ、「防犯・防災対策の充実」(43.1%)が4割以上で最も高く、次いで「水や緑など、自然環境の保全」(33.4%)、「高齢化社会への対応、高齢者福祉の充実」(32.1%)、「幼児教育・学校教育など、教育環境の充実」(27.1%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「公園整備や緑化の推進」は令和元年度調査より3.4ポイント増加している。一方、「高齢化社会への対応、高齢者福祉の充実」は令和元年度調査より4.4ポイント減少している。(図15-2-1)

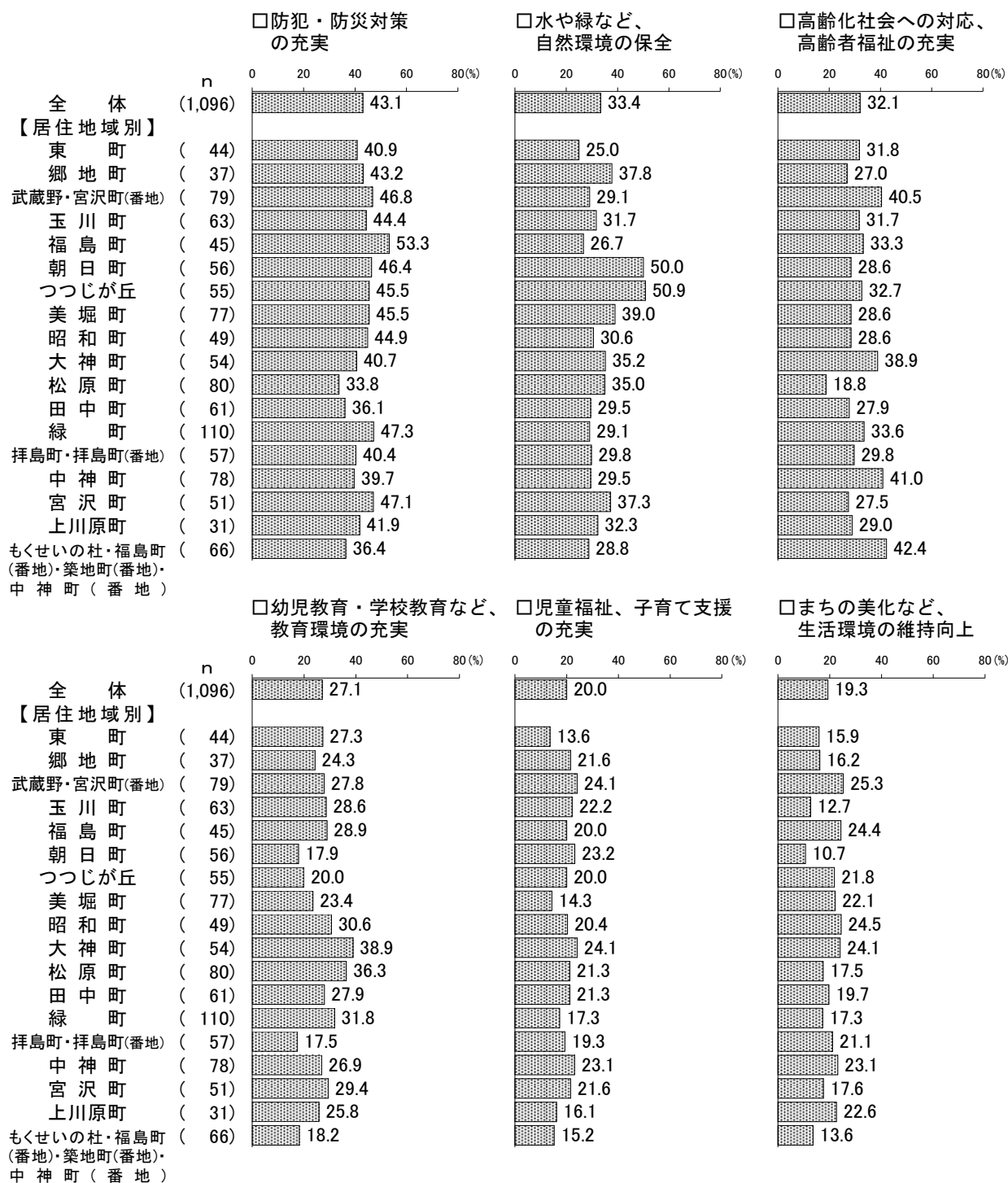
図15-2-2 魅力あるまちづくりへの施策（性・年代別）－上位6項目



性別にみると、「幼児教育・学校教育など、教育環境の充実」は女性（32.1%）が男性（21.2%）より10.9ポイント、「児童福祉、子育て支援の充実」は女性（22.0%）が男性（17.8%）より4.2ポイント、それぞれ高くなっている。

性・年代別にみると、「高齢化社会への対応、高齢者福祉の充実」は女性60代（53.5%）で5割以上と高くなっている。「幼児教育・学校教育など、教育環境の充実」は女性30代（61.8%）で6割以上と高くなっている。（図15-2-2）

図15-2-3 魅力あるまちづくりへの施策（居住地域別）－上位6項目

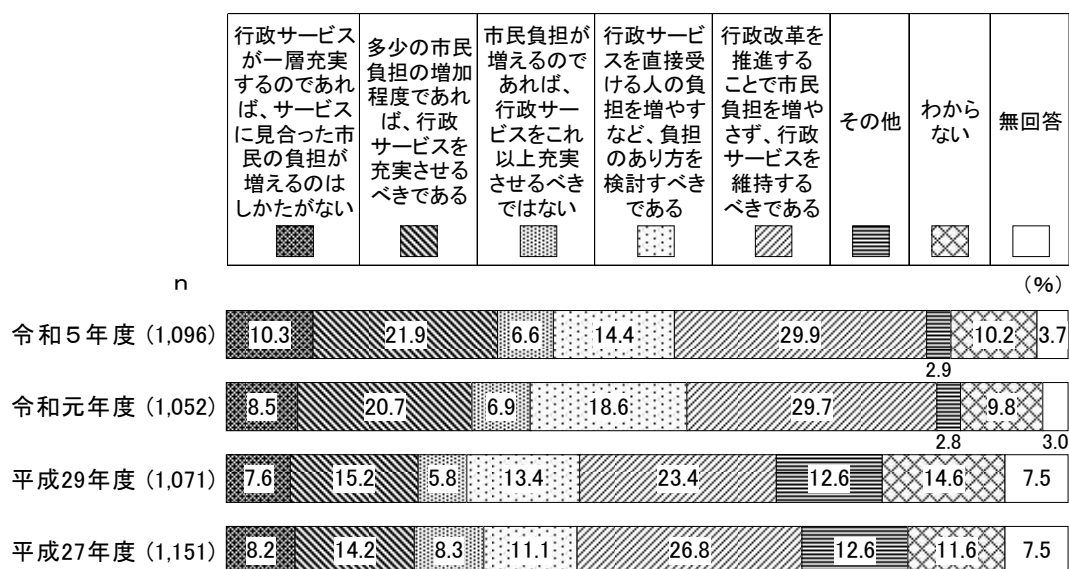


居住地域別にみると、「防犯・防災対策の充実」は福島町（53.3%）で5割以上と高くなっている。「水や緑など、自然環境の保全」はつつじが丘（50.9%）と朝日町（50.0%）で約5割と高くなっている。「高齢化社会への対応、高齢者福祉の充実」はもくせいの杜・福島町（番地）・築地町（番地）・中神町（番地）（42.4%）で4割以上と高くなっている。（図15-2-3）

(3) 行政サービスの水準と負担

Q46 あなたは、行政サービスの水準と負担について、どのような対応をすることが望ましいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。(n=1,096)

図15-3-1 行政サービスの水準と負担（全体、過年度比較）



※平成29年度調査までは、「行政サービスを民間企業や市民団体に委託し、一層の効率化を図るべきである」の選択肢が設けられていた。

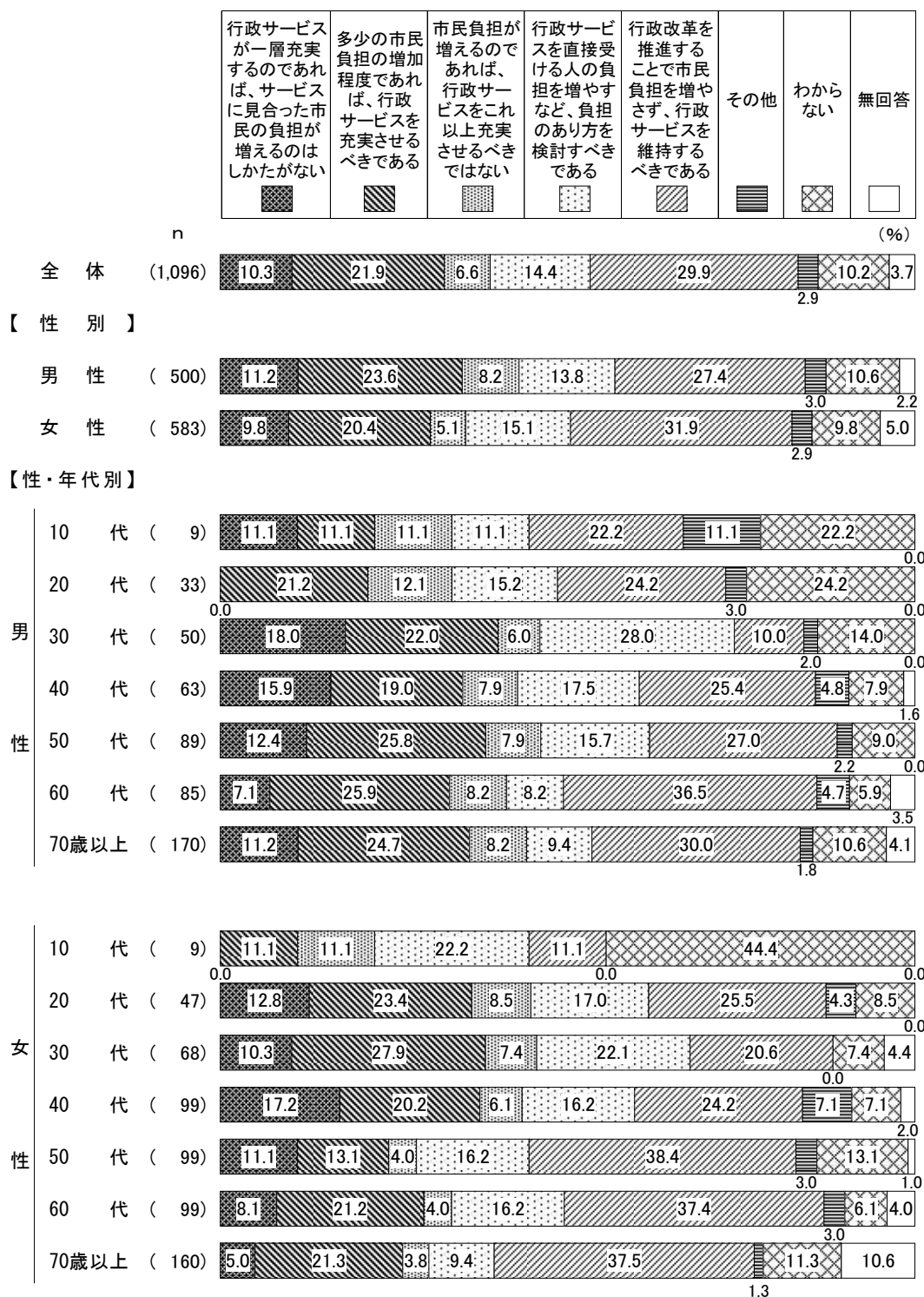
※平成29年度調査の「その他」の値は、「その他」(1.0%)と「行政サービスを民間企業や市民団体に委託し、一層の効率化を図るべきである」(11.6%)を合わせた値となっている。

※平成27年度調査の「その他」の値は、「その他」(1.7%)と「行政サービスを民間企業や市民団体に委託し、一層の効率化を図るべきである」(10.9%)を合わせた値となっている。

行政サービスの水準と負担について、どのような対応をすることが望ましいか聞いたところ、「行政改革を推進することで市民負担を増やさず、行政サービスを維持するべきである」(29.9%)が約3割で最も高く、次いで「多少の市民負担の増加程度であれば、行政サービスを充実させるべきである」(21.9%)、「行政サービスを直接受ける人の負担を増やすなど、負担のあり方を検討すべきである」(14.4%)、「行政サービスが一層充実するのであれば、サービスに見合った市民の負担が増えるのはしかたがない」(10.3%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「行政サービスを直接受ける人の負担を増やすなど、負担のあり方を検討すべきである」は令和元年度調査より4.2ポイント減少している。(図15-3-1)

図15-3-2 行政サービスの水準と負担（性・年代別）



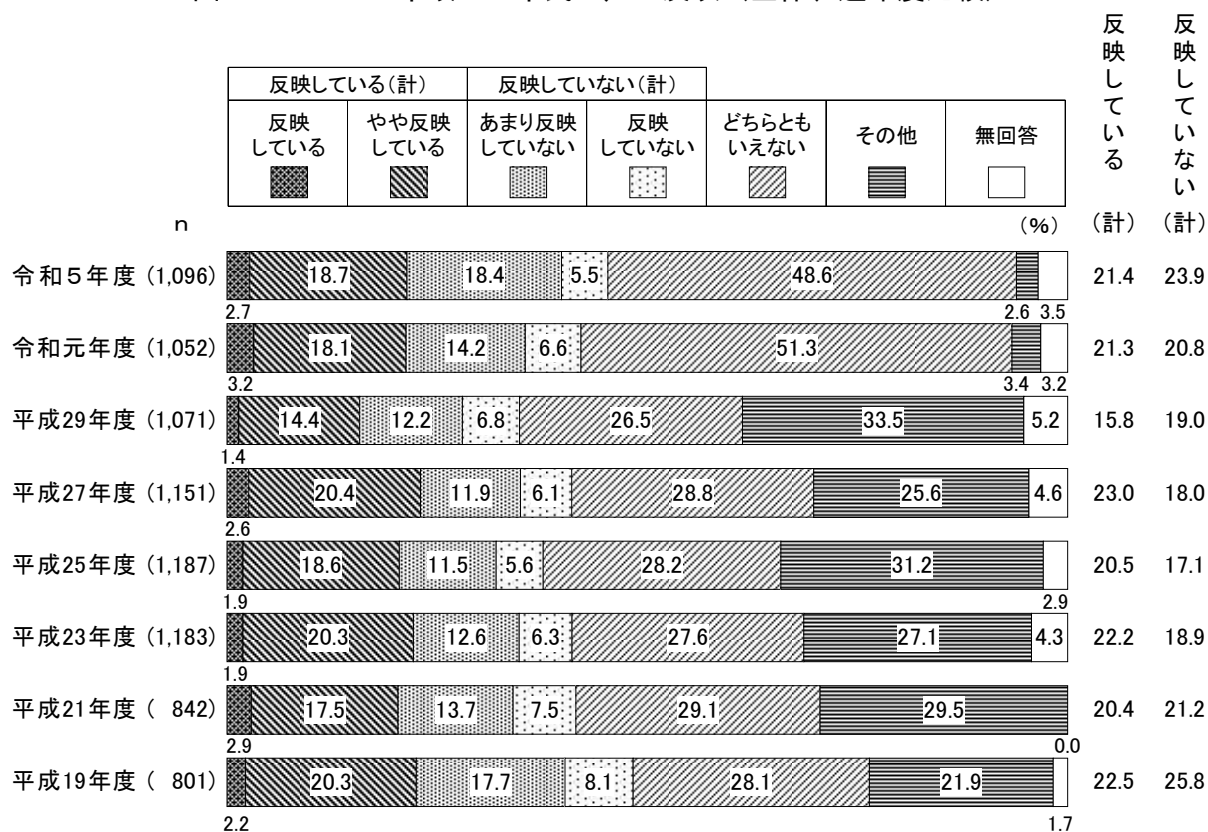
性別にみると、「行政改革を推進することで市民負担を増やさず、行政サービスを維持するべきである」は女性（31.9%）が男性（27.4%）より4.5ポイント高くなっている。一方、「多少の市民負担の増加程度であれば、行政サービスを充実させるべきである」は男性（23.6%）が女性（20.4%）より3.2ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「多少の市民負担の増加程度であれば、行政サービスを充実させるべきである」は女性30代（27.9%）で3割近くと高くなっている。「行政サービスを直接受ける人の負担を増やすなど、負担のあり方を検討すべきである」は男性30代（28.0%）で3割近くと高くなっている。（図15-3-2）

(4) 市政への市民の声の反映

Q47 あなたは、現在の市政は、市民の声を反映していると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。(n=1,096)

図15-4-1 市政への市民の声の反映（全体、過年度比較）

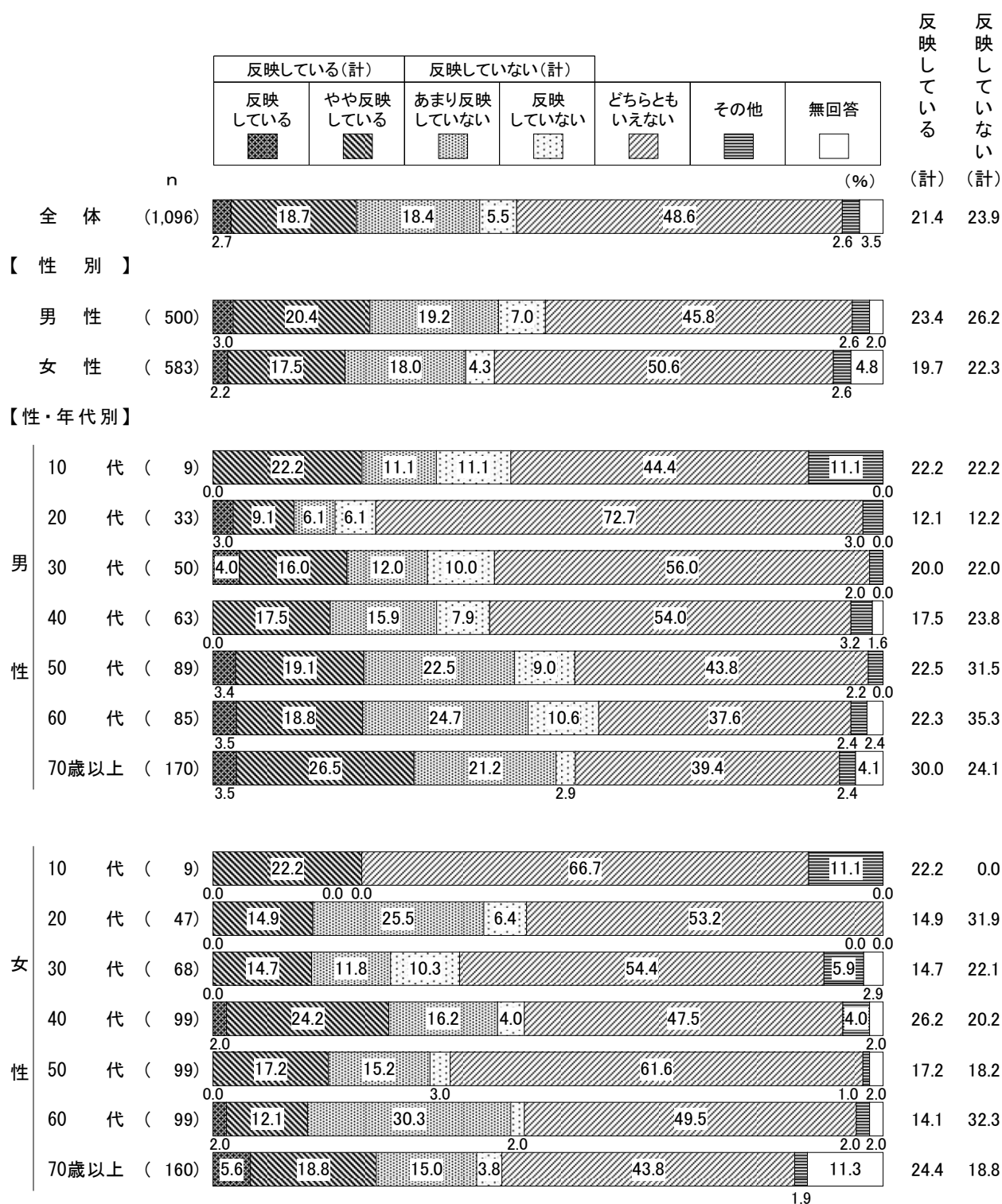


※平成29年度調査までは、「わからない」の選択肢が設けられていた。
 ※平成29年度調査の「その他」の値は、「その他」(0.5%)と「わからない」(33.0%)を合わせた値となっている。
 ※平成27年度調査の「その他」の値は、「その他」(0.7%)と「わからない」(24.9%)を合わせた値となっている。
 ※平成25年度調査の「その他」の値は、「その他」(0.5%)と「わからない」(30.7%)を合わせた値となっている。
 ※平成23年度調査の「その他」の値は、「その他」(0.4%)と「わからない」(26.7%)を合わせた値となっている。
 ※平成21年度調査の「その他」の値は、「その他」(0.4%)と「わからない」(29.1%)を合わせた値となっている。
 ※平成19年度調査の「その他」の値は、「その他」(0.6%)と「わからない」(21.3%)を合わせた値となっている。

現在の市政は、市民の声を反映しているか聞いたところ、「反映している」(2.7%)と「やや反映している」(18.7%)を合わせた『反映している(計)』(21.4%)は2割以上となっている。一方、「あまり反映していない」(18.4%)と「反映していない」(5.5%)を合わせた『反映していない(計)』(23.9%)は2割以上となっている。また、「どちらともいえない」(48.6%)は5割近くとなっている。

過去の調査と比較すると、『反映していない(計)』は令和元年度調査より3.1ポイント増加している。(図15-4-1)

図15-4-2 市政への市民の声の反映（性・年代別）



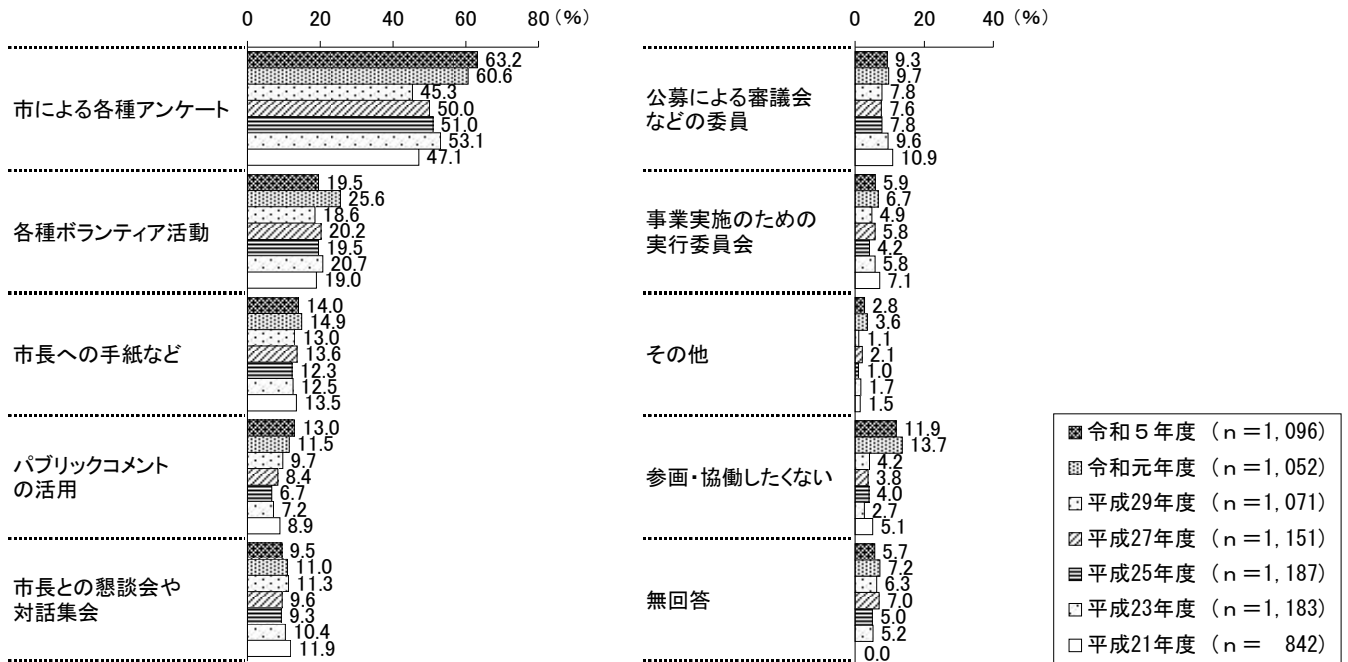
性別にみると、『反映している（計）』は男性（23.4%）が女性（19.7%）より3.7ポイント高く、『反映していない（計）』でも男性（26.2%）が女性（22.3%）より3.9ポイント高くなっている。性・年代別にみると、『反映している（計）』は男性70歳以上（30.0%）で3割と高くなっている。一方、『反映していない（計）』は男性60代（35.3%）で3割半ばと高くなっている。

（図15-4-2）

(5) 市政への参画・協働

Q48 あなたは、「市政への参画・協働」をするにあたって、どのように市政にかかわっていきたいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。(n=1,096)

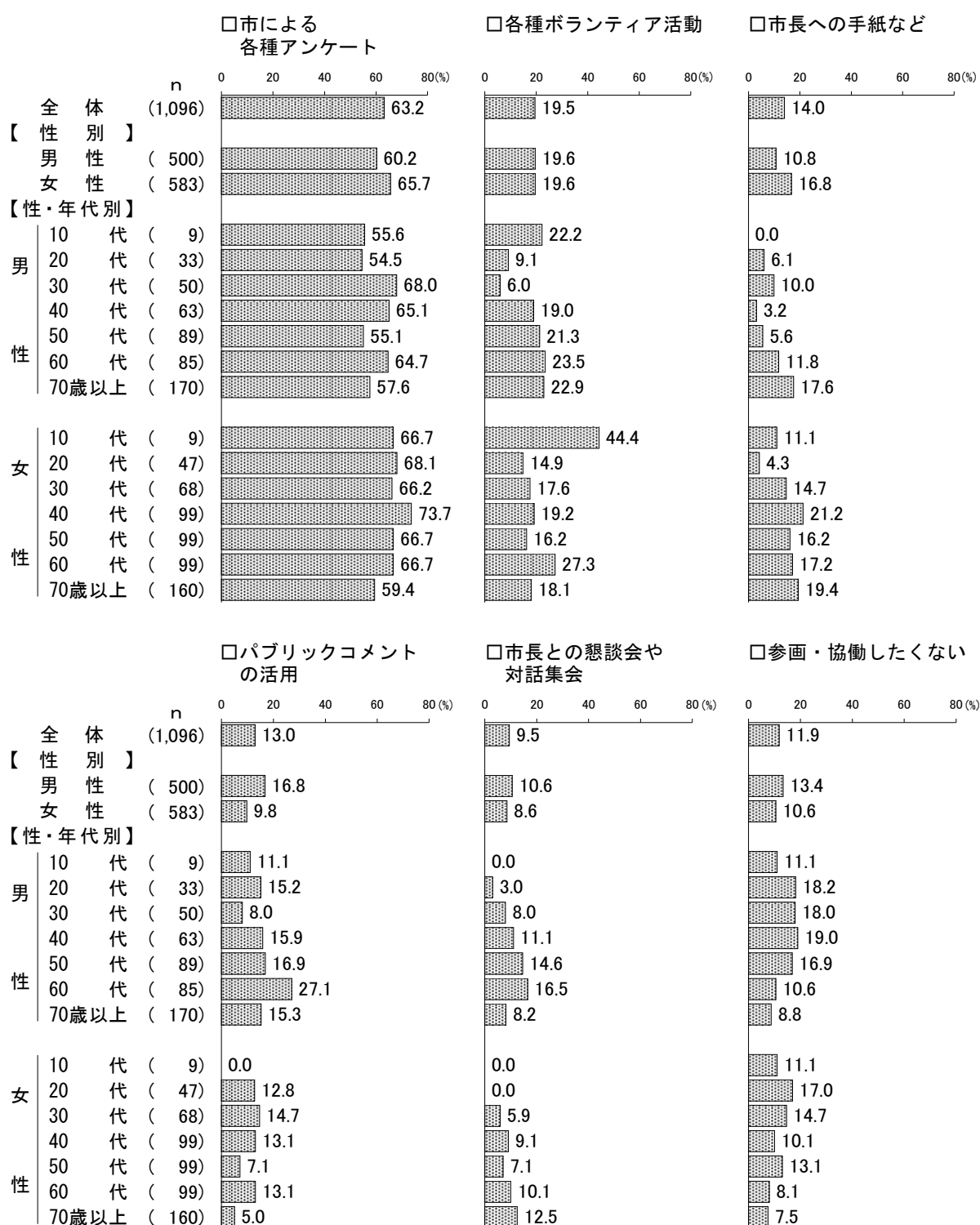
図15-5-1 市政への参画・協働（全体、過年度比較）



「市政への参画・協働」をするにあたって、どのように市政にかかわっていきたいか聞いたところ、「市による各種アンケート」(63.2%)が6割以上で最も高く、次いで「各種ボランティア活動」(19.5%)、「市長への手紙など」(14.0%)、「パブリックコメントの活用」(13.0%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「各種ボランティア活動」は令和元年度調査より6.1ポイント減少している。(図15-5-1)

図15-5-2 市政への参画・協働（性・年代別）－上位5項目＋「参画・協働したくない」



性別にみると、「パブリックコメントの活用」は男性（16.8%）が女性（9.8%）より7.0ポイント高くなっている。一方、「市長への手紙など」は女性（16.8%）が男性（10.8%）より6.0ポイント高くなっている。

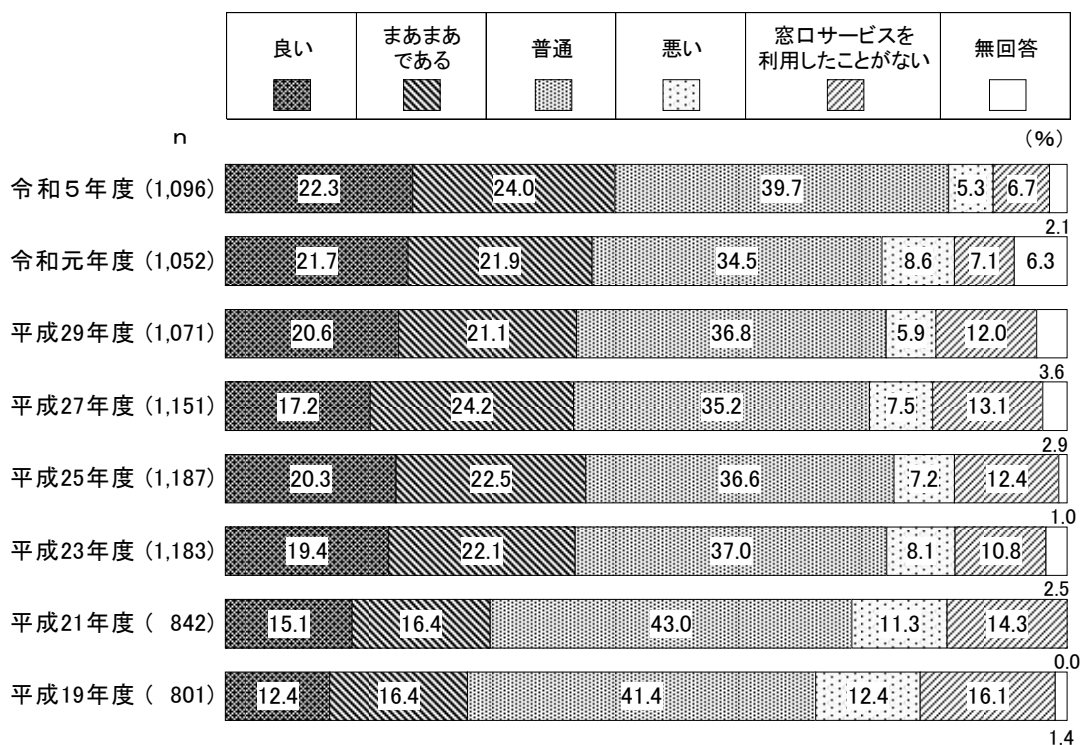
性・年代別にみると、「市による各種アンケート」は女性40代（73.7%）で7割以上と高くなっている。「各種ボランティア活動」は女性60代（27.3%）で3割近くと高くなっている。「パブリックコメントの活用」は男性60代（27.1%）で3割近くと高くなっている。（図15-5-2）

16 市役所

(1) 市役所の窓口サービスについての評価

Q49 あなたは、市役所の窓口サービスについて、どう思いますか。次の中から1つだけ選んでください。 (n=1,096)

図16-1-1 市役所の窓口サービスについての評価（全体、過年度比較）

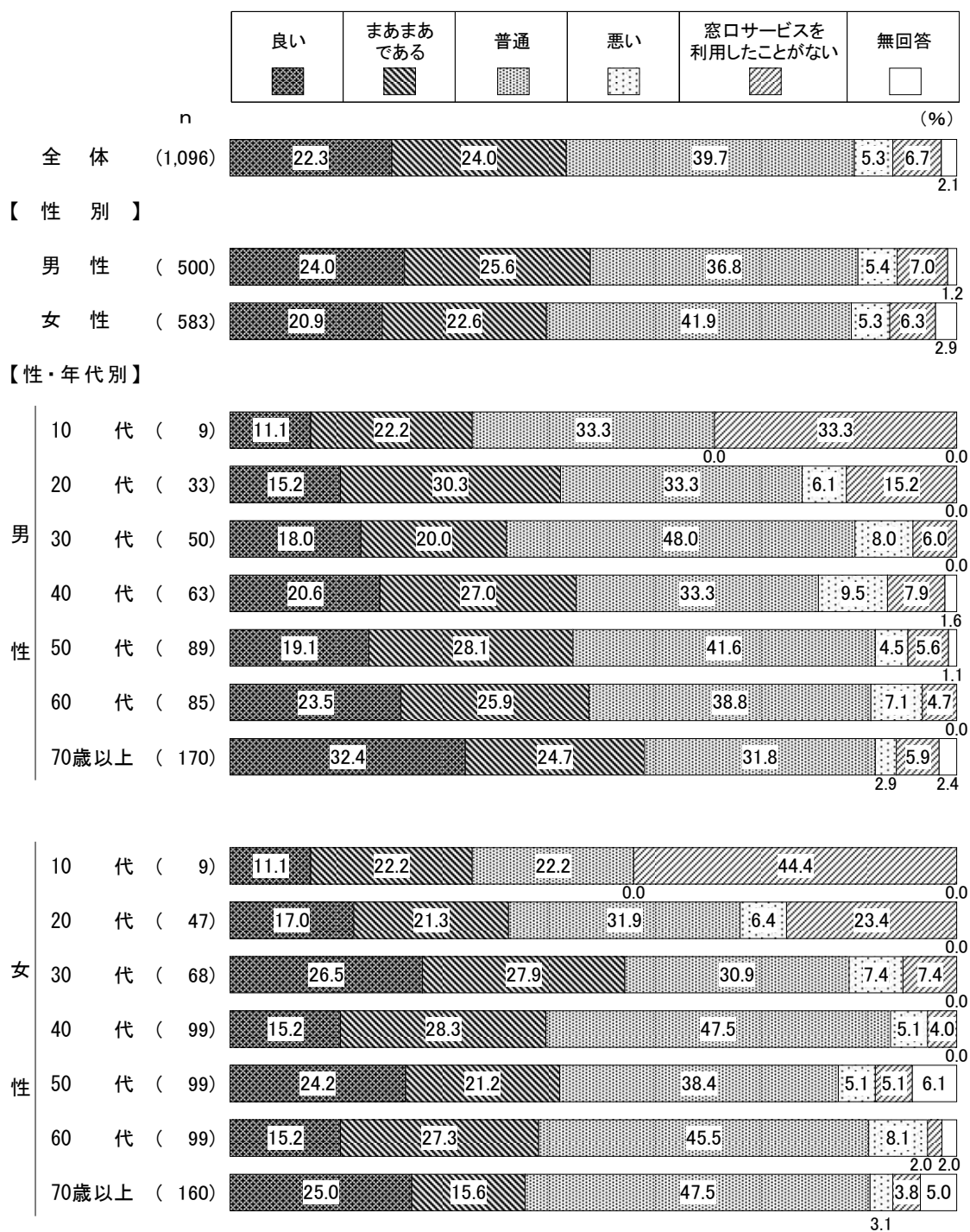


※「窓口サービスを利用したことがない」は、平成29年度調査までは「わからない」となっていた。

市役所の窓口サービスについて聞いたところ、「普通」(39.7%)が約4割で最も高く、次いで「まあまあである」(24.0%)、「良い」(22.3%)、「悪い」(5.3%)の順となっている。また、「窓口サービスを利用したことがない」(6.7%)は1割未満となっている。

過去の調査と比較すると、「普通」は令和元年度調査より5.2ポイント増加している。一方、「悪い」は令和元年度調査より3.3ポイント減少している。(図16-1-1)

図16-1-2 市役所の窓口サービスについての評価（性・年代別）



性別にみると、「普通」は女性（41.9%）が男性（36.8%）より5.1ポイント高くなっている。一方、「良い」は男性（24.0%）が女性（20.9%）より3.1ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「良い」は男性70歳以上（32.4%）で3割以上と高くなっている。「普通」は男性30代（48.0%）、女性40代（47.5%）、女性70歳以上（47.5%）で5割近くと高くなっている。（図16-1-2）

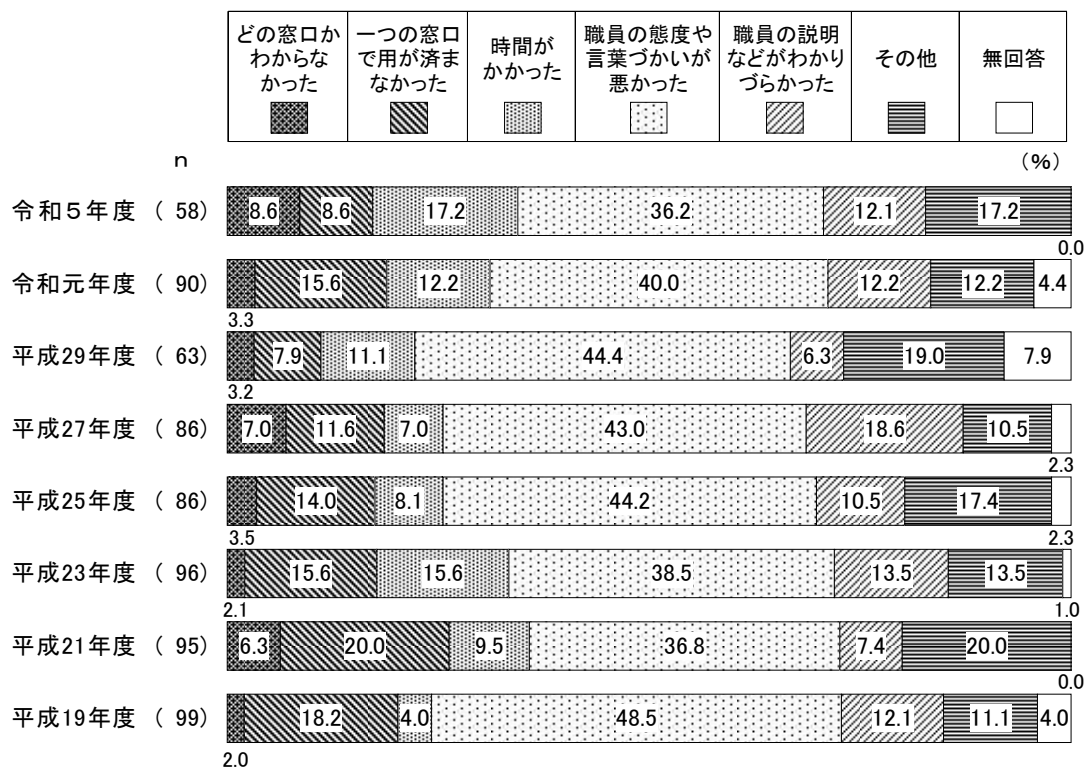
(2) 窓口サービスが悪いと感じた理由

(Q49で「悪い」とお答えの方に)

Q50 どのような理由からそう思われましたか。次の中から1つだけ選んでください。

(n=58)

図16-2-1 窓口サービスが悪いと感じた理由（全体、過年度比較）



※「一つの窓口で用が済まなかった」は、平成25年度調査までは「一つの窓口で用が済まず面倒だった」となっていた。

市役所の窓口サービスが「悪い」と回答した人（58人）に、その理由を聞いたところ、「職員の態度や言葉づかいが悪かった」（36.2%）が4割近くで最も高く、次いで「時間がかかった」（17.2%）、「職員の説明などがわかりづらかった」（12.1%）の順となっている。

過去の調査と比較すると、「どの窓口かわからなかった」は令和元年度調査より5.3ポイント、「時間がかかった」は令和元年度調査より5.0ポイント、それぞれ増加している。一方、「一つの窓口で用が済まなかった」は令和元年度調査より7.0ポイント減少している。（図16-2-1）

昭島市 市民意識調査 報告書

令和6年1月発行

調査主体 昭島市企画部広報課
〒196-8511 東京都昭島市田中町一丁目17番1号
電話 042-544-5111 (代表)

調査実施 株式会社エスピー研
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋三丁目11番20号
電話 03-3239-0071 (代表)